

月ノ木B遺跡
発掘調査報告書

1989

建設省東北地方建設局山形工事事務所
山形県教育委員会

月ノ木B遺跡 発掘調査報告書

平成元年3月

建設省東北地方建設局山形工事事務所
山形県教育委員会





縄文時代早期の土器 1



縄文時代早期の土器 2

序

本報告書は、山形県教育委員会が昭和62年に実施した国道13号線南陽バイパス建設工事に伴う「月ノ木B遺跡」の緊急発掘調査の結果をまとめたものです。

月ノ木B遺跡は南陽市赤湯の北方、国道13号線沿い通称「鳥上坂」の直下斜面上にあり、眼下には白竜湖、大谷地が広がっています。その周囲には国指定史跡の稻荷森古墳や日向洞穴をはじめとする洞穴遺跡群、県指定史跡となっている清水前古墳、安久津古墳群、二色根古墳などの他、地下2mの深さから縄文時代前期の多大な情報を私たちに与えた押出遺跡など数多くの遺跡が発見されています。

今回の調査では、本県では出土例の少ない縄文時代早期の押型文土器をはじめ、縄文時代中期中葉から鎌倉時代にわたる貴重な遺物が出土しました。これらは先人の生活と白竜湖を中心とする自然とのかかわりを考えるうえに大きな手懸りになると言えます。

これらの文化遺産は私どもの祖先の歴史を語る資料としてかけがえのない財産です。これらを保護し、未来へ継承していくことは、現代に生きる私どもの重要な責務です。

山形県教育委員会では、このような立場で文化財の保護と活用を推進していく所存です。

最後でありますが、本調査に御協力頂いた建設省東北地方建設局山形工事事務所、南陽市教育委員会、地元の方々、調査にご指導頂いた関係各位に感謝申し上げるとともに、本書が研究と埋蔵文化財の保護・普及の一助になれば幸いです。

平成元年3月

山形県教育委員会

教育長 木場 清耕

例　言

1 本書は建設省東北地方建設局酒田工事事務所の委託を受けて、山形県教育委員会が昭和62年度に実施した国道13号線米沢・南陽道路建設工事に係わる「月ノ木B遺跡」の緊急発掘調査の報告書である。

2 遺跡所在地・調査体制は下記のとおりである。

遺跡名 月ノ木B遺跡 (DNYTK-B) 遺跡番号 (昭和57年 新規)

所在地 山形県南陽市大字北町字月ノ木前2462の1番地他

調査期間 昭和62年5月20日～昭和63年1月25日

昭和63年5月9日～平成元年3月25日

現地調査昭和62年6月1日～昭和62年8月28日（延べ58日間）

調査主体 山形県教育委員会

調査担当 山形県埋蔵文化財緊急調査団

調査担当者 主任調査員 佐々木洋治

同 佐藤 庄一

現場主任 渋谷 孝雄

調査員 黒坂 雅人

事務局 事務局長 後藤 茂彌

事務局長補佐 土門 詔徳

事務局員 菅原 徳嘉・佐藤 大治・長谷部恵子・氏家 修一・

長谷川 浩・高橋 春雄

3 発掘調査にあたっては建設省東北地方建設局山形工事事務所、南陽市教育委員会など関係機関の協力を得た。

4 本書の作成は黒坂雅人、渋谷孝雄が担当し第I章、第III章、第V章3、第VI章2を渋谷が、第II章3、第IV章、第V章1・2、第VI章1、第VII章を黒坂が分担した。また第II章1・2は山形大学教育学部助教授阿子島 功氏より玉稿を賜った。ここに記して感謝申し上げる。本報告書は短期間でまとめざるを得なかつたことから、事実報告を主体としており、今後、これらをもとに考察を深めていく必要があると考えている。編集は阿部明彦、黒坂雅人が担当し、全体については佐々木洋治が総括した。

5 現地調査、報告書作成にあたっては、つぎの方々からご指導とご助言を賜った。末尾ながら銘記して感謝申し上げる。

柏倉亮吉、加藤 稔、小野佳秀、和深俊夫、吉田生哉、馬目隆康、真保昌弘、上野秀一、目黒吉明、芳賀英一、興野義一、相原淳一、山口博之、大類 誠、手塚 孝、菊地政信、会田容弘、中川重紀、佐藤嘉廣、高橋亜貴子、佐藤鎮雄、田中 敏、吉野一郎、石井浩幸、阿子島 功（順不同・敬称略）

凡 例

- 1 本書中で使用した土色名については「新版標準土色帖」（小山・竹原1970）を使用したが、土器観察表では表記を簡便化するため記号を省略した。また文章の表現中には一部に概括的な表現を使用している。
- 2 遺構には発見順に一連番号を付している。本文他で使用した記号は以下の通りである。
SK—土壤、SD—溝跡、SX—性格不明の落ち込み。
- 3 報告書の執筆基準は以下のとおりである。
 - (1) 遺構平面図・遺物分布図他の方位は磁北を示している。なおグリッドの南北軸線はN—33°40'—Eである。
 - (2) 遺構平面図、土層断面図、遺物分布図等の縮尺は1/20、1/40、1/200とし、各々にスケールを付した。
 - (3) 土器・土製品の拓影・実測図は1/2の縮尺とし、各々にスケールを付した。図中断面黒塗は須恵器を表わす。拓影図中及び破片実測図中の表裏面の表現は、断面図左を表面、同右を裏面とした。
 - (4) 石器・石製品の実測図は、打製石器、石製品が2/3、磨製石器が1/2、礫石器が1/3とし各々にスケールを付した。
 - (5) 図版中土器は1/2、石器は2/3、1/1の縮尺とし、各々左下（ ）中に記載した。
 - (6) 土器・土製品、石器・石製品は挿図中通し番号とし、図版に付した番号と対応する。また本文中の記述にもこの通し番号を使用したが、土器観察表中には参考の為、登録番号を併記した。石器の属性表では器種毎の計測基準及び必要に応じて模式図を示した。
 - (7) 本文中及び土器観察表中にある縄文原体及び絡条体の攢りの表現は「山内清男（1979）『日本先史土器の縄紋』先史考古学会編」に準拠した。

目 次

I 調査に至る経過	1
II 遺跡の立地と環境	
1 地形概観	2
2 遺物包含層の層序区分・岩相分布ならびに地山層の概観	3
(1) 層序区分と層序分布	3
(2) 地山層と地山層上面の遺構	5
3 自然的・歴史的環境	5
III 調査の経過	8
IV 遺跡の概観	
1 層序の概要	11
2 遺構と遺物の分布	19
V 遺構と遺物	
1 検出された遺構	20
2 出土した土器	21
3 出土した石器・石製品	99
VI 若干の考察とまとめ	
1 土器	164
2 石器	178
3 調査のまとめ	179

挿図目次

第1図 立体写真	2
第2図 柱状図セット	3
第3図 黒土層の等層厚線図、黒土層基底および岩塊分布図	4
第4図 地山層上面微隆起伏立体図	4
第5図 周辺遺跡分布図	6

第6図 グリッド配置図	9
第7図 20~22—8区出土土器垂直分布図	11
第8図 18~24—6~8区ベルト南面土層断面図	12
第9図 調査区土層断面図	13
第10図 遺構・遺物分布図	15
第11図 20~22—8区出土土器分布図	17
第12図 繩文時代土壤	20
第13図 繩文土器（1・早期）	31
第14図 繩文土器（2・早期）	32
第15図 繩文土器（3・早期）	33
第16図 繩文土器（4・早期）	34
第17図 繩文土器（5・早期）	35
第18図 繩文土器（6・早期）	36
第19図 繩文土器（7・早期）	37
第20図 繩文土器（8・早期）	38
第21図 繩文土器（9・早期）	39
第22図 繩文土器（10・早期）	40
第23図 繩文土器（11・早期）	41
第24図 繩文土器（12・早期）	42
第25図 繩文土器（13・早期）	43
第26図 繩文土器（14・早期）	44
第27図 繩文土器（15・早期）	45
第28図 繩文土器（16・早期）	46
第29図 繩文土器（17・早期）	47
第30図 繩文土器（18・早期）	48
第31図 繩文土器（19・早期）	49
第32図 繩文土器（20・早期）	50
第33図 繩文土器（21・早期）	51
第34図 繩文土器（22・早期）	52
第35図 繩文土器（23・早期）	53
第36図 繩文土器（24・早期）	54
第37図 繩文土器（25・早期）	55

第38図	縄文土器（26・早期）	56
第39図	縄文土器（27・早期）	57
第40図	縄文土器（28・早期）	58
第41図	縄文土器（29・早期）	59
第42図	縄文土器（30・早期）	60
第43図	縄文土器（31・早期）	61
第44図	縄文土器（32・早期）	62
第45図	縄文土器（33・早期）	63
第46図	縄文土器（34・早期）	64
第47図	縄文土器（35・早・前期）	65
第48図	縄文土器（36・前期）	66
第49図	縄文土器（37・前期）	67
第50図	縄文土器（38・早・前期）	68
第51図	縄文土器（39・前期）	69
第52図	縄文土器（40・前・中期）	70
第53図	縄文土器（41・中・晩期）	71
第54図	縄文・弥生土器	72
第55図	弥生時代以降の土器・土製品	73
第56図	石礫模式図	100
第57図	石器実測図(1)石礫	104
第58図	石器実測図(2)石礫	105
第59図	石器実測図(3)石礫	106
第60図	石器実測図(4)石礫	107
第61図	石器実測図(5)石礫	108
第62図	石器実測図(6)石礫	109
第63図	尖頭器模式図	110
第64図	石器実測図(7)尖頭器	111
第65図	石器実測図(8)尖頭器・石錐	112
第66図	石錐模式図	113
第67図	石器実測図(9)石錐・石匙	115
第68図	石匙模式図	117
第69図	石器実測図(10)石匙	118

第70図	石器実測図⑪石匙	119
第71図	石箋模式図	121
第72図	石器実測図⑫石箋	125
第73図	石器実測図⑬石箋	126
第74図	石器実測図⑭石箋	127
第75図	石器実測図⑮石箋	128
第76図	石器実測図⑯石箋	129
第77図	石器実測図⑰石箋	130
第78図	石器実測図⑱石箋	131
第79図	石器実測図⑲石箋	132
第80図	石器実測図⑳石箋	133
第81図	石器実測図㉑石箋	134
第82図	石器実測図㉒石箋	135
第83図	石器実測図㉓石箋	136
第84図	石器実測図㉔石箋	137
第85図	石器実測図㉕石箋	138
第86図	石器実測図㉖搔器	141
第87図	石器実測図㉗搔器	142
第88図	石器実測図㉘削器	148
第89図	石器実測図㉙削器	149
第90図	石器実測図㉚削器	150
第91図	石器実測図㉛削器	151
第92図	石器実測図㉜削器	152
第93図	石器実測図㉝削器	153
第94図	石器実測図㉞削器	154
第95図	石器実測図㉟削器・異型石器	156
第96図	石器実測図㉟ビエス・エスキーユ、加工痕ある剝片	159
第97図	石器実測図㉞石核、有溝砥石、块状耳飾	160
第98図	石器実測図㉞磨製石斧	161
第99図	石器実測図㉞凹石	163
第100図	遺跡分布図(日計式)	174
第101図	遺跡分布図(田戸下層式)	175

付表目次

表-1	土器観察表 (1)	74
表-2	土器観察表 (2)	75
表-3	土器観察表 (3)	76
表-4	土器観察表 (4)	77
表-5	土器観察表 (5)	78
表-6	土器観察表 (6)	79
表-7	土器観察表 (7)	80
表-8	土器観察表 (8)	81
表-9	土器観察表 (9)	82
表-10	土器観察表 (10)	83
表-11	土器観察表 (11)	84
表-12	土器観察表 (12)	85
表-13	土器観察表 (13)	86
表-14	土器観察表 (14)	87
表-15	土器観察表 (15)	88
表-16	土器観察表 (16)	89
表-17	土器観察表 (17)	90
表-18	土器観察表 (18)	91
表-19	土器観察表 (19)	92
表-20	土器観察表 (20)	93
表-21	土器観察表 (21)	94
表-22	土器観察表 (22)	95
表-23	土器観察表 (23)	96
表-24	土器観察表 (24)	97
表-25	土器観察表 (25)	98
表-26	石核属性表 (1)	100

表-27	石簇属性表（2）	101
表-28	石簇属性表（3）	102
表-29	石簇属性表（4）	103
表-30	尖頭器属性表	110
表-31	石錐属性表（1）	113
表-32	石錐属性表（2）	114
表-33	石匙属性表	117
表-34	石箆属性表（1）	121
表-35	石箆属性表（2）	122
表-36	石箆属性表（3）	123
表-37	石箆属性表（4）	124
表-38	搔器属性表	140
表-39	削器属性表（1）	144
表-40	削器属性表（2）	145
表-41	削器属性表（3）	146
表-42	削器属性表（4）	147
表-43	ピエス・エスキュー計測表	158
表-44	凹石計測表	162
表-45	縄文時代早期土器編年対比表	177

図版目次

- 図版 1 遺跡遠景・遺跡近景
- 図版 2 20-8・9区ベルト土層断面・20~25-20~25区調査風景
- 図版 3 SK 1 検出状況・SK 1 土層断面
- 図版 4 SK 1 完掘状況・SK 2 検出状況
- 図版 5 SK 2 土層断面・SK 2 完掘状況
- 図版 6 25~28-25~28区遺物出土状況・調査区全景
- 図版 7 №1431・1432出土状況・№5090出土状況
- 図版 8 №500出土状況・№3331出土状況

- 図版 9 繩文土器（早期・貝殻沈線文以前）・繩文土器（早期・貝殻沈線文①）
- 図版10 繩文土器（早期・貝殻沈線文②）・繩文土器（早期・貝殻沈線文③）
- 図版11 繩文土器（早期・貝殻沈線文④）・繩文土器（早期・貝殻沈線文⑤）
- 図版12 繩文土器（早期・貝殻沈線文⑥）・繩文土器（早期・貝殻沈線文⑦）
- 図版13 繩文土器（早期・貝殻沈線文⑧）・繩文土器（早期・貝殻沈線文⑨）
- 図版14 繩文土器（早期・貝殻沈線文⑩）・繩文土器（早期・貝殻沈線文⑪）
- 図版15 繩文土器（早期・貝殻沈線文⑫）・繩文土器（早期・貝殻沈線文⑬）
- 図版16 繩文土器（早期・貝殻沈線文⑭）・繩文土器（早期・貝殻沈線文⑮）
- 図版17 繩文土器（早期・絡条体圧痕文）
- 図版18 繩文土器（早期・微隆起線文①）
- 図版19 繩文土器（早期・微隆起線文②）
- 図版20 繩文土器（早期・微隆起線文③）
- 図版21 繩文土器（早期・条痕文①）
- 図版22 繩文土器（早期・条痕文②）
- 図版23 繩文土器（早期・条痕文③）
- 図版24 繩文土器（早期・条痕文④）
- 図版25 繩文土器（早期・条痕文⑤）
- 図版26 繩文土器（早期・無文）
- 図版27 繩文土器（早期・繩文条痕文①）
- 図版28 繩文土器（早期・繩文条痕文②）
- 図版29 繩文土器（早期・表裏繩文）
- 図版30 繩文土器（前期①）・繩文土器（前期②）
- 図版31 繩文土器（前期③）・繩文土器（前期④）
- 図版32 繩文土器（中期～晩期）・弥生土器
- 図版33 古墳時代以降の土器
- 図版34 有溝砥石・石鎌
- 図版35 尖頭器・石錐
- 図版36 石匙・石鎌（1）
- 図版37 石鎌（2）・搔器
- 図版38 削器・磨製石斧

I 調査に至る経過

月ノ木B遺跡は昭和57年9月に山形県教育委員会が主体となって行った遺跡詳細分布調査によって発見、登録された遺跡である。この調査は国道13号線南陽バイパス建設工事、国道113号線建設工事、そして主要地方道高畠一川西線道路改良事業が具体化したことにより、これらの工事の事業主体である建設省や山形県土木部から依頼を受けて実施したものであった(山形県教委1983)。この調査によって、対象とした地区には新発見のもの14ヶ所を含む17ヶ所の遺跡があることが明らかとなった。この調査結果も参考とされて、それぞれの正式ルートが決定されたが、南陽バイパスについては、これらの遺跡のうち6遺跡がその路線敷に入る可能性が生じた。これらの取扱いについて、山形県教育委員会と建設省東北地方建設局山形工事事務所とで協議を重ねた結果、用地買収後に試掘調査を行い、必要に応じて記録保存のための発掘調査を行うことで合意をみた。

これら6遺跡のうち、最初に試掘調査が行なわれたのは高畠町押出遺跡であり、昭和59年のことであった。その結果、全国的にみても稀な縄文時代前期の低湿地集落であることが判明し、翌60年から当初は3ヶ年計画で、後に内容の豊富さ等から5ヶ年計画に改められて、現地調査、遺物・資料整理、報告書作成が現在も引き続き進められている(山形県教委1985a・856・86・87b)。

押出遺跡に続き同じく高畠町舟入遺跡の試掘調査が昭和61年6月3日に行なわれたが、路線敷内には遺構、遺物とも発見されず、工事施行区域は遺跡外と判断された(山形県教委1987a)。

同年9月に山形県教育委員会が行った「各種事業計画聴取」において、南陽市月ノ木A、Bの両遺跡の試掘調査の依頼が建設省側から出され、これを受けて同年10月13~15日に両遺跡の試掘調査が行なわれた。この結果、月ノ木A遺跡の路線敷内は、畑地造成等で大きく破壊を受け、遺物もほとんど残されていない状況であったが、月ノ木B遺跡からは縄文時代早期を中心とする多量の遺物が出土し、厚い包含層が残されていることが明らかとなった(山形県教委1987a)。発掘調査に至るまでのその後の経過は以下のとおりである。

昭和62年1月7日付事務連絡で月ノ木A遺跡は慎重工事対応。B遺跡は記録保存の発掘調査が必要であることを建設省に通知する。あわせて二ヶ年分の経費概算見積りを提出。

昭和62年4月7日付建東山二調第37号で教育長あての経費見積りの依頼があった。

昭和62年5月13日付文化第161号で工事事務所長あてに回答を行う。

昭和62年5月18日付建東経第89号で知事あての契約依頼がなされた。

昭和62年5月19日付文化第233号で契約を受託した旨工事事務所長あて送付。

II 遺跡の立地と環境

1 地形概観

山形県南陽市月ノ木B遺跡は、米沢盆地東北隅の大谷地（白竜湖）低湿地に面した、中新統凝灰岩山地の山麓緩斜面上にある。“鳥上坂”とよばれる国道13号線がその上端を斜めに走る、延長1km、裾幅約800mほどの扇形の緩斜面は、くわしくみるといくつかの緩斜面が複合してできている。この遺跡のある山麓緩斜面はその南西の一部をなし、延長約100m、幅100m、平均傾斜8°の裾広がりの崖錐状の形態を示す。発掘区は東側の緩い凸形斜面から西側の緩い凹形斜面にわたっている（第1図。空中写真）。

しかし、この斜面は堆積性ではなく、侵蝕性の斜面であって、面を構成している堆積物は最大厚さ1m内の黒土層（亜角形の疊・岩片・岩塊混じり）にすぎない。

この岩片・岩塊混じりの黒土層が縄文早期以降の遺物包含層であり、約1万年の形成履歴をもつてることが今回の発掘調査の結果明らかになった。

この扇形を示す緩斜面の頂部の高度は、約230m（R13付近）、大谷地低地に接した裾部の高度は約213mである。遺跡の発掘範囲は緩斜面の最大傾斜方向に斜交する、ほぼ南北の延長約60m、幅約40mである（第6図）。現況は酒造工場・住宅敷地・畑であった。

白竜湖付近の盆地埋積層は最大90m、泥炭を主とし、約1万年BPの層準の深度が地下10数mである。

また、白竜湖低湿地の南をかぎる自然堤防帯に近い位置で発掘された高畠町押出遺跡では約5000年BPの集落跡生活面の層準が地表下約2mにある（山形県教育委員会、1985—1987発掘調査）。

月ノ木B遺跡とよく似た立地をしている遺跡は、高畠町日向洞窟遺跡西地区であり、こ



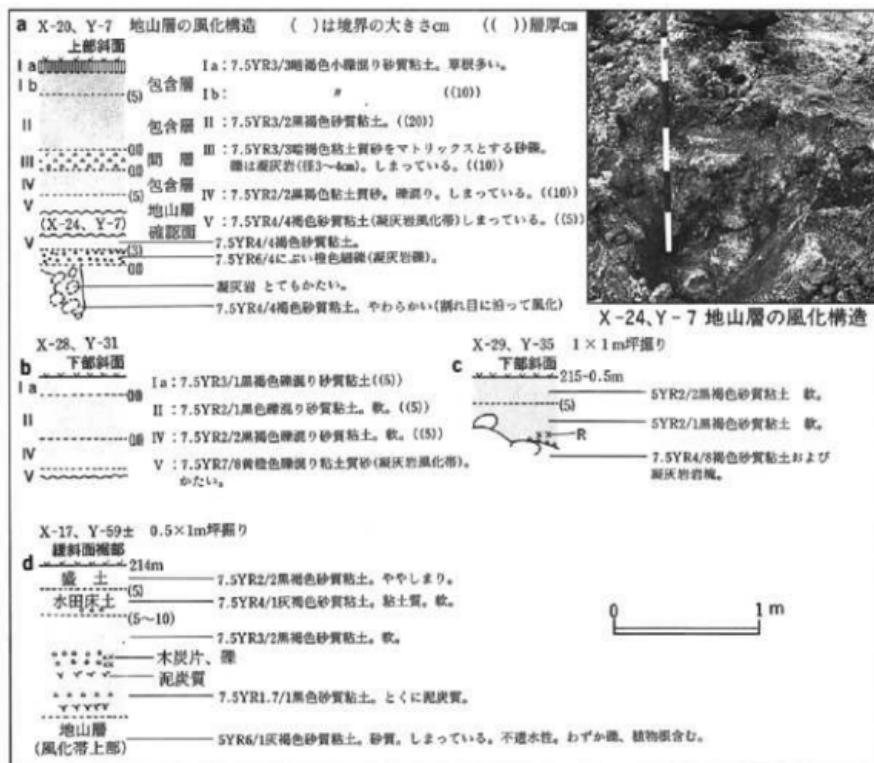
こでは崖錐状緩斜面下約2mに縄文時代草創期の住居跡が発見されている（高畠町教育委員会、1988年発掘調査）。

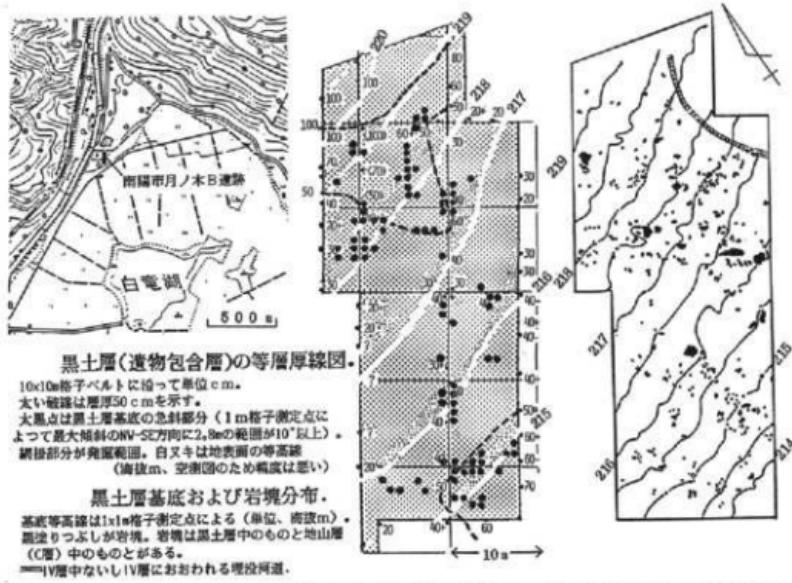
2 遺物包含層の層序区分・層厚分布・岩相分布ならびに地山層の概観

(1) 層序区分と層厚分布

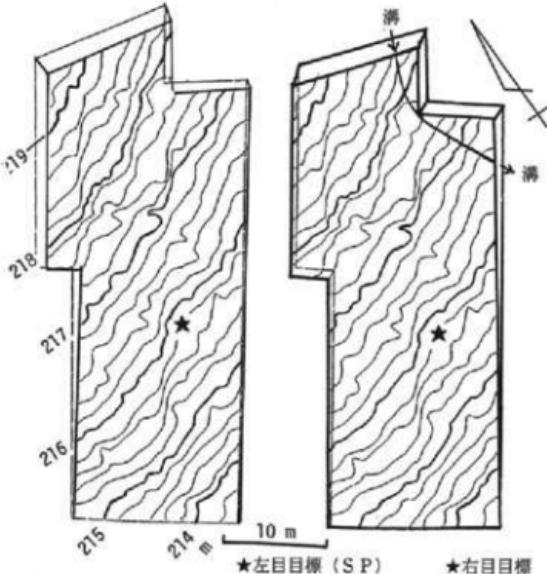
遺物包含層の層厚が最大なのは、発掘区北西隅であり層厚1mである（60mの発掘区を3区分し、上部斜面と呼ぶ）。中部斜面では0.2—0.3m、下部斜面では0.5—0.7mである。それぞれ斜面上部堆積部、斜面中部流送部、斜面下部堆積部とよぶ。

上部斜面のX20、Y7では、おおきく次のI—IVの4層準にわけられる（第2図a）。I層は表土でIaが草根の多い部分、Ibが草根の少ない部分、II層が層厚40—50cmの遺物包含層、III層が岩片の比率の多い間層で層厚20cm、IV層が層厚20cmの遺物包含層である。各層の境界は漸移している。含まれている遺物の年代別頻度を第7図に示すように、各層は上下に混じりあいながら堆積している。間層であるIII層は上部斜面とくに北西隅に分布しており、下方にむかって尖滅している（第7・9図）。したがって中部斜面・下部斜面ではII





第3図 黒土層の等層厚線図、黒土層基底および岩塊分布図



第4図 地山層上面微起伏立体図

層とIV層との区分はできない。

(2) 地山層と地山層上面の遺構

VI層の地山層は凝灰岩の風化帯であり、しまった、におい褐色の砂質粘土である。

確認面下の風化帯の断面は第2図のように(X24Y7)、約10cmは砂質粘土状、つぎの10cmが細礫状、さらに30—40cmの間は岩塊の割れ目にそってのみやわらかい砂質粘土となっている。

地山層上面の遺構は、発掘区の北西隅において縄文早期の土壤2(SK1、2)ならびに岩盤に浅く切りこんだ、縄文早期のIV層と同時ないしそれ以前の溝(幅1m、深さ0.4m)があり、礫層(亜角礫、直径最大0.2m)に埋められている。溝は流水があったであろう。

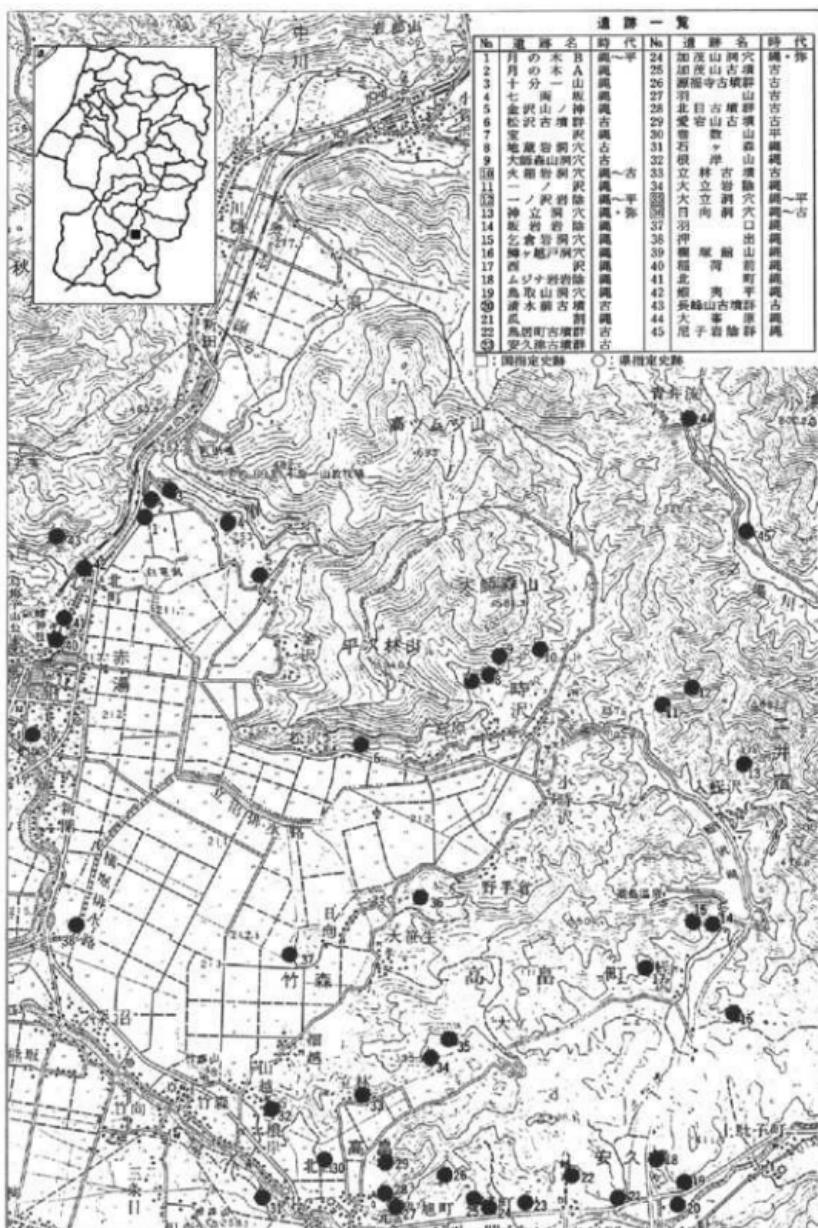
地山層上面(包含層基底)の傾斜は1m格子点の水準測量によれば、上部・中部斜面の間、ならびに中部・下部斜面の間でとくに大きく、地山層より突出する、もしくは包含層中に浮き石となって岩塊が多く分布している(第3図)。

この岩塊の突出と地山層上面の急傾斜であることが、上部・下部斜面で包含層が厚くなかった理由であろうか。地山層上面の微起伏を(第4図)に示す(立体図)。

3 自然的・歴史的環境(第5図)

月ノ木B遺跡は白竜湖に面する山麓斜面上に位置し、現在の湖岸までは直線距離で約300mを測る。山麓斜面という居住に不向きな立地環境において、縄文時代早期から鎌倉時代以降に至る長期間にわたり、この地に人間の足跡が印されたことは、白竜湖を中心とする自然環境が当時の人々の生活と強く結びついていたことを物語るものであろう。

白竜湖一帯は、大谷地とよばれる約1,000haに及ぶ泥炭湿原となっている。現在は開拓による水田化でその面影を留める場所が少なくなったが、明治以前は氷河期の名残りである寒地性植物が繁茂する沼沢地であった。洪積世初期において、米沢盆地は置賜湖盆とよばれる大きな内陸湖であり、南北走する二条の断層に沿って湖水が抜けた後、湖が残存した大谷地一帯に4度にわたる氷期と間氷期との繰り返して泥炭が厚く堆積し湿地帯が形成された。白竜湖は、こうした老年期の湖の顕著な例といわれる。1964年現在の白竜湖は、湖面長軸355m、湖面短軸230mの若干東西に長い形で、湖表面積7.13haの規模であった。湖底までの深さは1.68mであったが、自然の状態では年間7cm余の速さで浅くなるという(目黒1976)。従って、大谷地の景観は本遺跡が営まれた約7000年の間にかなりの変動があったことが想像される。現在よりもはるかに生息数が多かったであろう野鳥や魚類等の捕獲を目的として、この地に人々が生活の場を求めたものとすれば、本遺跡が営まれた時期、断絶した時期の存在は、景観の変動による動植物の分布の異同がひとつの中因であったとも考えられる。



第5図 周辺遺跡分布図 ($S = 1 : 50,000$)

大谷地の周辺には、これまで数多くの遺跡の存在が知られている。北西から東辺の山麓一帯は、基盤である凝灰岩の露頭が各所にみられ、その風化により形成された洞穴、岩陰が多い。それらは古くから人間の生活の場として利用され、日向洞穴（36）、尼子岩陰群（45）、神立洞穴（13）、一ノ沢洞穴（12）、一ノ沢岩陰（12）、火箱岩洞穴（10）、観音岩洞穴群、乞倉岩岩陰（15）、坂岩岩陰（14）、鱗ヶ越戸洞穴（16）、ムジナ岩岩陰（18）、鳥取山洞穴（19）、大立洞穴（35）など全国屈指の洞穴遺跡群が点在する。

昭和30（1955）年から四次にわたり実施された日向洞穴遺跡の発掘調査では、それまで東北地方で最古の縄文土器といわれていた「田戸＝住吉町系土器」をはるかに遡る様相をもった土器群が出土した。それを契機として、尼子、神立、一ノ沢、火箱岩等一連の洞穴、岩陰遺跡の調査が行われ、その成果から、隆起線文土器—爪形文土器—押圧縄文土器—燃糸文土器—無文土器という東北地方縄文時代草創期から早期前半に至る編年大綱の確立をみた（加藤1967）。また、これらの洞穴、岩陰にはその後の人々も足跡を印しており、堆積土上層部分からは縄文時代早期から奈良・平安時代に至る各期の遺物が出土している。

月ノ木B遺跡に類似する立地環境をもつ遺跡として、隣接する月ノ木A遺跡の他、十分一山、平次林山の南麓斜面上に十分一山遺跡（3）、七両坂遺跡（4）、金沢山ノ神遺跡（5）が分布し、昨年度から発掘調査が実施された日向洞穴西地区（高畠町教委1988）では、III層—縄文時代前・中期、IV層—早・前期、VI・Vlc層—草創期の遺物が出土した他、縄文時代草創期のものとみられる住居跡が1棟検出された。

高畠町押出遺跡は、大谷地の南西部自然堤防帶に近く立地している。県教委が実施した国道13号線南陽バイパス建設工事にかかる緊急発掘調査では、地表下2mの泥炭層下標高209m付近から縄文時代前期の集落跡が発見された（山形県教委1985b、1986、1987b）。約4,000m²の範囲に打込柱を周囲に巡らした平地住居33棟が検出され、大木4、5式を中心とする多量の土器石器の他、木製品、編物、クッキー状炭化物、クリ、クルミなどの植物遺存体などが出土し、全国的にも極めて情報量の多い遺跡として注目されている。押出遺跡の立地環境は、月ノ木B遺跡の場合と極端に相違し、また押出に集落が営まれた大木4、5式期は、本遺跡における型式の断絶期間となっていることも注意すべきであろう。

大谷地の南～西辺には古墳時代以降の遺跡が數多く分布する。高畠町安久津近辺には、清水前古墳（20）、金原古墳、羽山古墳（27）、北目古墳群（28）、源福寺古墳群（26）、加茂山洞窟古墳（25）、安久津古墳群（23）、味噌根古墳群、鳥居町古墳群（22）など7～8世紀代の古墳が分布する。南陽市赤湯近辺には、第5図の図幅からはもれるが、県下最大の前方後円墳である稻荷森古墳や、二色根古墳の他、沢田遺跡、諏訪前遺跡、郡山遺跡など、弥生時代から奈良・平安時代にかけての集落跡が分布する。

III 調査の経過

建設省との事前の協議と契約における特記仕様書により路線内にかかる面積約3,200m²のうち、保存状況の良い1,300m²の調査を実施する予定であったが、西半部は搅乱が著しく最終的な発掘面積は1,103.4m²となった。現地調査は昭和62年6月1日から8月28日まで延べ59日間実施し、同年9月2、3の両日に埋戻しと若干の補足調査を行った。また、出土遺物の水洗・ネーミングは同年11月26日～12月23日まで文化課分室において実施した。さらに、報告書の作成作業とそれに伴う遺物整理作業は昭和63年度事業として昭和63年5月9日から平成元年3月25日まで実施した。以下に現地調査の経過を要ごとに略記する。

6月1日～5日

6月1日に現地事務所に資材等を搬入。午後2時から現地において県教委、市教委の関係者、作業員の出席のもと作業の安全と調査の成功を祈願する歓迎式を行う。2・3日に立木の伐採、除草を行い、あわせて調査区内に10mごとの基準杭を打ち、2×10mの南北トレンチを9本設定した。3～5日にトレンチの掘り下げを行う。はやくも石鎚、石鏃等のいわゆるtoolが約40点出土した。

6月8日～12日

先週からのトレンチ調査を続行し、遺物の出土量、包含状況を把握する。拡張・精査区を第6図に示した範囲とすることにし、保存状況の悪い地区を堆土置場とするため、さらに東西トレンチ5本、南北トレンチを2本追加設定して掘り下げ、この地区の調査を終了。先週から累計すると土器1箱分相当、そしてtoolは297点となった。

6月15日～19日

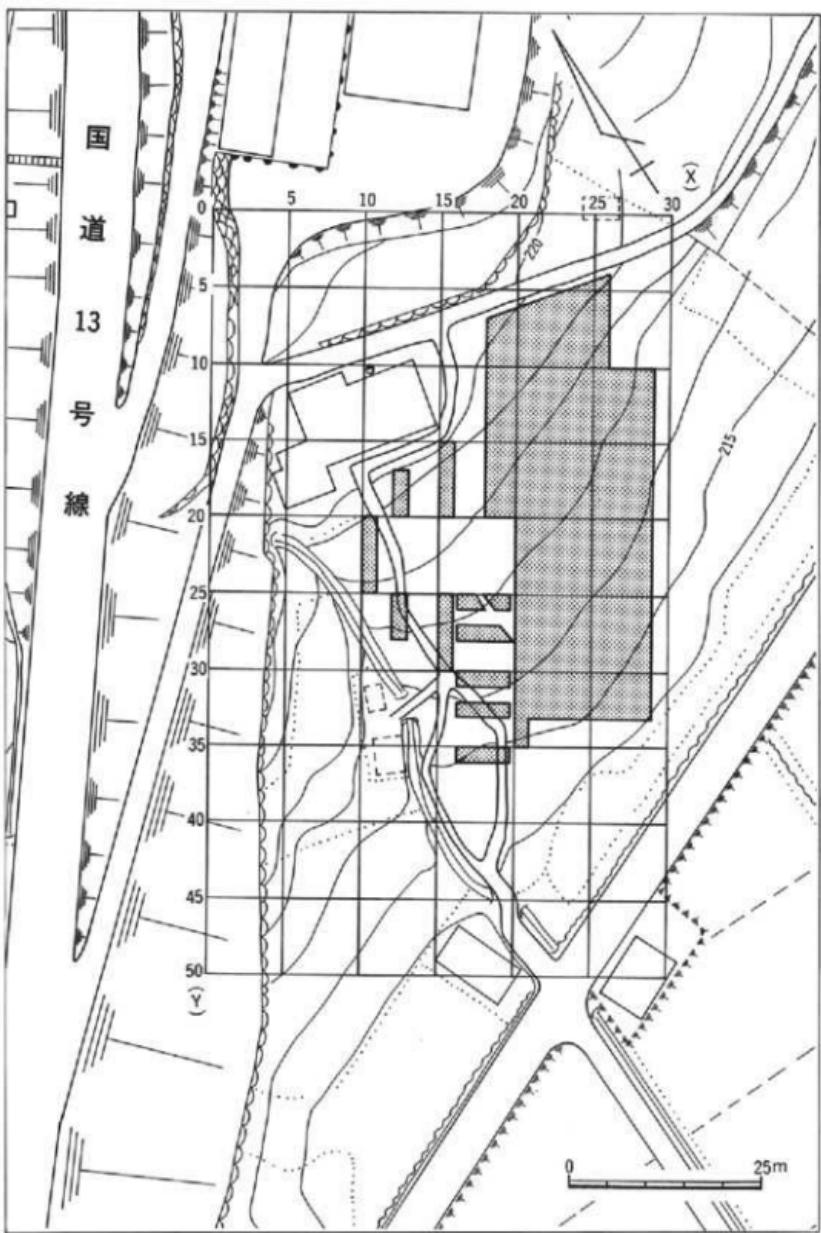
トレンチの写真撮影、拡張区の繩張り後、17・18日に重機を投入して表土除去、堆土処理を行い、これと併行して面整理作業、区割作業を実施する。19日から26～18～10～13区内のII層の掘り下げに入る。土器片、石器、2×2cm以上の剝片は出土地点の記録を行う。

6月22日～26日

遺物包含II層の掘り下げ。25～28～10～19区内は2・3回の掘り下げ、一部で地山面に到達。また、18～24～4～9区内でも2回の掘り下げを行うが包含層はなお厚い。登録遺物は659点。内訳は土器片332点、石鎚48点、その他の石器65点、剝片214点。

6月30日～7月3日

18～25～4～9区の水道管南区で2回目、3回目の掘り下げ、水道管北区で3回目、4回目の掘り下げ、18～24～10～14区内でII層の1回目の掘り下げが終了。No720～1587の868点を登録。内訳は土器片591点、石器68点、剝片208点。



第6図 グリッド配置図

7月6日～7月10日

II層の掘り下げは以下のとおり。18・19・10～14は2・3回目、21～24・10～14区は1・2回目。20～24・15～19区は1回目。18・19・15～19区は1回目が途中。25～28・10～19区では面精査を行い土壌2基を確認したがY-14区以南では包含層が残っていたため3～4回目の掘り下げに入る。No1588～2100まで513点を登録。土器255点、石器61点他。

7月13日～17日

16日に検出した土壌のうちの1基SK1の精査を行う。II層の掘り下げは以下のとおり。25～28・10～19区は先週に統いて4回目の掘り下げと面精査。18・19・16～19区は2・3回目。25～28・20～31区内はY-24まで1回目。No2757まで657点を登録。

7月20日～23日

SK1は断面図作成後完掘し平面図を作成。II層の掘り下げは20～24・15～19区で4回目となりほぼ地表面に達する。25～28・20～32区内は1回目が終り、Y-29区までは2回目も終了。No2758～3665まで908点を登録。土器は529点。石器90点等。

7月28日～7月31日

II層の掘り下げは25～28・30・31区で2回目、25～28・20～29区で3回目が終了。25～28・30・31区で3回目に入る。29日に赤湯小学校4年2組の親子体験学習が行なわれ、約60名の参加があった。No3666～4236まで571点を登録。土器368点、石器45点等。

8月3日～7日

II層の掘り下げは25～28・20～32区で3～5回目が終了。20～24・20～32区もほぼ終了。No4237～5072まで836点を登録。土器534点、有溝砥石を含む石器85点等。SK2を検出。

8月10日～12日

18～24・4～9区の水道管南区で5回目の掘り下げ、18・19・10～14区は4回目、21～24・4～9区で3回目の掘り下げに入る。12日に現地説明会を開催し、約40名の参加があった。登録した遺物はNo5073～5440の368点。

8月18日～21日

18～24・4～9区の水道管南区で6・7回目の掘り下げ、北区で5回目が終了。18～24・10～14区で3～5回目の掘り下げ。SK2の精査・記録も終了。登録した遺物はNo5441～6341まで901点。土器714点、石器69点等である。

8月24日～28日

断面図の作成。山大阿子島功先生、県立博物館加藤稔先生に指導を頂く。SX5の精査と、18～24・7～12区内、27・28・20～32区内の最終的な掘り下げを行い、現地調査を終了する。登録遺物はNo6342～6547まで206点。

IV 遺跡の概観

1 層序の概要（第7～9図）

調査区内における基本的な層序は以下のようになる。

I a層 7.5YR3/3暗褐色小礫まじり砂質粘土：現表土及び耕作土である。草根の多い部分。下部斜面では色調が黒色化する。

I b層 7.5YR3/3暗褐色小礫まじり砂質粘土：I a層の草根の少ない部分である。層厚の厚い上部斜面上にみられ西側ではY-10、東側ではY-6ライン付近で消滅する。

II層 黒色系の砂質粘土であるが以下のように細分できる。遺物包含層。

IIa層 7.5YR2/2黒褐色砂質シルト：径1cm未満の凝灰岩風化礫を多量に含む。上部斜面及び下部斜面の東側に堆積する。しまりなく軟かい。

IIb-1層 7.5YR4/4褐色砂質粘土：土質及び混入物はIIa層に近いが、風化礫の含有量が多い。主に中部斜面上にみられるが、X-23ライン以西では下部斜面にも確認される。IIa層との境界は比較的明瞭である。

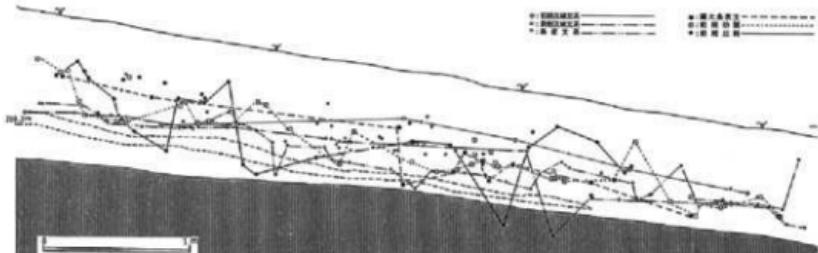
IIb-2層 7.5YR3/2黒褐色砂質粘土：調査区内では最も普遍的にその分布が知られるが、X-21以西、Y-11以南ではIIb-1層に切られる形で消滅する。特に上部斜面で厚く堆積する。土質はIIb-1層と同じであり、漸移的な土色変化が各所にみられるため区分不明瞭となる箇所が多い。

IIb-3層 10YR2/3黒褐色砂質粘土：Y-25ベルト断面観察においてX-10～16間に確認された。V層上面に5～10cmの厚さで不安定に堆積する。かたくしまっている。

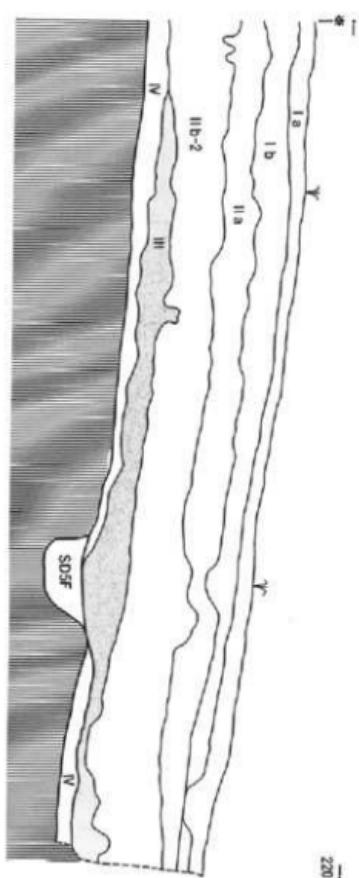
III層 7.5YR3/3暗褐色粘土質砂をマトリックスとする砂礫：間層。無遺物層。調査区北西隅を中心に局所的に分布する。

IV層 7.5YR2/2黒褐色粘土質砂：礫まじりでしまりがある。III層の消滅しているところではII層との区分が不可能である。遺物包含層。

V層 7.5YR5/3にぶい褐色砂質粘土：凝灰岩風化帯。地山層。

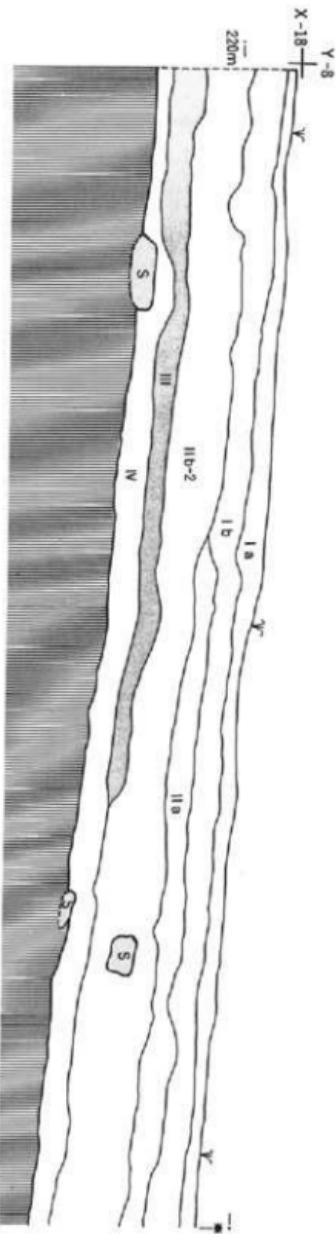


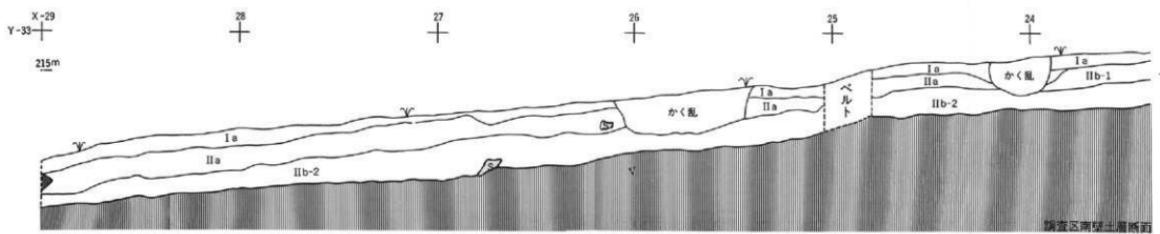
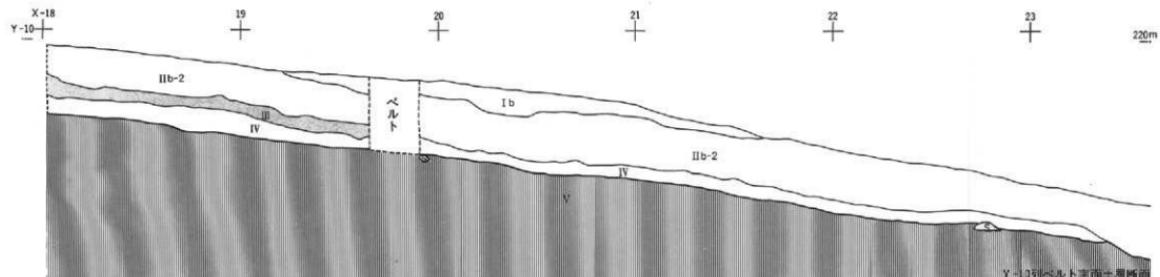
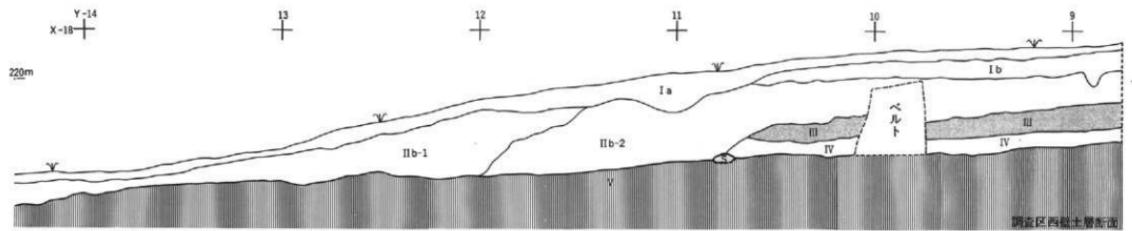
第7図 20-22-8区出土土器垂直分布図



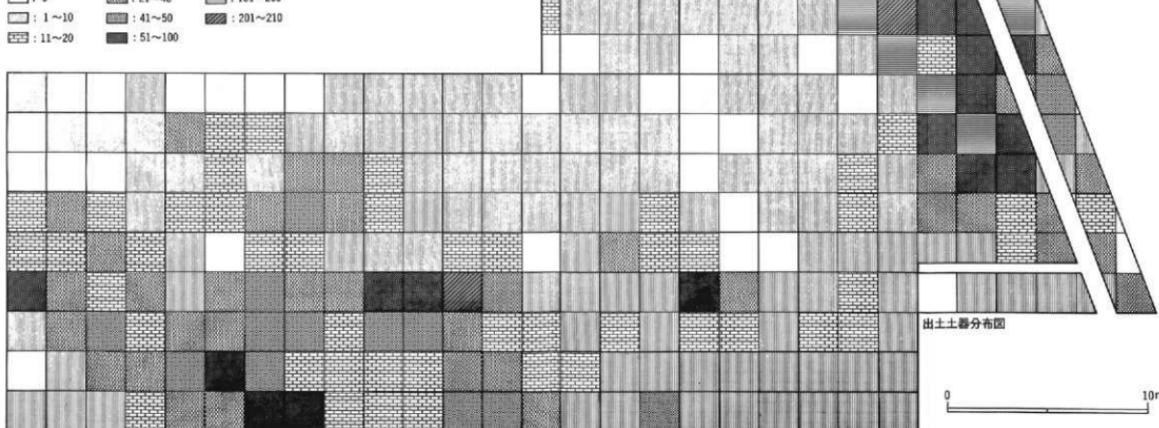
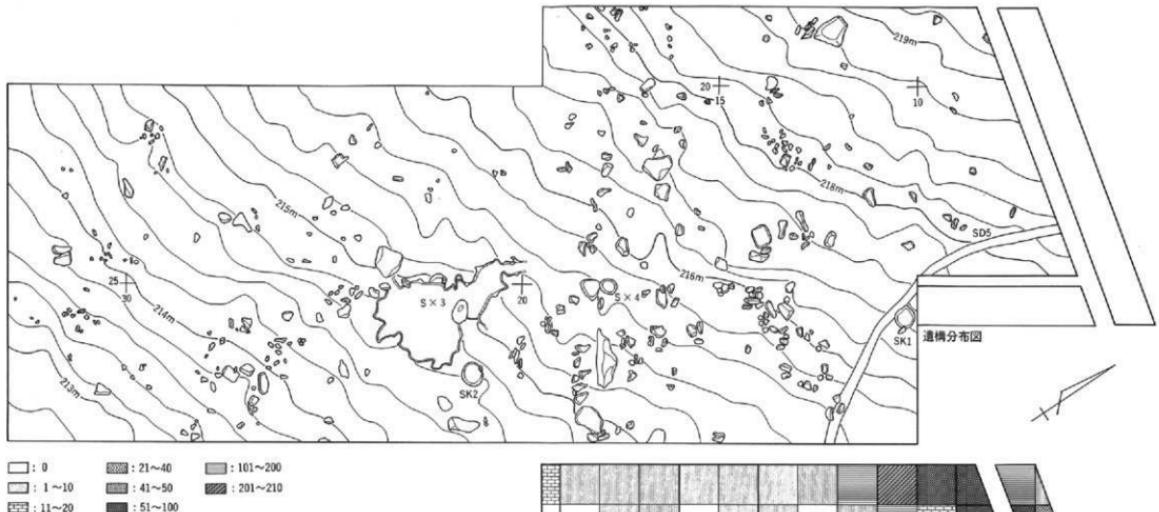
0
2 m

第8図 18-24-6-8区ベルト南面土壌断面図

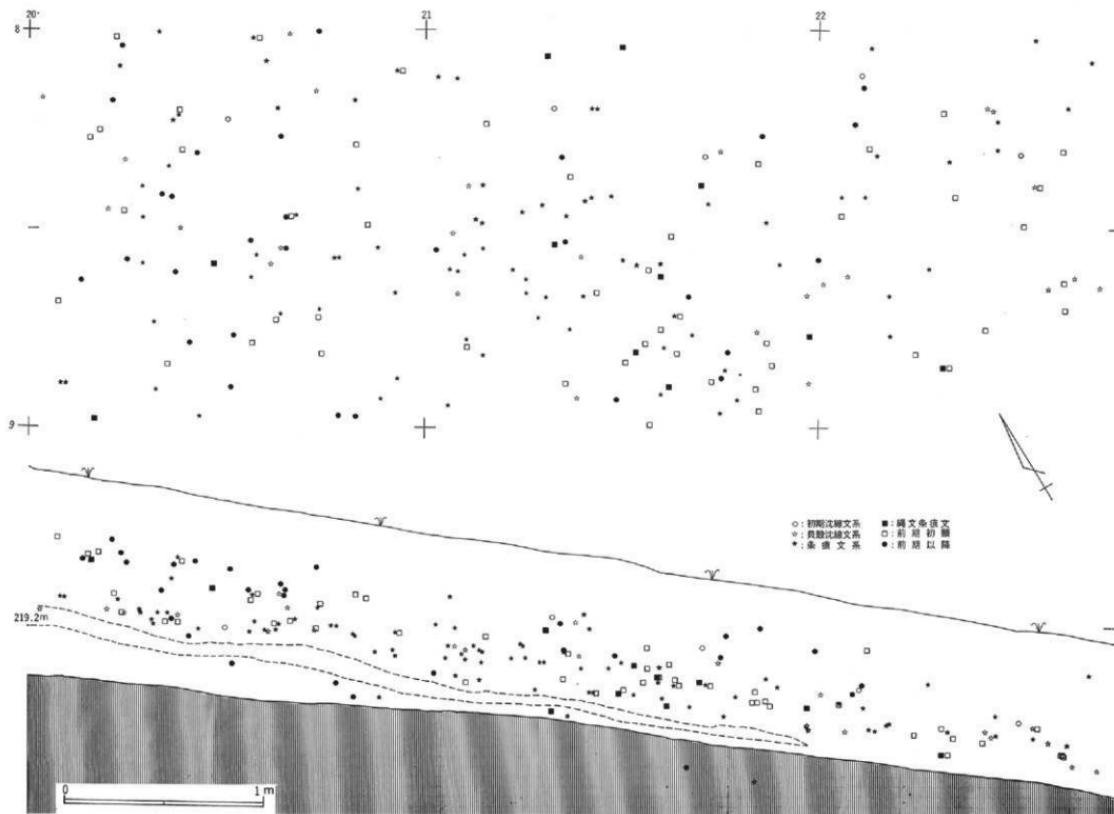




第9図 調査区土層断面図



第10図 遺構・遺物分布図



第11図 20-22-8区出土土器分布図

2 遺構と遺物の分布（第10・11図）

（1）遺構について

今回の調査において検出された遺構は縄文時代早期の土壙2基、溝跡1条、性格不明の落ち込み2箇所であり、住居跡、炉跡等は未検出である。遺構確認面はいずれもV層上面であり、II～IV層中からは遺構が検出されていない。遺構の切り合はSK1とSD5にみられ、SK1がSD5を切っている。第10図上はV層上面における遺構及び岩塊の分布状況である。遺構の分布は上～中部斜面東側の比較的傾斜の緩やかな場所に限られる。

岩塊の分布は、Y-16～18ライン上並びにY-23以南において帯状に分布する。特に前者の場合等高線の出入の激しい小沢筋に沿った形をとる。そのほか標高218mライン付近、217mライン付近には緩傾斜部分に等高線に沿った分布がみられる。

（2）遺物について

今回の調査で出土した遺物は、縄文時代～中世に至る各期の土器片、土製品、石器、石製品、剣片等があり整理箱にして約50箱を数える。それらの殆どがII層及びIV層の遺物包含層中から出土している。

第10図下は調査区全体の出土土器数量をグリッド毎に図式化したものである。これによると、調査区北西部分及び南東部分の2箇所に顕著な集中がみられ、中部斜面上は分布が稀薄である。更に第11図は縄文土器について北西部分20～22-8区内における水平、垂直分布を時期別に示したものである。水平分布では各時期における集中はみられず散漫に分布しており、垂直分布でもII層中でかなりの混在が認められる。又IV層の出土土器は大木2式以降のものを含む。これはIII層以上の遺物包含層の形成時期が縄文時代前期前葉以降であることを示すものである。前項におけるII層の細分は、その堆積が一様なものではなくかなり不安定な状況を示しているが、その事実と出土土器の分布状況との兼ね合は、II層が上部からの流れ込みにより形成されたことを示唆するものであろう。中部斜面は流層部のため遺物包含層が薄く、果樹園造成の際の木根、支柱、獸類埋葬等によりかく乱された箇所が多い。従って第10図下にみる遺物の集中傾向は、上部斜面、下部斜面における遺物包含層の厚さと、かく乱の状況に依拠するものと考えられる。

IV層は、上部斜面特に間層をはさんだ北西隅で安定していた可能性もあるが、出土遺物数が少なく分布の傾向を見出すことができなかった。

弥生式土器は上部斜面18、19-7区、22、23-5区のII層上面から全ての資料が出土した。特に18-7区内では、遺構は検出されていないが、径約80cmの範囲に密な集中がみられる。桜井式及び天王山式の混在と、この地区の調査をII層上面で切り上げているため確証を得ないが、II層の安定時期を知り得る可能性があり注意すべきであろう。

V 遺構と遺物

1 検出された遺構

SK 1 (第12図)

25—10区内V層上面で検出された、ほぼ円形のプランをもつ土壌である。確認面からの深さ33cmを計り、底面に若干の起伏をもち壁面の立上がりは急である。覆土内の出土遺物から、縄文時代早期に所属するものと考えられる。本土壌はSD5溝跡を切っている。

SK 2 (第12図)

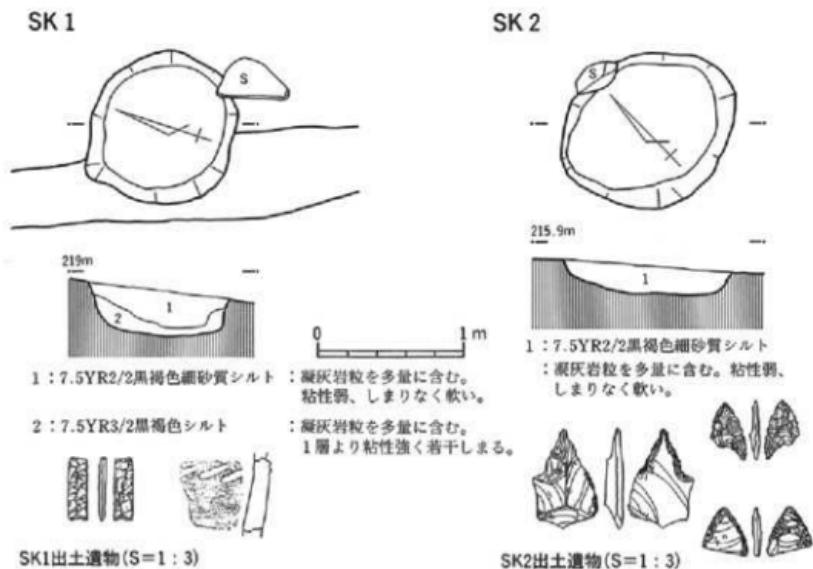
27—21区内V層上面で検出された、長軸長1.24m、短軸長1.06mの若干東西に長い梢円形プランをもつ土壌である。確認面からの深さ20cmで壁面の立上がりは緩やかである。出土遺物から縄文時代早期に所属するものと考えられる。

SD 5 (第10図)

23~28—6~12区内IV層下部で検出された、弧状に東流する溝跡である。幅1m前後、確認面からの深さ40cmを計る。覆土中に多量の角礫を包含する。出土遺物は皆無である。

その他の遺構 (第10図)

性格不明の落ち込みが2箇所で検出された (SX 3、SX 4)。



SK1出土遺物 (S=1:3)

SK2出土遺物 (S=1:3)

2 出土した土器（第13図～第55図）

今回の調査における土器の出土量は、整理箱にして約20箱である。各時期毎の出土数量は多いとはいえないが、縄文時代早期から中世にいたる多様な内容を包括する。所属時期別の出土比率では、縄文時代早期中葉から前期前葉にかけて多く、次いで縄文時代中期、弥生時代の順となり、その他縄文時代前期末葉、後・晚期、古墳時代以降の土器が各々若干量存在する。出土した土器は殆どが小破片であり、全体の器形、文様構成の把握ができる資料は稀有であった。

本項では、従来の編年研究の成果をもとに縄文時代早期を12群、前期を2群、それ以後を6群に分け、更に胎土、焼成、文様構成要素の観点から細分を行なった。なお各個別の観察、分類は表1～25に譲り、ここでは概括的な記載に留めた。

第1群土器（押型文土器）

a類 重層山型文（1、2）、重層菱形文（3、4）を施文するもの。

体部の小破片4点が出土した。いずれも胎土中に多量の繊維を含有する。器形及び施文原体の幅、長さを知り得るものはない。器厚6mm～7mmを計る。器面の磨滅が著しい。

b類 縄文+沈線文により文様構成されるもの（5、6）。

口縁部付近の破片2点が出土した。胎土中に多量の繊維を含むが薄手であり、器面の調整、焼成とともに良好である。4は、器厚5mm、推定口径17cm前後と小形の深鉢で直線的に外傾する器形をもつと思われる。地文は0段多条RLの横位施文であるが沈線間の施文はLR原体のようである。沈線は地文施文後に4段以上にわたって描出される。

第2群土器（沈線文土器）

器面に格子状沈線を施文するもの（7～18）。胴部破片12点が出土した。器厚7mmを越える厚手のものが多く、胴部中位では15の如くやや内弯する器形をもつらしい。胎土に繊維は含まれず、細砂粒の混入が若干目立つ。焼成、調整ともに良好である。文様の全体的なモチーフは不明であるが、横走する区画沈線をもつもの（8、13）と、もたないもの（15）の存在が認められる。

第3群土器（貝殻沈線文土器）

沈線文、貝殻腹縁圧痕文、連続刺突文等により文様構成される。器厚1cm前後の厚手のものが多く、胎土中には繊維を含まず粗、細砂粒及び石英粒の混入が目立つ。一般に焼成は良好であり、器面は精緻に研磨され、色調は赤色系が多い。器面全体の文様構成が把握できるものではなく、口縁部資料にも乏しいが、稜線をもつ外削状の口縁（31、32、92他）及び内側への折返口縁（25）の存在が知られ、直線的に外傾もしくは外反ぎみに外傾し、平縁となる器形が多いようである。底部資料は2点（140、236）出土している。

a類 太い棒状工具あるいは竹管状工具の表皮側を器面にあて、粗雑な沈線文を施文するもの。沈線内に砂粒の動きによる擦痕が特徴的にみられる。深く抉入して短く切れ、終点に喰出皺を残す太い沈線文(22、30、36など)、浅く施文されるもの(27、34、35、44など)、截竹管状工具の内側を器面にあてて施文するもの(39、40)、沈線施文後に入念な研磨を施すもの(24、33、85など)があり、更に、地文として浅い条痕文をもつもの(45、112、113、118)の存在が知られる。他の施文要素との組み合わせにより細分し得る。

1：沈線文+連続刺突文(33)

2：区画沈線間に太く短い沈線を充填するもの(85、88)

3：沈線文+貝殻腹縁圧痕文(28、283、319、335)

4：3群b類の沈線文を伴うもの(117、237)

b類 棒状工具もしくは、両端が鋭角的に尖る直線的な沈線文を施文するもの。沈線の断面形はC形、L形を呈する。

1：横走する平行沈線間に縦位爪形状連続刺突文を充填した区画帯を有し、その間に綾衫状沈線文を充填するもの(175)。

2：間隔の密な沈線文を異方向から交互に施文するもの(77、106、109、111、176、178～181、185、191、206、107、144)。106は沈線区画内に半月形の爪形状連続刺突文を充填するモチーフを伴う例であり、176は口唇直下から横走平行沈線による区画を2段以上設け、その間に沈線の交互施文を行う。また178～180は同一個体であり、胸部に平行沈線間を縦長の連続刺突文で充填する横位区画帯を有する。

3：沈線の基点に半月形の刺突文を施文するもの(107、108)。

4：沈線文+貝殻腹縁圧痕文(75、98、104、199、277、279、284、286、287、289、293、295、307、314、326)。

c類 嘰出皺をもつ爪形状連続刺突文を施文するもの。多くの場合沈線による区画を伴う。

1：区画沈線を伴う連続刺突文が横位多段施文されるもの(92、97)。92は一本沈線による区画、97は平行沈線による区画をもつ。刺突文の施文方向は両者ともに上下段で逆転している。

2：連続刺突文+区画沈線文+貝殻腹縁圧痕文により文様構成されるもの(278、280、285)。278、280は口縁部付近の破片と思われる。区画沈線下に貝殻腹縁圧痕文を横位連続施文する。285は口唇部が鋭角的な断面形を有する特異な例である。

3：沈線による区画を持たずに他の文様要素と併用されるもの(76、241、276)。76はa類と組み合ったもの。276は貝殻腹縁圧痕文と併用されたものである。また241は、a類の

沈線文及び縄文と組み合う稀有な例である。いずれも刺突文は縦長に施文される。

d類 噴出鐵をもたない連続刺突文を主に施文するもの。縦長の三ヶ月形、半月形の連続刺突文、太い棒状工具による円形刺突文がある。区画沈線間に施文されるものが多く、94は区画に半截竹管による沈線が用いられる。ある程度文様構成の把握できる資料は以下の如く細分できる。

1：区画文を伴わないもの(84、87)。87は口縁部資料である。口唇直下に三ヶ月形の爪形状刺突文を横位連続施文する。以下は無文帶となり横方向からの研磨を受ける。

2：区画沈線を伴う連続刺突文が横位多段文されるもの(96、177)。文様構成はC類1に似るが、各段の刺突文の施文方向が同じである。

3：異なる工具による連続刺突文が同一器面上に施文されるもの(184)。

e類 貝殻腹縁圧痕文のみのもの(337、346、347、351、356)。

第4群土器（貝殻沈線文土器）

曲線的、幾何学的な沈線文、貝殻腹縁圧痕文、円形刺突文等により文様構成される。器厚4～7mmで一般に薄手である。胎土は粗粒が減少し微細となるが雲母の混入が目立つ。色調は褐色系が多く、第3群土器に比較して焼成、器面調整とともに若干劣る。全体の器形を把握できる資料はないが、第3群より曲線的な断面形をもつものが多く、口縁部資料では内弯しながら外傾するもの(261～263、305他)が特徴的にみられる。また波状縁となるもの(124、262、405他)も多い。

a類 「く」字状連続押引文(結節沈線文)、「ハ」字状短沈線文を施文するもの。短沈線文が貝殻腹縁圧痕文に置換した例もみられる。(242、391、394)。

1：「く」字状連続押引文+沈線文により文様構成されるもの(68、395、397)。焼成、器面調整とともに良好。胎土は第3群土器に近い。68は内弯するが、395は外反する器形を有する。

2：「く」字状連続押引文による区画内に貝殻腹縁圧痕文を充填するもの(304、405)。304は沈線文、405は円形刺突文と組み合う。また405の口唇部裏面には刻目文が施文される。

3：「く」字状連続押引文+隆蒂(399)。横位隆蒂が2段以上にわたり施文され、その上に刻目が付加される。口唇部は丸く整形され、頂部及び表裏面に刻目文が付加される。器厚9mmと厚手であり、裏面は研磨されるが表面の調整及び焼成は不良ぎみであり、脆い印象をうける。

4：「ハ」字状貝殻腹縁圧痕文が沈線間に施文されるもの(242)。胎土中に石英粒を大量に含み第3群土器に近い胎土を有する。沈線も第3群C類の施文に類似する。

b類 沈線文、貝殻腹縁圧痕文を主体的に施文するもの。

1：半截竹管あるいは棒状工具先端により間隔の狭い平行沈線文を疎に描出するもの(251、255～257)。いずれも焼成、器面調整とともに良好である。255、257は表面に浅い条痕文が施される。

2：間隔の密な平行沈線文を施文するもの(114、147、171)。114は口縁部に横走沈線文、胴部に貝殻腹縁圧痕文を施文する。171は口縁部横走沈線文、胴部縦走沈線文を密に施文する。口唇部表面には同工具による刻目文が施される。

3：曲線的、幾何学的な沈線文、円形刺突文、貝殻腹縁圧痕文により文様構成されるもの。沈線は通常棒状工具先端により施文されるが、截竹管状工具の使用(267、268)も認められる。貝殻腹縁圧痕文を伴うものでは、区画沈線内充填(305、309など)の他、沈線に沿った施文(298、316など)、短い貝殻腹縁圧痕文の連続施文(294)等のバリエーションがある。

4：棒状工具により山形沈線文を描出するもの(271、272、274、275、308)。271は区画沈線文、連続刺突文を、272は沈線文を伴う。両者ともに裏面には浅い条痕文が施文される。308は貝殻腹縁圧痕文が施文される。

c類 貝殻腹縁による押引文、連続刺突文が施文されるもの。

1：大きい貝殻腹縁による押引文を施文するもの(369～371)。369、370は同一個体である。横走する押引文間に半截竹管による波状沈線文が施される。また口唇部表裏面上に浅い刻目が描出される。3点ともに裏面には浅い条痕文が施され、胎土中に若干量の纖維の混入がみられる。

2：貝殻破片による押引文、貝殻による沈線文を主な文様要素とするもの(264、273、362、364～368、387)。いずれも薄手であるが、焼成、器面調整とともにやや不良である。362、368はともに押引に用いたと同様の工具で沈線文を施す。366は裏面に半截竹管により波状沈線文を描出している。

3：貝殻腹縁による連続刺突文(344、372～377、382、387)。胎土中に砂粒の混入が目立つ。374、387を除き口縁部の小破片であり、胴部の文様は不明であるが口唇部の肥厚が特徴的である。373は口唇部刻目及び半截竹管沈線文を伴う。

4：ギザギザのない貝殻腹縁圧痕文(381、384～386)。385、386は器厚8mm前後とやや厚手で貝殻腹縁によるジグザグ文を描出する。小破片のため他の施文要素との結びつきは不明である。

5：貝殻腹縁文+貝殻条痕文(360、361)。C類2と同様の施文がなされるが、表面に整然とした貝殻条痕文を伴う。360は裏面にも浅い条痕文がみられる。焼成良好であり胎土中に纖維を含まない。

- d 類 刺突文が施文されるもの (79、81、209、378、380、516)。
- e 類 貝殻腹縁圧痕文のみのもの (328、330、336、338、339、348～350、352、357、358)。
- f 類 その他 (281、389、390、393)。281は貝殻腹縁圧痕文+連続刺突文、389、390は貝殻腹縁圧痕文+繩文、393は貝殻背面の圧痕である。

第5群土器（絡条体圧痕文土器）

407～417の11点が出土した。胎土中には雲母粒を多量に含み、纖維の混入は微量あるいは殆ど含まない。器形全体の特徴は不明であるが410は波状線、416は平線となる。細い原体の横位施文が多いが、407は斜位、414は太い原体の密な圧痕である。

第6群土器（微隆起線文土器）

器面に貼付けた細い粘土紐に調整を加えて断面三角形とした微隆起線文により文様構成される一群である。多く表裏面に条痕文が施文されるが無文地の場合もある。器厚は5mm～7mmと概して薄手であるが、453の如く15mmを計る厚手のものも存する。胎土中には石英粗粒、雲母細粒の混入がやや目立ち、微量に纖維の混入するものが多い。器形は418～421が外反する他は直線的に外傾するものとみられる。焼成は一般に良好である。

- a 類 微隆起線文+絡条体圧痕文により文様構成されるもの (418～422、424)。

1：口唇部に絡条体圧痕文を施文するもの (418～422)。418～421は同一個体である。全体のモチーフは不明であるが、幾何形区画内に横走微隆起線を充填施文し、更に口唇部に施文されたと同じ絡条体により微隆起線に刻目を付加する。焼成は良好であり、裏面にはごく浅い条痕文が横走施文される。422は微隆起線上への刻目はみられず、胎土中に纖維が混入する。

2：口唇部に絡条体回転文（撚糸文）が施文されるもの (424)。口唇部をとり巻く形で刻目風に撚糸文が施文される。地文は表面が横走条痕文、裏面は粗雑な条痕文が格子状に施文される。胎土中に微量の纖維混入が認められる。

- b 類 横走する平行微起線文を施文するもの。

1：纖維を殆ど混入しないもの (423、425、427、428、453)。

2：多量の纖維を混入するもの (426、458、460、466)。

c 類 微隆起線による区画文、充填文により文様構成されるもの。小破片のためモチーフは判然としないが、区画文には三角形あるいは木の葉形 (429、436)、方形 (441) を呈するものがみられる。また435は斜走微隆起線をはさんで矢羽根状に条痕文を配する。

- d 類 微隆起線文+沈線文により文様構成されるもの。

1：繩文が付加されるもの (463)。上部は条痕地文上に微隆起線文と多段沈線文により幾何学的な文様を構成し、下部に単節RL繩文の横位回転が施される。胎土中に多量の纖維

を混入する。

2：微隆起線文+集合沈線文（434）。

第7群土器（条痕文土器）

器表裏面に条痕文を施文する一群である。胎土中に多量の纖維及び砂粒を含有する。器面調整は概してやや不良ぎみであり、焼成、色調は様々である。

a類 円形竹管刺突文を表微的に施文するもの。器厚10mm前後の厚手のものが多い。器形は口縁部で外反するもの（467）、直線的なもの（464、485）があり、胴部中位で外側に膨らむ器形（481、482他）も知られる。底部形態は不明である。

1：円形竹管刺突文+隆起線文+沈線文で文様構成されるもの（474～479、485～487、490）。区画文として用いられる隆起線文は第6群土器同様貼付後に調整を受けるが、太く幾分粗雑となる。沈線文は隆起線区画内に充填されるが、485の場合は区画文として隆起線文と併用される。円形竹管刺突文は区画文の基点に施文される場合が多い。

2：円形竹管刺突文+沈線文で文様構成されるもの（484、501）。a類1の隆起線が細沈線に置換したものである。

3：円形竹管刺突文+隆起線文（467、492）。

4：円形竹管刺突文+細沈線文（480）。刺突文間を細沈線で結ぶ文様構成をもつ。胎土が他と異なり、石英粗粒、雲母粒を多量に混入する。

b類 器面に対して斜方向からの連続刺突文を主体的に施文するもの。

1：隆起線区画内に刺突文を充填するもの（499）。筒状の突起の一部とみられる。下部の隆起線には竹管連続刺突による刻目が入る。焼成は良好だが、器面調整は粗雑である。

2：連続刺突文+沈線文（494、495、497）。2列の連続刺突文+波状沈線文（494）、沈線区画内刺突文充填（495）、沈線に沿った刺突文（497）の各種がある。

c類 太い棒状工具あるいは竹管状工具表皮側による沈線文を主体的に施文するもの。器厚10mm前後と厚手であるが器形の変化はa、b類程顕著ではない。口縁部資料に乏しいが平縁で口唇部に刻目を有する（500、513、561）ものが認められる。

1：細い沈線による区画内に太い沈線文を充填するもの（115、500、502、503、514、515、532、544、610）。

2：隆起線区画内に太い沈線文を充填するもの（430、483、488、493、498、509、510）。

3：同一工具沈線による区画文、充填文（491、511、512、520、522）。

4：異方向からの沈線を交互に施文するもの（561、568、588、589）。

5：間隔の密な沈線を施文し、微隆起線的な効果を得ているもの（504～507、517）。

d類 縦長の横走連続刺突文を施文するもの。

1：横位隆帯+連続刺突文（525、533）。525は薄い隆帯上に棒状工具端部による連続刺突文が施され、口唇部にも同様の工具による刻目が付加される。器形がかなり歪んでおり、施文も粗雑である。

2：細沈線文+連続刺突文（526、528）。

e類 平坦な面をもつ植物の茎様の工具による圧痕文を施文するもの（523、524）。同一個体と思われる口縁部資料2点が出土している。外反する器形を有し、条痕地文上に弾力性のある平坦面をもった工具による圧痕を縦、斜位に施す。胎土中に纖維の他石英粗粒を多量に混入する。

f類 先端の比較的鋭利な棒状工具、半截竹管等による沈線文を施文するもの。器厚7mm前後、直線的な断面形をもつものが多い。胎土中に多量の纖維を含むが焼成は比較的良好なものが多い。

1：半截竹管沈線文+同工具による連続刺突文（536）。

2：半截竹管沈線文+隆起線文（548）。

3：格子状沈線文、区画文、充填文（531、534、537、601）。

g類 口唇部に刻目文のみ施文されるもの（550、604、608、611、612、647）。

第8群土器（条痕文土器）

条痕文のみ施文されたものを一括する。表裏面に条痕文を施文する資料では、多量の纖維を混入し、焼成不良あるいは二次的な加熱を受け器面の荒れたものが目立つが、赤色系の色調をもち粗い条痕文を施文する590、595、596等は、纖維の混入が微量であり焼成も良好である。胎土は第6群土器に似る。また、表面にのみ条痕文の施される資料中に、裏面に精緻な研磨を行うものがかなりの量見出された（626、629～631、634～636他）。器厚10mm前後の厚手が多く、色調赤色系、焼成良好、胎土中に纖維を含まず粗、細砂粒及び石英粒の混入が目立つなど第3群土器と共通の特徴を有する。

第9群土器（無文土器）

表裏面ともに無文のものを一括する。縄文時代早期に属する無文土器破片は比較的多量に出土している。胎土、器面調整等の特色から第4群及び第5群土器の胴部中～下半資料が大半を占めると考えられる。焼成は一般に良好であるが器面調整の粗雑なものが多い。また、薄手のものには雲母粒の混入が目立つ。第3群土器の胴部下半とみられる（721）資料もあるが稀有である。口縁部資料では薄手で口唇部に刻目のはいるもの（717、730）肥厚するもの（696）、折返口縁（694）等が認められる。

第10群土器（縄文条痕文土器）

a群 器表面に縄文あるいは撚糸文、裏面に条痕文を施文するもの。器厚10mm前後の厚

手で、胎土中に纖維の他石英粗、細粒、細砂粒等を多量に混入するものが多い。焼成は比較的良好である。器形は内窓ぎみに外傾し底部は尖底（816、817）となる。表面の地文はO段多状を含む単節縄文、撚糸文が殆どであるが施文方向に規則性の認められないものが多い。750は表面条痕文、裏面縄文の特異な例である。

- 1：口唇部に刻目文を有するもの（739）。
 - 2：横位隆帯+半截竹管沈線文（765）。
 - 3：細い平行沈線文を施文するもの（787）。
- b類 条痕地文に撚りの大きな縄文原体側面圧痕文を施文するもの（900、901、903～906）。

第11群土器（表裏縄文土器）

器表裏面に縄文又は撚糸文を施文するもの。一般に厚手であり、胎土、焼成とともに第10群土器の特徴に類似する。口縁部資料は1点（829）出土しており、口唇部に間隔をおいた刻目文を有する。撚糸文の施文は826、830にみられる。両者とも裏面は縄文である。縄文のみ施文するものでも表裏面で撚りの異なる原体を使用する例（829他）がある。

第12群土器（撚糸文土器）

表面に撚糸文を施文する調整の粗雑な一群である（831、832、835、838）。

第13群土器（縄文時代前期前葉）

a類 縄文原体側面圧痕文+短沈線文で文様構成されるもの（908～910、913）。器厚10mm前後を測り、胎土中に多量の纖維を混入する。焼成、器面調整ともに良好である。908、909はフラビ手状の側面圧痕文、910、913は同一個体であるが、口縁部短沈線区画内に側面圧痕文を9段にわたり横位施文する。地文はO段多条LR原体の横位施文である。

b類 間隔の密な連続刺突文を多段施文するもの（912）。1点出土。胎土中に纖維の他石英粗粒を多量に混入する。外反する器形で、焼成、器面調整ともに良好である。連続刺突文の施文された上方に崩れたコンバス文の施文がみられる。

c類 ループ文が施文されるもの（867～876）。器厚6mm前後と比較的薄手で、胎土中への纖維の混入も少なく焼成は良好である。重層末端ループを横位施文するものが殆どであるが877は多段ループ文を施文する。

d類 太い棒状工具による沈線文、隆帯+連続刺突文などにより文様構成されるもの（932、934～937）。936は口径27cmを測る頭部でくびれる胴膨らみの深鉢形土器である。口縁部は4単位で内窓しながら外傾する波状縁となる。胎土中に纖維を含有し、焼成良好、器面調整も精緻である。口縁部の装飾は、短沈線文、口縁に沿った隆帯+指頭によると思われる連続押圧文、曲線的な沈線文が施文され、更に波頂部下には円形凹文と一単位おき

と思われる穿孔が沈線の交点に付加される。下半の形状は不明であるが胴部には地文としてS字状連鎖撚糸文の施文がみられる。934は、口縁に沿って太い棒状工具により4本の沈線文を描出し、波頂部下には縦位隆帶上に、沈線と同一と思われる工具を用いた連続刺突文が付加される。937には隆帶の施文は認められないが、口縁部の沈線のモチーフは936に似る。胴部にはS字状連鎖撚糸文が施される。

e類 半截竹管による沈線文、押引文を施文するもの(938～940、947)。938は口唇直下の2列の半截竹管押引文、櫛描状沈線文、コンパス文で装飾される。内弯ぎみの器形をもつ小形の土器と考えられる。胎土中への纖維の混入は微量である。939は太い半截竹管を用いた沈線文、押引文が施文され、940は同様の工具による斜格子状沈線文が描出される。両者とも地文は複節繩文で胎土中に多量の纖維を混入する。947は口縁部突起と思われる。押引文の施文は同心円ないしは渦状となる。胎土中に纖維の混入がみられる。

f類 沈線文、刺突文を施文する焼成不良の小破片を一括する(914～931、933)。

g類 胎土中に多量の纖維を含有し、器表面に地文のみが施されるものを一括する。a～f類に伴うものであるが、数量的に最も多く出土している。

第14群土器（縄文時代前期末葉）

大木6式に併行する一群である。胎土中への纖維混入はない。

a類 胴部地文上に半截竹管による沈線文を施文するもの(941)。

b類 棒状工具あるいは竹管表皮側による幾何学的な沈線文を施文するもの(943、945)。所謂金魚鉢形の器形となる深鉢形土器の胴部上半及び口縁部破片である。

c類 細浮線文、結節状浮線文により文様構成されるもの(944)。遊佐町吹浦遺跡3・4次報文中の第VI群土器1類bと類似した内容をもち、北陸の朝日下層式に比定し得る。

第15群土器（縄文時代中期）

量的にまとまって出土しているが細分の困難な小破片が大半を占める。

a類 沈線間に棒状工具による交互刺突文が施文されるもの(942)。大木7b式期に比定される。

b類 隆起線による渦状文、区画文、区画沈線文、磨消繩文等により文様構成されるもの(946、948～971)。大半が大木9式に比定されるが、960は沈線間磨消を伴わないためあるいは大木8bに比定される可能性がある。又、971は隆起線の断面形、口唇部形態等から大木10式に属すると考えられる。

第16群土器（縄文時代後期）

a類 隆帶、円形刺突文、沈線文等により文様構成されるもの(972)。縄文時代後期前葉期之内I式期に属すると考えられる。

b類 貼コブ+沈線文により文様構成されるもの（978）。口縁部に頂部が二又となる突起を有し、以下に貼コブが施文される。後期末葉新地式の範ちゅうで捉えられる。

c類 器表面に櫛描状沈線文を施文するもの（973～977）。

第17群土器（縄文時代晩期）

a類 玉抱き三又が施文されるもの（979）。鉢形土器の口縁部とみられる。表面は精緻に研磨されるが裏面の調整は粗雑である。大洞B式期の所産と考えられる。

b類 口縁部及び口唇裏面に沈線文を施文するもの（984）。鉢形土器の口縁～胸部破片である。表面の施文は粗雑であるが裏面はよく研磨される。大洞C₃式に併行するものであろう。

c類 工字文を施文するもの（980）。高坏口縁部とみられる小破片である。大洞A式期に所属すると考えられる。

第18群土器（弥生時代）

a類 二本同時施文による平行沈線文を施文するもの（997～1000、1002）。器厚5mm前後と薄手である。焼成良好であるが器面調整は表面に比較して粗雑である。器形を知り得る資料はないが弥生時代中期桜井式に所属する壺の胸部破片と考えられる。1000は二本同時施文沈線により渦状文が施され、赤色顔料が塗布された痕跡が認められる。

b類 弥生時代後期天王山式に併行するものを一括する。1001は壺口頸部である。先端の丸い棒状工具による横走平行沈線文、連弧状文が施文される。表裏面に赤色顔料塗布の痕跡を残す。996、1003～1005、1007、1008は該期の壺と考えられる。焼成、器面調整ともに概して良好である。

第19群土器（地文のみのものを一括する）

第14群～第18群土器に伴うものである。

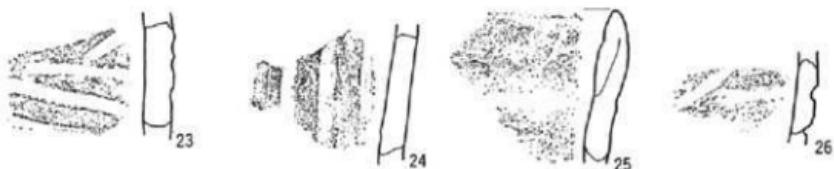
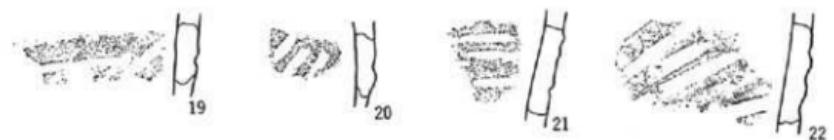
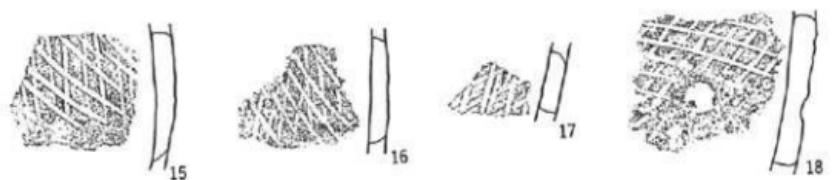
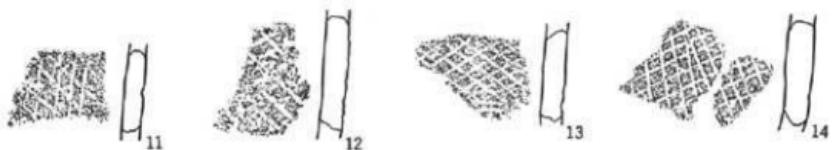
第20群土器（古墳時代以降）

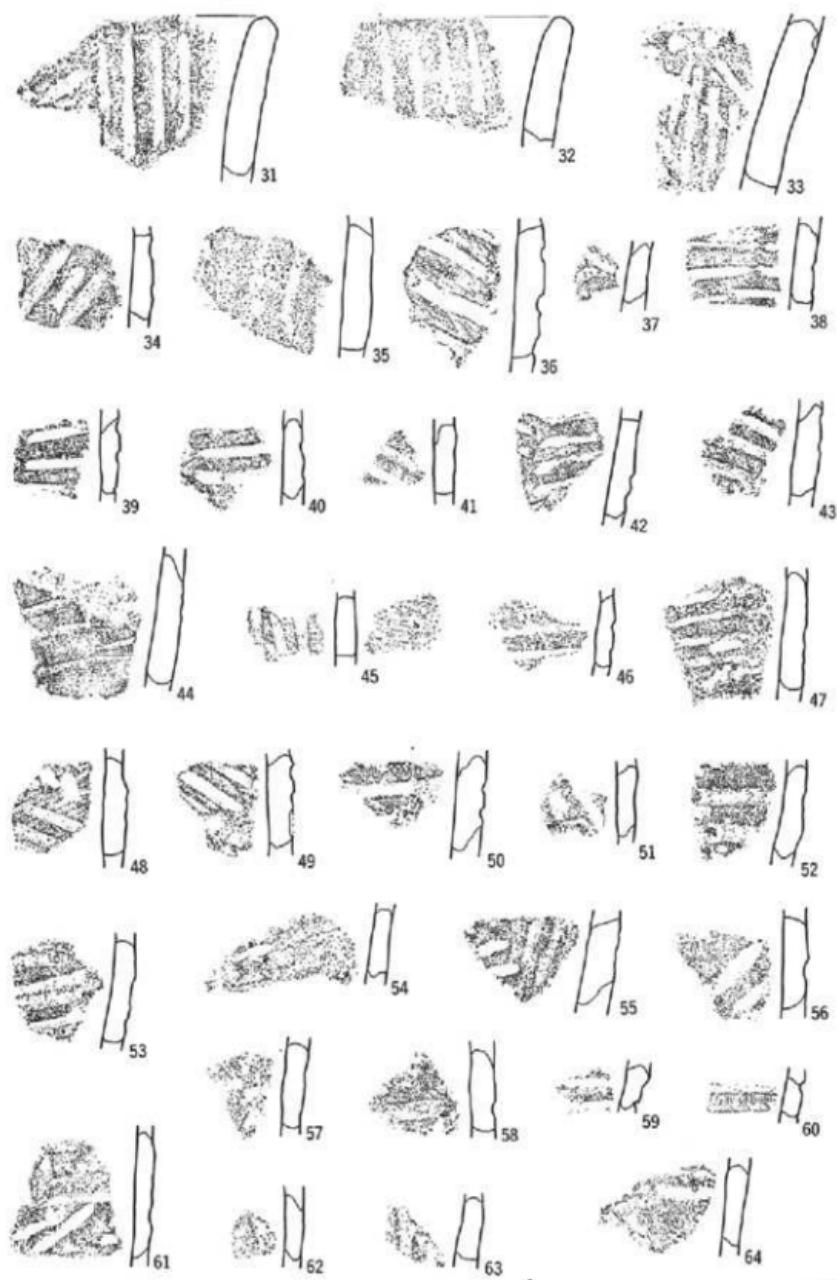
土師器：古墳時代前期塩釜式期の所産とみられる高坏脚部が一点出土している（1006）。須恵器：壺及び壺の体部破片（1009～1013）と高台付坏の底部破片（1016）が出土している。古墳時代～平安時代のものであるが詳細は不明である。

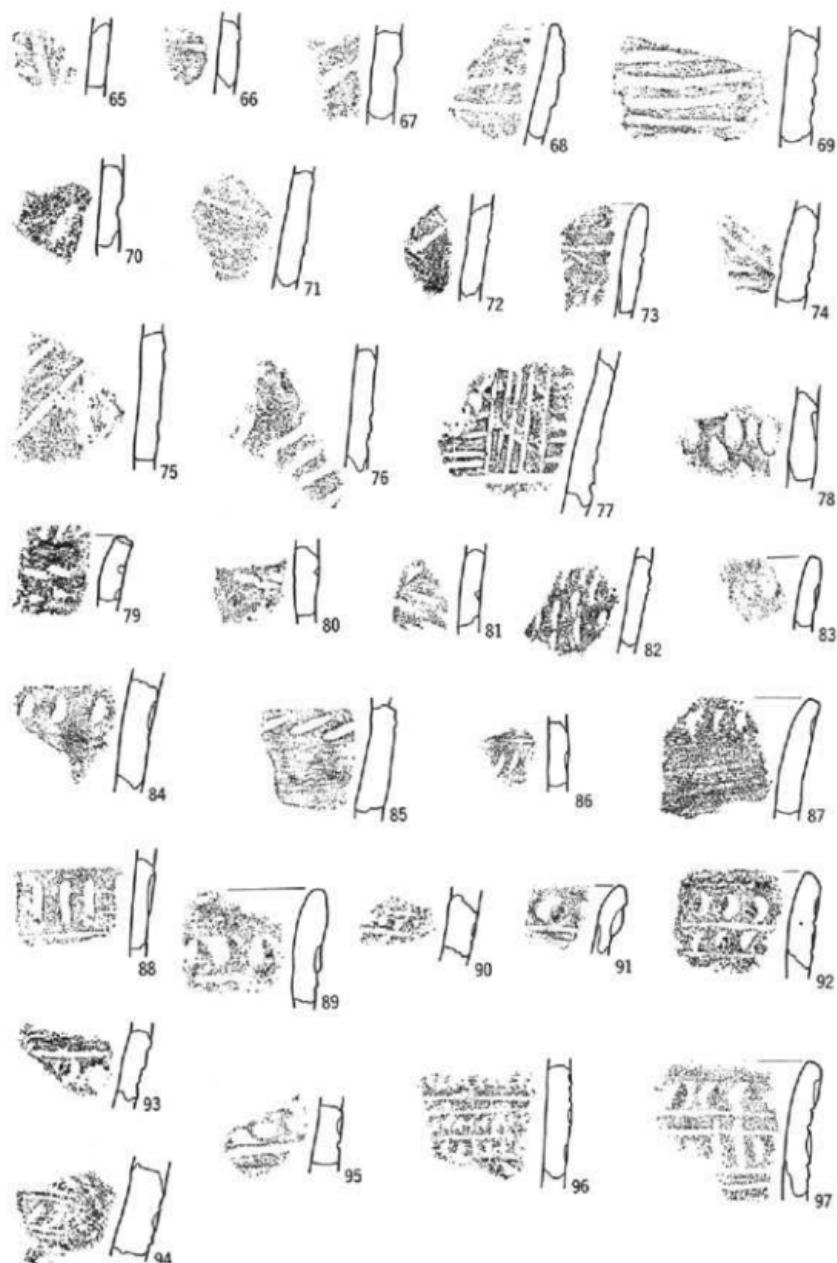
中世陶器：越前焼の壺頸部（1014）、洲珠焼の捕鉢（1015）が確認されている。

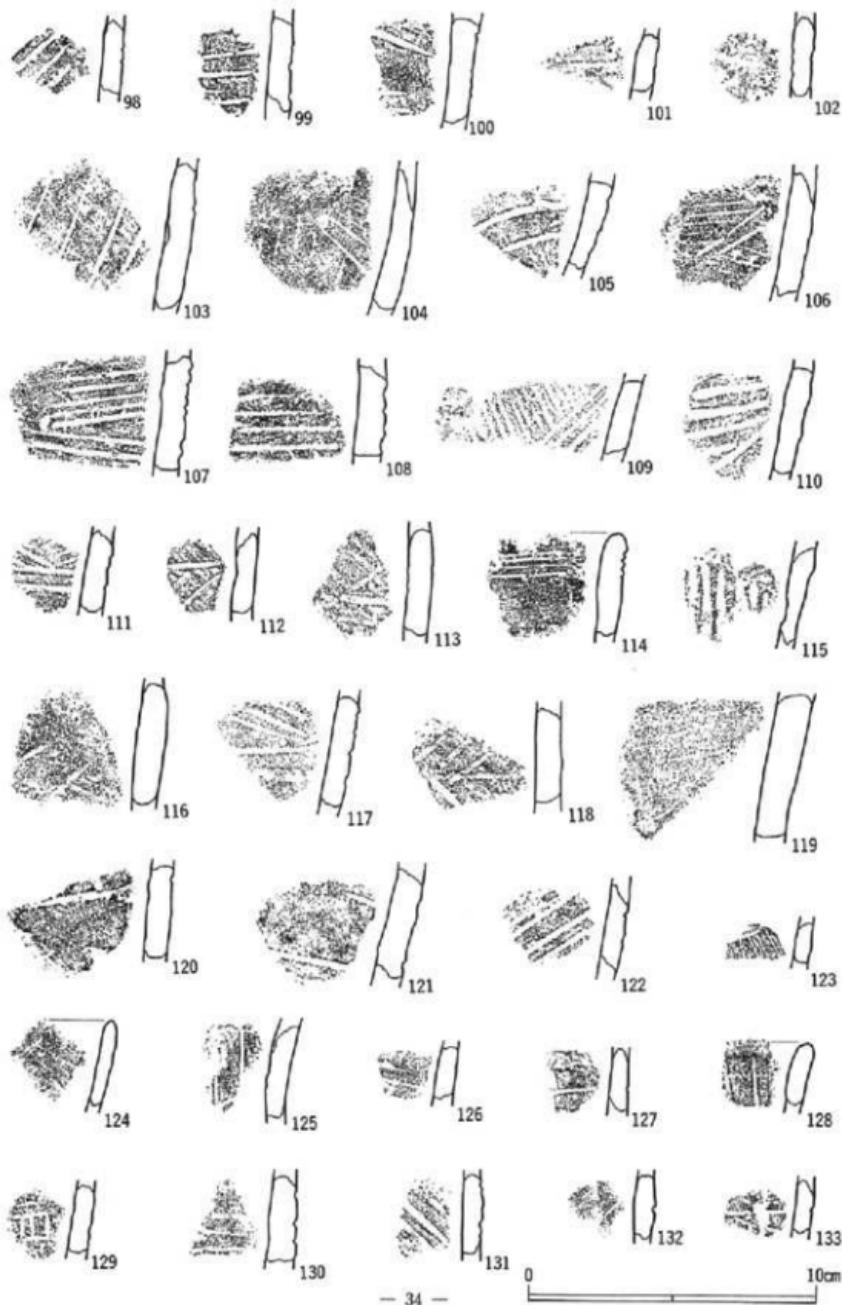
土製品

縄文時代の土製品では前記した778の他に土鍤1点が出土した（1020）。胎土中に繊維を含み、表面に半截竹管沈線を施文する土器片からの転用である。周囲4箇所に溝が切られる。その他古墳時代以降の土鍤（1019、1021）、土師器小形土器（1018）が出土した。

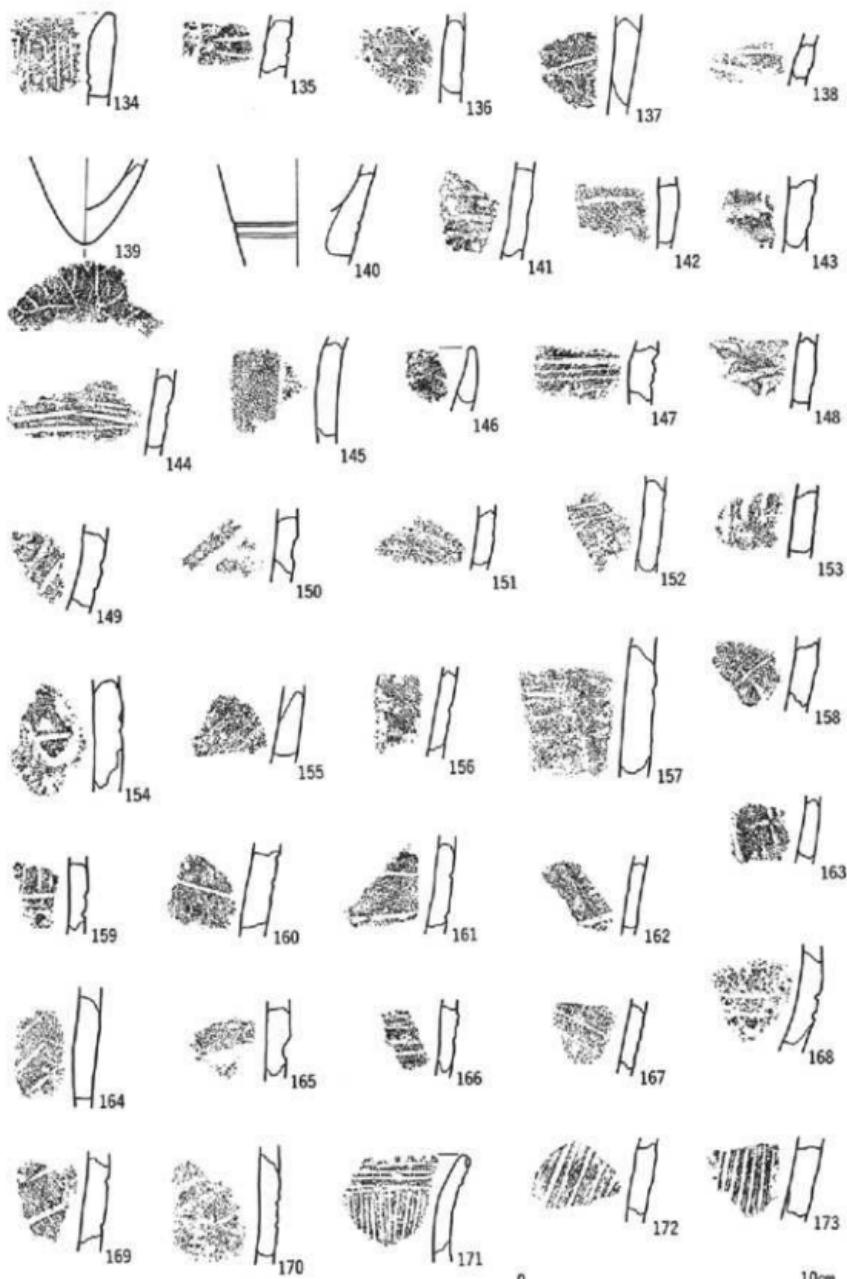


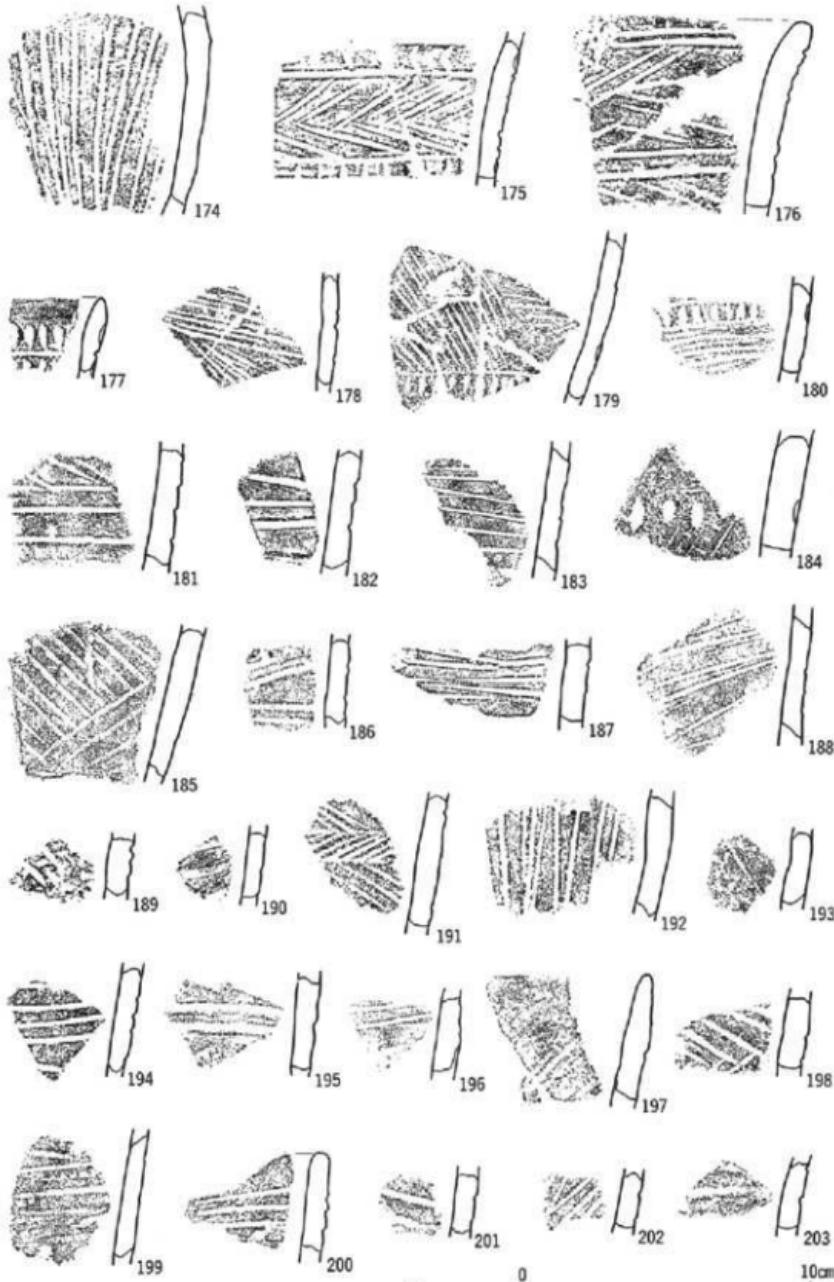




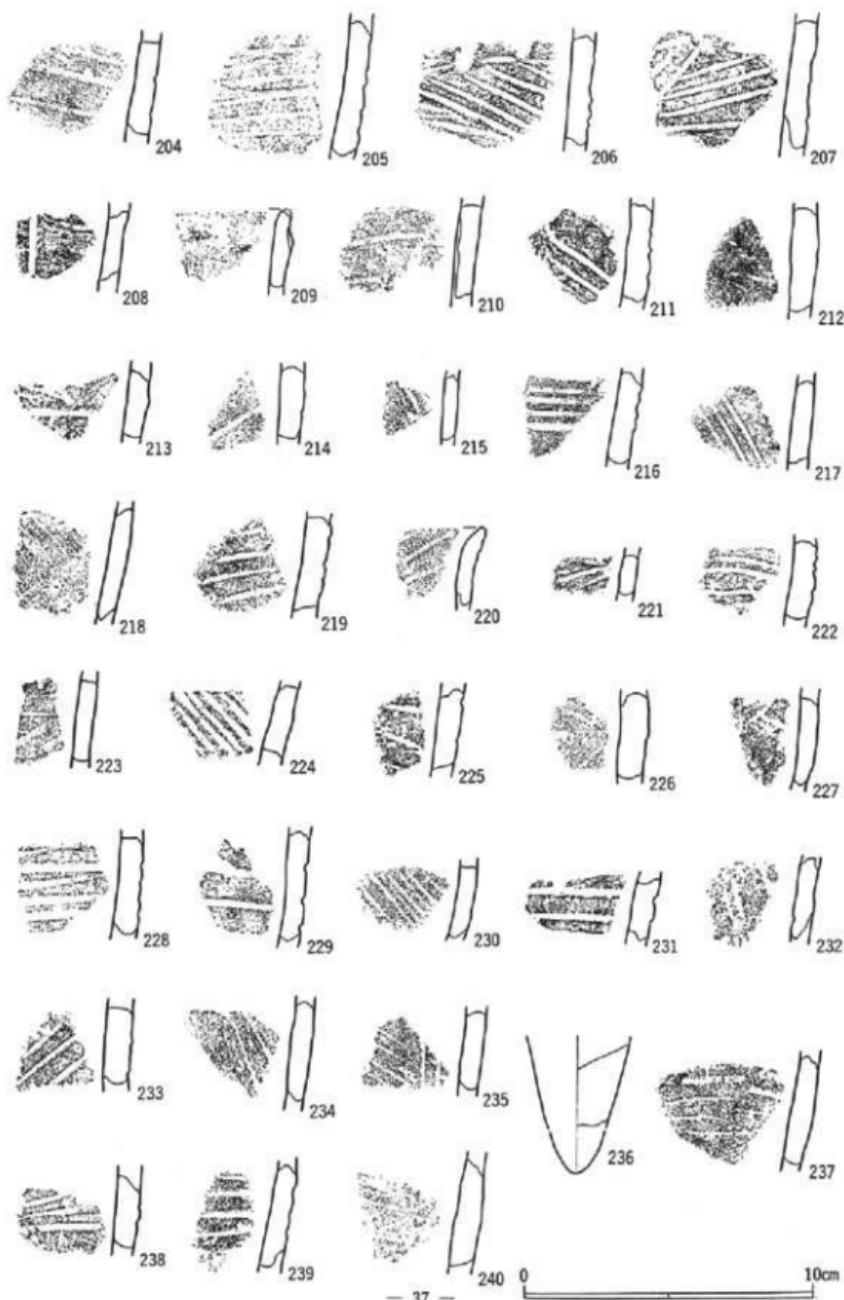


第16図 繩文土器（4. 早期）

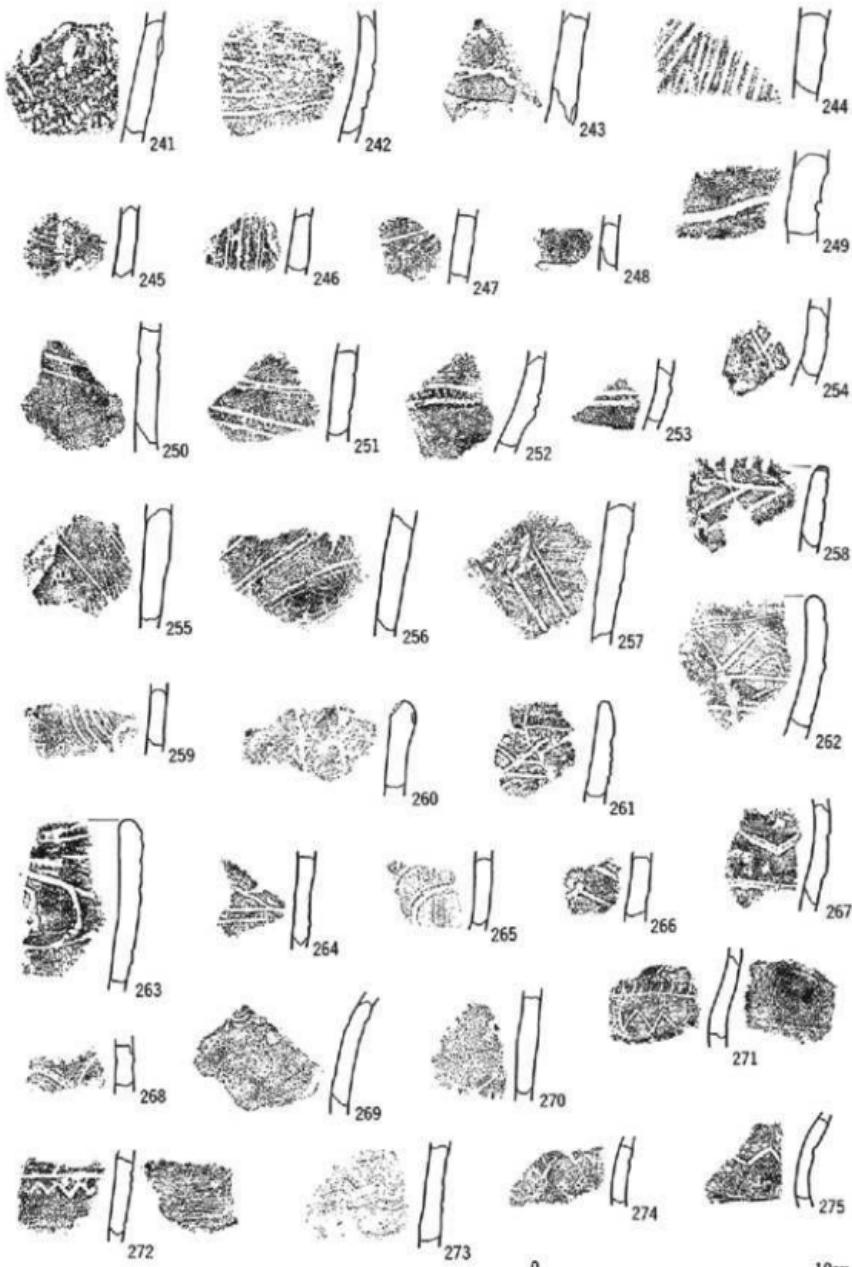




第18図 繩文土器 (6. 早期)

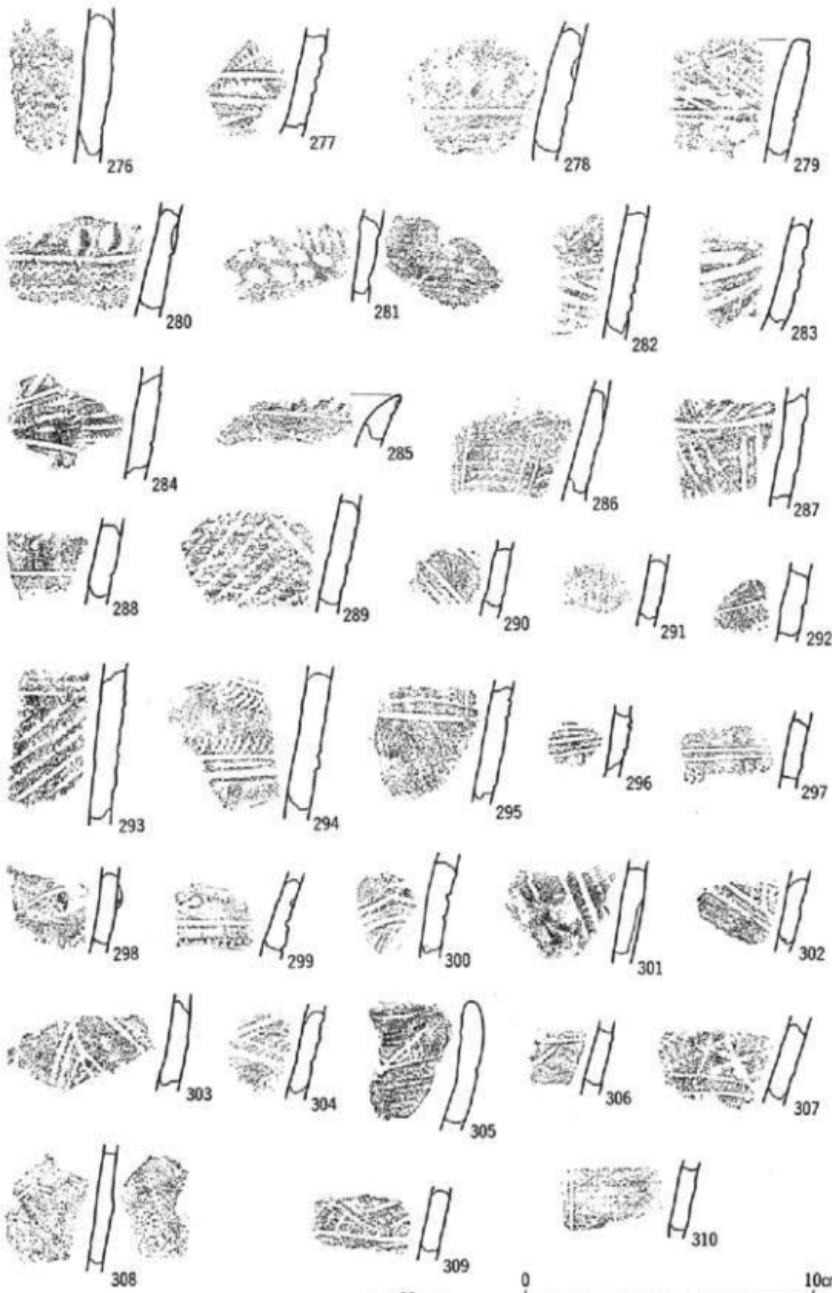


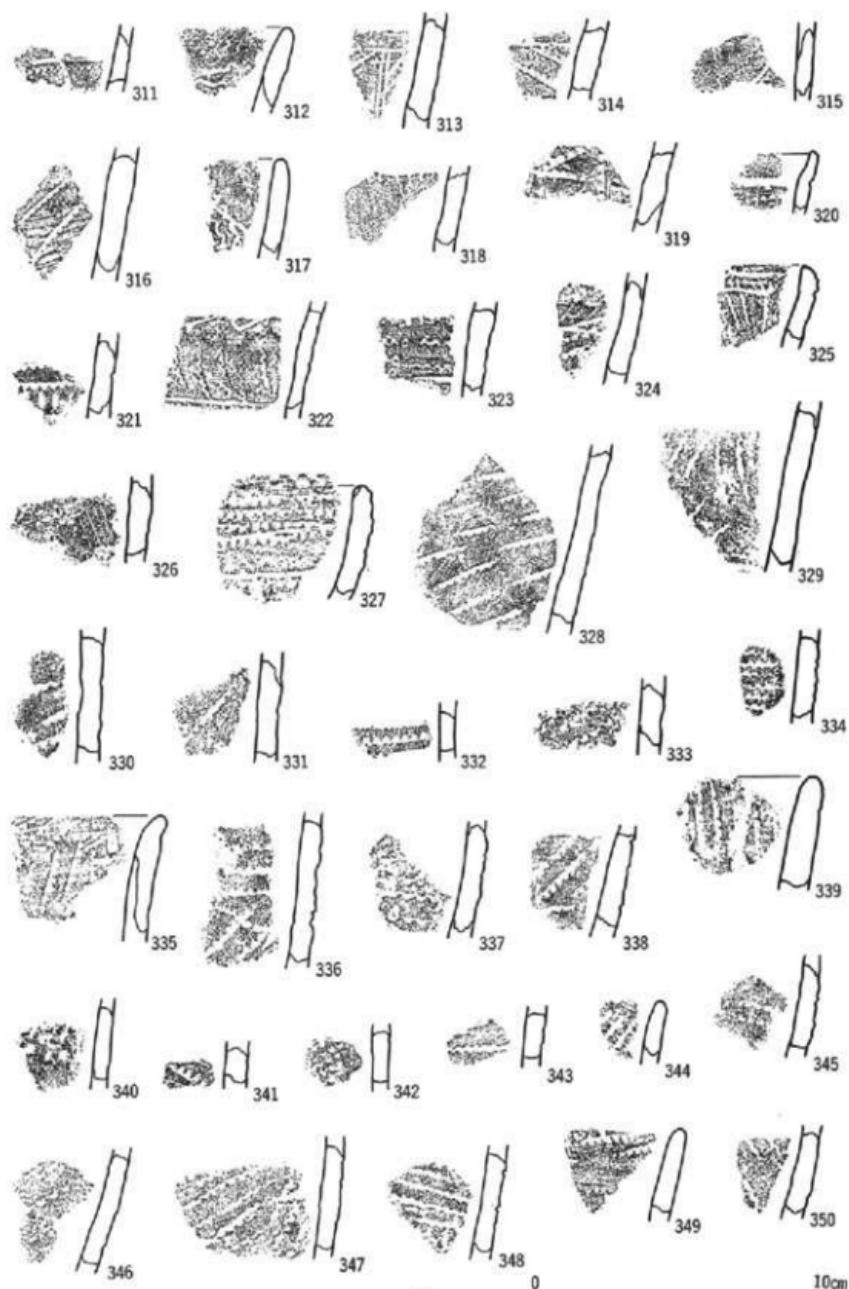
第19図 繩文土器 (7. 早期)



- 38 -

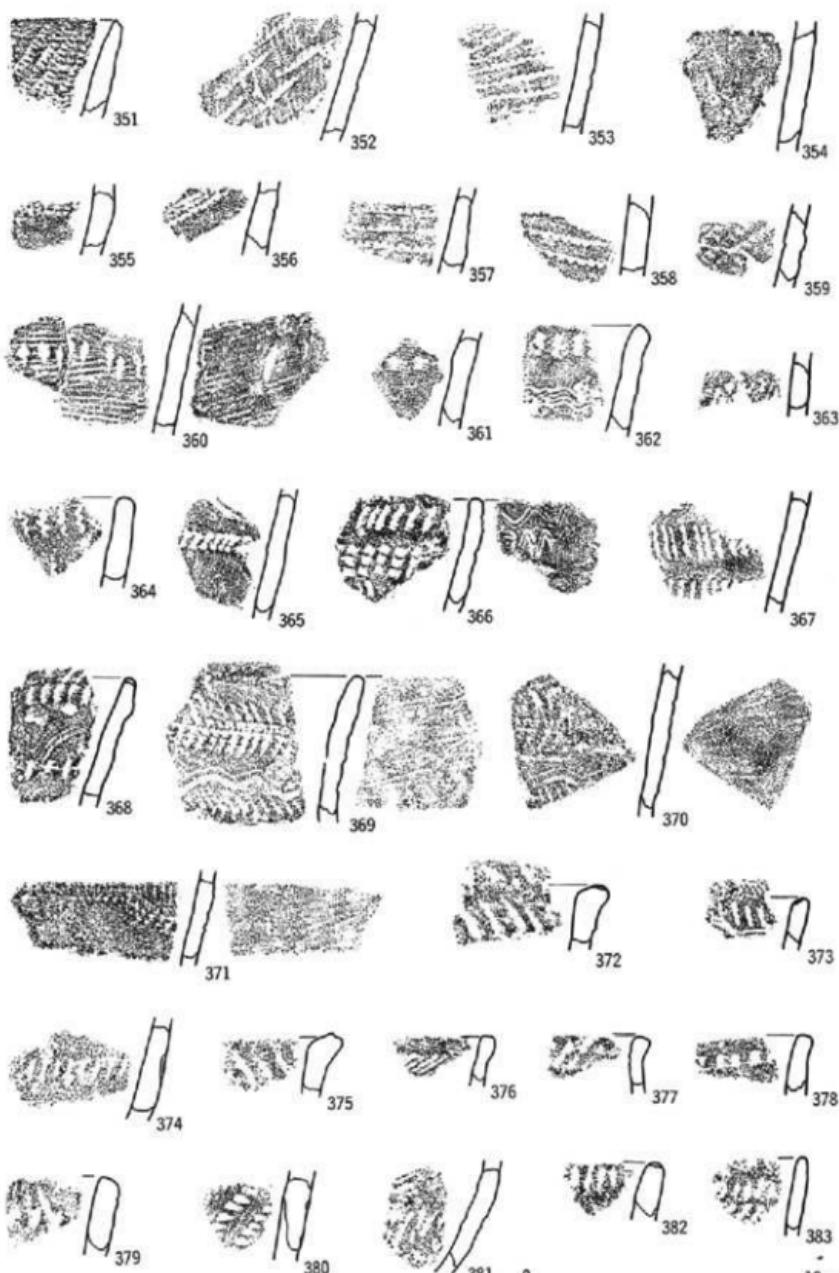




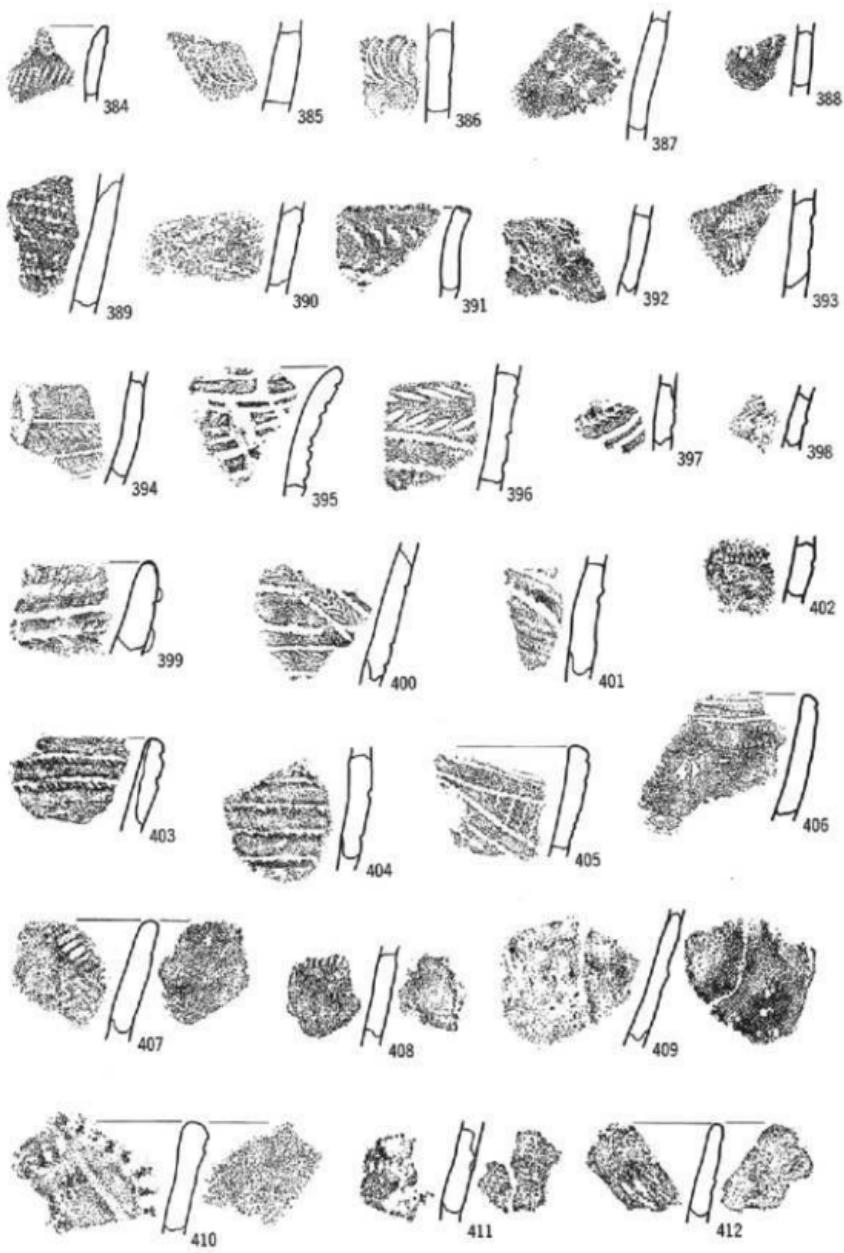


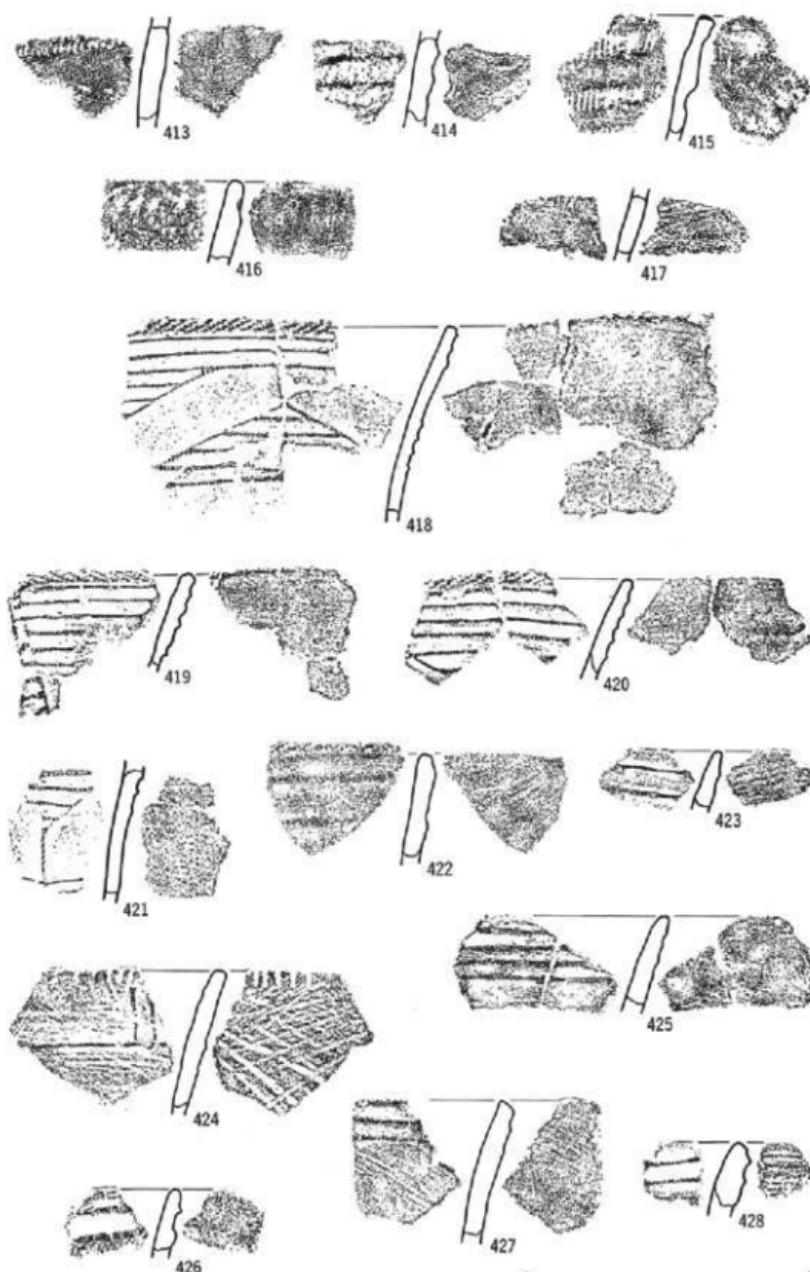
- 40 -

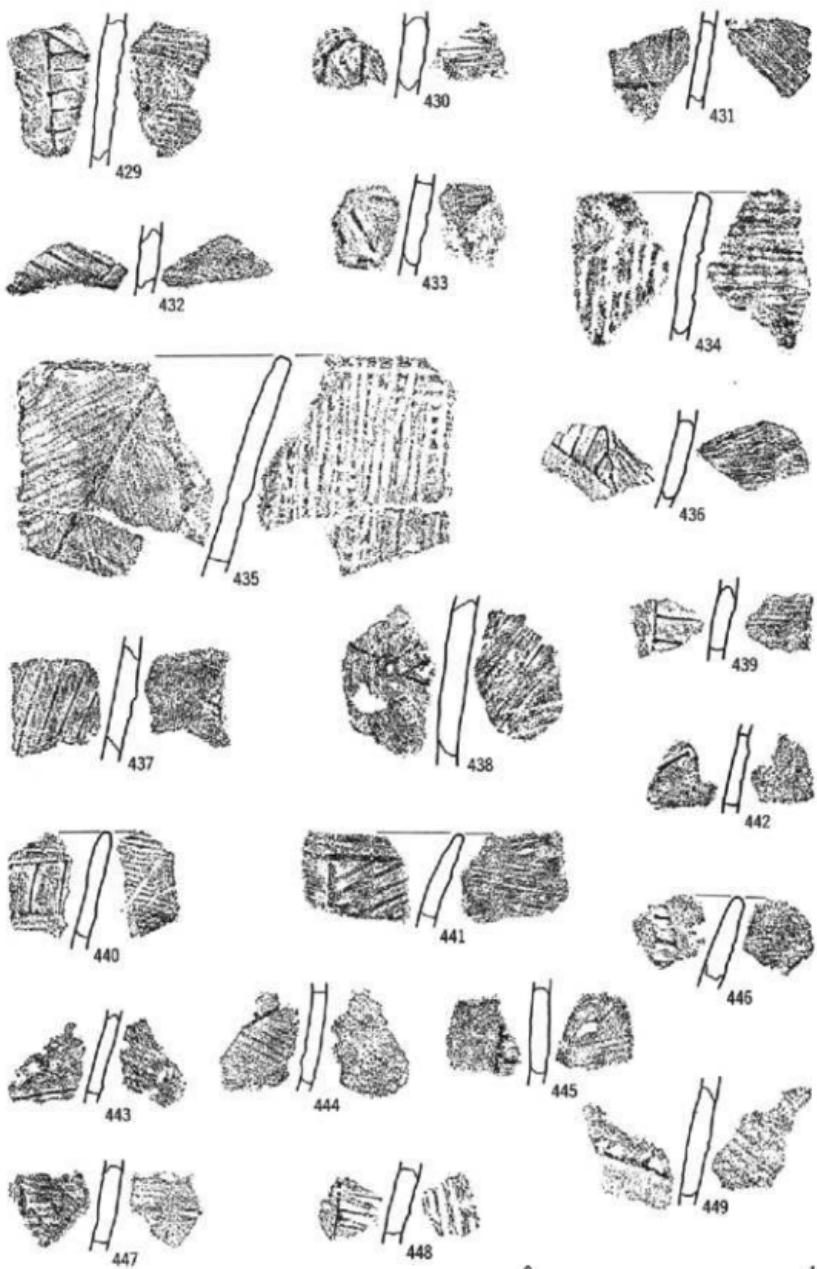
第22図 繩文土器 (10. 早期)

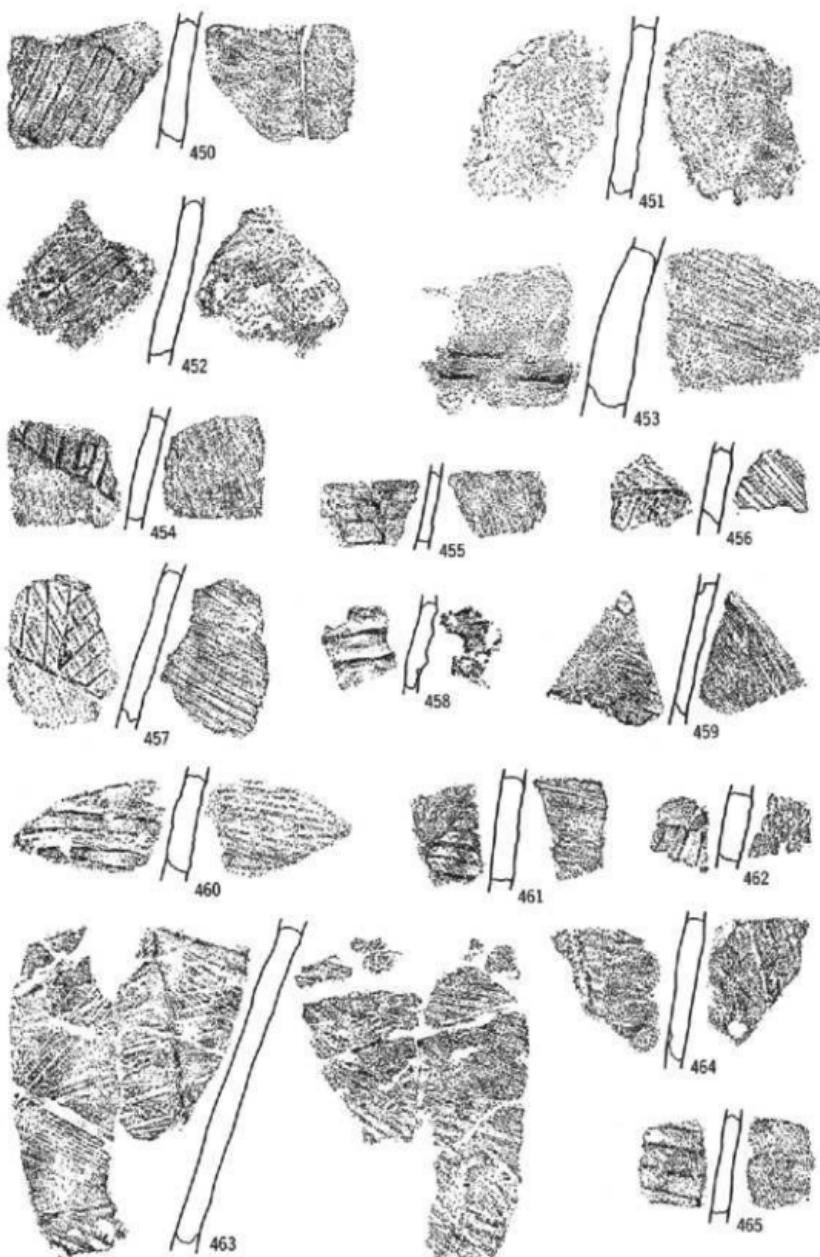


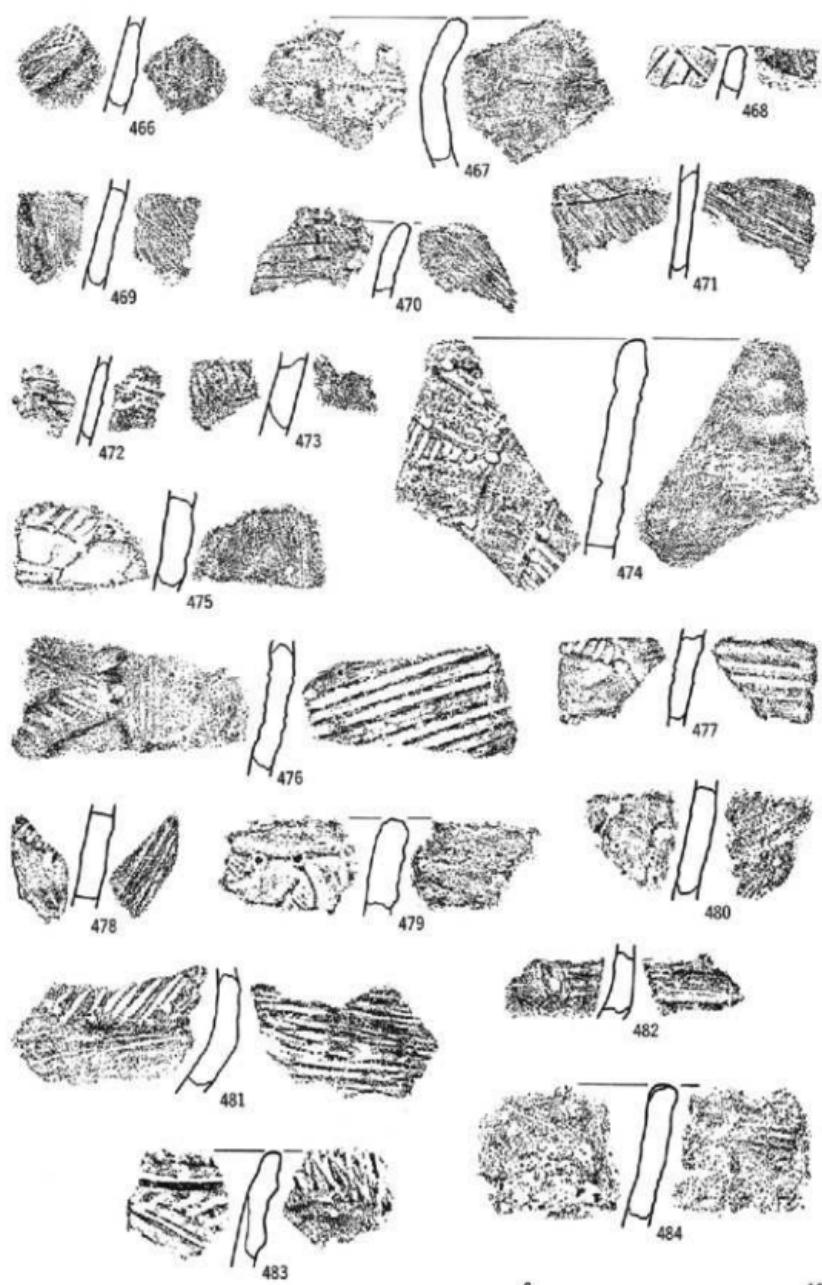
第23図 縄文土器 (II. 早期)

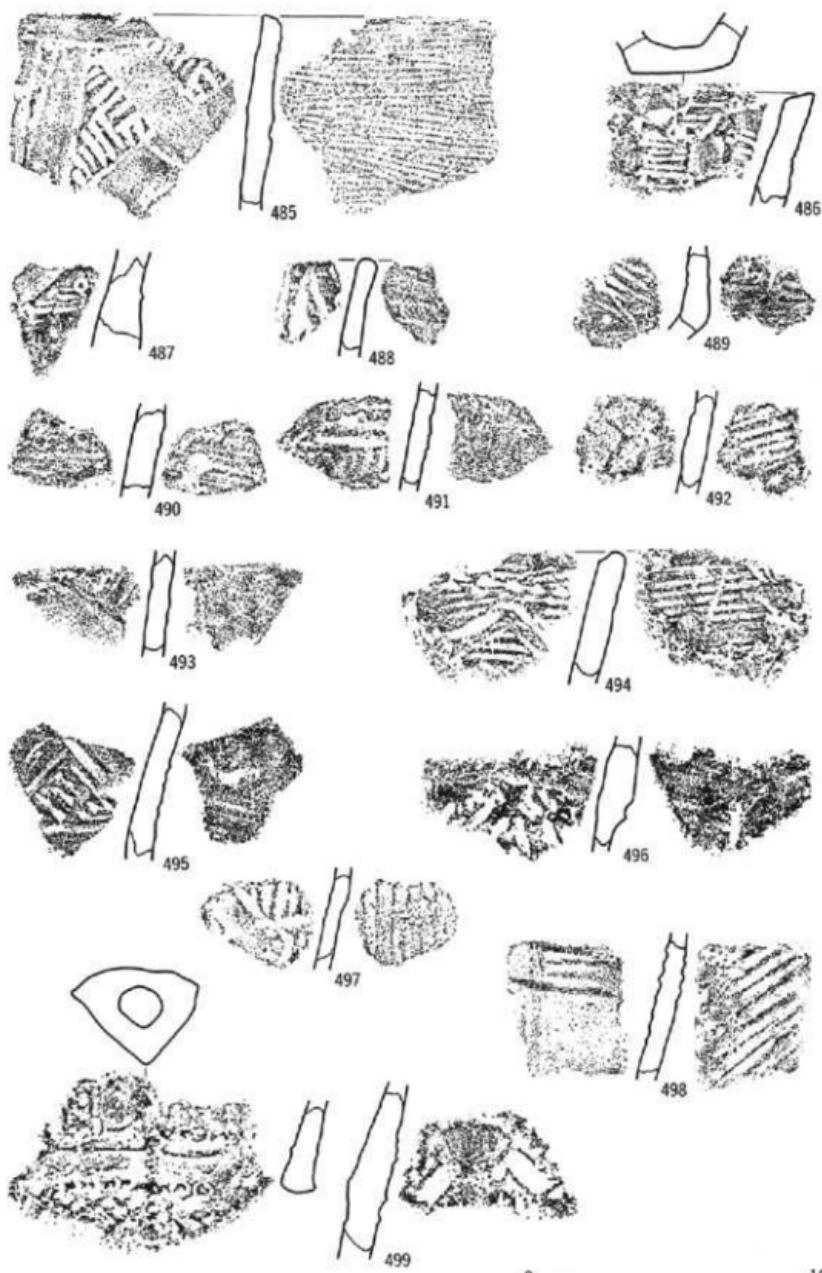




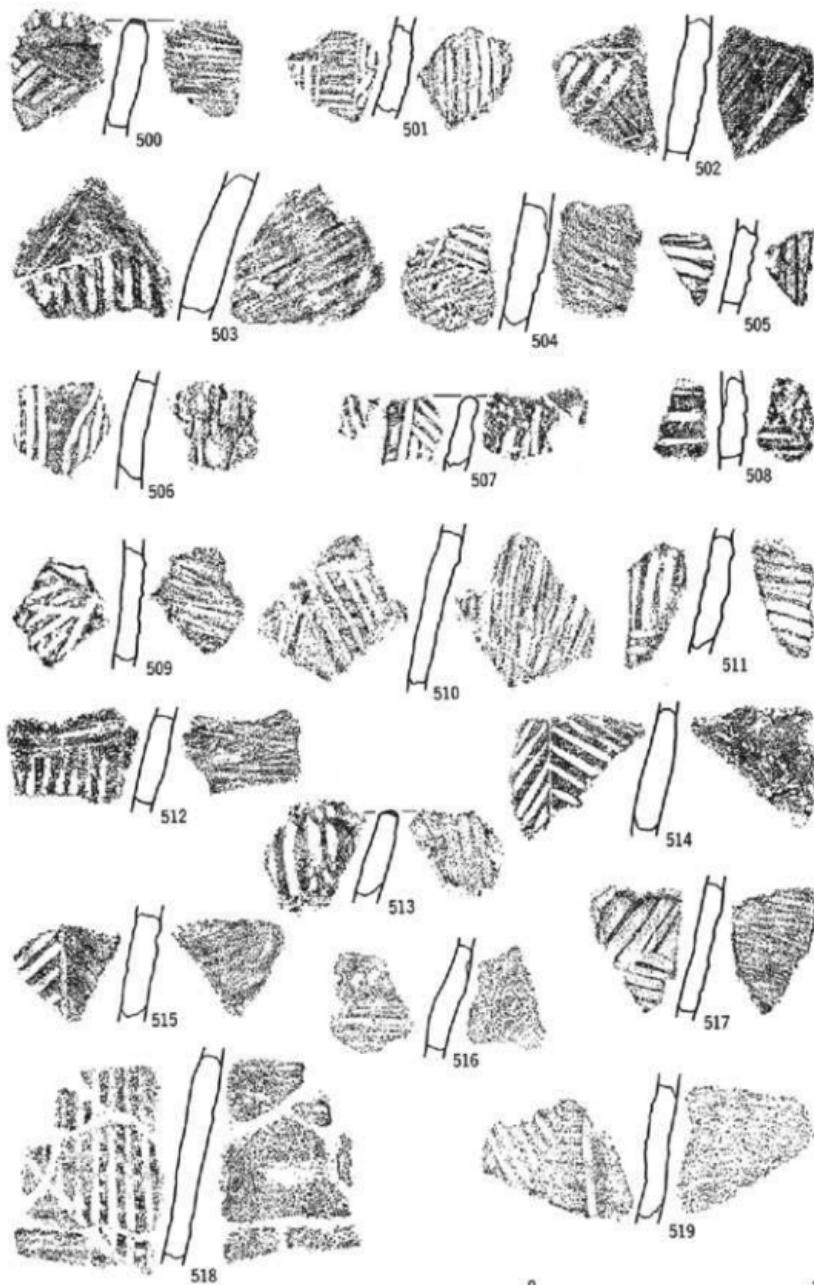








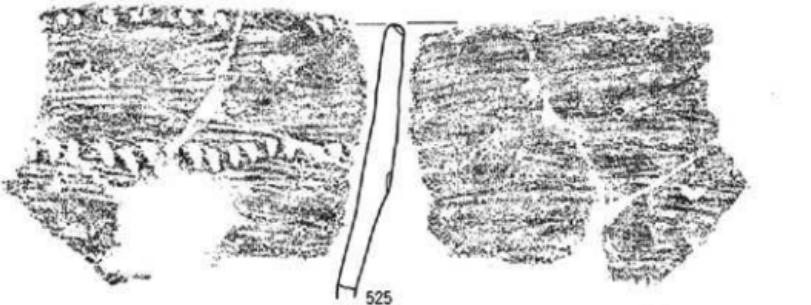
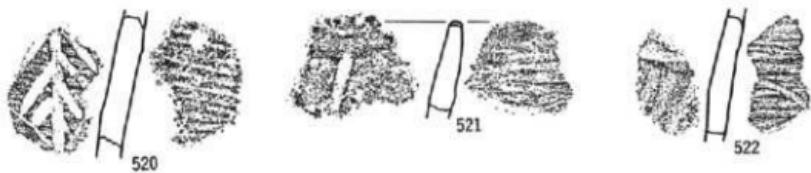
第29図 縄文土器 (17. 早期)



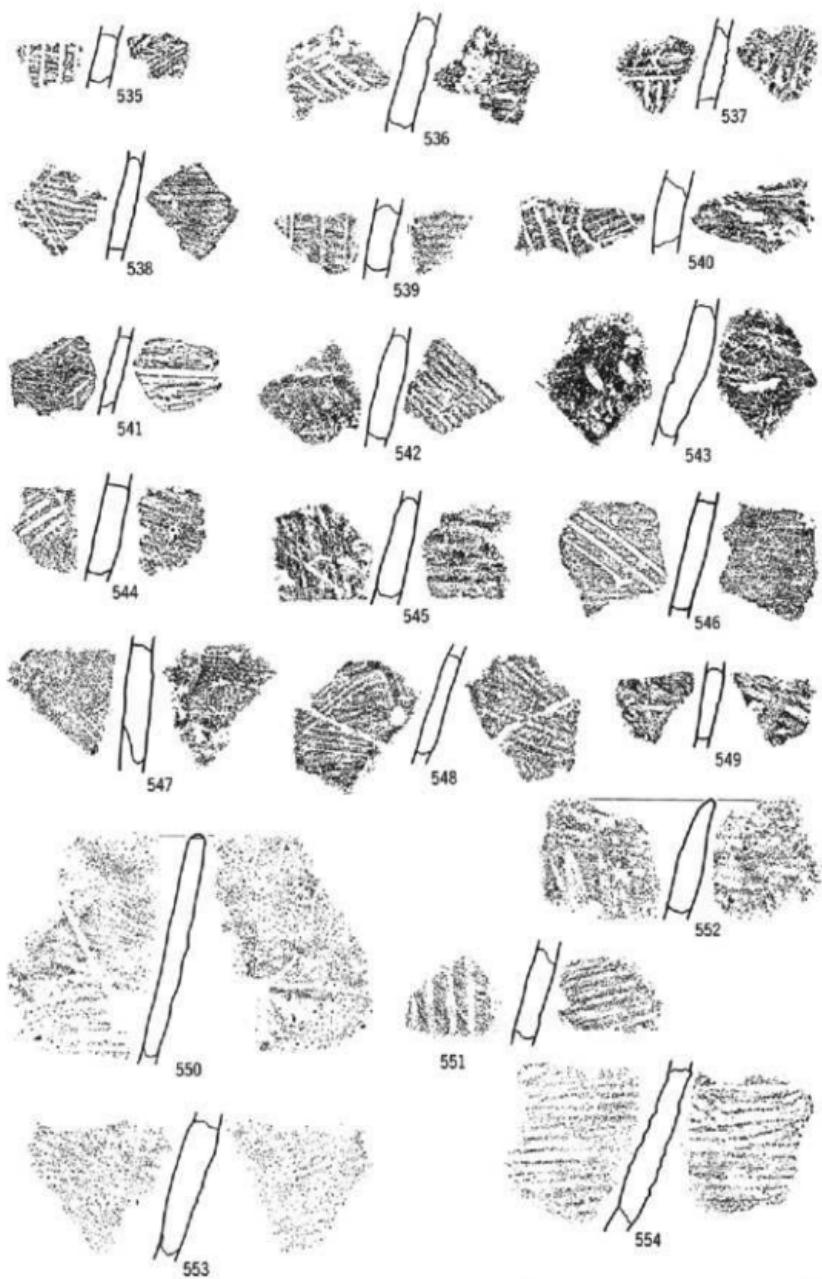
- 48 -

0 10cm

第30図 縄文土器 (18. 早期)



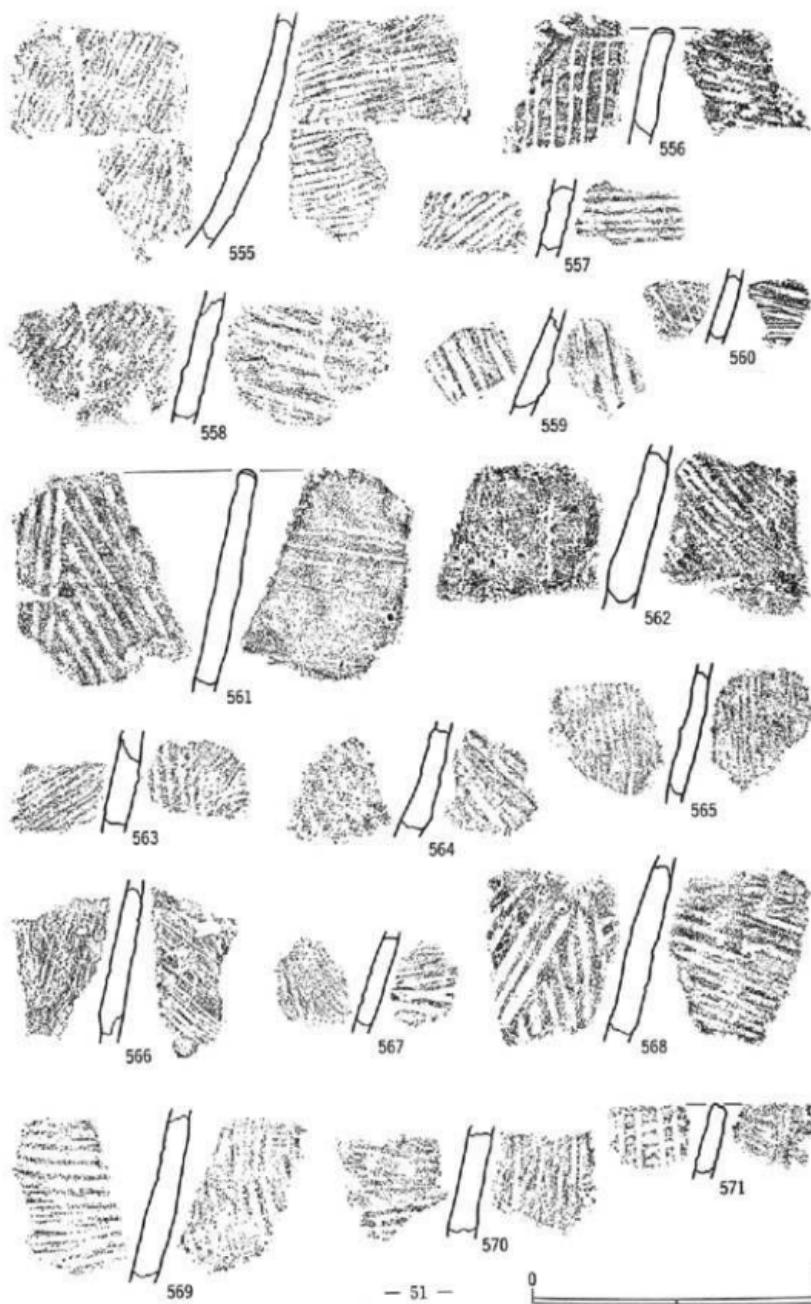
0 10cm

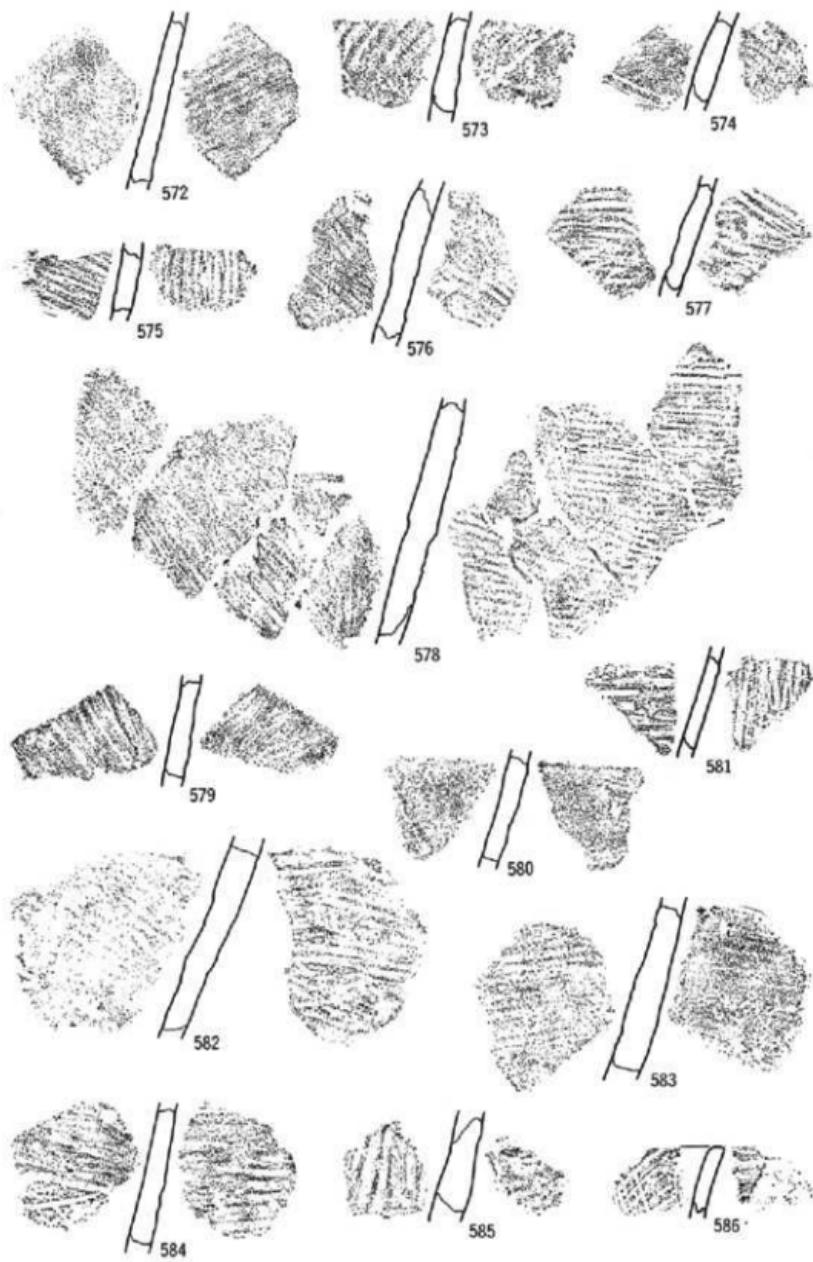


- 50 -

0 10cm

第32図 縄文土器 (20. 早期)

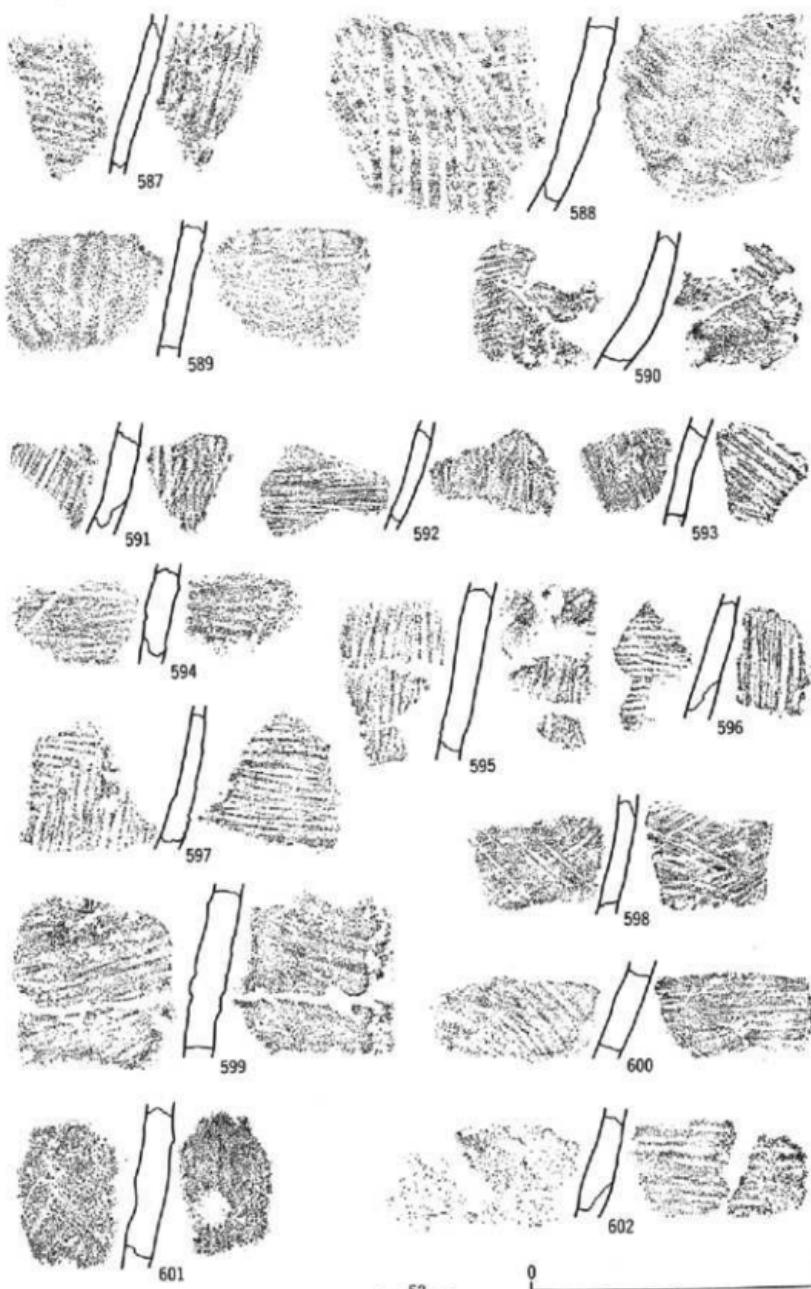




- 52 -

0 10cm

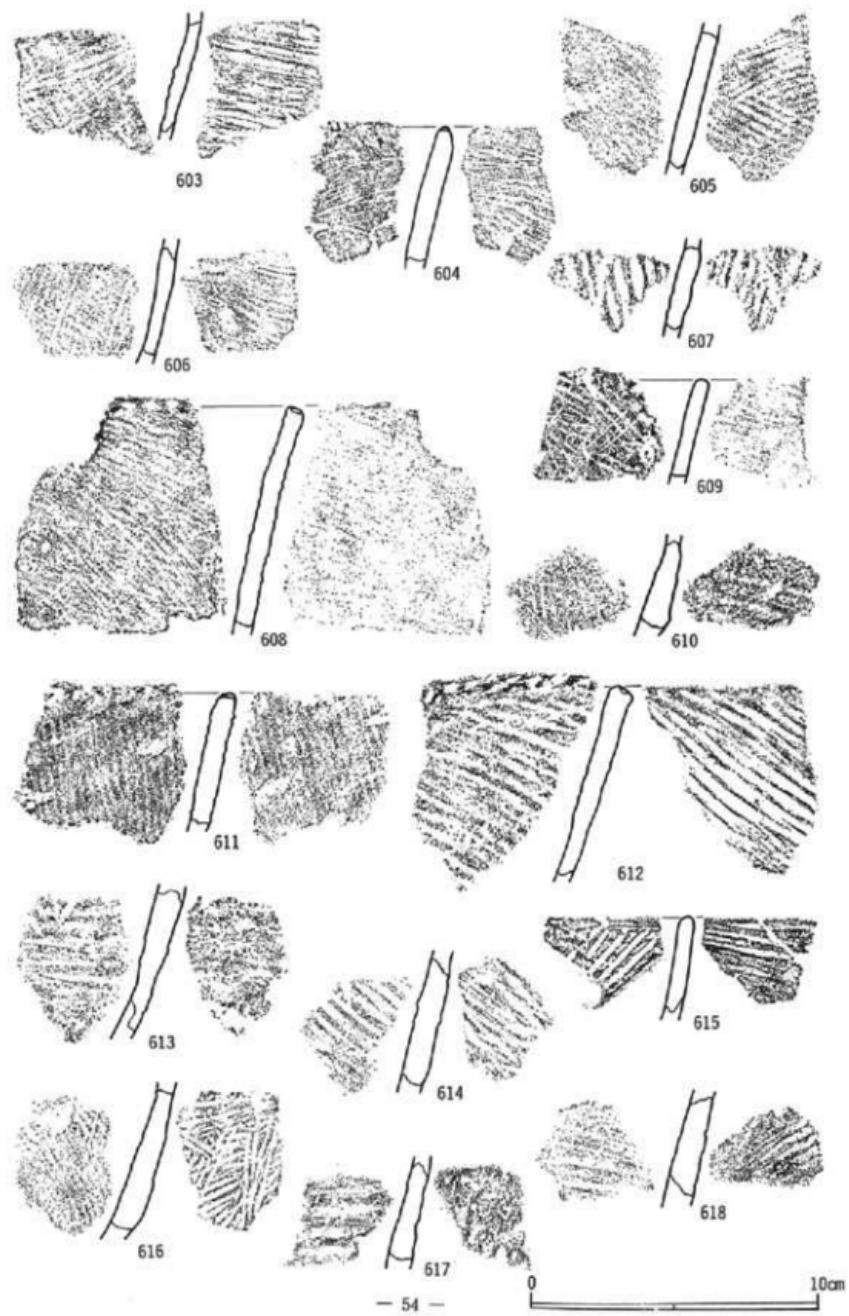
第34図 桶文土器 (22. 早期)

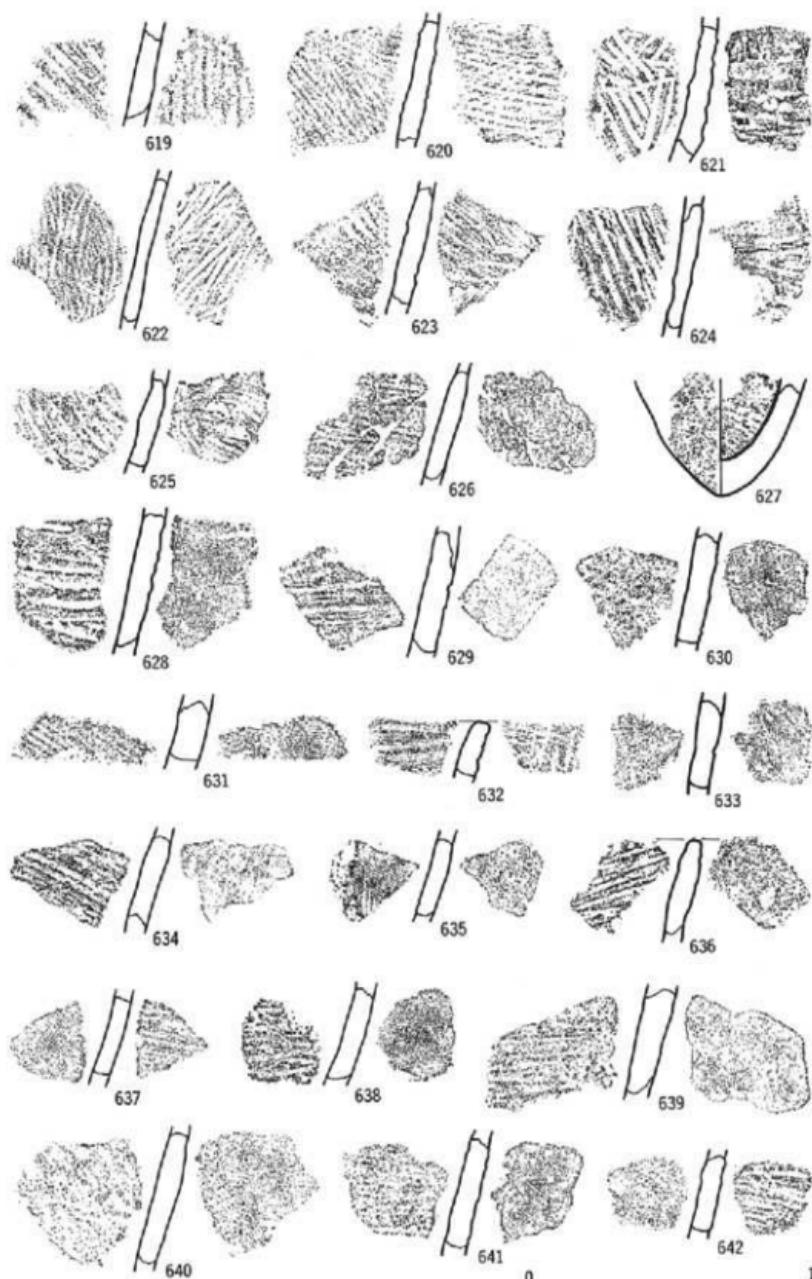


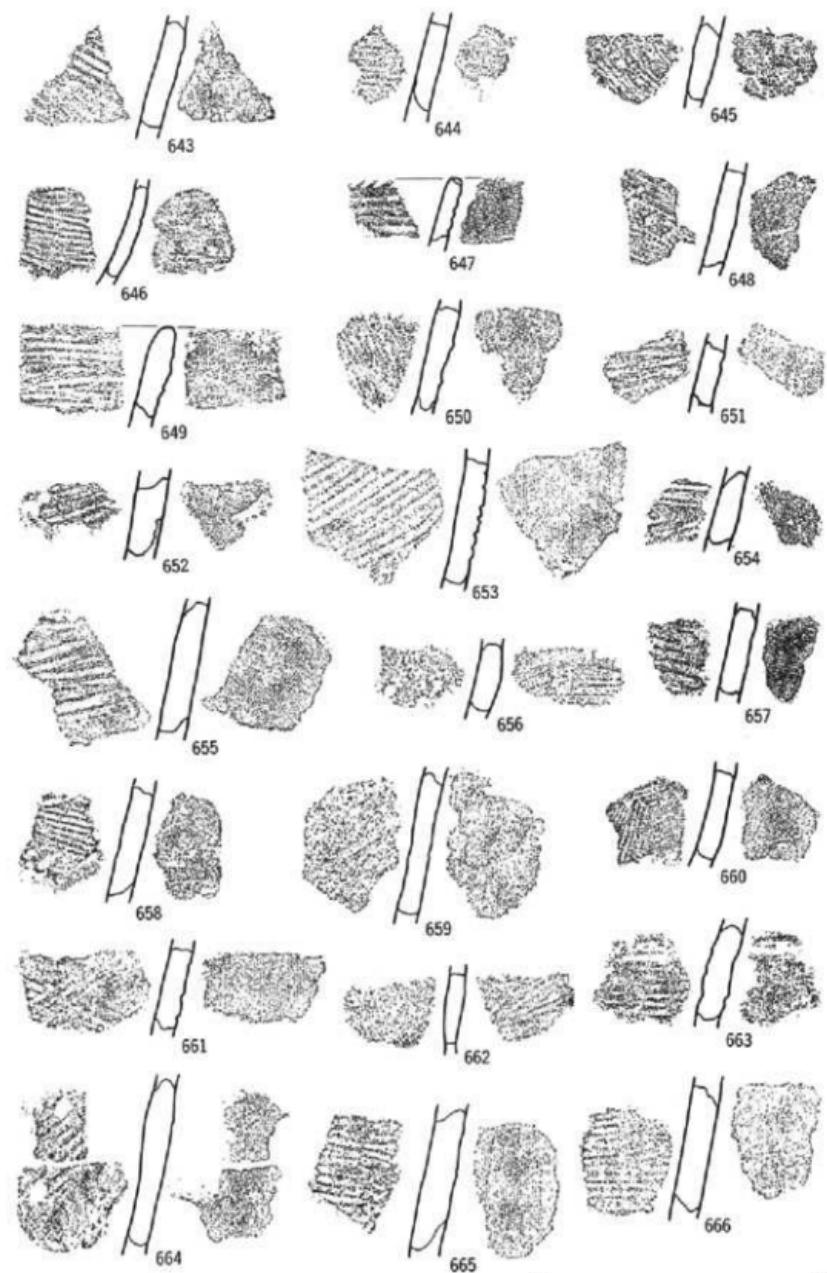
- 53 -

0 10cm

第35図 繩文土器 (23. 早期)

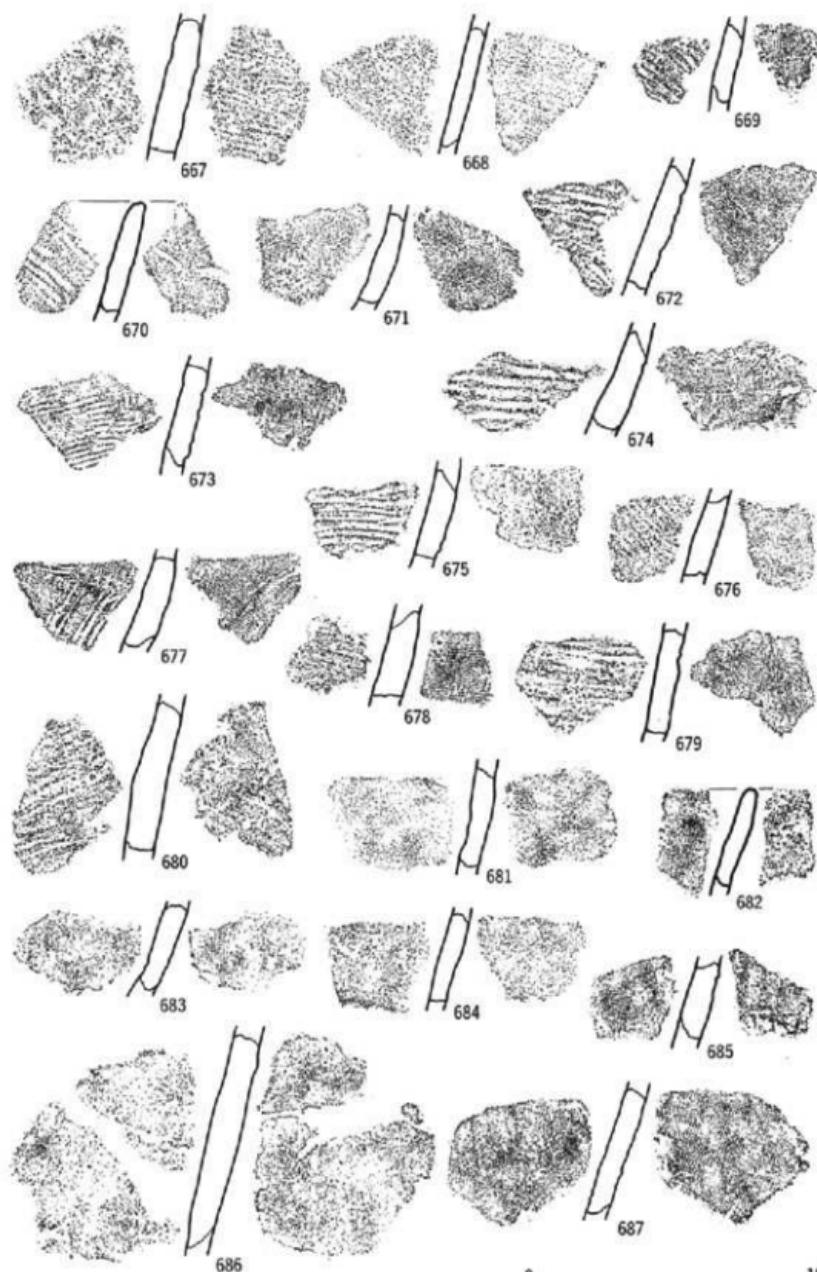


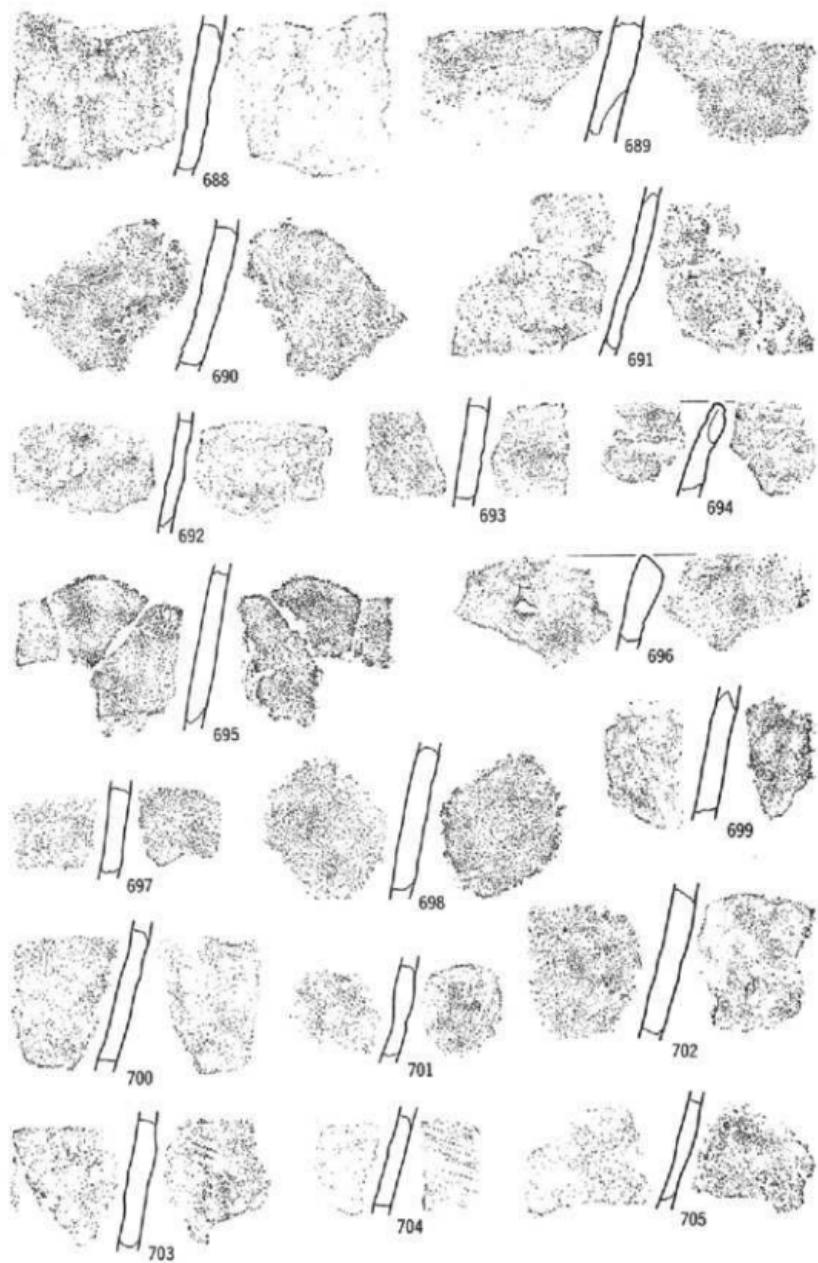




- 56 -

0 10cm
第38図 縄文土器 (26. 早期)

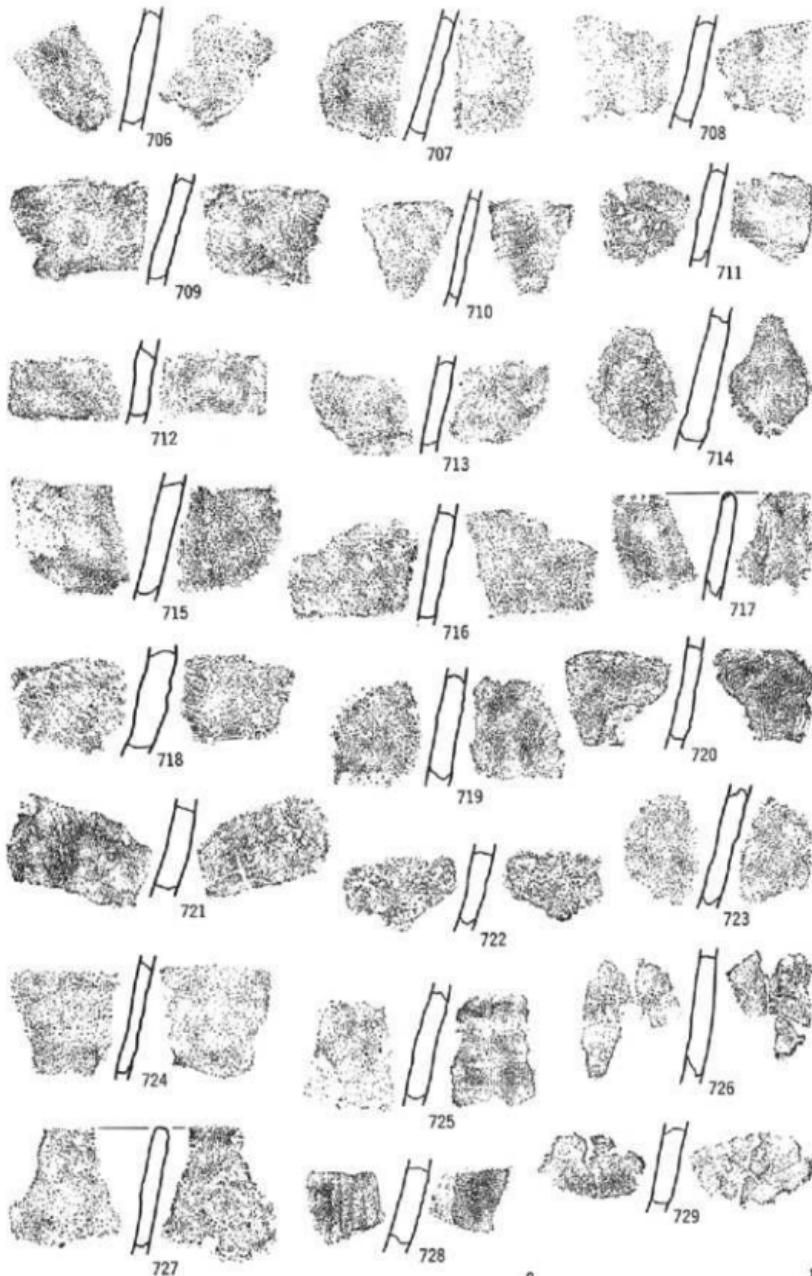




- 58 -

0 10cm

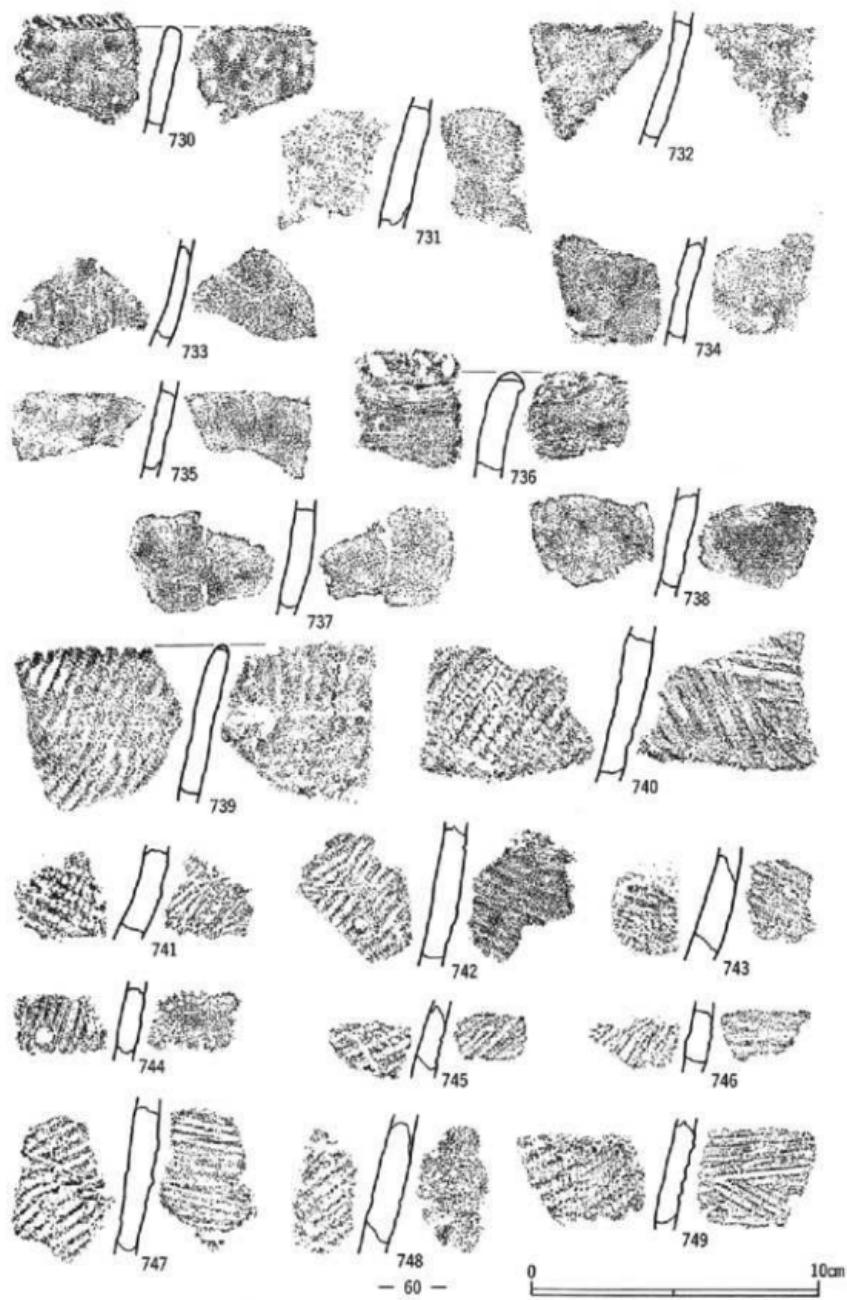
第40図 縄文土器 (28. 早期)



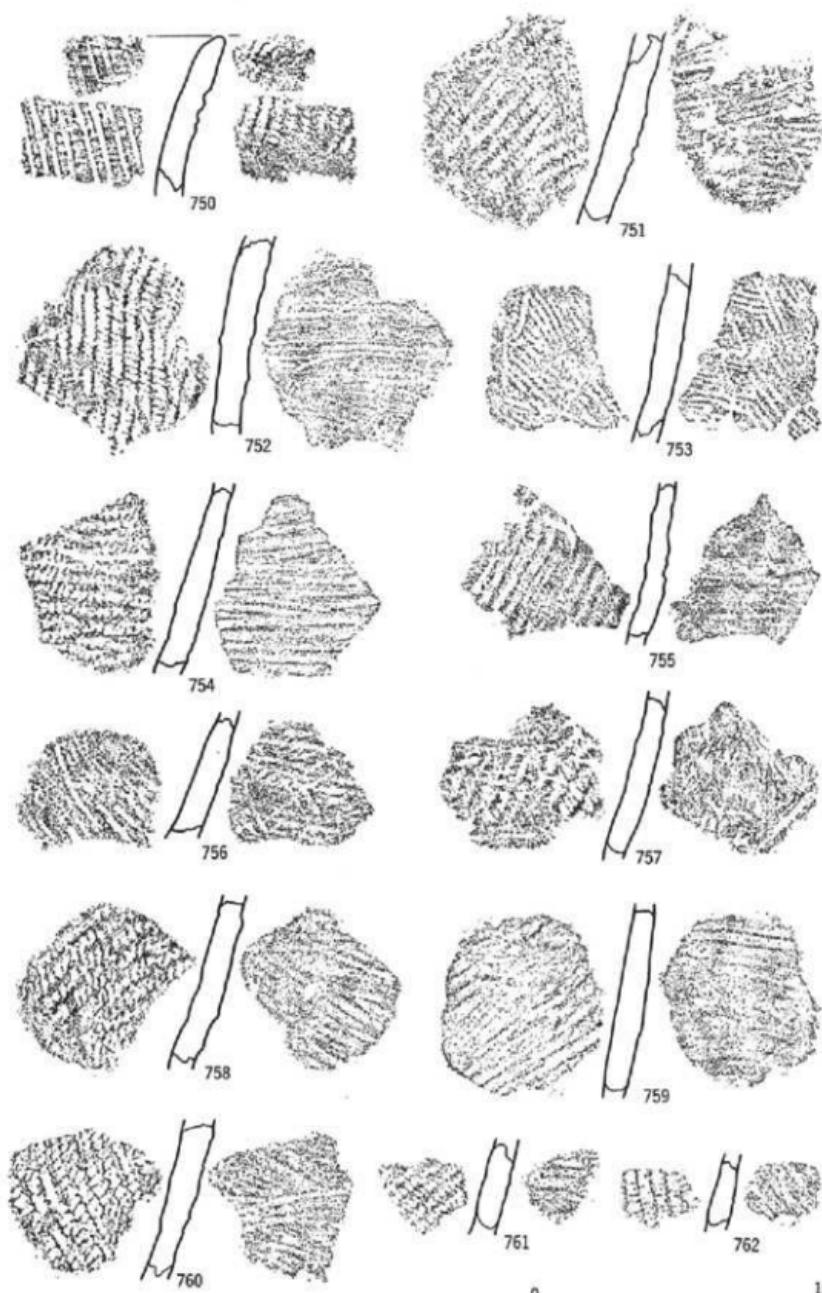
- 59 -

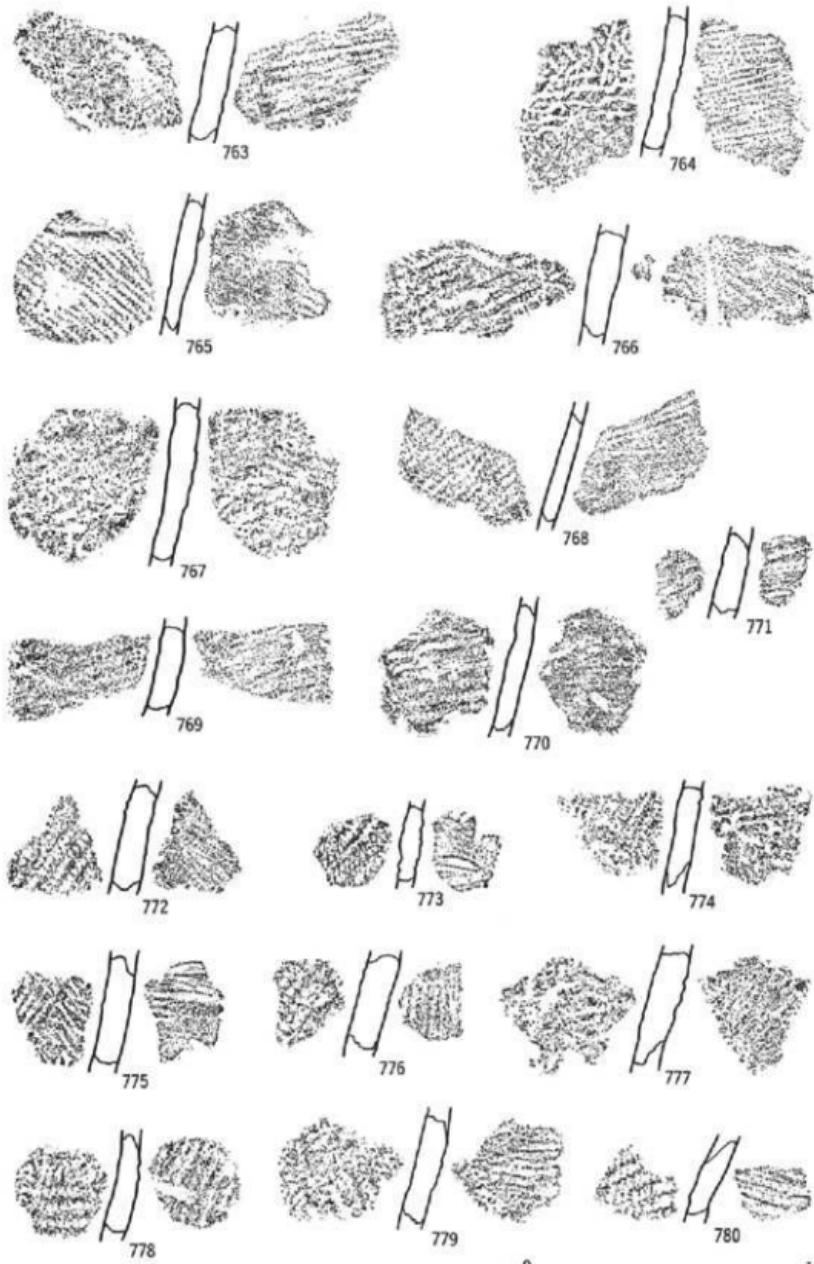
第41図 縄文土器 (29. 早期)

0 10cm



第42図 繩文土器 (30. 早期)

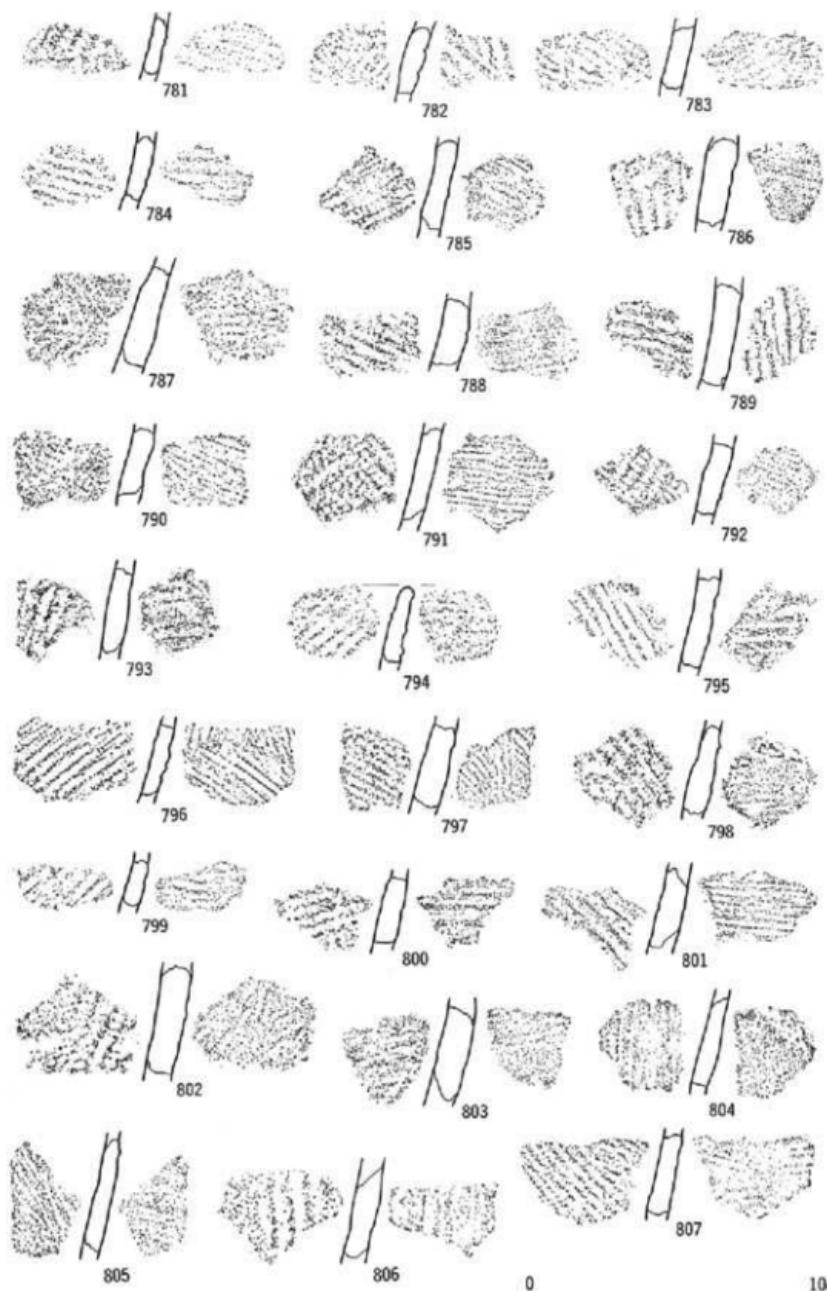


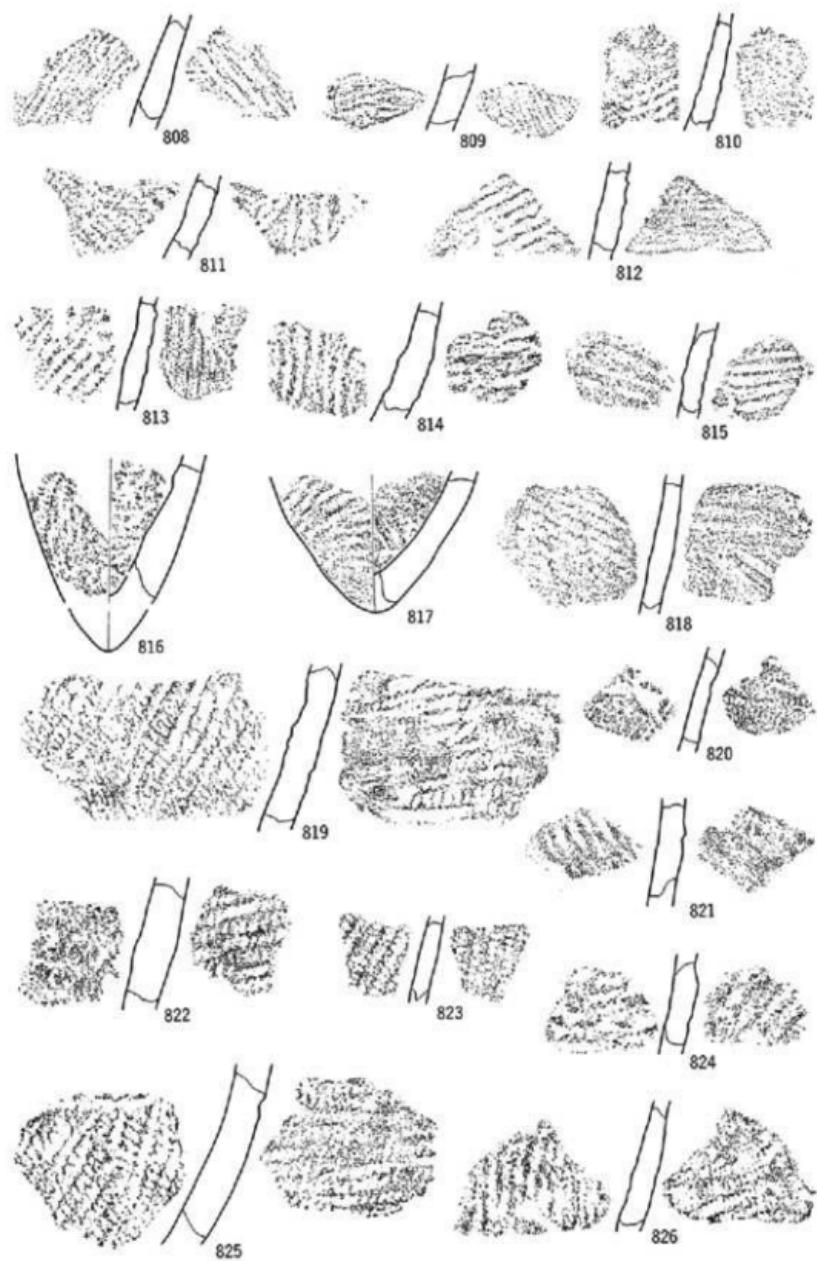


- 62 -

0 10cm

第44図 縄文土器 (32. 早期)

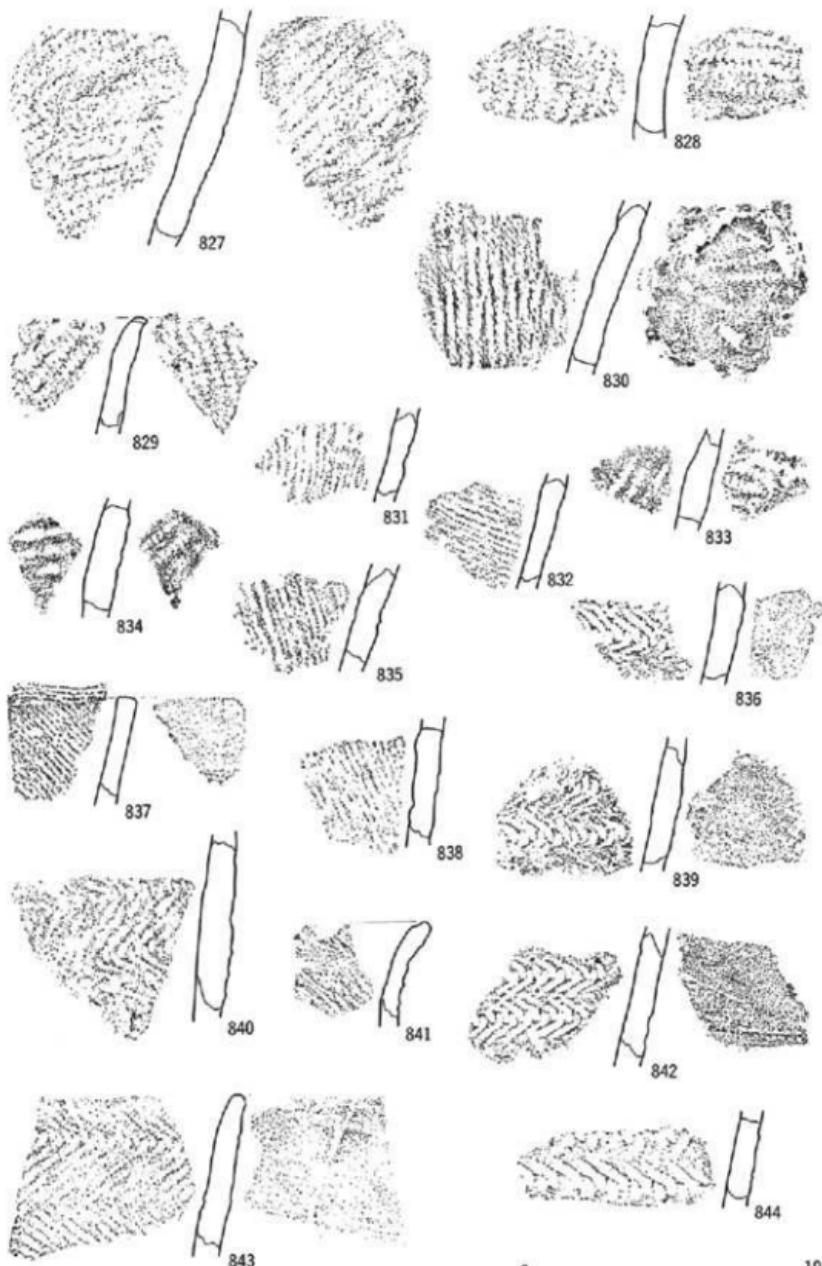


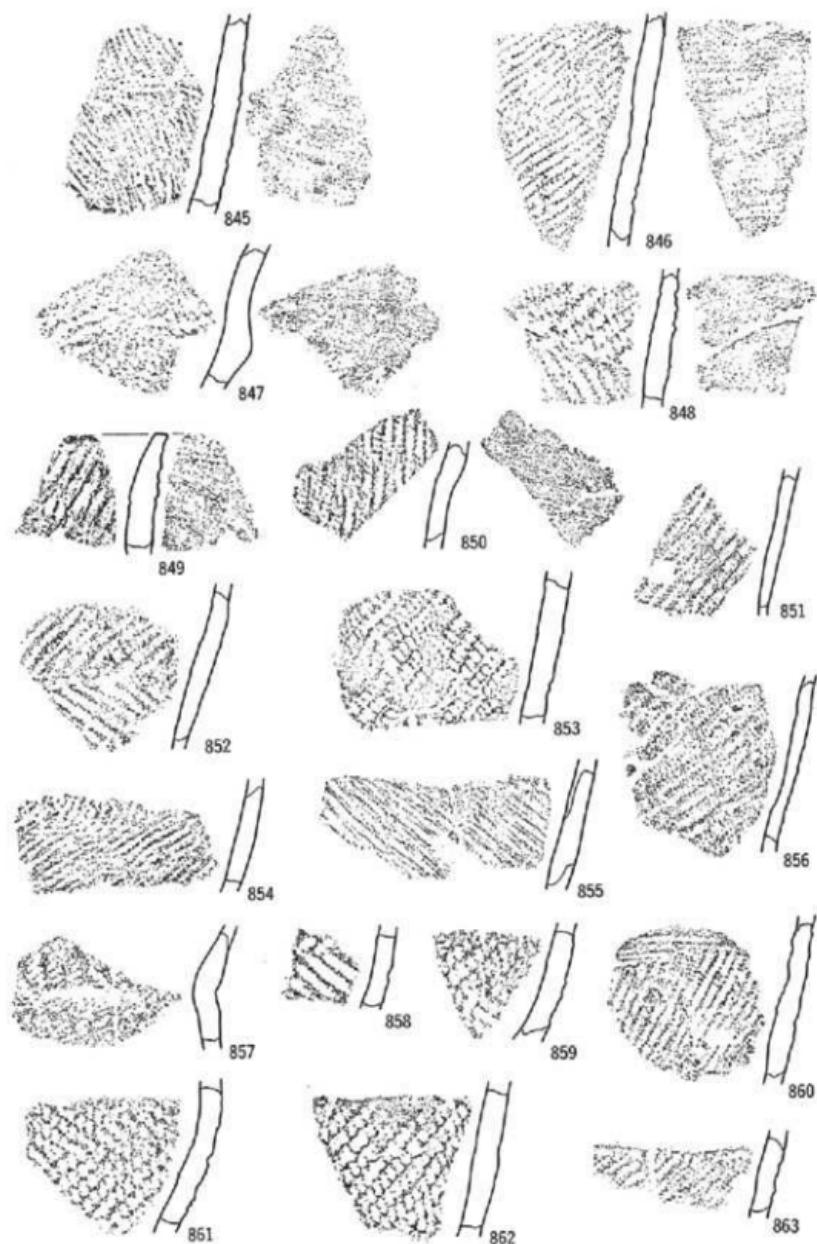


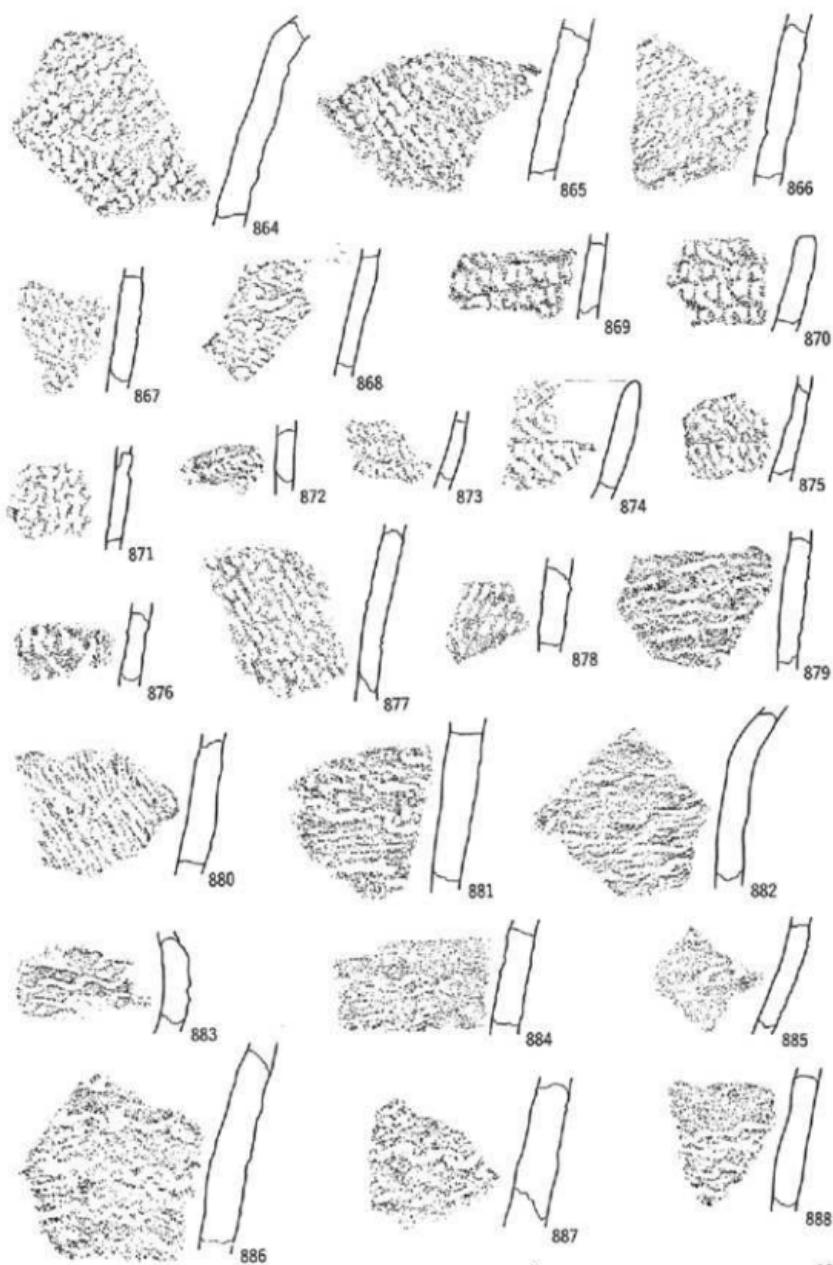
- 64 -

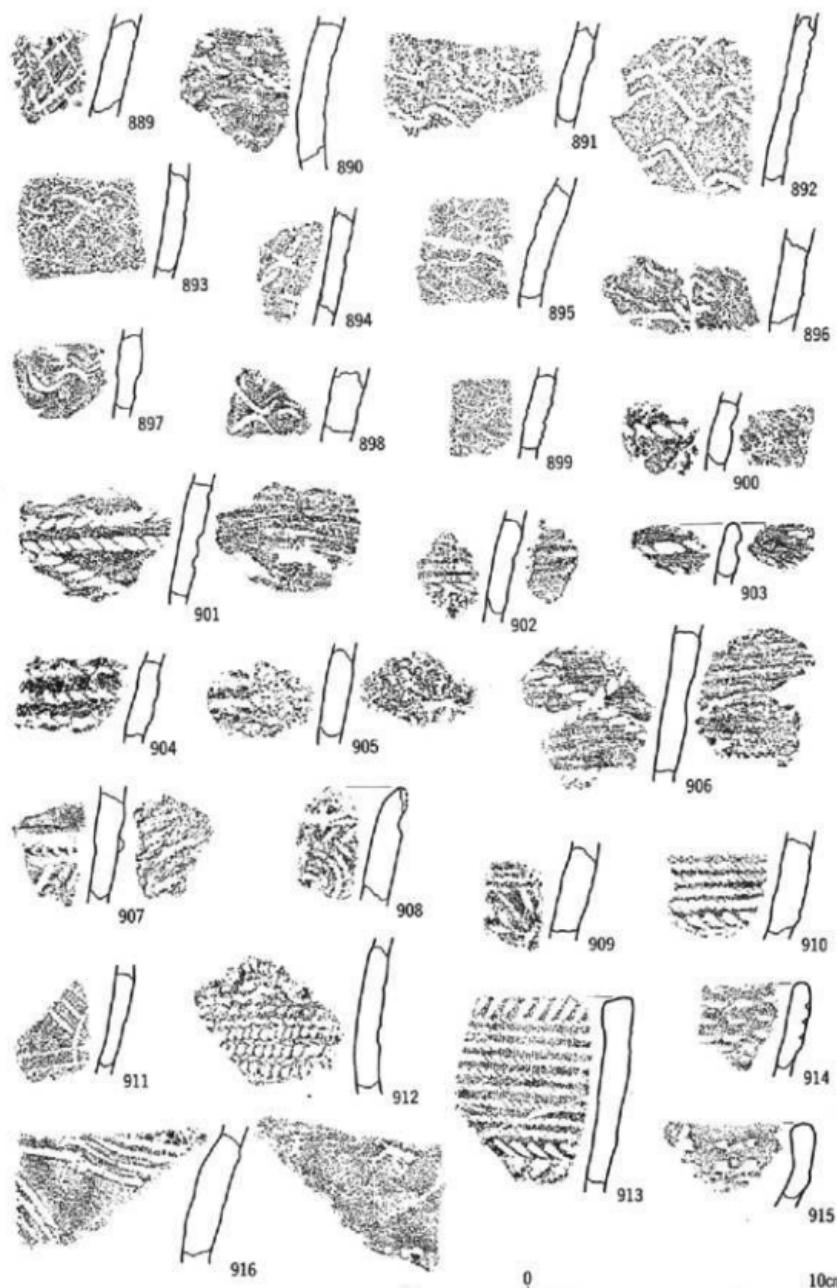
0 10cm

第46図 縄文土器 (34. 早期)



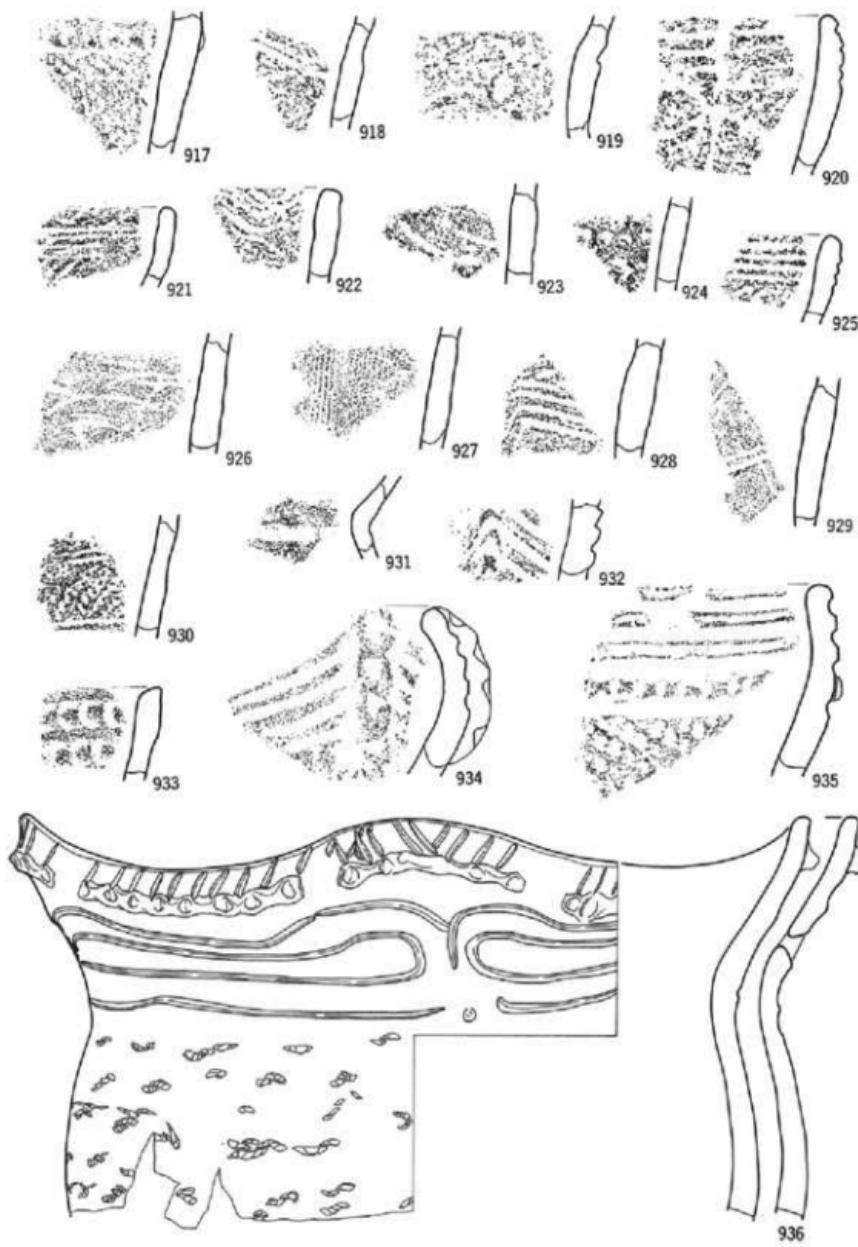


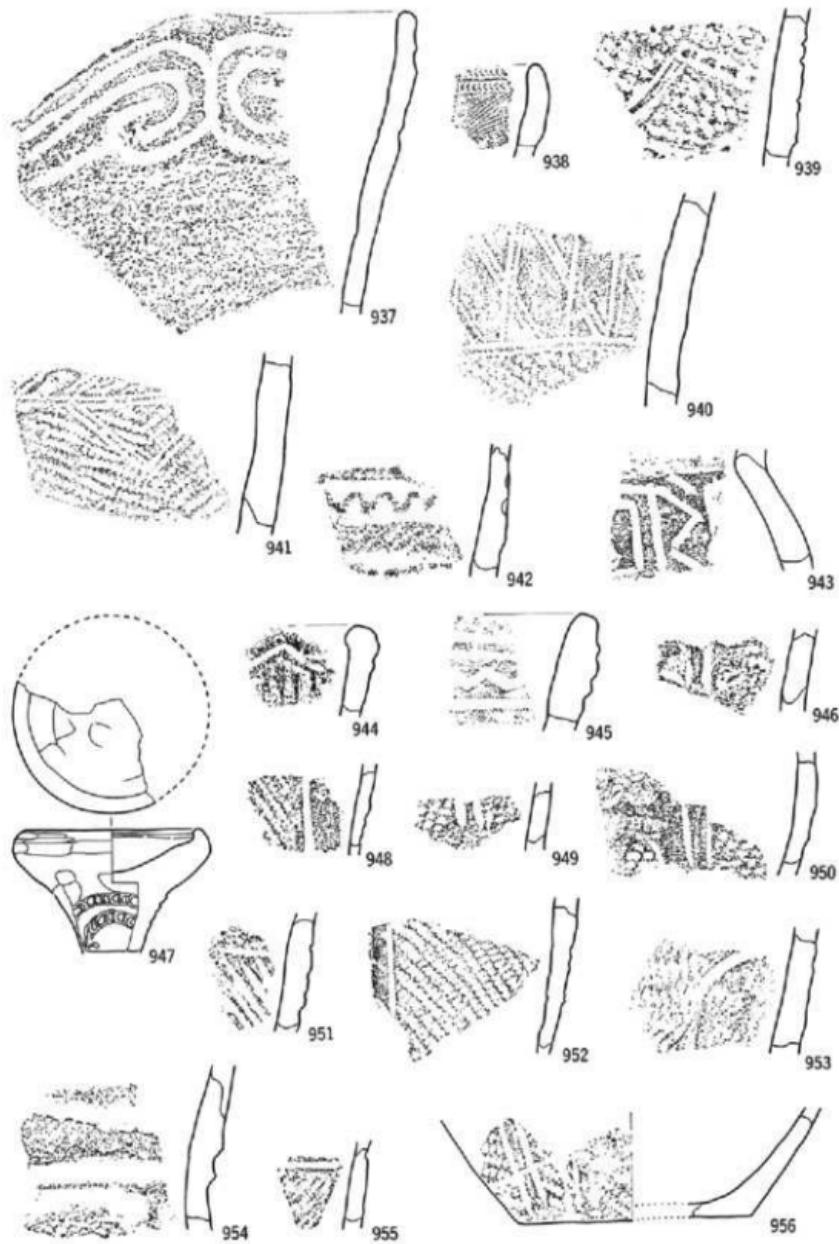




- 68 -

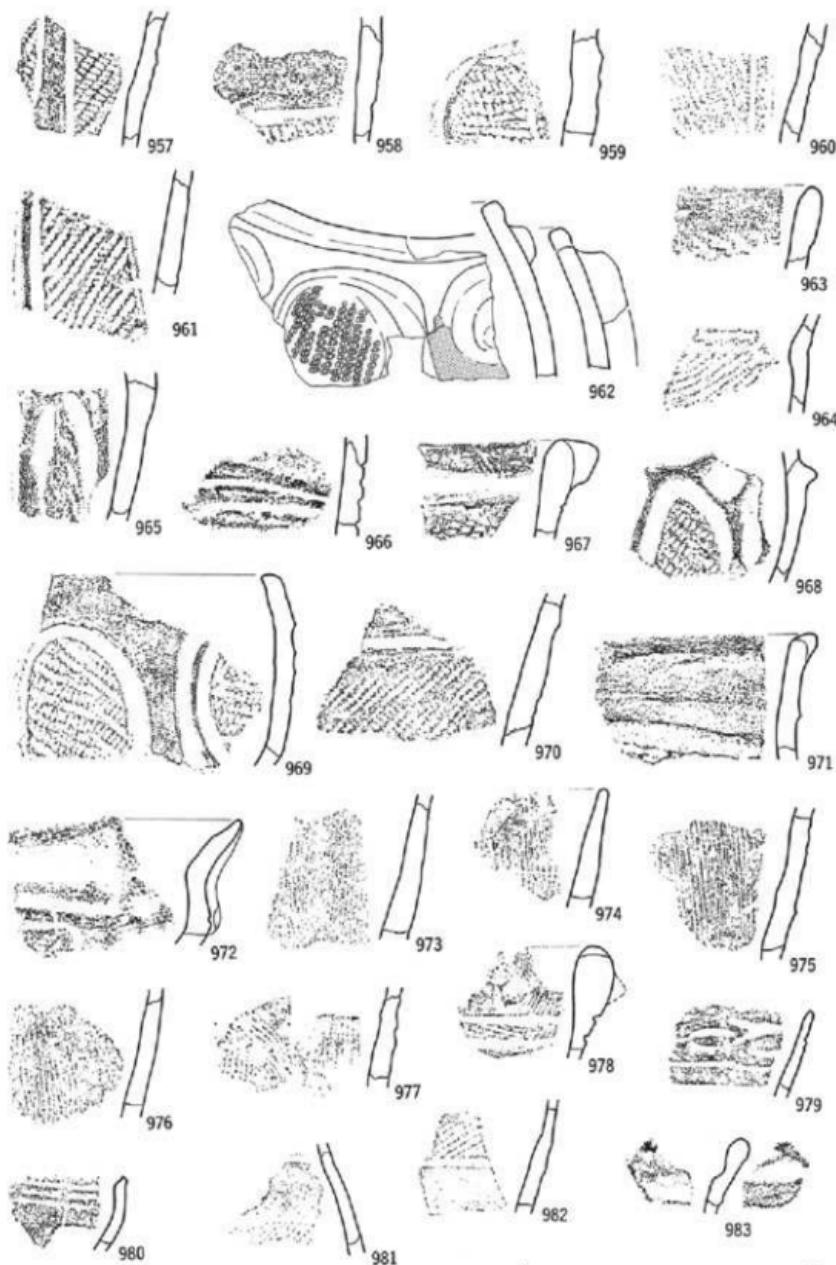


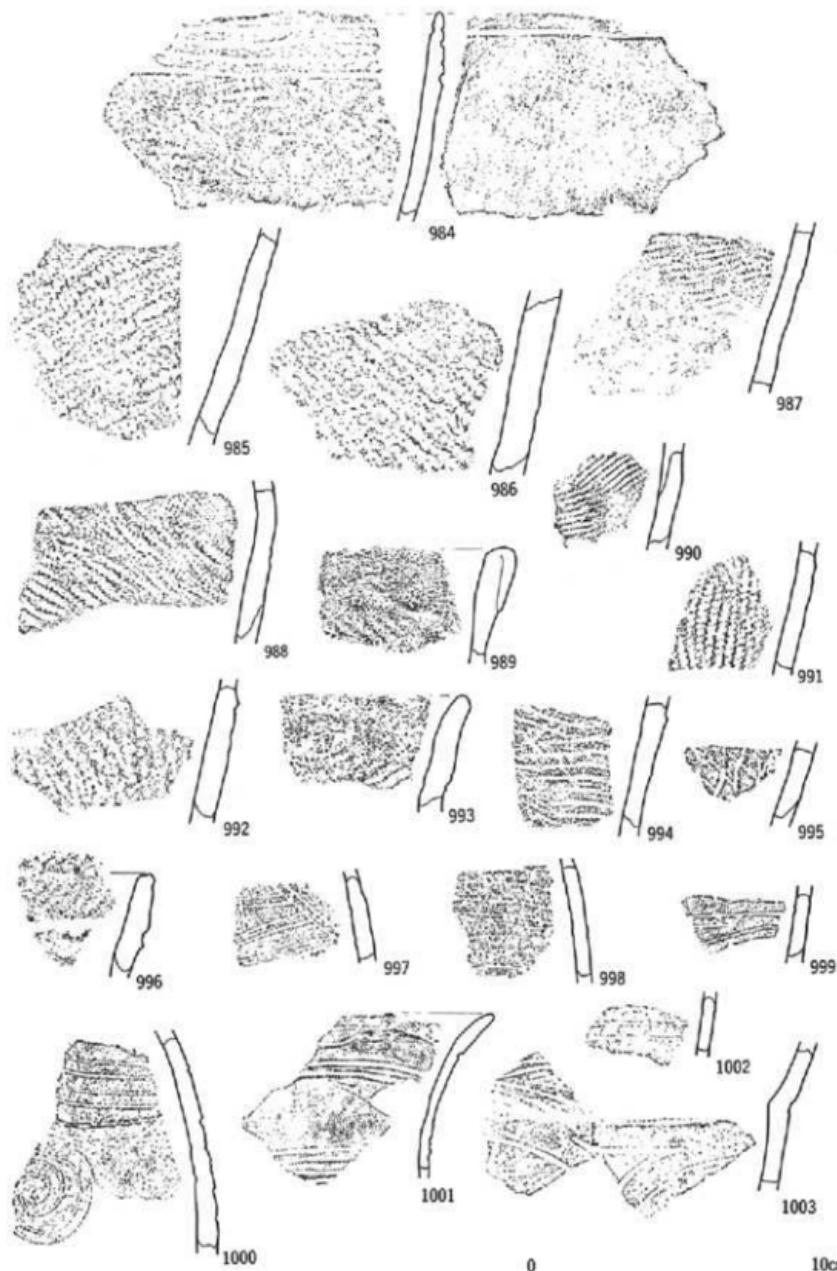


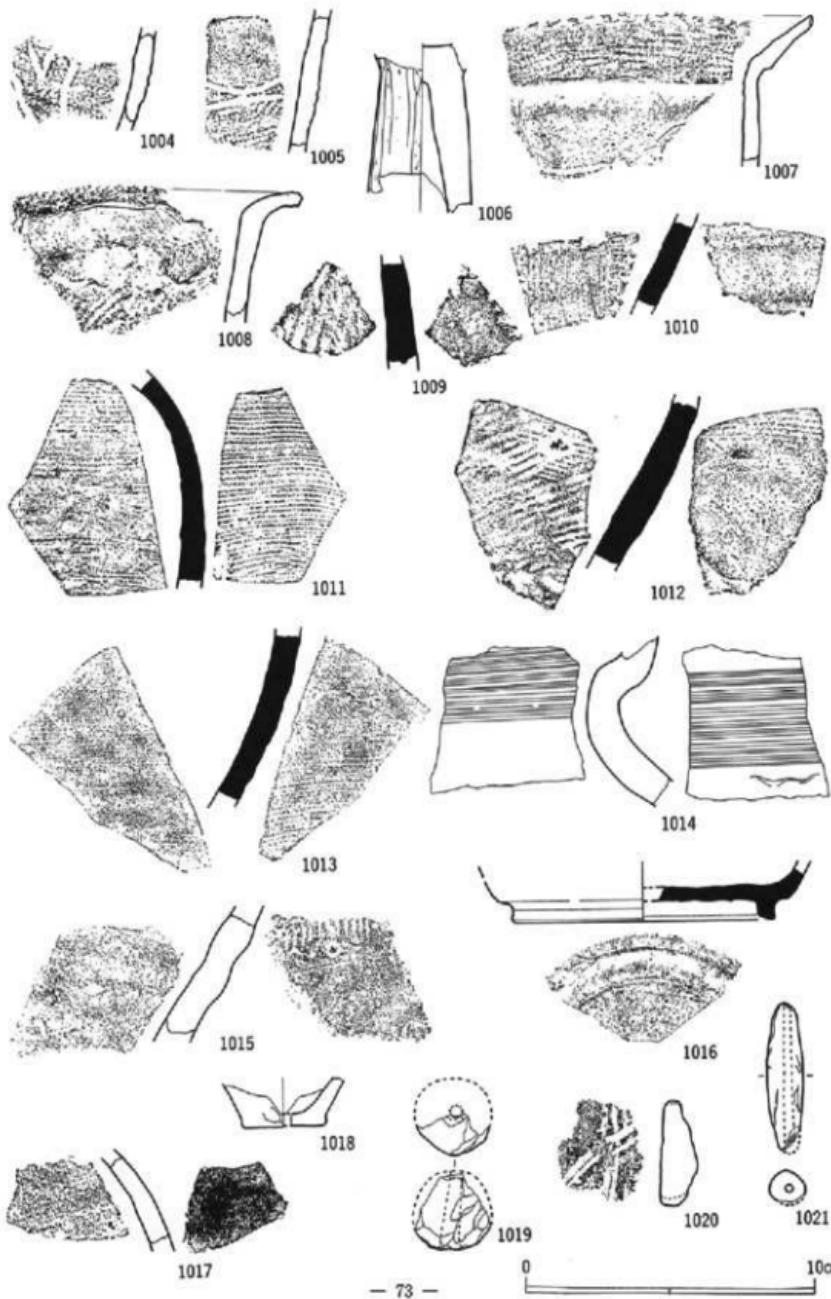


- 70 -

第52図 繩文土器 (40. 前. 中期)







表一 土器観察表(1)

図版	型番	地区	層	分類	胎	土	色調	表面の文様他	備考
1	378	26-14	II	1-a	織縫多量	石英、 雲母微粒やや多	青 灰青	表面：重層山形押型文・裏面：鐵磁性直ナダ	
2		28-16	II	1-a	織縫多量	石英微粒若干	青 灰青	表面：重層山形押型文	
3	4267	27-29	II	1-a	織縫多量	石英細粒少量	明青馬	表面：重層菱形押型文	
4	4657	26-27	II	1-a	織縫多量	石英細粒多量	青 灰 にほい黄褐色	表面：重層山形押型文・裏面：鐵磁性直ナダ	
5	6466	21-9	IV	1-b	織縫多量	石英細粒	灰 灰青褐色	表面：地文鉢文〇段多条RL(横)・横走多段平行	6回一全体
6	6467	21-9	IV	1-b	織縫多量	石英細粒、 雲母微粒若干	灰 灰青褐色	表面：地文鉢文〇段多条RL(横)・横走多段平行	深井口縫部付近
7	5275	21-9	II	2	石英粗粒多量		青 灰 明赤褐色	表面：格子状比縫文	
8	1467	20-7	II	2	石英粗粒若干		青 灰褐色	表面：格子状比縫文	
9	5103	19-8	II	2	石英、 雲母微粒粗粒	灰 灰褐色	青 灰褐色	表面：格子状比縫文	
10	1143	21-8	II	2	雲母微粒やや多		青 灰褐色	表面：格子状比縫文・裏面：粗い磨き	
11	3260	26-21	II	2	石英、 雲母微粒やや多		青 灰褐色	表面：格子状比縫文	
12	5960	19-10	II	2	石英粗粒多量		青 灰褐色	表面：格子状比縫文	
13	4421	28-21	II	2	石英、 雲母微粒若干	青 灰褐色	青 灰褐色	表面：格子状比縫文・横走平行直縫文	
14	5641	20-8	II	2	石英粗粒やや多		青 灰褐色	表面：格子状比縫文・裏面：磨き	
	5997	18-10	IV	2	雲母微粒若干	青 灰褐色	青 灰褐色	表面：青褐色	
15	1165	21-8	II	2	石英、 雲母微粒やや多		青 灰褐色	表面：格子状比縫文・裏面：粗い磨き	
16	5315	22-8	II	2	石英、 雲母微粒粗粒	青 灰褐色	青 灰褐色	表面：格子状比縫文・裏面：粗い磨き	
17	5305	22-8	II	2	石英、 雲母微粒粗粒	青 灰褐色	青 灰褐色	表面：格子状比縫文・裏面：粗い磨き	
18	6371	18-9-10	IV	2	石英、 雲母微粒粗粒	青 灰褐色	青 灰褐色	表面：格子状比縫文・裏面：磨き	
19	5111	18-8	II	3-a	石英粗粒若干	青 灰褐色	青 灰褐色	表面：太比縫文・裏面：磨き	
20	1441	19-7	II	3-a	石英細粒やや多			表面：太比縫文	
21	4686	27-28	II	3-a	石英粗粒若干	青 灰褐色	青 灰褐色	表面：太比縫文	
22	2552	26-22	II	3-a	粗粒砂やや多		青 灰褐色	表面：(太)比縫文・裏面：粗粒な磨き	
23	3117	28-20	II	3-a	石英細粒、粗砂粒	青 灰褐色	青 灰褐色	表面：太比縫文・裏面：磨き	
24	3795	28-21	II	3-a	石英細粒若干	青 灰褐色	青 灰褐色	表面：太比縫文・裏面：精緻な磨き	
25	2383	24-16	II	3-a	粗粒砂や多量	青 灰褐色	青 灰褐色	表面：(太)比縫文・裏面：粗粒な磨きナダ	深井口縫部
26	5919	23-9	II	3-a	石英粗粒やや多	青 灰褐色	青 灰褐色	表面：太比縫文	加熱痕
27	6162	23-5	II	3-a	石英微粒若干	浅黃褐色	青 灰褐色	表面：太比縫文・裏面：磨き	
28	609	18-7	II	3-a	石英粗粒やや多	青 灰褐色	青 灰褐色	表面：太比縫文・裏面：精緻な磨き	
29	6313	21-9	II	3-a	織縫若干、 雲母粗粒若干	青 灰褐色	青 灰褐色	表面：太比縫文・裏面：磨き	表面の暗緑 銀色
30	4624	28-27	II	3-a	石英粗粒やや多	青 灰褐色	青 灰褐色	表面：(太)比縫文	
31		25-17	II	3-a	織縫若干、 雲母粗粒多量	青 灰褐色	青 灰褐色	表面：太比縫文・裏面：磨き	32回一全体 深井口縫部
32	4445	25-21	II	3-a	織縫若干、 雲母粗粒多量	青 灰褐色	青 灰褐色	表面：太比縫文	
33	1272	23-7	II	3-a	石英粗粒やや多	浅黃褐色	表面：太比縫文・連続斜文尖、横走区画比縫文		
	1275	23-7	II	3-a	雲母粗粒若干				
34	3774	25-20	II	3-a	石英粗粒若干	青 灰褐色	青 灰褐色	表面：太比縫文・裏面：磨き	
35	3372	25-20	II	3-a	石英粗粒やや多	浅黃褐色	表面：太比縫文		
36	5107	18-8	II	3-a	石英粗粒やや多	青 灰褐色	青 灰褐色	表面：粗い磨き・太比縫文・裏面：精緻な磨き	
37	6251	21-8	II	3-a	石英粗粒若干	灰褐色	青 灰褐色	表面：太比縫文・裏面：磨き	
38	5389	23-7	IV	3-a	石英粗粒やや多	青 灰褐色	青 灰褐色	表面：太比縫文	
39	4466	25-21	II	3-a	石英粗粒若干	青 灰褐色	青 灰褐色	表面：太比縫文・裏面：精緻な磨き	
40	6546	22-9	IV	3-a	石英粗粒やや多	青 灰褐色	青 灰褐色	表面：太比縫文	
41	5822	20-9	II	3-a	石英粗粒やや多	青 灰褐色	青 灰褐色	表面：太比縫文	

表-2 土器観察表(2)

図No	登録No	地区	層	分類	胎土	色調	表面の文様	裏面の文様	備考
42	2424		20-15	II	3-a	石英粗粒や多量	表: 淡赤褐色 裏: 黄褐色	表面: 太浅縦線文・裏面: 精緻な磨き	
43	4265		27-29	II	3-a	石英粗粒や多量	表: 淡黄褐色 裏: にほい赤褐色	表面: 太浅沈縦文・裏面: 磨き	
44	25-21 S X 3		25-29	F	3-a	石英微粒や多量	表: 淡黄褐色 裏: にほい黄褐色	表面: 太浅沈縦文・裏面: 磨き	
45	3287		25-21	II	3-a	石英粗粒多量	表: にほい黄褐色	表面: 太浅沈縦文・裏面: 磨き	
46	5427		23-8	II	3-a	石英粗粒多量	表: にほい褐色 裏: 黄褐色	表面: 太浅沈縦文・裏面: 磨き	
47	5157		20-9	II	3-a	石英細粒や多量	表: にほい黄褐色	表面: 太浅沈縦文・裏面: 磨き	
48	6547		22-9	IV	3-a	石英細粒や多量	表: にほい褐色	表面: 太浅沈縦文・裏面: 磨き	
49	5989		18-10	II	3-a	石英微粒若干	表: 棕褐色 裏: 黄褐色	表面: 太浅縦線文・裏面: 磨き	
50	5431		23-8	II	3-a	石英細粒若干	表: 棕褐色 裏: 黄褐色	表面: 太浅縦線文・裏面: 磨き	
51	1120		20-8	II	3-a	石英微粒若干	表: にほい黄褐色	表面: 太浅沈縦文・裏面: 磨き	加熱痕
52	1311		19-8	II	3-a	石英粗粒微粒・細砂 粗多量	表: 棕褐色 裏: にほい褐色	表面: 太浅比縦文・裏面: 磨き	
53	5811		20-8	II	3-a	石英粗粒微粒・細砂 粗多量	表: 棕褐色 裏: にほい褐色	表面: 太浅比縦文・裏面: 磨き	
54	5858		21-9	II		石英・雲母細粒や 多量・細砂粗粒多量	表: 浅黃褐色 裏: にほい褐色	表面: 太浅沈縦文・裏面: 磨き	
55	3434		28-25	II	3-a	石英細粒や多量・ 雲母粗粒若干	表: にほい黃褐色	表面: 太浅沈縦文	
56	6057		18-6	II	3-a	石英粗粒多量	表: にほい褐色 裏: にほい褐色	表面: 太浅縦線文・裏面: 磨き	
57	5313		22-8	II	3-a	石英微粒・細砂粗 多量	表: 棕褐色 裏: にほい褐色	表面: 太浅比縦文	
58	437		18-7	I	3-a	石英細粒微粒や多量	表: 棕褐色 裏: にほい赤褐色	表面: 太浅比縦文・裏面: 磨き	
59	4233		26-28	II		石英・雲母粗粒若干	表: にほい褐色	表面: 太浅縦線文	
60	673		19-6	II		雲母細粒や多量	表: 棕褐色 裏: 黄褐色	表面: 太浅縦線文・裏面: 精緻な磨き	
61	651		19-7	II	3-a	石英細粒や多量	表: 淡黃褐色 裏: 黄褐色	表面: 太浅縦線文・太浅沈縦文・区画文的な横走 沈縦文・裏面: 精緻な磨き	
62	604		18-7	I	3-a	石英細粒や多量	表: にほい赤褐色 裏: 赤褐色	表面: 太浅沈縦文・裏面: 精緻な磨き	
63	4483		25-22	II	3-a	石英細粒・細砂粒 や多量	表: にほい褐色	表面: 太浅沈縦文	
64			25-15	II	3-a	石英粗粒微粒・雲母 粗粒若干	表: 棕褐色 裏: 淡黃褐色	表面: 太浅沈縦文	
65	3994		25-24	II	3-a	石英粗粒や多量	表: 淡黃褐色 裏: 淡黃褐色	表面: 太浅沈縦文・裏面: 精緻な磨き	
66	3463		26-24	II		細砂粒や多量	表: 棕褐色 裏: 淡黃褐色	表面: 太浅沈縦文・裏面: 磨き	
67	4966		27-27	II	3-a	石英細粒・細砂粒 や多量	表: 棕褐色 裏: にほい褐色	表面: 太浅縦線文	
68	4716		28-28	II	4-a ₁	石英粗粒・細砂粒 や多量	表: 淡黃褐色 裏: 淡黃褐色	表面: 太浅縦線文・裏面: 磨き	
69	6493		22-7	IV	3-a	石英粗粒・細砂 粒多量	表: にほい褐色 裏: 明褐色	表面: 太浅縦線文・裏面: 磨き	
70	5629		19-9	II	3-a	細砂粒多量	表: 淡黃褐色 裏: にほい褐色	表面: 太浅沈縦文・裏面: 精緻な磨き	
71	3722		26-31	II		石英粗粒多量	表: にほい褐色 裏: 淡黃褐色	表面: 太浅縦線文	
72	2225		27-18	II		雲母粗粒若干	表: 棕褐色 裏: 淡黃褐色	表面: 國文 L.R.?	
73	2135		28-15	II	4-b ₁	石英粗粒若干	表: 淡黃褐色 裏: にほい褐色	表面: 沈縦線文・貝殻模様压痕文	深鉢口縫部
74	3407		26-23	II	3-a	細砂粒多量	表: 赤褐色 裏: 棕褐色	表面: 太浅縦線文・裏面: 粗い磨き	
75	1634		24-12	II	3-b ₁	石英粗粒・細砂粒 多量	表: 棕褐色 裏: にほい褐色	表面: 太浅縦線文・裏面: 磨き	加熱痕
76	5619		18-8	II	3-c ₁	石英細粒・細砂粒 多量	表: にほい褐色	表面: 太浅縦線文・裏面: 磨き	加熱痕
77	3937		26-23	II	3-b ₁	石英粗粒・細砂粒 や多量	表: にほい褐色 裏: にほい褐色	表面: 薄い横走平行沈縦文・横走区画沈縦文・ 裏面: 精緻な磨き	
78	1506		22-6	II	3-c	雲母粗粒若干・細 砂粒多量	表: 棕褐色 裏: にほい褐色	表面: 太浅沈縦文	
79	214		26-14	I	4-d	石英細粒や多量・ 雲母粗粒若干・細 砂粒多量	表: にほい赤褐色 裏: にほい褐色	表面: 品川貝殻模様による周目文・裏面: 横走刺突 沈縦線文	深鉢口縫部
80	4960		28-28	II	3-d	石英粗粒若干・雲 母粗粒多量	表: にほい褐色	表面: 刺突文	
81	1510		23-4	II	4-d	石英粗粒・細砂粒 多量	表: にほい褐色	表面: 連続刺突(短沈縦文)	
82	4902		26-26	II	3-d	細砂粒若干・石英粗 粒多量	表: にほい褐色	表面: 比縦文	

表-3 土器観察表(3)

図No.	名前	地E	層	分類	胎	土	色	圖	表裏の文様	備考
83	4161	27-27	II	3-d	石英粗粒若干	青 黄 灰 にぼい緑	表面：連續爪形刺突文 裏面：無		深鉢口縁部	
84	1063	21-6	II	3-d ₁	石英粗粒若干	青 黄 灰 にぼい緑	表面：連續爪形刺突文 裏面：無		加熱痕	
85		S K 1	F	3-a ₁	粗砂粒や多量	青 黄 灰 にぼい緑	表面：繊維な磨き・斜走短平行線文・裏面：繊維な磨き			
86		20-9	II	3-d	粗砂粒若干	青 黄 灰 にぼい緑	表面：連續爪形刺突文 裏面：無			
87	5282	21-9	II	3-d ₁	石英粗粒、粗砂粒 多量	青 黄 灰 にぼい緑	表面：連續爪形刺突文 裏面：無		深鉢口縁部	
88	5837	20-9	II	3-a ₁	粗砂粒多量	青 黄 灰 灰 灰 にぼい緑	表面：横走沈線区画内縱走大短比線文・裏面：無 裏面：無			
89	1091	25-4	II	3-c	石英粗粒や多量	青 黄 灰 灰 灰 にぼい緑	表面：連續爪形刺突文・区画的な横走沈線文 裏面：無		深鉢口縁部	
90	1696	18-10	II	3-d	石英粗粒物多量・ 雲母粗粒多量若干	青 黄 灰 にぼい緑	表面：区画的な横走平行比線文・裏面：無			
91	151	27-10	I	3-c	雲母粗粒、細砂粒 や多量	青 黄 灰 にぼい緑	表面：区画的な横走平行比線文・裏面：無		深鉢口縁部 加熱痕	
92	5644	20-7	II	3-c ₁	細砂粒多量	青 黄 灰 灰 灰 にぼい緑	表面：横走平行比線文区画内連續爪形刺突文・裏面：無 裏面：無		深鉢口縁部 加熱痕	
93	4616	26-26	II	3-c	石英粗粒、細砂粒 多量	青 黄 灰 にぼい赤	表面：連續爪形刺突文・区画的な比線文・裏面：無		108回一個体	
94		25-21 S X 3	F	3-d	石英粗粒多量	青 黄 灰 にぼい赤	表面：横走平行比線文区画内連續爪形刺突文・裏面：無 裏面：無		加熱痕	
95	2376	23-17	II	3-d	石英粗粒多量	青 黄 灰 にぼい	表面：区画的な横走平行比線文・裏面：無 裏面：無			
96	4928	28-27	II	3-d ₁	細砂粒多量	青 黄 灰 にぼい	表面：横走平行比線文区画内連續爪形刺突文・裏面：無 裏面：無		深鉢口縁部	
97		26-16	II	3-c ₁	細砂粒多量	青 黄 灰 にぼい	表面：横走平行比線文区画内連續爪形刺突文・裏面：無			
98	2068	21-17	II	3-b ₁	石英粗粒若干	青 黄 灰 にぼい	表面：明褐色 裏面：無	表面：平行比線文・其の纏綿線文		
99	5546	18-11	II	3-b	粗砂粒や多量	青 黄 灰 灰 灰	表面：沈線文・裏面：無			
100	2556	27-22	II	3-b	石英粗粒若干・細 砂粒や多量	青 黄 灰 にぼい	表面：区画的な横走平行比線文・裏面：無			
101	2706	24-17	II	3-a	石英粗粒、細砂粒 多量	青 黄 灰 灰 灰	表面：爪形刺突文・沈線文・裏面：無			
102	4891	28-25	II	3-b	石英粗粒や多量	青 黄 灰 にぼい	表面：沈線文			
103	4683	27-28	II	3-b	石英粗粒粗粒や多量	青 黄 灰 にぼい	表面：区画の広い平行比線文			
104	1430	18-7	II	3-b ₁	石英粗粒や多量・ 雲母粗粒若干	青 黄 灰 灰 灰 にぼい	表面：区画線文・其の纏綿線文・裏面：無			
105	219	25-14	I	3-b	石英粗粒若干	青 黄 灰 にぼい	表面：比線文・裏面：繊維な磨き		深鉢尖底部 付近	
106	6255	22-8	II	3-b ₁	石英粗粒、雲母粗 粒多量	青 黄 灰 灰 灰	表面：区画の広い平行比線文・区画的な2本 沈線文・平行比線文区画内連續爪形刺突文		加熱痕	
107	3288	25-21	II	3-b ₁	石英粗粒・細砂粒 多量	青 黄 灰 灰 灰	表面：区画の広い平行比線文・刺突文・裏面： 無		108回一個体 加熱痕	
108	3171	27-21	II	3-b ₁	石英粗粒・細砂粒 多量	青 黄 灰 灰 灰 灰	表面：平行比線文・裏面：無		加熱痕	
109		26-22 S X 3	F	3-b ₁	石英粗粒、細砂粒 多量	青 黄 灰 にぼい	表面：区画の広い異方向交互多段平行比線文・ 裏面：無			
110	5667	21-7	II	7-c	雲母若干・石英、 雲母粗粒細粒多量	青 黄 灰 灰 灰	表面：太浅比線文			
111		24-20	II	3-b ₁	石英粗粒・雲母粗 粒多量	青 黄 灰 灰 灰	表面：異方向からの交互多段平行比線文・区画 的な平行比線文・裏面：無			
112	6059	19-6	II	3-a	石英粗粒、雲母微 粒多量	青 黄 灰 明赤	表面：地文挫・地文文・浅い沈線文			
113	665	19-6	I	3-a	雲母若干・石英粗 粒、雲母微粒多量	青 黄 灰 にぼい	表面：地文挫・地文文・浅い沈線文			
114	4907	27-26	II	4-b ₁	石英粗粒細粒や多量 ・雲母粗粒若干	青 黄 灰 にぼい	表面：横走多段平行比線文		深鉢口縁部	
115	3082	22-17	II	7-c ₁	雲母若干・雲母微 粒多量	青 黄 灰 にぼい	表面：細比線文を挟んだ矢羽根状平行比線文			
116	2494	27-22	II		石英粗粒細粒多量	青 黄 灰 灰 灰	表面：平行比線文・区画的な1本沈線文 区画的な1本比線文・太浅比線文裏面：無		加熱痕	
117		S K 1	F	3-a ₁	石英粗粒若干・細砂粒 や多量	青 黄 灰 にぼい	表面：太浅比線文			
118	3860	28-22	II	3-a	雲母微粒、細砂粒 や多量	青 黄 灰 にぼい	表面：比線文・裏面：繊維な磨き			
119	3330	25-22	II		石英粗粒・細砂粒 多量	青 黄 灰 にぼい	表面：比線文・裏面：繊維な磨き			
120	2818	26-25	II	3-c	石英粗粒・細砂粒 多量	青 黄 灰 明赤	表面：横走爪形刺突文・区画的な比線文・裏 面：無			
121	3183	27-22	II	3-b	粗砂粒多量	青 黄 灰 灰 灰	表面：沈線文・裏面：繊維な磨き			
122	588	23-7	I	3-b	石英粗粒若干・雲 母粗粒多量	青 黄 灰 灰 灰	表面：沈線文・裏面：繊維な磨き			
123	5591	22-10	II		細砂粒や多量	青 黄 灰 灰 灰	表面：平行比線文			

表-4 土器観察表(4)

回数	登録番号	地区	層	分類	胎	土	色調	表裏面の文様他	備考
124	1438	18-7	II	4-b	粗砂粒や多	浅黄褐色	波状線・表面：細沈線文		深鉢口縁部
125	3172	27-22	II	3-b	粗砂粒や多	にぼい橙	表面：細沈線文		
126	1883	18-10	II		粗砂粒や多	綠	表面：細沈線文		
127	4475	26-22	II		粗砂粒若干	青：にぼい黃褐色	表面：細沈線文・裏面：精緻な磨き		
128	3463	26-24	II	3-b	石英粗砂粒、粗砂粒若干	青：にぼい黃褐色 灰：灰褐色	表面：細かい沈線文 裏面：磨き		深鉢口縁部
129	666	19-6	I	3-d	石英粗砂粒、粗砂粒や多	綠	表面：模子状細沈線文		加熱痕
130	5675	21-7	II		石英粗砂粒、雲母微砂粒や多	浅黃褐色	表面：沈線文		
131	5103	19-8	II	3-b	石英粗砂粒若干、粗砂粒や多	表：灰褐色 裏：にぼい青褐色	表面：沈線文・裏面：磨き		
132	4131	26-26	II		雲母微砂粒、細砂粒若干	表：にぼい青褐色 裏：にぼい青褐色	表面：細沈線文		
133	5932	21-16	II		石英粗砂粒や多、粗砂粒多量	青：にぼい綠 灰：灰褐色	表面：細沈線文		
134	1681	18-10	II	3-b	石英粗砂粒や多	浅黃褐色	表面：縱走平行細沈線文・裏面：磨き		深鉢口縁部
135	5116	18-8	II		細砂粒や多	表：綠 裏：赤灰	表面：細沈線文		
136	5556	18-12	II		石英粗砂粒多量	表：綠 裏：浅黃褐色	表面：細沈線文		加熱痕
137	3846	25-21	II		石英粗砂粒、雲母粗砂粒若干	表：灰褐色 裏：灰褐色	表面：細沈線文・裏面：粗い磨き		
138	24-29	II			細砂粒多量	明赤褐	表面：沈線文		
139	615	18-7	I	4-b	細砂粒多量	にぼい綠	表面：細沈線文・貝殻模様磨圧痕文		深鉢尖底部
140	1792	22-11	II	3-b	雲母粗砂粒若干	褐灰	表面：横走平行細沈線文		深鉢尖底部
141	5405	22-7	II		石英粗砂粒若干	表：にぼい綠 裏：灰褐色	表面：太浅沈線文・裏面：精緻な磨き		
142	1004	18-7	II		鐵鋸、石英粗砂粒、細砂粒若干	表：にぼい綠 裏：褐灰	表面：沈線文		
143	953	18-7	II	3-a	石英粗砂粒若干	表：浅黃褐色 裏：にぼい綠	表面：太浅沈線文		
144	173	27-11	I	3-b	石英、雲母粗砂粒若干、細砂粒多量	表：にぼい青褐色 裏：綠	表面：沈線文		
145	1677	18-10	II		石英粗砂粒や多、粗砂粒多量	表：灰褐色 裏：灰褐色	表面：沈線文・裏面：磨き		
146	1302	19-8	II		細砂粒若干	褐灰	表面：無文		深鉢口縁部
147	4971	28-28	II	4-b ₂	石英粗砂粒、雲母微砂粒多量	表：にぼい綠 裏：褐灰	表面：多段平行細沈線文		
148	5974	19-10	II	3-a	細砂粒や多	表：浅黃褐色 裏：にぼい綠	表面：太浅沈線文・裏面：精緻な磨き		
149		18-7	I		石英粗砂粒、細砂粒多量	綠	表面：沈線文・裏面：磨き		加熱痕
150	5130	18-8	II	3-a	細砂粒多量	綠	表面：太浅沈線文・裏面：精緻な磨き		
151	5767	21-8	II		石英粗砂粒、細砂粒多量	表：にぼい黃褐色 裏：褐灰	表面：細沈線文・裏面：磨き		
152		28-11	I		石英粗砂粒、細砂粒多量	褐灰	表面：細沈線文・裏面：磨き		
153	458	20-6	I		石英粗砂粒多量	にぼい黃褐色	表面：沈線文		炭化物付着
154	5241	21-8	II	3-d	石英粗砂粒、細砂粒多量	表：褐灰 裏：明褐色	表面：連續網突文・沈線文・裏面：粗い磨き		
155	3846	25-21	II		石英粗砂粒、細砂粒多量	にぼい赤褐	表面：細沈線文		
156	1551	19-10	II		石英粗砂粒多量	表：浅黃褐色 裏：褐灰	表面：細沈線文		
157		24-22	II		石英粗砂粒や多	表：綠 裏：にぼい綠	表面：浅い沈線文		加熱痕
158	5548	18-11	II		石英粗砂粒多量	褐灰	表面：細沈線文・裏面：精緻な磨き		武藏炭化物付着
159	1319	18-8	II		石英粗砂粒や多	浅黃褐色	表面：平行細沈線文・区画文的な細沈線文・裏面：粗い磨き		
160	5119	18-9	II		雲母粗砂粒や多	褐灰	表面：沈線文・裏面：磨き		
161	4375	26-31	II	4-b	石英粗砂粒や多	表：にぼい綠 裏：明褐色	表面：沈線文・裏面：磨き		
162	1054	21-6	II	4-b	石英粗砂粒や多	表：褐灰 裏：浅黃褐色	表面：沈線文・裏面：磨き		
163	3517	28-26	II		雲母粗砂粒や多	灰白	表面：沈線文・裏面：精緻な磨き		
164		21-7	II	3-b	石英粗砂粒や多	にぼい綠	表面：沈線文		

表-5 土器観察表(5)

登録番号	地区	層	分類	胎	土	色調	表面の文様能	備考
165 3796	28-21	II	3-a	石英細粒、細砂粒多量	赤: に赤い粒 黒: 灰褐色	表面: 太沈線文		
166 4442	25-21	II		細砂粒多量	浅黄橙	表面: 沈線文		
167 5106	18-8	II		細砂粒多量	に赤い黄橙	表面: 薄い平行沈線文		
168 3141	28-21	II		石英粗粒若干・粗 砂粒多量	赤: 紅 黒: 墓赤灰	表面: 沈線文・裏面: 磨き	加熱痕	
169 1827	28-18	II	3-b	細砂粒多量	淡黄橙	表面: 沈線文・裏面: 磨き		
170 1135	20-7	II		石英、雲母細粒、 細砂粒多量	赤: 浅黄橙 黒: 灰褐色	表面: 沈線文・裏面: 薄い磨き		
171 3586	26-27	II	4-b ₂	石英粗粒、雲母細 粒や多量	赤: に赤い黄橙 黒: 灰褐色	口唇部目口文: 表面: 開閉の窓な縦、横走平行 沈線文: 画面: 磨き	深鉢口縁部	
172 384	25-14	I	3-b	細砂粒や多量	灰褐色	表面: 平行沈線文		
173 952	18-7	II	3-b	細砂粒多量	赤: 墓赤灰 黒: 灰褐色	表面: 開閉の窓な平行沈線文		
174 5374	24-6	II	3-b	石英細粒や多量、 細砂粒多量	に赤い粒	表面: 沈線文		
175 5090	19-8	II	3-b ₁	細砂粒や多量	に赤い粒	表面: 橫走平行沈線開道折爪形刺突文、画面内 内継形状沈線文、裏面: 磨き		
176 3130 3794	28-21	II	3-b ₂	石英細粒若干・細 砂粒や多量	に赤い赤橙	表面: 橫走平行沈線区画面内継形状沈線文、裏 面: 精緻な磨き	深鉢口縁~ 脚部	
177 8674	21-7	II	3-d ₂	細砂粒や多量	灰褐色	表面: 軍兵の連続刺突文、横走区画沈線文、裏 面: 磨き	深鉢口縁部	
178 6229 6234	21-7	II	3-b ₂	石英粗粒砂や多量、 粗砂粒多量	赤: に赤い粒 黒: 灰褐色	表面: 開閉の窓な異方向からの交互多段沈線 文、裏面: 粗い磨き	179-180同 個体	
179 5225 6228	21-7	II	3-b ₂	石英粗粒砂や多量、 粗砂粒多量	赤: に赤い粒 黒: 灰褐色	表面: 開閉の窓な異方向からの交互多段沈線 文、平行沈線区画内軍兵の連続刺突文。裏面 に赤い磨き	No.6229- 6232接合	
180 1227	22-7	II	3-b ₂	石英粗粒砂や多量、 粗砂粒多量	赤: に赤い粒 黒: 灰褐色	表面: 平行沈線区画内軍兵の連続刺突文、開 窓の窓な多段沈線文、裏面: 粗い磨き		
181 6317	21-9	IV	3-b ₂	石英細粒、細砂粒 多量	赤: に赤い粒 黒: 墓灰褐色	表面: 開閉の広い異方向からの交互多段平行沈 線文、裏面: 磨き		
182 3377	25-29	II	3-b	細砂粒多量	灰褐色	表面: 沈線文		
183 969	18-7	II	3-b	雲母細粒若干・細 砂粒や多量	に赤い粒	表面: 多段沈線文、裏面: 磨き		
184 5966	19-10	II	3-d ₂	石英細粒、細砂粒 多量	に赤い赤褐色	表面: 連続爪形刺突文、平行沈線区画内軍兵 の連続刺突文	加熱痕	
185	21-23	II	3-b ₂	石英細粒、細砂粒 や多量	に赤い粒	表面: 異方向からの交互多段平行沈線文、裏 面: 粗い磨き		
186 1977	23-16	II	3-b	石英細粒、細砂粒 多量	灰褐色	表面: 沈線文、裏面: 粗い磨き		
187 1429	18-7	II	3-b	石英細粒若干・細 砂粒や多量	に赤い粒	表面: 多段沈線文、裏面: 精緻な磨き		
188 970	18-7	II	3-b	石英細粒若干・細 砂粒や多量	に赤い粒	表面: 多段沈線文、裏面: 精緻な磨き		
189 1460	20-6	II	3-d ₂	粗砂粒多量	に赤い赤褐色	表面: 格子伏沈線文?		
190 3487	26-25	II		石英細粒多量	淡黄褐色	表面: 太浅沈線文		
191 5154	18-8	II	3-b ₂	石英細粒、細砂 粒多量	赤: 墓 黒: 灰褐色	表面: 多段尖翼橫状沈線文		
192 1505	22-5	II	3-b	石英細粒若干・細 砂粒多量	赤: に赤い粒 黒: 灰褐色	表面: 沈線文、裏面: 精緻な磨き		
193 5669	21-7	II		石英細粒、細砂粒 多量	に赤い粒	表面: 沈線文		
194 20-9 (147)	II	3-b		石英細粒、細砂粒 多量	赤: 紅 黒: 灰褐色	表面: 沈線文		
195 5210	20-7	II	3-b	石英細粒、細砂粒 多量	赤: 区界帶 黒: 淡黄褐色	表面: 沈線文、裏面: 磨き		
196	23-26	II	3-b	石英細粒、細砂粒 多量	に赤い粒	表面: 沈線文、磨き		
197 6498	23-6	IV	3-a	石英粗粒、粗 砂粒多量	に赤い赤褐色	表面: 薄い沈線文、裏面: 磨き	深鉢口縁部	
198	23-26	II	3-b	細砂粒や多量	淡黄褐色	表面: 細砂状沈線文、裏面: 磨き		
199 5955	19-10	II	3-b ₂	赤褐色、石英細粒や 多量、粗砂粒多量	明褐灰	表面: 細砂状沈線文、裏面: 磨き		
200	22-5	II	3-b	細砂粒多量	に赤い黃褐色	淡灰褐色、表面: 沈線文、裏面: 粗い磨き	深鉢口縁部	
201 4398	26-31	II		石英粗粒多量	褐	表面: 沈線文		
202 4613	26-26	II	3-b	細砂粒多量	明褐灰	表面: 沈線文、裏面: 磨き		
203 5594	22-10	II		石英、雲母細粒 や多量	赤: に赤い粒 黒: 墓灰	表面: 沈線文		
204 5799	21-8	II	3-b	石英、雲母細粒 や多量	淡黄褐色	表面: 沈線文、裏面: 粗い磨き		
205 1816	25-10	II	3-b	石英、雲母細粒 や多量	赤: に赤い粒 黒: 墓灰	表面: 多段沈線文、裏面: 粗い磨き		

表-6 土器観察表 (6)

図面	台地名	地区	層	分類	胎	土	色調	表面の文様	地	備考
206	2702	23-17	II	3-b ₁	石英、雲母細粒若干 千、細砂粒多量	灰 灰	にぼい黄橙 にぼい赤	表面：異方向からの交互多段沈線文・裏面：粗 い磨き		
207	3818	25-21	II	3-b ₂	石英、雲母細粒若干 千、細砂粒多量	灰 灰	にぼい黄橙 にぼい赤	表面：異方向からの交互多段沈線文・裏面：粗 い磨き		
208	1427	18-7	II		雲母細粒や多少 石英細粒、雲母	灰 灰	にぼい黄橙 にぼい黄橙	表面：沈線文・裏面：粗い磨き		
209	6088	19-6	II	4-d	細砂粒多量	灰	にぼい白	表面：斜突文		
210	6109	21-6	II	3-b	細砂粒多量	灰	にぼい白	表面：沈線文		
211	2536	25-22	II	3-b	細砂粒多量	灰 灰	にぼい白 にぼい赤	表面：沈線文・裏面：精緻な磨き		
212	5415	24-8	II		石英、雲母細粒若干 千、細砂粒多量	灰 灰	にぼい白	表面：浅い沈線文・裏面：磨き		炭化物付着
213	1324	18-8	II	3-b	石英、雲母細粒若干 千、細砂粒多量	灰 灰	にぼい白 にぼい黄橙	表面：浅い沈線文・裏面：磨き		
214	657	19-7	I		石英細粒多量	灰 灰	にぼい白 にぼい黄橙	表面：沈線文		
215	4496	25-22	II		雲母微粒若干	灰	にぼい白	表面：沈線文		
216	5008	28-29	II		細砂粒、石英細 粒、細砂粒多量	灰 灰	にぼい白	表面：多段平行沈線文・裏面：粗い磨き		
217	1451	19-7	II	3-b	石英細粒や多少 多量	灰 灰	にぼい白 にぼい黄褐	表面：沈線文・裏面：磨き		
218	27	27-11	II		石英、雲母細粒組 合	灰 灰	にぼい白 にぼい黄褐	表面：細沈線文		
219	2689	25-23	II	3-b	細砂粒多量	灰 灰	にぼい白 にぼい黄橙	表面：多段沈線文		
220	685	26-6	I		石英、雲母細粒、 細砂粒多量	灰 灰	にぼい白 にぼい白	表面：沈線文		深鉢口縁部
221	1521	24-5	II		細砂粒多量	灰	にぼい白	表面：沈線文		
222	5108	18-8	II	4-b	雲母細粒多量	灰 灰	にぼい白 にぼい赤	表面：曲沈線文		
223	446	18-7	I		細砂粒若干	灰	にぼい白	表面：浅い沈線文・裏面：精緻な磨き		
224	3789	28-21	II		雲母微粒多量	灰	にぼい白	表面：間隔の密な平行沈線文		
225	3299	25-21	II		石英細粒、細砂粒 多量	灰 灰	にぼい白 にぼい白	表面：沈線文・裏面：磨き		
226	406	25-11	I		石英細粒、細砂粒 多量	灰 灰	にぼい白 にぼい白	表面：沈線文		
227	5299	22-8	II		石英細粒、細砂粒 多量	灰 灰	にぼい白 にぼい白	表面：沈線文		
228	5371	23-6	II	3-b	細砂粒多量	灰 灰	にぼい白 にぼい白	表面：沈線文		
229		23-25	#	3-b	石英細粒、細砂粒 多量	明赤褐		表面：沈線文・裏面：精緻な磨き		
230	5333	22-7	II	3-b	石英細粒若干	灰 灰	にぼい白 にぼい白	表面：間隔の密な多段沈線文・裏面：粗い磨き		
231	6273	21-7	II	3-b	雲母細粒、細砂粒 多量	灰 灰	にぼい白 にぼい白	表面：沈線文・裏面：精緻な磨き		
232	3409	26-23	II		石英細粒、細砂粒 多量	灰 灰	にぼい白	表面：沈線文		
233	641	18-7	I	3-b	石英細粒、細砂粒 多量	灰 灰	にぼい白 にぼい白	表面：沈線文		
234	1302	19-8	II	3-b	石英細粒多量	灰 灰	にぼい白 にぼい白	表面：沈線文		
235	1331	18-8	II		石英細粒や多少 多量	灰 灰	にぼい白 にぼい白	表面：浅い沈線文・裏面：磨き		
236	3946	25-23	II	3	石英細粒や多少 多量	灰 灰	にぼい白 にぼい白	表面：新文		
237	658	19-7	I	3-a ₁	石英粗粒若干・粗 細砂粒多量	灰 灰	にぼい白 にぼい白	表面：細沈線文・裏面：磨き		
238	5999	18-10	II	2-b	石英、雲母微粒若干 千、細砂粒多量	灰 灰	にぼい白 にぼい白	表面：沈線文・細沈線文		
239	3996	26-24	II	3-b	石英細粒、細砂粒 多量	灰 灰	にぼい白 にぼい白	表面：多段沈線文		
240	5565	18-11	II		石英細粒、細砂粒 多量	灰 灰	にぼい白 にぼい白	表面：細沈線文		
241	659	19-7	I	3-c ₁	石英細粒、粗 細砂粒多量	灰 灰	にぼい白 にぼい白	表面：深鉢爪彫刻突文・沈線文・圓文LR・裏面： 精緻な磨き		
242		25-32	II	4-a ₁	石英粗粒多量	灰褐		表面：沈線文・△字状連続貝殻模様痕痕文・裏 面：磨き		
243	1420	18-7	II		細砂粒や多少 多量	灰 灰	にぼい白 にぼい白	表面：沈線文・裏面：精緻な磨き		
244	3277	26-21	II	3-b ₂	石英細粒、細砂粒 多量	灰 灰	にぼい白 にぼい白	表面：間隔の密な平行沈線文		
245	1476	20-7	II		石英細粒や多少 多量	浅黄褐		表面：波状沈線文？		
246	5444	18-10	II		石英細粒多量	灰 灰	にぼい白 にぼい白	表面：間隔の密な沈線文		

表-7 土器観察表(7)

図号	名前	地区	層	分類	胎土	色調	表面の文様	裏面の文様	備考
247	525	20-7	I		細砂粒や多量	赤: にほい種 黒: 暗赤	表面: 滴沈線文・裏面: 粗い磨き		
248	672	19-6	I		雲母細粒や多量	赤: にほい種 黒: 黑灰	表面: 滴沈線文・裏面: 精緻な磨き		
249	2493	27-21	II	4-b	石英細粒、細砂粒 多量	明褐色	表面: 滴沈線文	裏面: 磨き	
250	4354	28-30	II	3-b	細砂粒多量	赤: 明褐色 黒: 暗灰	表面: 精緻な磨き・滴沈線文・裏面: 粗い磨き		
251	3226	25-22	II	4-b	雲母微粒や多量、 細砂粒多量	浅黄褐色	表面: 滴沈線文		
252	4220	26-28	II	4-b	細砂粒若干	赤: 暗赤褐色 黒: 暗灰	表面: 滴沈線文・裏面: 精緻な磨き		
253	5246	21-8	II		石英細粒若干	にほい種	表面: 滴沈線文・裏面: 精緻な磨き		
254	2118	25-14	II		石英細粒、細砂粒 多量	褐灰	表面: 滴沈線文		
255	5195	20-8	II	4-b	粗細砂粒多量	種	表面: 細い条脈文・網状線文		
256	1307	19-8	II	4-b	石英、雲母微粒や多量、 細砂粒若干	にほい種	表面: 手攀竹管沈線文		
257	939	18-7	II	4-b	石英細粒や多量、 細砂粒多量	赤: 暗赤 黒: 暗灰	表面: 地文浅い条脈文・手攀竹管沈線文・裏面: 粗い磨き		
258	3185	27-22	II	4-b	石英粗細粒や多量	種	表面: 背部削り目文・裏面: 区画文的な横走比 線文・斜定平行式線文・裏面: 浅い条脈文	深井口縫部?	
259	2976	25-28	II	4-b	石英、雲母粗粒若干	にほい種	表面: 弧状沈線文		
260	1908	18-11	II	4-b	細砂粒多量	赤: 淡黄褐色 黒: 上にほい種	表面: 疙瘩状・須頭部弱く突出・裏面: 細沈線文・円 形砂穴文	深井口縫部	
261	4219	26-28	II	4-b	細砂粒や多量	褐灰	表面: 粗い波状紋・表面: 横走比縫区画内幾何形沈線文 黒: にほい種	深井口縫部	
262	4673	26-28	II	4-b	石英細粒や多量、 細砂粒外壁	褐灰	表面: 粗い波状紋・表面: 横走比縫区画内幾何形沈線文 黒: 网状線文・裏面: 粗い磨き	深井口縫部	
263	3501	25-24	II	4-b	石英細粒、雲母微 粒若干	にほい種	表面: 波状線・表面: 曲比縫文・裏面: 磨き	深井口縫部	
264	6501	23-6	IV	4-c	石英細粒や多量	褐灰	表面: 条脈文の比縫文	灰化物付着	
265	5202	20-8	II	4-b	石英細粒若干	反灰	表面: 曲比縫文・裏面: 精緻な磨き		
266	4519	28-23	II	4-b	細砂粒や多量	赤: 明褐色 黒: 上にほい種	表面: 楕円刻突文・裏面: 粗緻な磨き		
267	2299	18-17	II	4-b	石英細粒や多量	浅黄褐色	表面: 雪竹管状工具による沈線文・円形刻突 文・裏面: 粗緻な磨き		
268	1008	19-7	II	4-b	石英細粒、細砂粒 多量	赤: 暗赤 黒: 上にほい種	表面: 雪竹管状工具による沈線文・貝殻模様 文		
269		22-23	II	4-b	火炎粗粒若干、細 砂粒多量	明褐色	表面: 多段波状沈線文		
270	1253	23-9	II		石英粗細粒多量	にほい種	表面: 斜曲状網比縫文		
271	5962	19-10	II	4-b	石英細粒、細砂粒 や多量	赤: 明褐色 黒: 暗灰	表面: 斜曲状網比縫文・区画横走比縫沈線文+平 行比縫沈線文・黒面: 磨き+浅い条脈文		
272	5627	18-9	II	4-b	石英細粒、細砂粒 や多量	にほい種	表面: 斜曲状網比縫文・区画文的な一本比縫 文・裏面: 桂皮色		
273	1333	18-8	II	4-c	石英粗粒多量	浅黄褐色	表面: 桂皮色の工具による撓い波状比縫文・裏 面: 粗い磨き		
274	5024	18-8	II	4-b	雲母細粒、細砂粒 多量	灰白	表面: 斜曲状網比縫文・裏面: 磨き		
275	5085	19-9	II	4-b	雲母細粒若干、細 砂粒や多量	明褐色	表面: 斜曲状網比縫文・裏面: 磨き		
276	4186	26-27	II	3-c	石英細粒、細砂粒 多量	にほい種	表面: 連続爪形刻突文・貝殻模様圧痕文・裏面: 粗い磨き		
277	6185	24-5	II	3-b	石英細粒、細砂粒 多量	赤: 淡黄褐色 黒: 暗灰	表面: 沈線文・貝殻模様圧痕文・裏面: 精緻な 磨き	灰化物付着	
278	4645	27-27	II	3-c	石英細粒、細砂粒 多量	上にほい種	表面: 滴沈爪形刻突文・横走比縫沈線文・貝殻 模様圧痕文		
279	5677	22-7	II	3-b	火炎粗粒、細砂粒 多量	種	表面: 灰色から上の交互多段波状文・横走比 縫沈線文・貝殻模様圧痕文・裏面: 粗緻な磨き	深井口縫部 加熱灰	
280	2360	24-17	II	3-c	石英、雲母細粒や 多量、細砂粒多量	浅黄褐色	表面: 連続爪形刻突文・区画比縫文・貝殻模 様圧痕文・裏面: 粗い磨き		
281	5149	18-3	II	4-f	石英粗細粒若干、 雲母細粒多量	にほい種	表面: 貝殻模様圧痕文・連続する円形凹文・裏 面: 浅い条脈文		
282	20-9	II	4-b		石英、雲母微粒若干	赤: 淡黄褐色 黒: 暗灰	表面: 貝殻模様圧痕文・多段沈線文・区画文的 な一本比縫文・裏面: 磨き		
283	1455	19-7	II	3-a	石英細粒、細砂粒 や多量	赤: 淡黄褐色	表面: 大沈線文・貝殻模様圧痕文・裏面: 磨き		
284	6053	19-7	II	3-b	石英細粒若干、粗 砂粒や多量	にほい種	表面: 大沈線文・区画文内貝殻模様圧痕文充 填・裏面: 粗い磨き		
285	5918	23-9	II	3-c	石英細粒、細砂粒 多量	赤: にほい種 黒: 暗灰	表面: 滴沈爪形刻突文・区画沈線文・貝殻模 様圧痕文	深井口縫部	
286	6541	21-8	IV	3-b	細砂粒多量	赤: 淡黄褐色 黒: にほい種	表面: 斜曲状縫区画内貝殻模様圧痕文充填・裏 面: 粗緻な磨き		
287	4430	26-21	II	3-b	細砂粒多量	赤: 暗赤 黒: にほい種	表面: 多段沈線文・区画沈線文・貝殻模 様圧痕文・裏面: 粗い磨き		

表一 土器觀察表 (8)

図No.	世紀No.	地区	種	分類	胎	土	色調	表裏圖の文様他	備考
288	5426	23-8	II	4-b ₁	細砂粒多量	褐灰	表面：貝殻模縫压痕文・区画文的な北緯文・裏面：磨き		
289		24-22	II	3-b ₁	石英細粒、細砂粒多量	にぼい粒	表面：地文古い重底文・太沈縫文・貝殻模縫压痕文・裏面：粗い磨き		
290	3925	27-23	II		石英細粒やや多	灰褐色	表面：沈縫文・貝殻模縫压痕文・裏面：精緻な磨き		
291	5294	26-8	II		石英細粒やや多	表面：浅黄褐色 裏面：にぼい粒	表面：織沈縫文・貝殻模縫压痕文		
292	958	18-7	II	4-b ₁	石英細粒、粗砂粒やや多	表面：褐灰 裏面：灰褐色	表面：織沈縫文・貝殻模縫压痕文・裏面：精緻な磨き		
293	6326	22-9	IV	3-b ₁	石英細粒、細砂粒やや多	表面：浅黄褐色 裏面：深赤褐色	表面：多段平行沈縫文・貝殻模縫压痕文		
294	4228	26-28	II	4-b ₁	石英細粒やや多	浅黃褐色	表面：沈縫区画内貝殻模縫压痕文・裏面：磨き		
295	5704	23-7	II	3-b ₁	石英細粒、細砂粒多量	表面：にぼい赤褐色 裏面：灰褐色	表面：貝殻模縫压痕文・区画文的な北緯文		
296	6054	18-6	II		石英細粒、細砂粒やや多	褐灰	表面：貝殻模縫压痕文・沈縫文		
297	3342	25-22	II	4-b ₁	石英、漂母細粒やや多 ・細砂粒多量	にぼい粒	表面：貝殻模縫压痕文・区画文的な平行沈縫文 裏面：磨き		
298	653	19-7	I	4-b ₁	石英、漂母細粒やや多	表面：にぼい粒 裏面：灰褐色	表面：円形輪肋文+斜向文・沈縫文・貝殻模縫压痕文・裏面：織緻な磨き		
299	5687	22-7	II	4-b ₁	細砂粒多量	表面：赤褐色 裏面：明褐色	表面：円形輪肋文+沈縫文・区画文的な1本沈縫文・貝殻模縫压痕文・裏面：磨き		
300	6275	21-7	II	4-b ₁	石英細粒、細砂粒少	浅黃褐色	表面：沈縫文・貝殻模縫压痕文・裏面：磨き		
301	5334	22-7	II	4-b ₁	石英粗細粒、細砂粒少	にぼい黄褐色	表面：沈縫文・貝殻模縫压痕文		
302	4871	27-24	II	4-b ₁	石英粗細粒、細砂粒多量	灰褐色	表面：沈縫文・貝殻模縫压痕文・裏面：磨き		
303		24-24	II	4-b ₁	石英粗細粒、細砂粒多量	表面：にぼい像 裏面：灰褐色	表面：沈縫文・貝殻模縫压痕文・裏面：磨き		
304	25-21 S X 3	F	4-s ₁		石英粗細粒、細砂粒少	にぼい粒	表面：沈縫文・貝殻模縫压痕文・く字伏状続押引文		
305		22-24	II	4-b ₁	石英粗細粒や少・細砂粒やや多	表面：灰褐色 裏面：浅黃褐色	表面：沈縫文・沈縫区画貝殻模縫压痕文光暈		深鉢口縁部
306	5201	20-8	II	4-b ₁	石英粗細粒や少	灰褐色	表面：沈縫文・貝殻模縫压痕文		
307	6085	19-6	II	3-b ₁	石英細粒、細砂粒多量	表面：明褐色 裏面：灰褐色	表面：織沈縫文・貝殻模縫压痕文・裏面：磨き		
308	1210	18-19-8	II	4-b ₁	石英粗細粒、細砂粒やや多	浅黃褐色	表面：織状沈縫文・貝殻模縫压痕文・裏面：磨き		
309		22-27	II	4-b ₁	石英粗細粒若干・細砂粒多量	表面：灰褐色 裏面：灰褐色	表面：沈縫文・貝殻模縫压痕文・貝殻模縫押引文・渦面・磨き		
310	2734	22-15	II	4-b ₁	石英、漂母細粒やや少・細砂粒多量	にぼい黄褐色	表面：貝殻模縫压痕文・区画文的な北緯文		
311	1417	18-7	II		石英細粒若干	にぼい粒	表面：貝殻模縫压痕文・区画文的な北緯文		
312	4752	27-20	II		石英細粒若干・細砂粒多量	にぼい粒	表面：貝殻模縫压痕文		深鉢口縁部
313	6267	22-8	II	4-b ₁	石英粗細粒、細砂粒やや多	にぼい黄褐色	表面：貝殻模縫压痕文・区画文的な平行沈縫文 裏面：磨き		
314	957	18-7	II	3-b ₁	石英粗細粒、細砂粒多量	表面：褐灰 裏面：にぼい粒	表面：織沈縫文・貝殻模縫压痕文・裏面：精緻な磨き		
315	6046	19-7	II	4-b ₁	石英粗細粒、細砂粒若干	表面：褐灰 裏面：にぼい粒	表面：沈縫文・貝殻模縫压痕文・裏面：磨き		
316	5593	22-10	II	4-b ₁	粗砂粒多量	表面：褐灰 裏面：にぼい粒	表面：沈縫文・貝殻模縫压痕文・裏面：精緻な磨き		
317	2026	22-18	II	4-b ₁	石英粗細粒若干・細砂粒やや多	にぼい粒	表面：沈縫文・貝殻模縫压痕文		深鉢口縁部
318	3379	25-23	II	3-s ₁	石英粗細粒若干	にぼい粒	表面：貝殻模縫压痕文・裏面：磨き		
319		22-27	II	3-s ₁	石英粗細粒、細砂粒やや多	褐灰	表面：貝殻模縫压痕文・裏面：磨き		
320	6541	21-8	IV		細砂粒多量	赤灰	表面：横走沈縫压痕文・織沈縫文・貝殻模縫压痕文		深鉢口縁部
321	1026	19-6	II		細砂粒若干	にぼい粒	表面：貝殻模縫压痕文・区画文的な北緯文・裏面：磨き		
322	5109	18-8	II	4-b ₁	漂母粗細粒、細砂粒若干多量	浅黃褐色	表面：深沈縫文・貝殻模縫压痕文・区画文的な北緯文・裏面：粗い磨き		
323	3207	26-23	II	4-b ₁	石英粗細粒、細砂粒若干多量	表面：明褐色 裏面：褐灰	表面：沈縫文・貝殻模縫压痕文		
324	5224	21-7	II	4-b ₁	石英粗細粒、細砂粒若干多量	にぼい粒	表面：沈縫文・貝殻模縫压痕文		
325	4235	26-28	II	4-b ₁	細砂粒やや多	褐灰	表面：口唇面下短縫文的な2本沈縫文・貝殻模縫压痕文・裏面：精緻な磨き		深鉢口縁部
326	2750	22-18	II	3-b ₁	石英粗細粒、細砂粒少	灰黃褐色	表面：沈縫文或横区画内貝殻模縫压痕文光暈		加熱痕
327	25-21 S X 3	F	4-b ₁		石英粗細粒、細砂粒やや少	にぼい粒	表面：貝殻模縫压痕文・裏面：粗い磨き		深鉢口縁部
328	6489	22-8	IV	4-e	石英粗細粒、細砂粒やや少	表面：灰褐色 裏面：浅黃褐色	表面：貝殻模縫压痕文		

表一九 土器觀察表（9）

図面No.	年	地区	層	分類	胎	土	色調	表面の文様	裏面の文様	備考
329	5364	22—7	II	4—b ₂	細砂粒若干	石英	にぶい黄橙	表面：貝殻模様直板文・沈縞文・裏面：磨き		
330	3861	29—22	II	4—e	石英細粒、細砂粒 やや多	灰白		表面：貝殻模様直板文		
331	3903	25—22	II		細砂粒多量	石英	にぶい橙	表面：貝殻模様直板文		
332	1295	19—8	II		石英細粒、細砂粒 やや多	石英	にぶい橙	表面：貝殻模様直板文		
333	5033	19—8	II		細砂粒多量	石英	にぶい橙	表面：貝殻模様直板文		
334	656	19—7	I		細砂粒やや多	灰白		表面：貝殻模様直板文		
335	2687	24—16	II	3—a ₂	細砂粒やや多	石英		表面：貝殻模様直板文・裏面：精緻な磨き		深跡口縁部
336	971	16—7	II	4—e	石英細粒、細砂粒 多量	石英	にぶい橙 灰白	表面：貝殻模様直板文・裏面：精緻な磨き		
337	5721	24—8	II	3—e	石英細粒、細砂粒 多量	石英	にぶい橙 灰白	表面：貝殻模様直板文		
338	3335	25—22	II	4—e	石英細粒やや多	石英	にぶい黄橙 明褐色	表面：貝殻模様直板文・裏面：磨き		
339		24—32	II	4—e	石英粗砂粒やや多	石英	にぶい橙	表面：貝殻模様直板文・沈縞文・裏面：粗い磨き		深跡口縁部
340	3122	27—30	II		細砂粒多量	石英	にぶい橙 灰白	表面：連続刺突文		
341	6365	20—9	IV		細砂粒やや多	石英	灰白	表面：貝殻模様直板文・裏面：磨き		
342	5636	20—5	II		細砂粒若干	石英	にぶい橙	表面：貝殻模様直板文		
343	995	18—7	II		細砂粒若干	石英	淡黃橙	表面：貝殻模様直板文・裏面：磨き		
344	453	20—6	I	4—c ₂	石英粗砂粒やや多	石英	にぶい橙	表面：貝殻模様連続刺突文		深跡口縁部
345	5584	21—19	II		多量	石英細粒	石英	表面：貝殻模様直板文		
346	5223	21—7	II	3—e	石英粗砂粒やや多 細砂粒多量	石英	にぶい橙 灰白	表面：貝殻模様直板文・裏面：精緻な磨き		
347	5791	22—7	II	3—e	石英、碧母螺細粒、 細砂粒多量	石英	にぶい橙 灰白	表面：貝殻模様直板文・裏面：磨き		
348	6274	21—7	II	4—e	石英細粒やや多	石英		表面：貝殻模様直板文・裏面：磨き		
349	5130	18—9	II	4—e	透砂粒やや多	石英	灰白	表面：貝殻模様直板文・裏面：磨き		深跡口縁部
350		18—9	II	4—e	細砂粒やや多	石英	にぶい橙	表面：貝殻模様直板文・裏面：磨き		
351	4882	25—25	II	3—e	細砂粒多量	石英	黑褐 灰白	表面：地文横走条板文・貝殻模様直板文・裏面：精緻な磨き		深跡口縁部
352	5323	22—7	II	4—e	粗砂粒若干	石英	にぶい橙 灰白	表面：貝殻模様直板文		
353	5746	22—6	II	4—e	粗砂粒やや多	石英	淡黃橙	表面：貝殻模様直板文・裏面：精緻な磨き		
354	2440	20—18	II		石英粗砂粒多量、 透砂粒やや多	石英	にぶい橙 灰白	表面：貝殻模様直板文		
355	4720	28—29	II		繊維、石英粗砂粒若干	石英	にぶい橙	表面：く字状連続押引文・裏面：磨き		
356	3557	28—27	II	3—e	石英粗砂粒やや多	石英	にぶい橙	表面：貝殻模様直板文		
357	1421	18—7	II	4—e	石英細粒若干	石英	にぶい黄橙 灰白	表面：貝殻模様直板文		
358	995	18—7	II	4—e	石英粗粒、碧母螺 細粒若干	石英	にぶい黄橙	表面：貝殻模様直板文		
359	537	20—8	I		石英細粒若干	石英	にぶい橙	表面：貝殻模様直板文		
360	1369	18—8	II	4—c ₂	石英粗砂粒若干、 細砂粒多量	石英	褐灰	表面：地文条板文・貝殻模様連続刺突文・裏面：条板文		
361	3205	28—23	II	4—c ₂	石英粗砂粒やや多	石英		表面：地文横走条板文・同工具による横走連続四文		
362	1421	18—7	II	4—c ₂	石英細粒やや多	石英	淡黃橙	表面：地文横走条板文・貝殻模様連続刺突文・裏面：条板文		深跡口縁部
363	3172	27—22	II		石英粗砂粒、細砂 粒やや多	石英	明褐色	表面：貝殻模様連続刺突文		
364	1187	21—7	II	4—c ₂	石英粗砂粒多量	石英	にぶい橙	表面：貝殻模様連続刺突文		深跡口縁部
365	1953	19—10	II	4—c ₂	石英粗粒やや多	石英	にぶい黄橙	表面：貝殻模様連続押引文・沈縞文		
366	4440	26—21	II	4—c ₂	石英粗粒やや多	石英	淡黃橙	表面：貝殻模様直文・裏面：貝殻模様連続押引文		深跡口縁部
367	6139	22—5	II	4—c ₂	石英粗砂粒若干	石英	灰白	表面：貝殻模様連続押引文		
368	2104	28—14	II	4—c ₂	石英粗粒、細砂粒 多量	石英	口唇部對口目文	表面：貝殻模様連続押引文・同工具による条板文		深跡口縁部 化粧化口縁
369	642	18—7	I	4—c ₂	鐵磁若干、石英粗 粒、細砂粒多量	石英	にぶい黒 にぶい橙	表面：貝殻模様連続押引文・半纏竹管波状沈縞文・裏面：灰白・黒墨文	370—572同 一体・深 跡口縁部	

表-10 土器観察表 (10)

図版No.	出土地名	地区	層	分類	胎	土	色調	撰	裏	文様	施	備考
370	642	18-7	I	4-c ₁	鐵磁若干・石英微粒・細砂粒多量	灰	にぼい褐色	表面：貝殻腹縫連続坪引文・半巻管状波状紋文 裏面：撫く織い条紋文				
371	635	18-7	I	4-c ₁	鐵磁若干・石英微粒・細砂粒多量	黑褐	板文	表面：貝殻腹縫連続坪引文・裏面：撫く織い条紋文			加熱痕	
372	4923	28-27	II	4-c ₂	石英細粒多量・鷺母細粒若干	灰	にぼい褐色	口唇部斜日文・表面：斜位横走貝殻腹縫連続坪引文			深鉢口縫部	
373	5685	22-6	II	4-c ₂	石英粗粒や多量	褐灰		口唇部斜日文による斜行文・表面：斜位横走貝殻腹縫連続坪引文・裏面：手筋竹管状波状紋文			深鉢口縫部	
374		28-15	II	4-c ₂	鐵磁若干・細砂粒多量	灰	にぼい褐色	表面：斜位横走貝殻腹縫連続坪引文			加熱痕	
375		25-17 ²⁸ S 4	V	4-c ₂	石英粗粒多量	灰	にぼい褐色	表面：斜位横走貝殻腹縫連続坪引文			深鉢口縫部	
376	6513	23-8	IV	4-c ₂	鐵磁若干・鷺母細粒多量	灰	にぼい褐色	表面：貝殻腹縫連続坪引文			深鉢口縫部	
377	1352	18-10	II	4-c ₂	石英粗粒若干	灰	にぼい褐色	表面：斜位横走貝殻腹縫連続坪引文			深鉢口縫部	
378	4027	28-25	II	4-d	石英細粒若干・鷺母細粒多量	灰	にぼい赤褐色	表面：斜位横走貝殻腹縫連続坪引文			深鉢口縫部	
379	1725	18-11	II		鐵磁若干	黄褐		表面：斜位横走貝殻腹縫連続坪引文			深鉢口縫部	
380		22-25	II	4-d	石英粗粒・鷺母細粒や多量	灰	にぼい褐色	表面：〈字状連続坪引文				
381	5059	26-31	II	4-c ₂	石英粗粒や多量	褐灰		表面：地文波底文・ギザのない貝殻腹縫による連続坪引文				
382	2653	25-23	II	4-c ₂	鐵磁若干・細砂粒多量	褐灰		口唇部斜日文・裏面：斜位横走貝殻腹縫連続坪引文			深鉢口縫部	
383	4103	27-26	II		石英粗粒・鷺母細粒や多量	灰黃褐		表面：絶体斜底坪文・貝殻腹縫連続坪引文			深鉢口縫部	
384	6069	19-7	II	4-c ₂	細砂粒若干	灰	にぼい黃褐色	表面：ギザのない貝殻腹縫による斜位横走連続坪引文			深鉢口縫部	
385	5241	21-8	II	4-c ₂	石英粗粒細砂粒多量	灰	にぼい褐色	表面：ギザのない貝殻腹縫による斜位状連続坪引文			加熱痕	
386		25-15	II	4-c ₂	石英粗粒細粒多量・細砂粒や多量	灰	にぼい赤褐色	表面：ギザのない貝殻腹縫による斜位状連続坪引文			加熱痕	
387	1108	20-8	II	4-c ₂	石英粗粒多量	灰	にぼい黃褐色	表面：貝殻腹縫坪引文				
388	212	26-14	I		石英粗粒・鷺母細粒若干	褐灰		表面：貝殻腹縫坪文				
389	6488	22-8	IV	4-f	鷺母細粒・細砂粒多量	灰	にぼい赤褐色	表面：貝殻腹縫坪文・縦文L字				
390	5648	20-8	II	4-f	石英粗粒多量・細砂粒や多量	灰	にぼい褐色	表面：貝殻腹縫坪文・縦文L字				
391	1329	18-8	II	4-a	石英細粒や多量	灰	にぼい黃褐色	表面：口唇部斜日文(貝殻腹縫?)・裏面：横走?字状連続坪引文				
392		28-16	II		石英粗粒多量・鷺母細粒若干	褐灰		表面：貝殻腹縫坪文				
393	5151	18-8	II	4-f	鐵磁・細砂粒若干	灰	にぼい黃褐色	表面：貝殻腹縫坪文				
394		24-26	II	4-a	細砂粒多量	褐灰		表面：〈字状連続坪引文区之内〉字状貝殻腹縫連続坪引文				
395	342	26-15	I	4-a ₁	石英粗粒や多量	灰黃褐		表面：〈字状連続坪引文・枕縫文〉・字状短辺縫文・縫縫文			深鉢口縫部	
396	2354	24-16	II	4-a ₁	鷺母細粒若干・細砂粒や多量	灰	にぼい黃褐色	表面：〈字状連続坪引文・枕縫文〉・字状短辺縫文				
397		22-27	II	4-a ₂	細砂粒や多量	褐灰		表面：〈字状連続坪引文・平行波縫文				
398	3252	26-22	II	4-a ₂	細砂粒や多量	灰黃褐		表面：縫縫状短辺縫文				
399		27-13	I	4-a ₂	鷺母細粒若干・細砂粒多量	灰	にぼい黃褐色	口唇部斜日文・表面：横位帯形・横走多段く字状連続坪引文			深鉢口縫部	
400		23-26	II	4-a ₂	鷺母細粒若干・細砂粒多量	褐灰		表面：〈字状連続坪引文・同区之内〉字状連続坪縫文				
401	5722	23-7	II	4-a ₂	細砂粒多量	灰黃褐		表面：地文浅い条文・〈字状連続坪引文				
402		23-26	II	4-a ₂	石英粗粒・細砂粒多量	灰褐		表面：〈字状連続坪引文				
403	2191	26-19	II	4-a ₂	石英粗粒や多量	灰	にぼい黃褐色	表面：〈字状連続坪引文				
404		24-20	II	4-a ₂	石英粗粒や多量	淡黃褐		表面：〈字状連続坪引文				
405	649	19-7	I	4-a ₂	石英細粒多量	灰黃褐		波紋縫・口唇部斜日文・表面：横位平行く字状連続坪引文・裏面：〈字状連続坪引文・同区之内〉枕縫・波縫			深鉢口縫部	
406	2617	23-19	II	4-a ₂	石英粗粒多量・細砂粒や多量	灰	にぼい赤褐色	表面：横走平行く字状連続坪引文・裏面：波縫			深鉢口縫部	
407	6353	18-11	II	5	鐵磁若干	灰褐色	にぼい赤褐色	表面：絶体斜底坪文			深鉢口縫部	
408	6374	19-10	II	5	鷺母若干	灰褐色	にぼい褐色	表面：縫縫状斜底坪文				
409	6266	22-8	II	5	鷺母若干	淡黃褐		表面：平行多段絶体斜底坪文				
410	6016	18-11	II	5	鷺母若干・石英粗粒・細砂粒多量	灰黃褐	にぼい褐色	波紋縫・口唇部斜日文・表面：〈字状連続坪引文・同区之内〉枕縫・波縫			深鉢口縫部	

表-11 土器觀察表 (11)

図No	登録地	地区	層	分類	胎 土	色 調	表裏面の文様他	備考
411	5713	24-6	II	5	織維、石英粗粒岩	において薄	表面：結体伴圧痕文R	
412	840	20-9	II	5	石英粗粒岩、雲母 細粒や多量	において薄	表面：結体伴圧痕文R	
413	5099	19-8	II	5	石英粗粒岩、雲母 細粒多量	において薄	表面：結体伴圧痕文R	
414	5987	18-10	II	5	織維若干、石英粗 粒多量	黒褐色	表面：結体伴圧痕文L	
415	4633	27-27	II	5	織維若干、石英粗 粒、雲母細粒多量	黒褐色	口唇部刻目文、表面：結体伴圧痕文	深鉢口縁部
416	5542	18-11	II	5	織維若干、石英粗 粒、雲母細粒多量	黒褐色	表面：結体伴圧痕文	圓鉢口縁部 民化物付着
417	5870	21-8	II	5	織維、石英粗粒岩 雲母細粒多量	黒褐色	表面：結体伴圧痕文R、裏面：浅い条状文	
418	2695 2697	24-16	II	6-a	石英粗粒岩、細砂 雲母や多量	黒褐色	口唇部結体伴圧痕文、表面：織維起縫による区 域文、浅模文+条状文による刻目文、裏面：浅 い条状文	2698-2699 複合深鉢口 縁
419	2695	24-16	II	6-a	石英粗粒岩、細砂 雲母や多量	黒褐色	口唇部結体伴圧痕文、表面：織維起縫による区 域文、浅模文+条状文による刻目文、裏面：浅 い条状文	深鉢口縁部
420	3096	24-16	II	6-a	石英粗粒岩、細砂 雲母や多量	黒褐色	口唇部結体伴圧痕文、表面：織維起縫による区 域文、浅模文+条状文による刻目文、裏面：浅 い条状文	深鉢口縁部
421	2693 2694	24-16	II	6-a	石英粗粒岩、細砂 雲母や多量	黒褐色	表面：織維起縫による区画文、充填文+結体伴 圧痕による刻目文、裏面：浅い条状文	419-221同 一個体
422	5845	20-8	II	6-a	織維若干、石英粗 粒、雲母細粒多量	褐灰	口唇部結体伴圧痕文、裏面：平行微隆起縫文、裏 面：浅い条状文	深鉢口縁部
423	5679	23-7	II	6-b	織維若干、石英粗 粒や多量	黒褐色	表面：平行微隆起縫文	深鉢口縁部
424		21-23	II	6-a	織維、石英粗粒、 細砂や多量	黒褐色	口唇部結体文しによる刻目文、表面：地文模文 文、鐵、鐵锈斑点地文。裏面：滑石子附	深鉢口縁部
425		23-25	II	6-b	織維若干、石英 粗粒や多量	黒褐色	表面：横歩多段行微隆起縫文、裏面：浅い条 状文	深鉢口縁部 民化物付着
426	5628	26-30	II	6-b	織維、石英粗粒多 量	黒褐色	表面：織維起縫文、裏面：浅い条状文	深鉢口縁部 加熱板
427		23-25	II	6-b	織維、石英粗粒岩 等、雲母細粒多量	明褐色	表面：地文浅い、斜文条状文、複数多段平行微 隆起縫文、裏面：浅い条状文	深鉢口縁部
428	2359	24-17	II	6-b	織維、石英粗粒岩 等	黒褐色	表面：横歩多段平行微隆起縫文	深鉢口縁部
429	5621	18-8	II	6-c	石英粗粒多量	黒褐色	表面：地文浅い、斜文条状文、微隆起縫による区 域文、充填文、裏面：条状文	
430	4766	27-20	II	7-c	織維若干、雲母微 粒多量	灰褐色	表面：織維起縫区画内斜文充填、裏面：条状 文	
431	5725	23-7	II	6-c	織維、石英粗粒岩 等	において赤褐色	表面：地文浅い、斜文条状文、微隆起縫文、裏面：浅 い条状文	
432		25-25	II	6-c	織維、粗砂粒や多 量	黒褐色	表面：織維起縫による区画文、充填文、裏面： 浅い条状文	
433	5218	20-8	II	6-c	石英粗粒多量	明褐色	表面：織維起縫による区画文、充填文、裏面： 浅い条状文	
434	4741	27-29	II	6-d	石英粗粒岩や多量	において薄	表面：平行微隆起縫区画内半數竹管平行比縫文 充填文、裏面：浅い条状文	深鉢口縁部
435	22-21 (13T)	II	6-c	石英粗粒岩、細砂 雲母細粒多量	黒褐色	表面：斜文充填文を挟んだ矢羽根状条状文 充填文、裏面：太い斜下条状文	深鉢口縁部	
436	176	28-10	I	6-c	石英粗粒若干	において薄	表面：地文条状文、微隆起縫による区画文、充 填文、裏面：浅い条状文	
437		25-25	II	6-c	石英粗粒若干	黒褐色	表面：平行微隆起縫文	
438	3837	25-21	II	6-c	織維や多量・石英 粗粒多量	黒褐色	表面：地文浅い条状文+微隆起縫による区 域文、充填文、裏面：条状文	
439	5112	18-8	II	6-c	石英粗粒岩若干	褐灰	表面：織維起縫による区画文、充填文、裏面： 浅い条状文	
440	5254	21-8	II	6-c	織維若干、細砂粒 等	において薄	表面：地文浅い、斜文条状文、微隆起縫による区 域文、充填文、裏面：浅い条状文	深鉢口縁部
441	25-25 S X 2	F	6-c	織維若干、石英粗 粒多量	黒褐色	表面：地文浅い、斜文条状文、微隆起縫による区 域文、充填文、裏面：浅い条状文	深鉢口縁部	
442	3950	25-23	II	6-c	織維、石英粗粒多 量	において薄	表面：微隆起縫文	
443	1332	18-8	II	6-c	石英粗粒多量	において薄	表面：地文浅い、条状文+微隆起縫文、裏面：浅 い条状文	加熱度
444	3966	28-24	II	6-c	石英粗粒岩や多量	において薄	表面：地文浅い、条状文、微隆起縫による区 域文、充填文、裏面：条状文	
445		28-16	II	6-c	雲母微粒多量	黒褐色	表面：地文浅い条状文、微隆起縫による区 域文、充填文	
446	6260	22-8	II	6-c	細砂粒や多量	褐灰	表面：微隆起縫による区画文、充填文、裏面： 浅い条状文	深鉢口縁部
447	2382	24-18	II	6-c	織維若干、石英粗 粒や多量	明褐色	表面：微隆起縫による区画文、充填文、裏面： 浅い条状文	
448	4940	28-27	II	6-c	細砂粒や多量	において薄	表面：微隆起縫による区画文、充填文、裏面： 浅い条状文	
449	5857	21-9	II	6-c	織維若干、細砂粒 多量	において薄	表面：微隆起縫による区画文、充填文、裏面： 浅い条状文	
450	4068	25-25	II	6-c	織維若干、細砂粒 多量	において薄	表面：微隆起縫による区画文、充填文、裏面： 浅い条状文	民化物付着
451	3480	26-25	II	6-c	石英粗粒、細砂 粒多量	において薄	表面：微隆起縫文	

表-12 土器觀察表 (12)

図面	地図	層	分類	胎	土	色調	表面の文様地		備考
							表面	裏面	
452		25-25	II	6-c	鐵礦石や粘土 や砂岩	青系 褐色	地文浅い条痕文・微細起線による区画文、 充填文・裏面: 条痕文		
453	4591	28-25	II	6-b ₁	鐵礦石や粘土・石英、 粘土鉱物鉱物多量	にぼい赤褐色	表面: 平行微細起線文・裏面: 条痕文		
454	6383	19-8	IV	6-c	鐵礦、細砂粒多量	青系 褐色	裏面: 領有区画内微細字形微細起線文・裏面: 細 粒状文		炭化物付着
455	3892	25-22	II	6-c	鐵礦、細砂粒や粘 土や砂岩	青系 褐色	表面: 微細起線による区画文、充填文・裏面: 浅い条痕文		
456	4635	27-27	II	6-c	鐵礦石や粘土・石英、 粘土鉱物鉱物多量	にぼい褐色	表面: 地文浅い条痕文・節理起線による区画文、 充填文・裏面: 条痕文・細粒状文		
457	4597	28-25	II	6-c	鐵礦、石英粗粒石 英多量	青系 褐色	地文条痕文・微細起線による区画文、光 吸収・裏面: 太い赤褐色		
458	6117	21-6	II	6-b ₂	鐵礦多量	青系 褐色	表面: 平行起線文		加熱風・灰 化物付着
459	x	0	6-c	鐵礦、石英砂粒や粘 土多量	青系 褐色	表面: 浅い平行格子字形文、微細起線による区 画文・裏面: 条痕文・裏面: 浅い条痕文			
460		24-25	I	6-b ₂	鐵礦、石英粗粒多 量	青系 褐色	表面: 線起線文・裏面: 条痕文		加熱底
461		23-23	II	6-c	鐵礦、石英砂粒や 粘土多量	青系 褐色	表面: 三角形微細起線区画内横走平行微細起 線文・裏面: 浅い平行条痕文		
462	1450	19-7	II	6-c	鐵礦、石英粗粒和 粘土多量	青系 褐色	表面: 地文浅い条痕文・微細起線による区画文、 充填文・裏面: 浅い条痕文		
463	6192	24-4	II	6-d ₁	鐵礦石や粘土多量	青系 褐色	表面: 地文浅く粗い字形文・裏面: 条痕文・微 細起線文・幾何学的な平行条痕文・裏面: 条痕文		
464		18-19	II	6-c	鐵礦石や粘土・雲母 微細粒、細砂粒多量	青系 褐色	表面: 地文浅い条痕文・微細起線文・裏面: 浅 い条痕文		
465		28-16	II	6-c	鐵礦石や粘土・石英粗 粒多量	青系 褐色	表面: 微細起線による区画文、充填文・裏面: 浅い条痕文		
466	5917	23-9	II	6-b ₂	鐵礦石や粘土・石英粗 粒多量	青系 褐色	表面: 地文浅い条痕文・點起線文		加熱底
467	4333	27-39	II	7-a ₁	鐵礦、細砂粒多量	青系 褐色	表面級、底、横走起線文・円形刻文文・裏面: 浅い条痕文・横走微細		深跡口部離 散部
468	4885	26-25	II	6-c	鐵礦石や粘土・石英粗 粒多量	青系 褐色	表面: 微細起線による区画文、充填文		深跡口部離 散部
469	1994	24-17	II	6-c	鐵礦石や粘土・雲母 多量	青系 褐色	表面: 浅い赤い条痕文・點起線文・裏面: 深 い条痕文		
470	5078	19-9	II	6-c	鐵礦石や粘土・雲母微 細粒多量	青系 褐色	表面: 深い赤い条痕文・微細起線による区画文、充 填文・裏面: 浅い条痕文		深跡口部離 散部
471	5080	19-9	II	6-c	鐵礦石や粘土・雲母微 細粒多量	青系 褐色	表面: 岩文帶文・微細起線による区画文、充 填文・裏面: 条痕文		
472	1321	18-8	II	6-c	鐵礦石や粘土・石英粗 粒多量	青系 褐色	表面: 微細起線文・裏面: 条痕文		
473	2126	26-15	II	6-c	鐵礦石や粘土・石英粗 粒多量	青系 褐色	表面: 微細起線による区画文、充填文		
474	4194	26-27	II	7-a ₁	鐵礦、石英粗粒、 細砂粒多量	青系 褐色	表面: 地文浅い条痕文・微細起線文・同区画内微 細起線文・竹管円形刻文文・裏面: 条痕文		深跡口部離 散部
475		25-29	II	7-a ₁	鐵礦、細砂粒多量	青系 褐色	表面: 地文浅い条痕文・微細起線文・同区画内微 細起線文・竹管円形刻文文・裏面: 浅い赤褐色		
476		25-13	I	7-a ₁	鐵礦、雲母細粒多量	青系 褐色	表面: 地文板状文・微細起線文・同区画内微 細起線文・円形刻文文・裏面: 太い赤褐色		
477	3918	25-22	II	7-a ₁	鐵礦、細砂粒多量	青系 褐色	表面: 微細起線による区画文・同区画内微 細起線文・竹管円形刻文文・裏面: 太い赤褐色		
478	3366	25-20	II	7-a ₁	鐵礦、細砂粒多量	青系 褐色	表面: 微細起線による区画文・同区画内微 細起線文・竹管円形刻文文・裏面: 浅い赤褐色		
479		24-25	II	7-a ₁	鐵礦石や粘土・石英粗 粒多量	青系 褐色	表面: 微細起線による区画文・同区画内微 細起線文・竹管円形刻文文・裏面: 浅い赤褐色		
480		24-30	II	7-a ₁	鐵礦石や粘土多量	青系 褐色	表面: 深い平行起線文・細かい折れ文・裏面: 浅い条痕文		深跡口部離 散部
481		25-15	II	7-a ₁	鐵礦、細砂粒多量	青系 褐色	表面: 浅い条痕文・裏面: 浅い赤褐色		45回同一削 除
482	1201	22-8	II	7-a ₁	鐵礦、細砂粒多量	青系 褐色	表面: 浅い条痕文・裏面: 浅い赤褐色		
483	185	26-12	I	7-c ₁	鐵礦多量・石英粗 粒多量	青系 褐色	表面: 領有区画内水辺緑文・元鉄・斜方 晶柱文・裏面: 水辺緑文		深跡口部離 散部
484	4119	26-26	II	7-a ₁	鐵礦、石英粗粒、 粘土多量	青系 褐色	表面: 領有区画内水辺緑文・元鉄・竹管円形刻 文文・裏面: 条痕文		深跡口部離 散部
485	3530	28-26	II	7-a ₁	鐵礦、石英粗粒、 細砂粒多量	青系 褐色	表面: 領有区画内水辺緑文・元鉄・同形刻文文・ 圓形刻文文・裏面: 水辺緑文		深跡口部離 散部
486	2631	26-22	II	7-a ₁	鐵礦、細砂粒多量	青系 褐色	表面: 領有区画内横走平行起線文・水辺緑文・元 鉄・竹管円形刻文文・裏面: 水辺緑文		深跡口部離 散部又は先起 線
487	2630	26-22	II	7-a ₁	鐵礦、石英粗粒 多量	青系 褐色	表面: 領有区画内横走平行起線文充填・行言 円形刻文文・裏面: 水辺緑文		
488		26-32	II	7-c ₁	鐵礦石や多 量	青系 褐色	表面: 領有区画内水辺緑文充填・裏面: 浅い 赤褐色		深跡口部離 散部
489	4791	25-21	II	7-a ₁	鐵礦多量・石英、 雲母細粒多量	青系 褐色	表面: 太赤緑文・円形刻文文・裏面: 粗い赤 褐色		
490		22-22	II	7-a ₁	鐵礦、石英粗粒 多量	青系 褐色	表面: 竹管円形刻文文・裏面: 条痕文		
491	4506	25-22	II	7-c ₁	鐵礦多量・石英粗 粒多量	青系 褐色	表面: 太赤緑文・細粒緑文		
492	2781	26-24	II	7-a ₁	鐵礦、石英粗粒 多量	青系 褐色	表面: 陸起線文・斜交文・裏面: 条痕文		

表-13 土器觀察表 (13)

回数	登録番号	地区	層	分類期	胎	土	色調	表裏面の文様能	備考
493	337	26-15	I	7-c,	織組、雲母微粒多量	表：明赤褐色 裏：にぼい緑	表面：織跡起経区画内北沈縦文。裏面：浅い条状模文		
494	4306	25-30	II	7-b,	織組、石英粗粒多量	表：にぼい青 裏：灰	口唇部斜目文。表面：地文条痕文・織縫横文・粗状大沈縦文。裏面：条痕文		
495	976	18-7	II	7-b,	織組、細粒砂多量	表：にぼい緑 裏：緑	表面：太沈縦区画内斜文充填。裏面：浅い条状模文		
496	4623	28-27	II	7-b	織組、雲母微粒多量	にぼい緑	表面：斜沈縦文・刺突文。裏面：浅い条痕文		
497	29-9	II	7-b,	織組、石英粗粒粒多量	表：緑 裏：灰	表面：太沈縦区画内斜文填文。粗状大沈縦文・刺突文。裏面：太い条痕文			
498	5649	29-8	II	7-e,	織組、石英粗粒粒多量	緑	表面：地文浅い垂れ模文・條起縫。細縫区画内平行沈縦文充填。裏面：太い条痕文		
499	3941	25-23	II	7-b,	織組、石英粗粒粒多量	表：にぼい青 裏：にぼい緑	表面：織起縫+斜目文・刺突文。裏面：斜文充填	圓状突起	
500	5630	19-9	II	7-c,	織組、石英粗粒粒多量	黒褐	口唇部斜目文。表面：地文浅い条痕文・暗赤褐色。裏面：深赤褐色	深鉢口縫部	
501	6099	20-6	II	7-a,	織組、石英粗粒粒多量	表：黒褐 裏：にぼい赤褐色	表面：地文条痕文。織縫区画内開闊の密な太沈縦文充填。竹笠円形刺突文。裏面：太い条痕文		
502	1840	18-10	II	7-c,	織組多量	表：にぼい緑 裏：浅黃緑	表面：地文条痕文。区画均的な織縫縦文・充填的な太沈縦文。裏面：条痕文	583同一個体?	
503	1844	18-10	II	7-c,	織組多量、石英粗粒粒中や少	表：にぼい緑 裏：浅黃緑	表面：地文条痕文。区画均的な織縫縦文・充填的な太沈縦文。裏面：条痕文		
504	3793	28-21	II	7-c,	織組、雲母微粒多量	表：灰赤 裏：緑	表面：地文条痕文・開闊の密な太沈縦文・裏面：条痕文		
505	S X 3	F	7-c,	織組粒若干	明褐色	表面：開闊の密な太沈縦文。裏面：太い条痕文			
506	5726	23-7	II	7-c,	織組、石英粗粒粒多量	灰赤	表面：開闊の密な太沈縦文。裏面：浅い条痕文	587同一個体?	
507	3092	22-16	II	7-c,	織組、石英粗粒粒多量	灰赤	表面：開闊の密な太沈縦文。裏面：粗い角底文	深鉢口縫部	
508		21-27	II	7-c	織組、石英織縫やや少	浅黃緑	表面：太沈縦文・裏面：条痕文		
509	*	0	7-c,	織組、石英粗粒粒やや少	明褐色	表面：織縫区画内太沈縦文充填。裏面：条痕文			
510	6254	21-8	II	7-c,	織組を含む、雲母微粒やや少	浅黃緑	表面：地文挖い垂れ模文・織縫区画内太沈縦文充填。裏面：太い角底文		
511	25-15	II	7-c,	織組、石英粗粒粒多量	にぼい緑	表面：開闊の密な太沈縦文。裏面：太い条痕文			
512	2577	28-22	II	7-c,	織組、雲母微粒多量	表：にぼい緑 裏：灰赤	表面：区画均的な浅い沈縦文。裏面：太沈縦文		
513	6143	22-6	II	7-c	織組、石英粗粒粒多量	にぼい緑	表面：地文条痕文。裏面：条痕文	深鉢口縫部	
514	2578	28-22	II	7-c,	織組、雲母微粒多量	表：赤灰 裏：にぼい黄緑	表面：地文挖い垂れ模文・区画均的な浅い沈縦文・充填的な太沈縦文。裏面：浅い条痕文		
515	603	22-9	I	7-c,	織組、石英粗粒粒多量	にぼい緑	表面：地文挖い垂れ模文・区画均的な浅い沈縦文・充填的な太沈縦文。裏面：浅い条痕文		
516	2220	27-18	II	4-d	雲母粗粒、細砂多量	褐灰	表面：地文挖い太い条痕文・区画均的な浅い沈縦文		
517	4008	28-25	II	7-c,	織組、石英粗粒粒やや少	褐褐	表面：開闊の密な太沈縦文。裏面：条痕文	農化物付番	
518	28	27-11	I	7-c,	織組、石英粗粒粒多量	褐灰	表面：地文挖い条痕文・区画均的な浅い沈縦文		
519		22-24	II	7-c	織組、石英粗粒粒多量	表：褐灰 裏：にぼい緑	表面：地文条痕文・織縫区画内開闊の密な太沈縦文。裏面：浅い条痕文		
520	5276	21-9	II	7-c,	織組、石英粗粒粒多量	表：褐褐 裏：浅黃緑	表面：地文挖い条痕文・細縫縦文。矢羽根状太沈縦文。裏面：条痕文		
521	5523	18-10	II	7-c	織組多量、石英粗粒粒中や少	明褐色	口唇部斜目文。表面：太沈縦文。裏面：条痕文	深鉢口縫部	
522	3772	25-20	II	7-c,	織組、石英粗粒粒若干	表：にぼい青 裏：にぼい緑	表面：区画均的な太沈縦文。		
523	4580	28-26	II	7-e	織組、石英粗粒粒多量	表：にぼい緑 裏：緑	表面：地文条痕文。裏面：平たい植物の茎等の圧痕文。裏面：条痕文	524同一個体? 深鉢口縫部	
524	4093	28-26	II	7-e	織組、石英粗粒粒多量	表：褐灰 裏：にぼい緑	表面：地文条痕文。裏面：平たい植物の茎等の圧痕文。裏面：条痕文	深鉢口縫部	
525	4664	26-28	II	7-d	織組多量、石英粗粒粒中や少	表：浅黃緑 裏：緑	口唇部斜目文。表面：地文挖い各板文・横位隔壁・通縫割裂突文。裏面：横走条痕文	深鉢口縫部~網状加热痕	
526	1842	18-10	II	7-d	織組多量	表：浅黃緑 裏：灰	表面：地文条痕文・細縫縦文。裏面：浅い条痕文		
527		25-15	II	7-f	織組多量	表：にぼい緑 裏：灰赤	表面：地文条痕文・沈縦文。裏面：浅い条痕文	加熱痕	
528	1846	18-10	II	7-d	織組多量	にぼい緑	表面：地文条痕文・沈縦文。裏面：浅い条痕文		
529	3240	26-22	II	7-f	織組、石英粗粒粒多量	緑	表面：地文条痕文・平行沈縦文。裏面：条痕文		
530	1853	18-10	II	7-f	織組多量、石英粗粒粒若干	表：浅黃緑 裏：にぼい緑	表面：地文条痕文・細縫縦文。裏面：条痕文		
531	3139	28-21	II	7-f,	織組、雲母微粒多量	にぼい緑	表面：地文挖い条痕文・浅い沈縦文。裏面：條子状条痕文		
532	2115	25-14	II	7-c,	織組、石英粗粒粒小少	灰褐	表面：斜目文状沈縦文。裏面：浅い角底文		
533	6011	18-10	II	7-d	織組、石英粗粒粒	表：にぼい青 裏：灰	表面：地文条痕文・横位隔壁+通縫割裂突文。裏面：条痕文		

表-14 土器觀察表 (14)

登録番号	地図	層	分類	胎 土	色 調	表裏面の文様他	備考
534 4330	27-30	II	7-f,	織維、細砂粒や多量	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 地文浅い条痕文。裏面: 光沢的な沈緑文。裏面: 条痕文	
535 2368	24-17	II	7-f	織維、石英粗粒多量	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 地文浅い条痕文+平行沈緑文による格子状文。裏面: 黒青文	
536 4010	28-25	II	7-f,	織維多量、石英細粒若干	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 地文浅い条痕文。平行斜線文による格子状文。裏面: 黒青文	
537 4898	37-25	II	7-f,	織維、石英粗粒多量	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 地文浅い条痕文。裏面: 死模様的な半纏竹管状緑文。裏面: 太い条痕文	加熱痕
538 5181	20-8	II	7-f	織維多量、細砂粒や多量	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 地文条痕文。半纏竹管状緑文。裏面: 条痕文	
539 5302	22-8	II	7-f	織維多量、石英細粒若干	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 地文条痕文+平行沈緑文による格子状文。裏面: 黒青文	
540 21-7	II	7-f	織維多量、石英粗粒や多量	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 地文浅い条痕文。平行沈緑文。彌状沈緑文。裏面: 黒青文		
541 22-23	II	7-f	雲母微粒や多量	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 淡い条痕文。裏面: 条痕文		
542 228	28-15	I	7-f	織維や多量	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 地文浅い条痕文。黒青。裏面: 条痕文	
543 1464	20-5	II	7-f	織維多量、石英細粒や多量	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 畫眉緑文。裏面: 淡い条痕文	
544 1850	18-19	II	7-c,	織維、石英粗粒多量	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 地文条痕文の横比緑文。頭端の密な太沈緑文。裏面: 淡く太い条痕文	
545 1442	18-7	II	7-f	織維若干、石英粗粒多量	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 地文太く浅い条痕文。平行斜緑文。裏面: 太い条痕文	
546 2783	24-17	II	7-f	織維多量、石英粗粒や多量	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 地文浅い条痕文+鐵継擦痕。平行沈緑文。裏面: 鐵継擦痕	
547 5521	18-19	II	7-f	織維、石英粗粒多量	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 半纏竹管状緑文。裏面: 淡い条痕文	
548 5327	22-5	I	7-f,	織維多量、石英細粒若干	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 地文浅い条痕文。複数記録画面内半纏竹管状緑文。裏面: 条痕文	
549 5129	26-15	II	7-f	織維、細砂粒や多量	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 淡い条痕文	
550 6313	21-9	II	7-e	織維、石英粗粒多量	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 口唇部斜臼文。裏面: 太く浅い条痕文	深鉢口縁部
551 3357	25-20	II	7-c	織維、石英粗粒多量	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 淡い条痕文。太撓沈緑文。裏面: 条痕文	
552 5714	24-6	II	8	織維、石英粗粒多量	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 淡い条痕文。淡く粗い条痕文	深鉢口縁部
553 5266	20-8	II	8	織維、石英、雲母粗粒多量	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 淡い条痕文	
554 3093	20-15	II	8	織維、石英粗粒多量	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 太い条痕文	加熱痕・炭化物付着
555 5218	20-5	II	8	織維、石英粗粒や多量	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 条痕文	No5230摺合
556 4256	27-29	II	7-f	織維、雲母微粒、細砂粒多量	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 口唇部斜臼文。裏面: 橫走条痕文+横走平行沈緑文による格子状文。裏面: 粗い条痕文	深鉢口縁部
557 4446	25-20	II	8	織維若干、石英粗粒や多量	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 条痕文	
558 154	27-10	I	8	織維、石英粗粒多量	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 淡い条痕文。裏面: 太く粗い条痕文	加熱痕
559 5645	20-8	II	8	織維、石英粗粒や多量	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 太い条痕文	炭化物付着
560 4672	26-28	II	7-f	織維、雲母粗粒多量	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 地文浅い条痕文。平行沈緑文。裏面: 条痕文	
561 5848	21-8	II	7-c,	織維、石英粗粒や多量	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 口唇部斜臼文。裏面: 斜方向からの交叉多段沈緑文。裏面: 線つな条痕文	深鉢口縁部
562 621	18-7	I	8	織維、石英粗粒多量	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 条痕文	加熱痕
563 3152	27-21	II	8	雲母粗粒や多量	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 条痕文	
564 3137	28-21	II	8	織維や多量、石英粗粒多量	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 淡い条痕文。裏面: 条痕文	炭化物付着
565 2142	28-16	II	8	織維若干、石英粗粒多量	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 太い条痕文	
566 3580	26-27	II	8	織維、石英粗粒多量	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 淡い斜格子状条痕文。裏面: 条痕文	炭化物付着
567 1794	24-12	II	8	織維、石英粗粒若干	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 淡い条痕文。裏面: 条痕文	
568 1841	18-18	II	7-c,	織維多量、石英粗粒若干	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 斜方向からの交叉多段沈緑文。裏面: 条痕文	炭化物付着
569 23-23	II	8		織維、石英粗粒多量、鈍石子若干	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 淡い条痕文。裏面: 条痕文	
570 3197	28-22	II	8	織維や多量、雲母粗粒多量	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 淡い条痕文。裏面: 条痕文	
571 3578	26-27	II	7-f	織維や多量、石英粗粒若干	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 地文横走各痕文+斜走平行沈緑文による格子状文。裏面: 淡い条痕文	深鉢口縁部
572 1130	20-7	II	8	織維若干、石英粗粒や多量	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 条痕文。裏面: 淡い条痕文	
573	25-15	II	8	織維多量、石英粗粒若干	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 淡く太い条痕文。裏面: 粗い条痕文	
574 4286	26-29	II	7-f	織維、石英粗粒多量	黒青: にぼい黒 緑文: にぼい緑	表面: 半纏竹管状緑文。裏面: 粗い条痕文	

表-15 土器観察表 (15)

図No	登録No	地区	層	分類	胎	土	色調	表裏面の文様他	備考
575	6076	19-7	II	8	織維若干・石英粗粒や中多	表: にぼい赤褐色 裏: 棕	裏裏面: 条痕文		
576	5795	21-8	II	8	織維や中多・石英粗粒多量	表: 深褐色 裏: 深褐色	裏面: 深い条痕文・裏面: 条痕文	578同一個体	
577	5259	26-21	II	8	織維や中多	表: にぼい棕褐色 裏: 棕褐色	裏裏面: 条痕文		
578	5214 5240	20-8 21-8	II	8	織維やや多・石英粗粒多量	表: にぼい棕褐色 裏: 棕褐色	裏面: 深い条痕文・裏面: 条痕文	No.5792+ 5794-5797 類似	
579		23-23	II	8	織維多量	表: 黑褐色 裏: 棕褐色	裏裏面: 深い条痕文		
580	5815	20-9	II	8	石英、雲母粗粒多量	表: 棕褐色 裏: 深褐色	裏裏面: 深い条痕文		
581	4247	27-29	II	8	織維、石英細粒や 中多	表: 棕褐色 裏: 棕褐色	裏面: 深い条痕文・裏面: 条痕文		
582	3776	25-20	II	8	織維若干	表: 棕褐色 裏: 深褐色	裏面: 深い条痕文・裏面: 条痕文	加熱痕	
583	5812	20-8	II	8	織維、石英細粒、 雲母微粒多量	表: にぼい棕褐色 裏: 棕褐色	裏裏面: 条痕文	炭化物付着	
584	4960	28-28	II	7-f	織維多量、石英粗 粒若干	表: にぼい棕褐色 裏: 棕褐色	裏面: 地文深く無い条痕文・沈縫文・裏面: 条 痕文		
585	3514	28-26	II	8	織維、石英細粒 雲母微粒多量	表: にぼい赤褐色 裏: 深褐色	裏面: 太い条痕文・裏面: 深い条痕文		
586	3641	26-29	II	7-f	織維、石英細粒多 量	表: 棕褐色 裏: 深褐色	裏面: 斜格子状沈縫文・裏面: 条痕文	深跡口縫部	
587	5645	20-8	II	8	織維やや多・石英 粗粒多量	表: 棕褐色 裏: 深褐色	裏面: 条痕文・裏面: 太く細い条痕文	炭化物付着	
588		25-28	II	7-c,	織維、雲母微粒多 量	表: 棕褐色 裏: 深褐色	裏面: 太い格子状条痕文・裏面: 太く深い条痕 文		
589		21-27	II	7-c,	織維若干・石英、 雲母粗粒多量	表: 深褐色 裏: にぼい棕褐色	裏面: 太く深い条痕文・裏面: 条痕文		
590	S X 3	F	8		織維多量、粗粒鐵 石や多	表: 棕褐色 裏: 深褐色	裏面: 条痕文		
591	4421	28-21	F	8	織維若干・石英鐵 石多量	表: 棕褐色 裏: 深褐色	裏面: 条痕文		
592	5215	20-8	F	8	織維細粒や中多 量	表: にぼい棕褐色 裏: 深褐色	裏面: 条痕文		
593	5779	21-8	F	8	織維若干・石英 粗粒多量	表: にぼい棕褐色 裏: 深褐色	裏面: 深い条痕文・裏面: 条痕文	炭化物付着	
594	24	27-12	I	7-f	織維、石英粗粒 多量	表: 深褐色 裏: 深褐色	裏面: 地文条痕文・沈縫文・裏面: 条痕文		
595	3791	28-21	II	8	織維やや多・雲母 微粒多量	表: 棕褐色 裏: 深褐色	裏面: 条痕文		
596	6106	20-5	II	8	織維若干・石英粗 粒や中多	表: 深褐色 裏: 深褐色	裏面: 条痕文		
597	5330	22-7	II	8	織維若干・石英粗 粒多量	表: にぼい棕褐色 裏: 深褐色	裏面: 斜形状条痕文・裏面: 条痕文		
598	191	27-13	I	7-f	織維若干・雲母 粗粒多量	表: 深褐色 裏: 深褐色	裏面: 地文浅い条痕文+平行沈縫文による斜格 子状文・裏面: 斜格子状条痕文		
599	4243	28-29	II	8	織維多量	表: 棕褐色 裏: 深褐色	裏面: 深い条痕文	加熱痕	
600	3395	26-23	II	8	織維、細砂粒多量	表: 棕褐色 裏: にぼい棕褐色	裏面: 条痕文・裏面: 深い条 痕文	炭化物付着	
601	2572	28-22	II	7-f,	織維、石英細粒多 量	表: 深褐色 裏: にぼい棕褐色	裏面: 地文浅い条痕文・沈縫文・裏面: 深い条 痕文		
602	2645	25-23	II	8	雲母微粒、 織維粒や中多	表: にぼい棕褐色 裏: 深褐色	裏面: 深い条痕文・裏面: 大い条痕文		
603	3827	25-21	II	8	織維、石英細粒や 中多	表: 深褐色 裏: 深褐色	裏面: 斜格子状条痕文・裏面: 条痕文		
604	2333	23-15	II	7-k	織維若干・石英細 粒や中多	表: 深褐色 裏: 深褐色	口唇部側目文・裏面: 深い条痕文・裏面: 条痕 文	深跡口縫部	
605	5872	21-9	II	8	織維若干・石英粗 粒多量	表: 棕褐色 裏: 深褐色	裏面: 深い条痕文・裏面: 条痕文		
606	4082	28-26	II	7-f	石英粗粒多量	表: にぼい棕褐色 裏: 深褐色	裏面: 地文浅い条痕文・平行沈縫文・裏面: 条 痕文		
607	2405	22-16	II	7-c	織維や中多・石英 粗粒多量	表: 深褐色 裏: 深褐色	裏面: 間隔の密な太沈縫文・裏面: 大い条痕文		
608	5148	18-8	II	7-z	織維多量	表: にぼい棕褐色 裏: 深褐色	口唇部側目による剥光文・裏面: 条痕文・裏面: 深褐色	深跡口縫部~ 側部	
609	6235	21-7	II	7-f	織維、石英細粒や 中多	表: 深褐色 裏: 深褐色	口唇部側目文・裏面: 地文条痕文・沈縫文・裏 面: 深褐色	深跡口縫部	
610	6372	17-18-10	IV	7-c,	織維や中多・石英 粗粒多量	表: 深褐色 裏: 深褐色	裏面: 地文浅い条痕文・網状地紋による内凹部の密 な化粧文充満・裏面: 深い条痕文	加熱痕・伏 化粧文充満	
611	5162	20-9	II	7-k	織維や中多・石英 粗粒多量	表: にぼい棕褐色 裏: にぼい棕褐色	口唇部側目文・裏面: 深い条痕文	深跡口縫部~ 側部	
612	3987	26-24	II	7-k	織維やや多・石英 粗粒多量	表: にぼい棕褐色 裏: にぼい棕褐色	口唇部側目文・裏面: 深い条痕文	深跡口縫部~ 側部	
613	4085	28-26	II	8	織維、石英細粒 多量	表: にぼい棕褐色 裏: 深褐色	裏面: 太く細い条痕文・裏面: 深い条痕文		
614	5664	21-7	II	8	織維、石英粗粒若 干	表: 深褐色 裏: 深褐色	裏面: 太い条痕文		
615	2115	25-14	II	7-c	織維、石英粗粒若 干	表: 深褐色 裏: 深褐色	裏面: 地文浅い条痕文・太沈縫文・裏面: 条痕 文	深跡口縫部	

表-16 土器観察表 (16)

回数	登録番号	地区	層	分類	胎 土	色 調	表裏面の文様地	備考
616	3707	25-30	II	8	石英粗粒、細砂粒 や多量	表：浅黄褐色 裏：褐色	表面：浅い条痕文・裏面：条痕文	炭化物付着
617	2547	26-22	II	8	感磁、雲母微粒多量	表：浅黄褐色 裏：にぼい橙	表面：条痕文・裏面：浅い条痕文	
618	3134	28-21	II	8	感磁、雲母微粒や 多量	表：橙	表面：浅い条痕文・裏面：条痕文	
619	4109	27-26	II	8	石英粗粒や多量	表：褐色 裏：灰褐色	表面：条痕文	
620		24-29	II	8	感磁、石英粗粒、 細砂粒や多量	表：灰褐色 裏：灰褐色	表面：条痕文・裏面：斜格子状条痕文	
621	5834	20-9	II	7-c	感磁、雲母微粒や 多量	表：にぼい橙 裏：灰褐色	表面：区画文的な条痕文・裏面：斜格子状条痕文	炭化物付着
622	4330	27-30	II	8	石英粗粒や多量 細砂粒や多量	表：褐色 裏：灰褐色	表面：条痕文	
623	1264	23-7	II	7-c	感磁多量、石英粗 粒や多量	表：にぼい橙 裏：褐色	表面：太比較文・裏面：条痕文+織縫擦痕	加熱痕
624	187	25-12	I	8	感磁若干、石英粗 粒や多量	表：褐色 裏：灰褐色	表面：条痕文・裏面：浅い条痕文	
625		23-32	II	8	感磁、石英微粒多 量	表：褐色 裏：灰褐色	表面：条痕文	
626	6051 6069	19-7	II	8	細砂粒多量	表：褐色 裏：灰褐色	表面：条痕文・裏面：暗褐色	
627	5243	21-8	II	8	石英粗粒や多量	表：褐色 裏：無文	表面：無文・裏面：条痕文	深鉢内面部
628	5164	20-9	II	8	感磁、石英細粒多 量	表：にぼい橙	表面：条痕文	
629	6	28-12	I	8	粗砂粒若干	表：にぼい橙	表面：条痕文・裏面：暗褐色	
630	6321	21-9	II	8	石英粗粒、細砂粒 や多量	表：にぼい橙 裏：明褐色	表面：浅い条痕文・裏面：暗褐色	
631	4865	28-23	II	8	石英粗粒や多量、 細砂粒多量	表：褐色 裏：にぼい橙	表面：条痕文	
632	4866	26-25	II	7-f	感磁多量、石英粗 粒や多量	表：褐色 裏：にぼい橙	表面：地文各痕文・半載竹管網沈痕文・裏面： 比較文・鐵遊帶形	深鉢口部
633	3264	26-21	II	8	石英粗粒若干、雲 母微粒や多量	表：褐色 裏：無文	表面：無文・裏面：浅い条痕文	
634		21-28	II	8	石英細粒若干	表：橙 裏：赤褐色	表面：浅い条痕文・裏面：精緻な暗き	
635	612	18-7	I	8	粗砂粒や多量	表：浅黄褐色 裏：にぼい黃褐色	表面：浅い条痕文	
636	4543	28-25	II	8	細砂粒多量	表：褐色 裏：にぼい橙	表面：条痕文	深鉢口部
637	1313	18-8	II	8	細砂粒若干	表：褐色 裏：にぼい赤褐色	表面：無文・裏面：浅い条痕文	
638	916	19-8	II	8	感磁、石英細粒や 多量	表：にぼい赤褐色	表面：条痕文	
639	3753	28-29	II	8	石英微粒若干	表：赤褐色 裏：にぼい赤褐色	表面：浅い条痕文・裏面：精緻な暗き	炭化物付着
640	4604	27-26	II	8	石英粗粒多量	表：にぼい橙	表面：浅い条痕文	
641	5034	26-30	II	8	石英、雲母粗粒若干	表：褐色 裏：明褐色	表面：浅い条痕文・裏面：暗褐色	
642	4101	27-26	II	8	石英細粒多量	表：橙 裏：にぼい黃褐色	表面：無文・裏面：条痕文	
643	6053	19-7	II	8	細砂粒や多量	表：明褐色 裏：にぼい赤褐色	表面：条痕文	加熱痕
644	5721	24-7	II	8	石英細粒や多量	表：赤褐色 裏：にぼい橙	表面：浅い条痕文	
645	991	18-7	II	8	石英、雲母粗粒多 量	表：褐色 裏：にぼい橙	表面：条痕文	
646		20-23	II	8	石英粗粒、雲母 粗粒若干	表：にぼい橙	表面：条痕文	
647	3815	28-29	II	7-e	石英粗粒、細砂粒 や多量	表：橙 裏：にぼい橙	口唇部斜目文・裏面：条痕文	深鉢口部
648	6017	18-11	II	8	石英粗粒、細砂粒 や多量	表：褐色 裏：灰褐色	表面：浅い条痕文	
649		25-16	II	8	石英粗粒、細砂粒 多量	表：にぼい橙	表面：条痕文	深鉢口部
650	3406	26-23	II	8	石英粗粒、細砂粒 多量	表：橙 裏：灰褐色	表面：条痕文	
651	6272	21-7	II	8	石英粗粒若干	表：にぼい赤褐色 裏：灰褐色	表面：浅い条痕文	
652	429	25-10	I	8	石英粗粒若干や多 量	にぼい橙	表面：浅い条痕文	
653	440	18-7	I	8	細砂粒多量	にぼい橙	表面：条痕文	
654		18-19	II	8	細砂粒多量	赤褐色	表面：浅い条痕文	
655	1819	25-12	II	7-c	細砂粒多量	表：赤褐色 裏：明褐色	表面：太比較文	
656	626	18-7	I	8	石英粗粒、雲母粗 粒多量	表：赤褐色 裏：褐色	表面：無文・裏面：条痕文	

表一七 土器観察表 (17)

番号	名前	地質	層	分類	施土	色調	表面の文様他	備考
657	3908	25-22	II	8	石英、雲母細粒若干	にぶい黄緑	表面: 条痕文	
658	6524	18-10	II	8	石英細粒や多量	にぶい緑	表面: 条痕文	
659	6112	21-6	II	8	石英細粒若干、粗砂粒多量	表: 黄褐色 裏: 黄褐色	表面: 淡い条痕文	
660		24-30	II	8	石英細粒や多量	緑	表面: 淡い条痕文	
661	5474	19-10	II	8	石英細粒やや多量	にぶい緑	表面: 淡い斜格子状条痕文	
662	654	19-7	I	8	石英細粒多量	にぶい黄緑	表面: 無文・裏面: 淡い条痕文	
663	4237	28-29	II	8	鐵礦、石英細粒多量	にぶい緑	表面: 条痕文	
664	5409 5418	23-7	II	8	石英細粒若干	表: 淡黄緑 裏: 緑	表面: 条痕文	加熱病・炭化物付着
665	5397	23-7	II	8	雲母細粒やや多量	にぶい緑	表面: 条痕文・裏面: 磨き	
666	6082	19-7	II	8	細砂粒多量	表: にぶい緑 裏: 黄褐色	表面: 条痕文	
667	1148	21-8	II	8	鐵礦、石英細粒、細砂粒多量	表: 淡黄緑 裏: 黄褐色	表面: 無文・裏面: 条痕文	
668	51	26-12	I	8	鐵礦、石英細粒多量	表: 緑 裏: 黑褐色	表面: 無文・裏面: 淡い条痕文	加熱病
669	1094	25-4	II	8	細砂粒や多量	表: 緑 裏: にぶい緑	表面: 条痕文・裏面: 磨き	
670	2294	19-17	II	8	細砂粒やや多量	にぶい緑	表面: 条痕文	深鉢口縁部
671	6973	19-7	II	8	細砂粒若干	灰褐色	表面: 条痕文	
672	3964	28-24	II	8	石英細粒若干	表: 緑 裏: にぶい黄緑	表面: 条痕文	
673	1366	18-18	II		石英細粒やや多量	表: 灰褐色 裏: 明褐色	表面: 磨文し	
674	5747	22-8	II	8	鐵礦、細砂粒多量	にぶい赤褐色	表面: 条痕文	炭化物付着
675	5122	18-9	II	8	石英粗粒、粗砂粒多量	表: にぶい緑 裏: 灰褐色	表面: 条痕文・裏面: 粗い磨き	
676	*	0	8		石英細粒若干	にぶい緑	表面: 条痕文	
677		23-25	I	8	雲母細粒、細砂粒やや多量	表: 淡黄緑 裏: にぶい黄緑	表面: 条痕文	
678	3507	28-24	II	8	石英細粒、細砂粒多量	にぶい緑	表面: 条痕文・裏面: 精緻な磨き	
679	6307	20-9	II	8	石英細粒やや多量、細砂粒多量	表: にぶい緑 裏: にぶい緑	表面: 条痕文・裏面: 磨き	
680	5001	27-29	II	8	鐵礦多量、石英粗粒やや多量	表: にぶい褐 裏: 灰褐色	表面: 淡い条痕文・裏面: 鐵礦堆積状ナゲ	
681	6071	19-7	II	8	石英微粒やや多量	灰褐色	表面: 条痕文	
682	4884	25-25-25	II	9	石英細粒若干	表: 明褐色 裏: 灰褐色	表面: 無文	深鉢口縁部 炭化物付着
683	3926	27-23	II	9	石英、雲母細粒やや多量	にぶい緑	表面: 磨き	
684	804	22-8	II	9	鐵礦若干・石英、雲母細粒多量	にぶい褐	表面: 無文	
685	434	18-7	I	9	細砂粒やや多量	にぶい緑	表面: 磨き	
686	6530	21-9	IV	9	石英、雲母細粒多量	表: にぶい赤褐色 裏: 灰褐色	表面: 無文	
687	3196	28-22	II	9	細砂粒多量	にぶい緑	表面: 磨き	
688	6107	20-6	II	9	雲母細粒やや多量	表: 淡黄緑 裏: 灰褐色	表面: 磨き	
689	354	28-11	I	9	石英細粒やや多量、雲母細粒多量	表: 灰褐色 裏: にぶい緑	表面: 無文	
690	2293	19-16	II	9	雲母細粒、細砂粒多量	表: にぶい褐 裏: 灰褐色	表面: 無文	
691		23-25	II	9	雲母細粒やや多量、粗砂粒多量	にぶい緑	表面: 無文	炭化物付着
692	5681	22-7	II	9	雲母細粒やや多量	灰褐色	表面: 無文	
693	5242	21-8	II	9	細砂粒若干	表: にぶい黄緑 裏: 灰褐色	表面: 無文	
694	2629	26-22	II	9	石英細粒やや多量	表: にぶい黄緑 裏: 灰褐色	折返口縁・武裏面: 無文	深鉢口縁部
695	617	18-7	I	9	石英細粒若干	にぶい黄緑	表面: 無文	
696	1262	24-8	II	9	石英細粒やや多量	表: にぶい緑 裏: 灰褐色	被伏焼・被頂部向右・表裏面: 無文	深鉢口縁部
697	911	19-9	II	9	石英細粒多量	表: にぶい緑 裏: 灰褐色	表面: 無文	

表-18 土器観察表 (18)

図No	登録No	地区	層	分類	胎 土	色 調	表裏面の文様他	備考
698	5891	22-9	II	9	石英粗粒粒や多量 雲母細粒多量	白 黒	表裏面：無文	
699	5637	20-8	II	9	雲母細粒や多量	黄 灰 褐 灰	表面：無文・裏面：磨き	
700	2625	26-22	II	8	雲母微粒多量	黄 灰 褐 灰	表面：無文・裏面：浅い条痕文	炭化物付着
701	6296	23-6	II	9	石英粗粒、雲母微粒 粒や多量	黄 灰 褐 灰	表面：に上り黄橙 裏面：磨き	
702	4947	27-27	II	9	石英粗粒や多量 雲母微粒多量	黄 灰 褐 灰	表面：無文・裏面：粗い磨き	
703	661	19-6	I	8	石英粗粒や多量 雲母微粒多量	白 黄 灰 褐 灰	表面：無文・裏面：浅い条痕文	
704	6122	21-6	II	8	雲母微粒、細砂粒 若干	白 黄 灰 褐 灰	表面面：浅い条痕文	
705	5620	18-8	II	9	粗砂粒や多量	白 黄 灰 褐 灰	表面面：無文	
706	1435	18-7	II	9	鐵鉻若干、雲母、 石英粗粒や多量	白 黄 灰 褐 灰	表面面：無文・裏面：磨き	
707	1013	19-6	II	9	石英粗粒や多量	白 黄 灰 褐 灰	表面面：無文・裏面：磨き	
708	4302	26-29	II	9	石英粗粒多量	白 黄 灰 褐 灰	表面面：無文	
709	4405	25-31	II	9	石英粗粒や多量	白 黄 灰 褐 灰	表面面：磨き	
710	614	18-7	I	9	石英、雲母細粒若 干	白 黄 灰 褐 灰	表面面：無文	
711	3871	27-22	II	9	鐵鉻若干	白 黄 灰 褐 灰	表面面：無文・裏面：磨き	炭化物付着
712	885	20-8	II	9	石英粗粒粒や多量	白 黄 灰 褐 灰	表面面：無文	
713	8420	28-26	IV	9	細砂粒や多量	白 黄 灰 褐 灰	表面面：無文	
714	5088	19-8	II	9	石英細粒多量・粗 砂粒若干	白 黄 灰 褐 灰	表面面：無文	
715	196	28-14	I	9	鐵鉻若干、雲母細 粒多量	白 灰 黑 褐 灰	表面面：無文	
716	914	19-8	II	8	石英粗粒粒や多量 細砂粒多量	白 黄 灰 褐 灰	表面面：磨く浅い条痕文	
717	155	27-10	I	9	雲母微粒多量	白 黄 灰 褐 灰	口唇部削目文・裏面面：無文	深鉢口縁部
718	4251	26-29	II	8	鐵鉻、石英粗粒粒 や多量	白 黄 灰 褐 灰	表面面：浅い条痕文	
719	4954	28-27	II	9	雲母粗粒粒多量	白 黄 灰 褐 灰	表面面：無文	
720	3935	26-23	II	9	雲母微粒粒や多量	白 黄 灰 褐 灰	表面面：無文	
721	3807	26-21	II	9	細砂粒や多量	白 黄 灰 褐 灰	表面面：無文・裏面：精緻な磨き	
722	5509	18-10	II	9	石英粗粒、雲母細 粒多量	白 黄 灰 褐 灰	表面面：無文	
723	6163	23-5	II	9	石英粗粒、雲母微 粒や多量	白 黄 灰 褐 灰	表面面：無文	
724	4473	26-22	II	9	雲母微粒、細砂粒 多量	灰 褐	表面面：無文	
725	3970	27-24	II	9	雲母細粒粒多量	白 黄 灰 褐 灰	表面面：無文	
726	6152	22-5	II	9	細砂粒若干	白 黄 灰 褐 灰	表面面：無文	
727	4884	25-25	II	9	石英細粒粒や多量	褐 灰	表面面：無文	深鉢口縁部 炭化物付着
728	4495	25-22	II	9	雲母、石英細粒若 干	白 黄 灰 褐 灰	表面面：磨き	
729	6455	20-9	IV	9	細砂粒若干	白 黄 灰 褐 灰	表面面：磨き	
730	2509	25-21	II	9	雲母細粒粒多量	白 黄 灰 褐 灰	表面面：無文	深鉢口縁部
731	913	19-8	II	9	雲母粗粒多量	白 黄 灰 褐 灰	表面面：無文	
732	6108	26-6	II	9	石英粗粒粒、雲母 微粒粒や多量	白 黄 灰 褐 灰	表面面：無文	炭化物付着
733	4097	27-26	II	9	石英細粒粒や多量	白 黄 灰 褐 灰	表面面：無文	
734	5368	23-6	II	9	石英粗粒粒多量、 雲母微粒粒や多量	白 黄 灰 褐 灰	表面面：無文	
735	675	20-6	I	9	石英細粒粒や多量	白 黄 灰 褐 灰	表面面：無文	
736	4391	26-31	II	9	鐵鉻若干、石英粗 粒や多量	灰 褐	口唇部削目文・裏面面：無文	深鉢口縁部
737	1314	18-6	II	9	石英粗粒粒や多量	灰 褐	表面面：無文	炭化物付着
738	5631	19-9	II	9	雲母細粒粒や多量	灰 褐	表面面：磨き	

表一九 土器観察表 (19)

図号	形態	地区	編	分類	陶 土	色 調	内調査の文様等	備考
739		28-16	II	10-a ₁	織繩、石英微粒多量	表面：灰赤 底：灰 にぼい程	口唇部斜面：織文O段多条LR(網) 裏面：粗い条痕文	深鉢口縁～ 腹部・灰化物
740	3317	25-21	II	10	織繩、石英細粒多量	表面：灰 底：灰 にぼい程	内調査：織文LR・裏面：太い条痕文	
741	5923	23-9	II	10	織繩、石英粗粒細粒多量	表面：灰 底：灰 にぼい程	内調査：織文LR・裏面：条痕文	
742	37	26-11	I	10	織繩多量、石英粗粒若干	表面：灰 底：灰 にぼい程	表面：織文O段多条LR、裏面：条痕文+織繩	加熱痕
743	6482	22-8	IV	10	織繩多量、石英粗粒若干	表面：灰 底：灰 にぼい程	内調査：織文RL・裏面：条痕文	
744		24-25	II	8	織繩、石英粗粒若干	にぼい赤褐	表面：条痕文	
745	6166	23-5	II	10	織繩、石英粗粒多量	表面：灰赤 底：灰 にぼい程	表面：織文O段多条LR、裏面：条痕文	
746	5487	19-10	II	10	織繩、石英粗粒若干	表面：灰 底：灰 にぼい程	表面：織文LR・裏面：浅い条痕文	
747	6188	24-5	II	10	織繩多量、石英粗粒若干	表面：灰 底：灰 にぼい程	表面：織文O段多条LR、裏面：条痕文	
748	6462	21-9	IV	10	織繩、石英粗粒若干	表面：灰 底：灰 にぼい程	表面：織文LR？裏面：浅い条痕文	
749	5182	19-8	II	10	織繩多量	にぼい程	表面：織文LR、裏面：条痕文	
750	3912	5-5-5 S X 3	F	10	織繩、石英細粒多量	表面：灰赤 底：灰 にぼい程	表面：格子状質壁条痕文、裏面：口唇部織文し	深鉢口縁部
751	3535	27-26	II	10	織繩、石英粗粒多量	表面：灰 底：灰 にぼい程	表面：織文O段多条LR、裏面：粗い条痕文	加熱痕
752	3307	25-21	II	10	織繩、粗砂粒多量	表面：灰 底：灰 にぼい程	表面：織文O段多条LR、裏面：粗い条痕文	
753	1023	19-6	II	10	織繩、石英細粒多量	表面：灰 底：灰 にぼい程	表面：織文RL、裏面：条痕文	
754	3341	25-22	II	10	織繩多量、石英粗粒若干	表面：灰 底：灰 にぼい程	表面：織文LR、裏面：条痕文	
755		28-16	II	10	織繩多量、石英粗粒若干	にぼい赤褐	表面：織文LR、裏面：浅い条痕文+織縫痕	灰化物付着
756	5429	23-8	II	10	織繩、石英粗粒若干	表面：灰 底：灰 にぼい程	表面：織文RL、裏面：浅い条痕文	
757	2165	26-17	II	10	織繩多量、石英粗粒若干	表面：灰 底：灰 にぼい程	表面：織文LR、裏面：浅い条痕文	加熱痕
758		25-21 S X 3	F	10	織繩多量、石英粗粒若干	表面：灰 底：灰 にぼい程	表面：織文LR、裏面：条痕文	
759		20-14	II	10	織繩多量、粗砂粒若干	表面：灰 底：灰 にぼい程	表面：織文L、裏面：浅い条痕文	
760		20-9 (14?)	II	10	織繩、粗砂粒多量	表面：灰 底：灰 にぼい程	表面：織文RL、裏面：浅い条痕文	
761	3817	26-21	II	10	織繩多量、石英粗粒若干	にぼい青褐	表面：織文LR、裏面：条痕文	
762	6119	21-6	II	10	織繩多量、石英粗粒若干	表面：灰 底：灰 にぼい程	表面：織文O段多条LR、裏面：条痕文	
763	3329	25-22	II	10	織繩、石英粗粒多量	表面：灰 底：灰 にぼい程	表面：織文LR、裏面：条痕文	灰化物付着
764	1108	20-8	II	10	織繩や少々、織縫多量	表面：灰 底：灰 にぼい程	表面：織文L、結節部軸文L、裏面：条痕文	
765	6150	24-5	II	10-a ₂	織繩多量、石英粗粒や少々	表面：灰 底：灰 にぼい程	表面：条痕文O段多条RL、横位支管、斜半管竹平行弦紋文。裏面：条痕文+織縫痕	灰化物付着
766	3326	25-22	II	10	織繩多量、粗砂粒若干	表面：灰 底：灰 にぼい程	表面：織文LR、裏面：浅い条痕文	
767	3328	25-22	II	10	織繩や少々、石英粗粒多量	表面：灰 底：灰 にぼい程	表面：織文LR、裏面：浅い条痕文	
768	1454	19-7	II	10	織繩多量、石英粗粒若干	表面：灰 底：灰 にぼい程	表面：織文LR、裏面：浅い条痕文+織縫痕	
769	2144	26-16	II	10	織繩、粗砂粒多量	表面：灰 底：灰 にぼい程	表面：織文LR、裏面：浅い条痕文	
770	2980	26-29	II	10	織繩多量、粗砂粒若干	表面：灰 底：灰 にぼい程	表面：織文LR、裏面：浅い条痕文+織縫痕	
771	1483	26-6	II	10	織繩、石英細粒多量	表面：灰 底：灰 にぼい程	表面：織文O段多条LR、裏面：条痕文+織縫痕	
772	5777	21-8	II	10	織繩、石英細粒、織縫粗粒多量	にぼい程	表面：織文LR、裏面：条痕文	
773	4999	27-29	II	10	織繩多量、石英細粒、粗砂粒や少々	表面：灰 底：灰 にぼい程	表面：織文LR、裏面：条痕文+織縫痕	
774	1280	23-6	II	10	織繩や少々、石英細粒	にぼい程	表面：織文O段多条LR、裏面：条痕文	
775	1444	18-7	II	10	織繩多量、石英粗粒若干	表面：灰 底：灰 にぼい程	表面：無結合羽状捲文RL、L.R、裏面：条痕文	
776	426	25-16	I	10	織繩、石英粗粒多量	表面：灰 底：灰 にぼい程	表面：織文RL、裏面：条痕文	加熱痕
777	4167	27-26	II	10	織繩、石英粗粒多量	表面：灰 底：灰 にぼい程	表面：織文LR、裏面：浅い条痕文	加熱痕
778	6504	24-6	IV	10	織繩多量、雷母微粒若干	表面：灰 底：灰 にぼい程	表面：織文LR、裏面：浅い条痕文	円盤状土製品?
779		18-19	II	10	織繩や少々、石英粗粒多量	にぼい程	表面：織文RL、裏面：条痕文	

表-20 土器観察表 (20)

団No	登録No	地区	層	分類	胎 土	色 調	表裏面の文様地	箇 号	
780			21-7	II	10	織維、石英粗粒 多量	表：灰褐色 裏：灰褐色	表面：縞文LR・裏面：太い条痕文	炭化物付替
781	5662		21-8	II	10	織維多量・石英粗 粒やや多	にぼい・赤褐色	表面：縞文LR・裏面：細な条痕文	
782	6531		21-9	IV	10	織維多量・石英粗 粒やや多	表：褐 裏：にぼい・橙	表面：縞文LR・裏面：太い条痕文	炭化物付替
783	3365		25-21	II	10	織維多量	表：褐 裏：にぼい・橙	表面：縞文O段多条LR・裏面：浅い条痕文	
784	2317		24-15	II	10	織維多量・石英粗 粒多量	にぼい・橙	表面：縞文LR・裏面：太い条痕文	
785	5306		22-3	II	10	織維やや多・寶母 粒少量	にぼい・赤褐色	表面：縞文LR・裏面：浅く太い条痕文	
786	2253		25-10	II	10	織維多量・石英粗 粒少量	表：褐 裏：にぼい・橙	表面：縞文LR・裏面：浅く太い条痕文	
787	6414		28-25	IV	10-a	織維多量・石英粗 粒多量	灰褐色	表面：地文縞文LR・平行網状縞文・裏面：浅 い条痕文	
788	2649		25-23	II	10	織維多量・細砂粒 やや多	にぼい・橙	表面：縞文O段多条LR・裏面：浅い条痕文+ 網状縞文	
789		S X 3	P	10	織維多量・石英粗 粒多量	表：にぼい・橙 裏：にぼい・赤褐色	表面：縞文RL・裏面：太い条痕文		
790	668	19-6	I	10	織維多量・石英粗 粒少量	表：明褐色 裏：灰褐色	表面：縞文LR・裏面：条痕文		
791	2272	28-16	II	10	織維やや多・石英 粗粒若干	表：灰褐色 裏：灰褐色	表面：無筋底羽状縞文LR・裏面：条痕文		
792	3829	25-21	II	10	織維多量・石英粗 粒若干	表：にぼい・橙 裏：灰褐色	表面：縞文LR・裏面：浅い条痕文		
793	2813	28-24	II	10	織維多量・石英粗 粒や少	にぼい・橙	表面：縞文LR・裏面：太く浅い条痕文		
794	2684	24-15	II	10	織維多量・石英細 粒や少	表：にぼい・青褐色 裏：にぼい・青褐色	表面：縞文LR・裏面：太く浅い条痕文	深鉢口縫部	
795	1278	23-6	II	10	織維多量・石英細 粒若干	にぼい・赤褐色	表面：縞文O段多条RL・裏面：太い条痕文		
796	1839	26-15	II	10	織維多量・石英粗 粒やや多	表：褐 裏：灰褐色	表面：縞文O段多条LR・裏面：太い条痕文	炭化物付替	
797	664	19-6	I	10	織維多量	表：褐 裏：灰褐色	表面：縞文RL・裏面：条痕文		
798	3799	28-21	II	10	織維多量・石英粗 粒少	表：灰褐色 裏：正整擗文	表面：縞文O段多条RL・裏面：浅い条痕文	加熱痕	
799	6235	21-7	II	10	織維多量・石英粗 粒多量	表：にぼい・橙 裏：灰褐色	表面：条痕文・裏面：浅い条痕文		
800	1175	21-7	II	10	織維多量・石英粗 粒やや多	表：褐 裏：灰褐色	表面：縞文LR・裏面：浅く太い条痕文		
801	2143	28-16	II	10	織維やや多・粗砂 粒少	灰褐色	表面：縞文RL・裏面：条痕文		
802		18-19	II	10	織維若干・石英粗 粒・粗砂粒多量	にぼい・橙	表面：縞文RL・裏面：浅い条痕文		
803	6475	21-8	IV	10	織維・石英粗粒 粗砂粒多量	表：明褐色 裏：にぼい・赤褐色	表面：縞文LR・裏面：浅い条痕文		
804	3922	28-23	II	10	織維若干・石英 粗砂粒多量	表：灰褐色 裏：浅黄褐色	表面：正整擗文文R・裏面：浅い条痕文		
805	6237	21-3	II	10	織維・石英粗粒 多量	表：棕 裏：にぼい・橙	表面：正整擗文文R・裏面：浅い条痕文		
806		25-15	II	10	織維多量・細砂粒 やや多	表：棕 裏：灰褐色	表面：縞文LR・裏面：浅く太い条痕文		
807	3375	25-20	II	10	織維・雲母微粒多 量	表：棕 裏：灰褐色	表面：縞文RL・裏面：条痕文		
808	6289	23-7	II	10	織維多量・石英粗 粒若干	表：棕 裏：灰褐色	表面：縞文RL・裏面：条痕文	炭化物付替	
809	664	19-5	I	10	織維やや多	表：にぼい・橙 裏：灰褐色	表面：縞文RL・裏面：条痕文		
810	1087	24-4	II	10	織維若干・雲母微 粒少	明褐色	表面：縞文LR・裏面：浅い条痕文		
811	4751	27-20	II	10	織維やや多・石英 粗粒若干	表：明褐色 裏：灰褐色	表面：縞文LR・裏面：太く細い条痕文		
812	3253	26-21	II	10	織維多量・細砂粒 やや多	表：褐 裏：にぼい・橙	表面：縞文LR・裏面：浅い条痕文		
813	4667	26-28	II	10	織維多量・石英粗 粒若干	表：褐 裏：明褐色	表面：縞文LR・裏面：太い条痕文		
814	568	19-8	I	10	織維多量	表：褐 裏：灰褐色	表面：縞文RL・裏面：粗い条痕文		
815	3246	26-22	II	10	織維多量・石英微 粒若干	表：棕 裏：にぼい・橙	表面：縞文RL・裏面：太い条痕文		
816	2472	27-20	II	10	織維多量・石英微 粒若干	表：棕 裏：灰褐色	表面：縞文LR・裏面：粗い条痕文	深鉢尖底部	
817	1564	22-5	II	10	織維多量・石英粗 粒やや多	表：にぼい・青褐色 裏：灰褐色	表面：縞文O段多条LR・裏面：浅い条痕文	深鉢尖底部	
818	4515	25-26-23	II	10	織維多量・石英粗 粒やや多	表：棕 裏：灰褐色	表面：縞文L?・裏面：浅く太い条痕文	炭化物付替	
819		25-17	II	11	織維多量・粗砂粒 やや多	表：灰褐色 裏：灰褐色	表面：縞文LR		
820	4376	26-31	II	11	織維多量・石英粗 粒やや多	表：にぼい・橙 裏：灰褐色	表面：縞文LR		

表-21 土器観察表 (21)

登録番号	地区	層	分類	胎	土	色	調	表面の文様他	備考
821 6248	21-8	II	11	織維多量・細砂粒	土	青褐色	無	表面：縞文L.R.・裏面：縞文R.L?	
822	25-17	II	11	織維多量・粗砂粒	土	灰褐色	無	表面：縞文L.R	加熱痕
823 3169	26-21	II	11	織維やや多・石英	土	灰褐色	無	表面：縞文L.R	
824 4305	25-29	II	11	織維多量・細砂粒	土	暗褐色	無	表面：縞文L.R	
825	25-17	II	11	織維多量・石英粗	土	灰褐色	無	表面：縞文L.R	
826 443	18-7	I	11	織維多量・石英粗	土	暗褐色	無	表面：縞文L.R.・裏面：縞文L.R	
827	25-16	II	11	織維多量・細砂粒	土	灰褐色	無	表面：縞文L.R	
828 4639	27-27	II	11	織維多量・石英粗	土	灰褐色	無	表面：縞文L.R	
829 536	20-8	I	11	織維多量・細砂粒	土	灰褐色	無	口唇部刻凹文・表面：縞文L.R	深鉢口縁部
830 620	18-7	I	11	織維多量・石英粗	土	灰褐色	無	表面：正彌掛辛文R・裏面：縞文L.R	
831 1125	20-8	II	12	織維多量・石英粗	土	灰褐色	無	表面：正彌掛辛文R	
832 5902	22-5	II	12	織維多量・石英粗	土	灰褐色	無	表面：正彌掛辛文L	泥化物付着
833 4193	26-27	II	11	織維多量・細砂粒	土	灰褐色	無	表面：縞文L.R	
834 4504	25-22	II	11	織維多量・細砂粒	土	灰褐色	無	表面：縞文L.R	
835 1123	20-8	II	12	織維多量・石英粗	土	灰褐色	無	表面：正彌掛辛文R	
836 3526	28-26	II	13-2	織維多量・石英粗	土	灰褐色	無	表面：結束羽状縞文L.R.・R.L.・裏面：織維擦痕	
837 6382	19-8	IV	13-2	織維やや少	土	灰褐色	無	口唇部・表面：正彌掛辛文L・裏面：織維擦痕	深鉢口縁部
838 5840	20-9	II	13-2	織維多量・石英粗	土	灰褐色	無	表面：正彌掛辛文R	
839 3885	26-22	II	13-2	織維多量・石英粗	土	灰褐色	無	表面：正彌掛辛文L.R.・R.L.・裏面：織維擦痕	
840	24-30	II	13-2	織維多量・石英粗	土	灰褐色	無	表面：正彌掛辛文R	深鉢口縁部
841 5864	21-8	II	13-2	織維多量・石英粗	土	灰褐色	無	表面：正彌掛辛文L.R.・R.L.・裏面：織維擦痕	
842 2584	26-22	II	13-2	織維多量・石英粗	土	灰褐色	無	表面：正彌掛辛文L.R.・R.L.・裏面：織維擦痕	
843 5251	21-8	II	13-2	織維多量・石英粗	土	灰褐色	無	表面：正彌掛辛文L.R.・R.L.・裏面：織維擦痕	深鉢口縁部
844 4852	25-22	II	13-2	織維多量・石英粗	土	灰褐色	無	表面：正彌掛辛文L.R.・R.L.・裏面：織維擦痕	
845 5842	20-9	II	13-2	織維多量・石英粗	土	灰褐色	無	表面：正彌掛辛文R	深鉢口縁部
846 218	25-14	I	13-2	織維多量・石英粗	土	灰褐色	無	表面：正彌掛辛文R	
847 4935	28-27	II	13-2	織維多量・石英粗	土	灰褐色	無	表面：縞文L.R.・裏面：織維擦痕	
848 1301	19-8	II	13-2	織維多量・細砂粒	土	灰褐色	無	表面：無結束羽状縞文L.R.・R.L.・裏面：織維擦痕	
849 3286	25-21	II	13-2	織維多量・細砂粒	土	灰褐色	無	表面：縞文L.R.・裏面：織維擦痕	深鉢口縁部
850 5288	24-7	II	13-2	織維多量・石英粗	土	灰褐色	無	表面：縞文O段多条L.R.	表面：織維擦痕
851 5325	22-7	II	13-2	織維多量・石英粗	土	灰褐色	無	表面：縞文O段多条L.R.	裏面：織維擦痕
852	23-31	II	13-2	織維多量・石英粗	土	灰褐色	無	表面：無結束羽状縞文L.R.・R.L	
853 6339	23-9	IV	13-2	織維多量・石英粗	土	灰褐色	無	表面：縞文L.R.・裏面：磨き	
854	25-17	II	13-2	織維多量・雲母微	土	灰褐色	無	表面：縞文L.R	
855 5165	20-9	II	13-2	織維多量・石英粗	土	灰褐色	無	表面：O段に撚りの無い原体を用いた直前段多	
856 5382	23-7	II	13-2	織維多量・細砂粒	土	灰褐色	無	表面：縞文O段多条L.R	
857	25-15	II	13-2	織維多量・石英粗	土	灰褐色	無	表面：縞文R.L.・裏面：磨き	
858 5982	18-10	II	13-2	織維多量・細砂粒	土	灰褐色	無	表面：無結束羽状縞文L.R.・R.L	
859 6000	18-10	II	13-2	織維多量・石英粗	土	灰褐色	無	表面：無結束羽状縞文L.R.L (縫・接)	
860 6207	25-4	II	13-2	織維多量・石英粗	土	灰褐色	無	表面：地文調文L.R.・沈線文	
861 1880	18-10	II	13-2	織維多量・細砂粒	土	灰褐色	無	表面：無結束羽状縞文L.R.R.L	

表-22 土器観察表 (22)

図No.	測量No.	地区	層	分類	胎	土	色調	表面の文様	裏面の文様	備考
862	5540	18-11	II	13-#	織維多量・石英粗粒や少多		青: にぼい赤褐色 黒: にぼい黒	表面: 織文し R L	裏面: 織文し R L	
863	2320	24-15	II	13-#	織維や少多・石英粗粒や少多		青: にぼい緑 黒: にぼい黒	表面: 織文 O 形多条し R - 表面: 廓 #	裏面: 廓 #	
864	2208	27-19	II	13-#	織維多量・石英粗粒、細砂粒多量		青: にぼい緑 黒: にぼい黒	表面: 地文織文 L R L - 裏面: 精緻な縞き	裏面: 地文織文 L R L	
865	2581	29-23	II	13-#	織維多量・石英粗粒、細砂粒多量		青: にぼい緑 黒: にぼい黒	表面: 地文織文 L R L	裏面: 地文織文 L R L	
866	6084	19-6	II	13-#	織維多量・石英粗粒少多量		青: にぼい緑 黒: にぼい黒	表面: 地文織文 L R L	裏面: 地文織文 L R L	
867	4469	25-21	II	13-c	織維や少多・石英粗粒少量		青: にぼい緑 黒: にぼい黒	表面: 亂層末端ループ文	裏面: 亂層末端ループ文	
868	1317	18-9	II	13-c	織維多量・石英粗粒少量		青: にぼい緑 黒: にぼい黒	表面: 亂層末端ループ文 - 裏面: 粗い縞き	裏面: 粗い縞き	
869	1872	18-19	II	13-c	織維や少多・石英粗粒多量		青: にぼい緑 黒: にぼい黒	表面: 亂層末端ループ文	裏面: 亂層末端ループ文	
870	5448	18-19	II	13-c	織維多量・細砂粒多量		青: にぼい緑 黒: にぼい黒	表面: 亂層末端ループ文	裏面: 亂層末端ループ文	深鉢口跡部
871	25-21	S X 3	F	13-c	織維や少多・石英粗粒多量		灰黄褐	表面: 亂層末端ループ文	裏面: 亂層末端ループ文	
872	4599	27-26	II	13-c	織維や少多・石英粗粒、細砂粒多量		灰褐	表面: 亂層末端ループ文	裏面: 亂層末端ループ文	
873	4133	26-25	II	13-c	織維や少多・石英粗粒や少多		灰黄褐	表面: 亂層末端ループ文	裏面: 亂層末端ループ文	
874		18-30	II	13-c	織維や少多・粗砂粒、織母粒粗粒多量		青: にぼい緑	表面: 地文織文 O L + 亂層末端ループ文	裏面: 地文織文 O L + 亂層末端ループ文	深鉢口跡部
875	5172	20-9	II	13-c	織維や少多・粗砂粒多量		青: にぼい緑 黒: にぼい黒	表面: 亂層末端ループ文	裏面: 亂層末端ループ文	
876	1902	18-11	II	13-c	織維多量・石英粗粒多量		青: にぼい緑 黒: にぼい黒	表面: 地文織文 O L + 亂層末端ループ文	裏面: 地文織文 O L + 亂層末端ループ文	
877	533	20-8	II	13-c	織維多量・粗砂粒多量		青: にぼい緑	表面: 多段ループ文	裏面: 多段ループ文	
878	401	25-11	I	13-#	織維少多・石英粗粒少多量		青: にぼい赤褐	表面: 多輪結合全体	裏面: 多輪結合全体	
879	3842	25-21	II	13-#	織維多量・石英粗粒少多量		青: にぼい緑	表面: 不整織系文	裏面: 不整織系文	
880	739	22-5	I	13-#	織維多量・石英粗粒多量		青: にぼい緑	表面: 正型織糸文 ? - 裏面: 織縫擦痕	裏面: 正型織糸文 ? - 裏面: 織縫擦痕	
881	5372	23-6	II	13-#	織維多量・石英粗粒多量		青: にぼい緑	表面: 結織回転文 L	裏面: 結織回転文 L	
882	5169	20-9	II	13-#	織維多量・石英粗粒少量		青: にぼい緑 黒: 淡黄褐	表面: 真瓦状撚糸文 R	裏面: 真瓦状撚糸文 R	泥化物付着
883	852	20-9	II	13-#	織維や少多・石英粗粒多量		青: にぼい緑	表面: 真瓦状撚糸文 R	裏面: 真瓦状撚糸文 R	泥化物付着
884	1499	21-5	II	13-#	織維多量・石英粗粒や少多		青: にぼい緑 黒: 淡黄褐	表面: 結織回転文 L	裏面: 結織回転文 L	加熱痕
885	2329	23-15	II	13-#	織維少多・石英粗粒少多量		青: にぼい緑	表面: S字状連織糸文	裏面: S字状連織糸文	
886	5226	21-7	II	13-#	織維少多量・石英粗粒少多量		青: にぼい緑 黒: 淡黄褐	表面: 細織回転文 L R	裏面: 細織回転文 L R	
887		25-21	F	13-#	織紋少多量・石英粗粒少多量		青: にぼい緑	表面: 細織回転文 L R	裏面: 細織回転文 L R	
888	5161	20-9	II	13-#	織維多量・石英粗粒少多量		青: にぼい緑 黒: 淡黄褐	表面: 寸瓦状撚糸文 R	裏面: 寸瓦状撚糸文 R	加熱痕
889	1913	18-12	II	13-#	織維や少多・石英粗粒多量		青: 明るい黒褐色 黒: 黒褐色	表面: 細目状撚糸文 ?	裏面: 細目状撚糸文 ?	
890	5897	22-8	II	13-#	織維多量・石英微粒少多量		青: にぼい緑 黒: 黒褐色	表面: S字状連織糸文文・織縫擦痕	裏面: S字状連織糸文文・織縫擦痕	
891	3679	26-30	II	13-#	織維や少多・織目微粒少多量		青: 明るい緑 黒: にぼい緑	表面: S字状連織糸文文	裏面: S字状連織糸文文	
892	6367	18-10	IV	13-#	織維若干・石英粗粒少多量		青: にぼい緑 黒: にぼい緑	表面: S字状連織糸文文・内面: 廓 #	裏面: S字状連織糸文文・内面: 廓 #	
893		20-12	II	13-#	織維や少多・石英粗粒多量		青: にぼい緑 黒: 黑褐色	表面: S字状連織糸文文・内面: 廓 #	裏面: S字状連織糸文文・内面: 廓 #	加熱痕
894	1870	18-10	II	13-#	石英粗粒多量		青: にぼい緑	表面: S字状連織糸文文	裏面: S字状連織糸文文	
895	4499	25-22	II	13-#	織維や少多・石英粗粒少多量		青: 黑褐色 黒: 明るい黒褐色	表面: S字状連織糸文文	裏面: S字状連織糸文文	
896	5494	19-10	II	13-#	石英粗粒、粗砂粒少多量		青: にぼい緑 黒: 黑褐色	表面: S字状連織糸文文	裏面: S字状連織糸文文	
897	1866	18-10	II	13-#	織維や少多・石英粗粒少多量		青: にぼい緑 黒: 黑褐色	表面: S字状連織糸文文	裏面: S字状連織糸文文	
898	1318	18-9	II	13-#	織維や少多・石英粗粒少多量		青: にぼい緑 黒: 黑褐色	表面: S字状連織糸文文	裏面: S字状連織糸文文	
899	21	27-12	I	13-#	織維や少多・石英粗粒少多量		青: にぼい緑	表面: S字状連織糸文文	裏面: S字状連織糸文文	加熱痕
900	3265	26-21	I	10-b	織維多量・細砂粒や少多		青: にぼい緑 黒: 黑褐色	表面: 織文原体側面圧痕文 L R	裏面: 織文原体側面圧痕文 L R	
901	5497	19-10	I	10-b	織維多量・石英微粒少多量		青: にぼい緑 黒: 黑褐色	表面: 織文原体側面圧痕文 L R + 織縫擦痕	裏面: 織文原体側面圧痕文 L R + 織縫擦痕	
902	3308	25-21	I		織維多量・石英粗粒や少多		青: にぼい緑 黒: 黑褐色	表面: 地文条痕文	裏面: 地文条痕文	

表-23 土器観察表 (23)

図No.	登録No.	地点	層	分類	胎	土	色	陶	裏面の文種	備考
903	5881	21-8	II	10-b	織維多量・細砂粒多量	灰褐色	にぼい黒	表文: 地文横線文・織維面 裏面: 地文原体側面圧痕文し・裏面: 半載竹管透印	深鉢口縁部	
904		24-31	II	10-b	織維多量・石英微粒や少量	灰褐色	にぼい黒	表文: 地文原体側面圧痕文し		
905	1237	23-7	II	10-b	織維多量・石英粗粒多量	灰褐色	にぼい黒	表文: 地文原体側面圧痕文し	加熱痕	
906		25-15	II	10-b	織維多量・石英微粒や少量	灰褐色	にぼい黒	表文: 地文横線文+織維透印 裏面: 地文原体側面圧痕文R		
907	4991	26-28	II		織維若干・石英粗粒や少量	灰褐色	表文: 地文横線文+段多量し文 裏面: 横走多段+半載竹管透印文文・裏面: 地文L R			
908	4625	28-27	II	13-a	織維や多量・石英粗粒多量	灰褐色	にぼい黄褐色	表文: 八字横捺透印文 裏面: 地文原体側面圧痕文	深鉢口縁部	
909	4577	26-25	II	13-a	織維や少量・石英粗粒や少量	灰褐色	にぼい黄褐色	表文: 地文横線文・地文原体側面圧痕文R, L		
910		20-9	II	13-a	織維多量・細砂粒や少量	灰褐色	にぼい黒	表文: 地文横線文・横走多段地文原体側面圧痕文	21号同一個体?	
911	2159	26-17	II		織維多量・石英粗粒や少量	明赤褐	表文: 多段平行・弧状透印文			
912		25-32	II	13-b	織維多量・石英粗粒多量	褐灰	表文: 横走多段透印剥削文			
913	1652	19-10	II	13-a	織維多量・細砂粒や少量	灰褐色	にぼい黒	表文: 地文横線文L R・短柱透印文・横走多段透印文	深鉢口縁部	
914	2471	27-26	II	13-f	織維や少量・石英粗粒多量	にぼい黄褐色	表文: 先端の鋸刃状工具による多段剥削穴点文	深鉢口縁部 加熱痕		
915	3009	25-29	II	13-f	織維多量・石英粗粒多量	にぼい赤褐色	表文: 棒状工具による網突列点文	深鉢口縁部 炭化物付着		
916	4768	27-20	II	13-f	織維多量・石英粗粒や少量	灰褐色	表文: 斜段多段平行沈線文・裏面: 織維剥離痕			
917	4616	26-26	II	13-f	織維多量・石英粗粒や少量	浅黄褐色	表文: 地文横線文L R・横段剥離+向目文・内側: 織維剥離状ナメ			
918	3721	26-31	II	13-f	織維多量・石英粗粒や少量	にぼい黒	表文: 地文横線文L R・短柱透印文	加熱痕		
919	2012	23-19	II	13-f	織維多量・石英粗粒少量	灰褐色	にぼい黒	表文: 半載竹管斜状沈線文・裏面: 感	加熱痕・裏面炭化物付着	
920	2726	23-19	II	13-f	織維多量・石英粗粒多量	灰褐色	にぼい黄褐色	表文: 横走多段平行沈線文	深鉢口縁部	
921	3343	25-22	II	13-f	織維多量・石英粗粒少量	灰褐色	にぼい黄褐色	表文: 横走多段平行沈線文・裏面: 感	加熱痕	
922	4764	27-20	II	13-f	織維や少量・石英粗粒多量	灰褐色	にぼい赤褐色	表文: 地文横線文L R・波状平行沈線文	深鉢口縁部	
923	3912	25-22	II	13-f	織維や少量・石英粗粒多量	褐灰	表文: 斜段平行沈線文	加熱痕		
924	4332	27-30	II	13-f	竹尖脱粒・雪面細粒多量	にぼい黒	表文: 竹管円形透洞剥突文			
925	1946	19-10	II	13-f	織維多量・石英粗粒多量	明赤褐	表文: 横走平段竹管多段平行沈線文	深鉢口縁部 +加熱痕		
926		25-15	II	13-f	織維多量・石英微粒多量	灰褐色	表文: 斜段沈線文	加熱痕		
927	1900	18-11	II	13-f	織維や少量・細砂粒若干	灰褐色	にぼい黒	表文: 短柱透印沈線文	加熱痕	
928	4702	28-28	II	13-f	織維多量・石英粗粒少量	黑褐色	表文: 「状多段平行沈線文」・裏面: 織維剥離状ナメ	加熱痕		
929	5007	27-29	II	13-f	織維多量・石英粗粒多量	褐色	表文: 半載竹管沈線文	加熱痕		
930	1395	18-11	II	13-f	織維多量・石英粗粒多量	灰褐色	にぼい赤褐色	表文: 短柱透印L R・半載竹管沈線文・裏面: 短柱透印文	加熱痕	
931	5335	22-7	II	13-f	織維や少量・石英粗粒多量	灰褐色	にぼい黒	表文: 褐広の扁平な工具による網突形沈線文・裏面: 感	深鉢口縁部	
932		18-17	I	13-d	織維若干・石英粗粒少量	灰褐色	表文: 斜走多段平行沈線文・裏面: 振子捲引+向目文	深鉢口縁部 +表根部の一部		
933	5728	23-7	II	13-f	織維若干・石英粗粒多量	にぼい赤褐色	表文: 半載竹管透印引文・裏面: 感	深鉢口縁部 +加熱痕		
934	1724	18-11	II	13-d	織維や少量・粗砂粒や少量	明赤褐	表文: 口縁に添った多段平行沈線文・裏面: 短柱透印+半載竹管透印引文			
935	6330	22-9	IV	13-d	織維多量・石英粗粒少量	黑褐色	表文: 地文横線文L R R・横走多段平行沈線文・裏面: 短柱透印+向目文			
936	6003	18-10	II	13-d	織維や少量・石英粗粒や少量	灰褐色	4段位透印状・裏面: 地文L S伏状透印・裏面: 横走多段+押出文・其次沈線文・円凹切・穿孔	深鉢口縁部 ~加熱痕		
937	6004	18-10	II	13-d	織維や少量・石英粗粒多量	にぼい黄褐色	表文: 半載竹管透印引文・裏面: 地文S字伏状透印点文・調査透印沈線文	深鉢口縁部 +加熱痕		
938	6362	18-10	IV	13-e	石英微粒若干	灰褐色	にぼい黒	表文: 半載竹管透印引文・裏面: 地文S字伏状透印点文・コシバヘ文	口縁部	
939	5893	22-9	II	13-e	織維多量・石英微粒や少量	灰褐色	にぼい黒	表文: 地文横線文O段多量L R L R・半載竹管透印引文・半載竹管透印引文		
940	4625	28-25	II	13-e	織維多量・石英粗粒少量	浅黄褐色	表文: 地文横線文L R R・横走多段竹管透印引文・裏面: 織維透印			
941		28-17	I	14-a	石英微粒若干	灰褐色	にぼい黒	表文: 地文横線文L R・半載竹管透印文	裏面に加熱痕	
942	4176	27-27	II	14-a	石英粗粒多量	にぼい黄褐色	表文: 地文横線文L R L R・棒状工具透印剥突による網突形印文			
943	2615	28-25	II	14-b	石英粗粒多量	にぼい黄褐色	表文: 短柱透印沈線文・裏面: 短柱透印文			

表-24 土器観察表 (24)

図名	登録番号	地区	層	分類	胎	土	色調	表裏面の文様他	備考
944	23-31	II	14-c	石英粗粒多量	明赤陶			波状線・表面：網目状序律文・巻佐細序律文	深鉢口縁部
945	3426	28-24	II	14-b	石英粗粒やや多・粗砂粒多量	にぼい橙		表面：横走平行沈律文・横走山形沈律文	深鉢口縁部
946	5394	23-7	II	15-b	石英粗粒やや多	にぼい橙		表面：地文幾文L R・縱走平行沈律文	
947	6373	19-10	IV	13-e	繊維やや多・石英粗粒多量	表：にぼい赤 裏：白		表面：半載竹管通続坪引文による西状施文	口唇部起?
948	630	18-7	I	15-b	石英粗粒・細砂粒やや多	表：白 裏：灰褐		表面：地文幾文L R・縱走平行沈律文	
949	4396	26-31	II	15-b	細砂粒多量	表：白 裏：灰		表面：地文幾文R L R・縱走平行沈律文	
950		23-27	II	15-b	雲母微粒、細砂粒多量	黒褐		表面：地文幾文R L R・縱走平行沈律文及び弧状 沈律文内側外壁消滅文・裏面：暗き	
951	1485	21-6	II	15-b	細砂粒多量	にぼい黄		表面：横走沈律文・斜走集合次律文	
952	1947	19-10	II	15-b	石英粗粒若干	にぼい黄		表面：地文幾文L R・縱走平行沈律文	
953	1053	20-6	II	15-b	雲母粗粒若干・細 砂粒多量	灰褐		表面：地文不整點点文R ?・弧状沈律文・裏面： 暗き	
954	3373	25-20	II	15-b	雲母粗粒やや多・ 細砂粒多量	にぼい橙		表面：地文幾文P L・横走次律間隔起 線・崩落陶文・裏面：暗き	
955	1535	25-4	II	15-b	石英粗粒やや多	表：白 裏：にぼい橙		表面：地文幾文L R・横走沈律文	
956	1655	19-10	II	15-b	細砂粒やや多	にぼい橙		表面：地文幾文L R・縱走沈律間隔消滅文	深鉢底部
957	5385	23-7	II	15-b	石英粗粒・細砂粒 多量	表：にぼい橙 裏：灰褐		表面：地文幾文R L・縱走平行沈律文	
958		24-30	II	15-b	粗砂粒多量	表：にぼい橙 裏：灰褐		表面：地文捲毛文R・横走沈律文・裏面：暗き	
959	3662	28-29	II	15-b	粗砂粒多量	浅黃		表面：地文幾文R L R・弧状沈律文	
960	2026	21-18	II	15-b	石英細粒・細砂 粒多量	表：灰褐 裏：浅黃		表面：地文幾文L R・縱走平行沈律文	
961	451	19-7	I	15-b	雲母粗粒多量	にぼい黄		表面：地文幾文R L R・縱走平行沈律間隔起 線・裏面：暗き	
962	254	28-18	I	15-b	雲母粗粒多量	にぼい黄		表状跡・表面：地文幾文R L R・弧状起 線・裏面：暗き	NH854号 合 深鉢口縁部
963	543	20-9	I	15-b	石英細粒・雲母 粒やや多	表：灰褐 裏：生黄色		表面：絞文L R	口縁部
964	2838	26-25	II	15-b	石英粗粒多量	表：にぼい橙 裏：白		表面：地文幾文L R・横走沈律文	
965	1230	23-7	II	15-b	石英細粒・細砂粒 多量	表：白 裏：灰		表面：地文不明・弧状起走沈律間隔忍辱文	
966		22-24	II	15-b	雲母粗粒やや多・ 細砂粒多量	浅黃		表面：横走沈律文・裏面：暗き	
967	5033	26-30	II	15-b	雲母粗粒若干・細 砂粒多量	表：にぼい橙 裏：にぼい黄		混合口縫・表面：地文幾文R L・裏面：暗き	口縫部
968	1022	19-7	II	15-b	雲母粗粒やや多	にぼい橙		表面：地文幾文L R・弧状起走沈律間隔起 線・円形凹文・裏面：暗き	
969	5329	22-9	II	15-b	細砂粒やや多	表：反覆 裏：風扇		表面：地文幾文L R(弧状沈律区画内)・弧状 沈律文・崩落陶文・裏面：暗き	深鉢口縫部
970	864	20-8	II	15-b	石英粗粒・細砂粒 多量	表：灰褐 裏：にぼい橙		混合口縫・表面：地文幾文L R・縱走沈律文・崩 落陶文	深鉢口縫部
971		20-10	II	15-b	石英粗粒・細砂粒 多量	椎		近状跡・表面：折頂形下脣位腰帶+円形凹文・ 横走沈律文	深鉢口縫部・加熱或 燒成化
972	3878	26-22	II	16-a	雲母粗粒・細砂 粒多量	表：にぼい橙 裏：椎		表面：櫛状沈律文	表面燒成物 付着
973	3442	28-25	II	16-c	雲母粗粒やや多・ 細砂粒多量	表：にぼい橙 裏：椎		表面：櫛状沈律文	深鉢口縫部
974	1364	18-10	II	16-c	石英粗粒やや多	椎		表面：櫛状沈律文	976同一個 体?
975	1121	20-2	II	16-c	粗砂粒多量	表：灰褐 裏：にぼい橙		表面：櫛状沈律文	
976	539	20-5	I	16-c	粗砂粒多量	にぼい黄		表面：櫛状沈律文	
977	6451	20-5	IV	16-c	石英粗粒・細砂粒 多量	表：浅黃 裏：椎		表面：櫛状沈律文	
978	684	20-5	I	16-b	石英粗粒やや多・ 細砂粒多量	椎		口縫部二叉突起・表面：地文幾文L R・點螺・ 横走平行沈律文・崩落陶文・裏面：暗き	口縫部
979	5446	18-10	II	17-a	石英粗粒・雲母 粗粒若干	にぼい橙		小波状線・表面：玉施三叉状沈律文・横走沈律 文	口縫部
980	1678	18-10	II	17-c	石英微粒・雲母微 粒若干	椎		表面：横走平行沈律文(工字文)・裏面：口縫直下 横走沈律文	口縫部
981	4131	26-26	II	17	細砂粒やや多	にぼい橙		表面：地文幾文L R・横走沈律文・崩落陶文	
982	3266	26-21	II	17	細砂粒若干	表：灰褐 裏：灰褐		表面：地文幾文L R・横走沈律文・崩落陶文	
983	1736	18-11	II	17	石英粗粒やや多	崩灰		表面：地文幾文L (表い崩落)・堆走多段平行 沈律文・裏面：口縫直下横走沈律文・暗き	口縫部
984	919	19-8	II	17-b	石英粗粒やや多	崩灰		表面：地文幾文L (表い崩落)・堆走多段平行 沈律文・裏面：口縫直下横走沈律文・暗き	口縫部・燒成化物付 着

表-25 土器観察表 (25)

図版	年	地区	層	分類	胎	土	色調	表面の文様	備考
985	743	23-7	I	19	石英粗粒、細砂粒 多量	表：褐灰 裏：棕	表面：織文 L R		
986	5310	22-8	II	19	石英粗粒、粗砂粒 多量	表：褐 裏：灰褐色	表面：織文 L R		
987	917	19-8	II	19	石英粗粒やや多 量	表：褐 裏：灰褐色	表面：織文 L R・裏面：稍い擦き		
988	4191	26-27	II	19	粗砂粒やや多 量	表：灰褐色	表面：織文 R L・裏面：稍い擦き		
989	4767	27-20	II	19	石英粗粒、細砂粒 多量	表：灰褐色	折返口縁・表面：織文 R L・裏面：磨き	深鉢口縁部	
990	1345	18-10	II	19	石英粗粒多量	灰褐色	表面：織文 L・裏面：磨き		
991	2057	20-17	II	19	骨母細微粒多量	表：灰褐色	表面：織文 R L R・裏面：磨き		
992	1119	20-8	II	19	石英粗粒、細砂粒 多量	表：灰褐色 裏：灰褐色	表面：織文 L R		
993	450	19-7	I	19	石英粗粒多量	表：灰 裏：棕	表面：織文 L L	深鉢口縁部	
994	1488	21-6	II	19	石英粗粒、細砂粒 多量	表：棕 裏：灰褐色	表面：撚糸文 R		
995	880	20-7	II	19	石英粗粒多量	表：棕 裏：灰褐色	表面：網目状撚糸文 R・裏面：磨き		
996	6178	23-5	II	18-a	石英粗粒若干。骨 母細微粒若干。	表：灰褐色	口唇部～表面：地文織文 L R・沈線文・竹管円 形軽突出	深鉢口縁部	
997	1224	22-7	II	18-a	石英粗粒やや多 量	表：灰褐色	表面：半載竹管平行沈線文		
998	432	18-7	I	18-a	石英粗粒、細砂粒 多量	表：灰褐色 裏：明褐色	表面：半載竹管平行沈線文・赤色顔料迷布		
999	6081	19-7	II	18-a	石英粗粒やや多 量	表：褐灰 裏：灰褐色	表面：半載竹管平行沈線文		
1000	616 623	18-7 18-7	I	18-a	石英粗粒やや多 量	表：褐灰 裏：明褐色	表面：半載竹管平行沈線文・同工具による溝状 施文・赤色顔料迷布	脛部	
1001	627	18-7	I	18-b	石英微粒若干	表：明褐色 裏：灰褐色	口唇底面下：半載竹管平行沈線文・溝状施文 ・頭部：平行沈線文・内外面赤色顔料迷布	脛口縫部～ 頭部	
1002	432	18-7	I	18-a	細砂粒やや多 量	表：褐 裏：褐灰	表面：半載竹管平行沈線文		
1003	610	18-7	I	18-b	細砂粒やや多 量	表：褐 裏：褐灰	表面：沈線文		
1004	1075	22-5	II	18-b	石英粗粒やや多 量	表：褐灰 裏：灰褐色	表面：地文織文 L R・比線文		
1005	432	18-7	I	18-b	石英粗粒多量	表：棕	表面：地文織文 L R・沈線文		
1006	2288	18-16	II	20	石英粗粒多量	表：棕	外側：ヘラケツリ		
1007	638	18-7	I	18-b	石英粗粒多量	表：灰褐色 裏：灰褐色	口唇口縫・口唇部：同前文・口縫部：織文 L R ・頭部：比線文	口縫部～頭 部	
1008	637	18-7	I	18-b	石英微粒多量・骨 母微粒若干	表：灰褐色 裏：灰褐色	口唇部：織文 L R・頭部：結節織文 L R	口縫部～頭 部	
1009	5665	21-10	II	20	石英粗粒若干	表：褐 裏：褐灰	外側：タキ	頭部器皿	
1010	*	8	20	石英粗粒若干	表：褐 裏：褐灰	内外面クロク整形	頭部器皿		
1011	5003	27-29	II	20	細砂粒若干	表：褐灰	内外面カキ目	頭部器皿	
1012	5018	28-30	II	20	石英粗粒若干	表：灰 裏：灰白	外側：タキ・自然粒・内面：カキ目	頭部器皿	
1013	15-15	II	20	石英粗粒若干	表：褐灰 裏：灰白	内外面カキ目	頭部器皿		
1014	20-13	II	20	石英微粒やや多 量	表：褐灰	内外面クロク整形	中世陶器壺 ・中世陶器壺 ・中世陶器壺		
1015	24-9 (197)	I	20	細砂粒やや多 量	表：褐灰	内外面クロク整形・内面即目	中世陶器壺 ・中世陶器壺 ・中世陶器壺		
1016	22-12	II	26	石英粗粒やや多 量	表：褐灰 裏：灰褐色	内外面クロク整形・底部ヘラ切	頭部器皿台 付环底部		
1017	3893	25-27	II	-	細砂粒若干	表：褐 裏：灰	内外面クロク整形	中世陶器壺	
1018	23-25	II	-	石英微粒やや多 量	表：棕	内外面ナデ	土師器ミニ チャウ		
1019	4204	28-28	II	-	骨母微粒若干	灰褐色		土玉	
1020	5737	22-8	II	-	纖維多量・石英粒 多量	表：灰褐色 裏：灰	半載竹管沈線文	土罐(織文)	
1021	2689	24-15	II	-	骨母微粒若干	褐灰		土罐	

3 出土した石器、石製品

本遺跡の発掘調査では、16,387点の石器、石製品が出土した。磨製石斧が6点、礫石器が13点、石製品が3点あるが、それ以外は打製石器とその製作に関連する資料である。その内訳は以下のとおりである。石鏃468点、尖頭器38点、石錐80点、石匙40点、石竈242点、搔器50点、削器239点、異型石器5点、ピエスエスキーユ19点、加工痕ある剝片1,113点、石核17点、剝片・碎片14,054点。現地調査の時点では包含層が厚く形成されていたことから、土器型式に見合うまではいかないまでも、大別時期区分位には分けることが可能であると予測して、慎重に記録しながら遺物の取り上げを行ったが、その後の検討により、包含層そのものが二次堆積の可能性が強まった。そのため、各器種の消長、組成の変遷、形態変化等の議論を進めることはできなかった。縄文時代早期から弥生時代後期までのきわめて長い期間に製作・使用・廃棄されたもので一括性はないものと理解できるが、将来の型式学的研究によって、その所属時期が明らかにされることを期待したい。以下に、各器種ごとに分類を中心としてその概要を記す。

石 鏃 (第57~62図 表-26~29 図版34)

出土数は未成品と考えられる一群を含めると468点であり、加工痕ある剝片を除いた打製石器での割合は約40%となる。石材は大半が頁岩であるが、わずかに玉髓質、鉄石英、黒曜石が混る。これらは基部の形態的な差異により大別でき、さらに細分できる。

I類：基部側に抉り込みの入るもの。a₁、a₂、b、c、dに細分される。

a：丸味を帯びた深い抉り込みの入るもの。左右対称形になるa₁(1~8、10、12、14~16)と、片脚となるa₂(9、11、13)がある。a₁が24点、a₂が6点出土している。

b：抉り込みの形は「く」の字状となり、aより浅い(17~42)。57点の出土。

c：半円形のわずかな抉り込みが入る(43、44)。この2点だけである。

d：凹弧状のわずかな抉り込みが入る(45~103)。99点の出土がある。

II類：基部側が直線状をなすもの(104~132)。いわゆる平基鏃であり、99点の出土。

III類：基部側が丸味を帯びて突出する形態となるもの(133~143)。いわゆる円基鏃と把握できるもの。31点の出土がある。

IV類：基部に茎をもつ形態となるもの。いわゆる有茎鏃である。a、bに細分できる。

a：尖頭部の下端が外側に張り出す形態となるもの(144)。1点の出土。

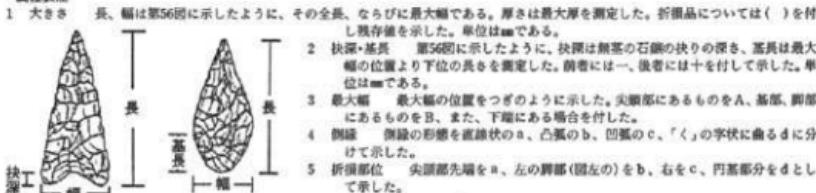
b：尖頭部の下半から丸味を帯びて茎に至るもの(145~148)。4点の出土。

V類：特殊な形態となる石鏃を一括した。149、150は尖頭部中頃で肩を張り、151は木葉形、152は平基であるが細長い尖頭部となる。図示した以外のものはない。

VI類：左右、両側にノッチの入るいわゆるアメリカ型石鏃(153、154)。弥生時代特有の石器である。2点の出土。

VII類：折損して基部の形態が不明なものをVIIa(183)、石鏃の未成品と考えられる一群をVIIb(155～182、184)とした。VIIaは89点、VIIbは50点の出土がある。VIIbの大形のものは平面的には石鏃の小形のものとの区別がつきにくいが、基部側の交互剥離となり石鏃の刃部にはなり得ない。

属性表注



第56回 石鏃模式図

表-26 石鏃属性表(1)

No.	出土区	石材	大きさ(mm)		重さ(g)	形状	基部 形状	折損 部位	分類	辨認	No.	出土区	大きさ(mm)		重さ(g)	形状	基部 形状	分類	辨認								
			長	幅									長	幅													
1	S-II	真岩	(15.0)	12.9	2.9	0.5	-5.5	B	b	d	a	I-a	S-I	25	5-21-I	5-5	18.5	(5.5)	4.5	1.1	-4.5	B	a	a	b	I-b	S-II
2	S-II	真岩	12.3	12.7	2.7	0.4	-8.0	B'	a	a	-	I-a	S-I	25	5-21-II	5-6	18.7	14.3	3.5	0.5	-2.0	B	a	a	-	I-b	S-II
3	S-21-II	#	12.3	(10.0)	4.1	0.7	-4.5	B	a	a	b	I-a	S-II	25	5-20-II	#	18.7	5.5	3.5	0.5	-6.5	B'	b	b	-	I-b	S-II
4	S-II	#	12.9	12.2	3.4	0.6	-9.5	B	b	b	-	I-a	S-I	25	5-21-II	#	20.2	11.3	2.5	0.6	-3.5	B'	a	a	-	I-b	S-II
5	S-II	#	12.6	12.0	2.9	0.6	-7.5	B	d	a	c	I-a	S-I	25	5-21-II	#	20.5	12.2	3.4	0.5	-2.0	B'	b	b	-	I-b	S-II
6	S-II	#	12.6	12.5	2.9	0.6	-7.5	B	d	a	c	I-a	S-I	25	5-21-II	#	22.0	14.5	3.5	0.7	-6.5	B'	a	a	-	I-b	S-II
7	S-II	#	12.1	12.7	4.8	1.7	-5.5	B	a	b	b	I-a	S-I	25	5-21-II	#	22.1	6.0	4.5	0.5	-5.5	B	a	a	b	I-b	S-II
8	S-II	#	12.0	12.6	4.8	0.9	-4.5	B	b	b	a	I-a	S-I	25	5-21-II	#	22.2	10.2	2.6	0.7	-4.5	B	a	a	-	I-b	S-II
9	S-II	#	12.7	12.3	3.7	1.8	-5.5	B'	b	b	-	I-a	S-I	25	5-21-II	#	22.4	14.3	3.5	0.8	-2.5	B	a	a	-	I-b	S-II
10	S-II	#	12.1	12.7	5.7	2.0	-6.5	A	d	d	d	I-a	S-I	25	5-21-II	#	24.5	12.1	3.4	0.7	-2.5	B	a	a	-	I-b	S-II
11	S-II	#	12.6	12.9	4.5	1.4	-2.5	A	b	b	-	I-a	S-II	25	5-21-II	#	25.1	14.4	2.8	0.7	-2.5	B	a	a	-	I-b	S-II
12	S-II	#	12.9	12.8	3.0	1.1	-4.5	B	a	a	-	I-a	S-II	25	5-21-II	#	25.6	2.0	3.5	1.1	-2.5	B	c	a	-	I-b	S-II
13	S-II	#	12.9	12.6	4.5	1.4	-1.6	B	b	a	a	I-a	S-II	25	5-21-II	#	25.8	5.0	4.8	1.7	-6.5	B	a	b	-	I-b	S-II
14	S-II	#	12.6	12.9	5.4	1.6	-6.0	B	b	b	c	I-a	S-II	25	5-21-II	#	25.1	12.1	4.5	1.0	-2.5	B	a	a	-	I-b	S-II
15	S-II	#	12.0	12.0	7.0	1.2	-2	B	c	c	d	I-a	S-II	25	5-21-II	#	25.8	18.3	2.8	1.8	-6.5	B	b	b	-	I-b	S-II
16	S-II	#	12.5	12.0	4.6	2	-	B	a	b	c	I-a	S-II	25	5-21-II	#	25.5	6.5	5.5	1.5	-2.5	B	a	a	c	I-b	S-II
17	S-II	#	12.0	12.0	4.6	0.7	-4.5	B	b	b	a	I-a	S-II	25	5-21-II	#	25.8	10.1	3.2	1.5	-6.5	B	b	b	-	I-b	S-II
18	S-II	#	12.2	12.0	2.3	0.4	-4.5	B	b	b	b	I-a	S-II	25	5-21-II	#	25.9	5.5	4.8	1.5	-2.5	B'	a	a	a	I-b	S-II
19	S-21-II	#	12.0	12.0	3.6	1.6	-8.5	B	b	b	c	I-a	S-II	25	5-21-II	#	26.0	6.5	4.5	2.0	-2.5	B	a	a	c	I-b	S-II
20	S-21-II	#	12.4	12.0	1.5	1.2	-8.5	B	b	b	c	I-a	S-II	25	5-21-II	#	26.1	3.6	3.5	1.5	-2.5	B'	a	a	-	I-b	S-II
21	S-II	#	12.0	12.5	1.9	1.8	-8.5	B	b	b	a	I-a	S-II	25	5-21-II	#	26.3	6.2	3.2	0.8	-2.5	B	a	b	b	I-b	S-II
22	S-II	#	12.0	12.0	2.7	0.2	-8.5	B	a	a	b	I-a	S-II	25	5-21-II	#	26.7	5.0	4.1	1.3	-2.5	B	b	b	a	I-b	S-II
23	SXII	#	12.0	12.0	2.0	0.8	-5.5	B'	c	a	a	I-a	S-II	25	5-21-II	#	26.8	3.5	3.5	1.4	-2.5	B	a	b	a	I-b	S-II
24	ST-II	#	12.0	12.6	3.8	1.2	-9.5	B	b	b	a,c	I-a	S-II	25	5-21-II	#	27.0	8.8	3.8	1.0	-2.5	B	a	b	a	I-b	S-II
25	S-II	#	12.2	12.0	2.3	0.4	-4.5	B	b	b	b	I-a	S-II	25	5-21-II	#	27.0	5.5	4.8	1.5	-2.5	B'	a	a	a	I-b	S-II
26	S-21-II	#	12.0	12.0	3.6	1.6	-8.5	B	b	b	c	I-a	S-II	25	5-21-II	#	27.0	6.0	4.5	2.0	-2.5	B	a	a	c	I-b	S-II
27	S-II	#	12.1	12.7	3.4	0.9	-5.5	B	b	b	b	I-a	S-II	25	5-21-II	#	27.0	6.0	4.6	2.6	-6.5	B	c	a	a,b	I-b	S-II
28	S-II	#	12.6	12.0	2.4	0.5	-4.5	B	a	a	c	I-a	S-II	25	5-21-II	#	27.1	6.5	6.8	1.4	-2.5	B	c	c	a,b	I-b	S-II
29	S-II	#	12.6	12.0	1.5	0.5	-5.5	B	a	a	-	I-a	S-II	25	5-21-II	#	27.8	6.0	3.2	1.7	-2.5	B	a	a	b	I-b	S-II
30	S-II	#	12.0	12.3	2.0	0.4	-5.5	A	b	b	a	I-a	S-II	25	5-21-II	#	27.9	6.0	4.4	1.3	-6.5	B	a	a	b	I-b	S-II
31	S-II	#	12.7	12.4	3.1	0.4	-3.8	B'	a	a	-	I-b	S-II	25	5-21-II	#	28.0	10.0	3.0	1.1	-2.5	B	c	c	a,c	I-b	S-II
32	S-II	#	12.2	12.4	2.4	0.2	-4.5	B'	b	b	-	I-b	S-II	25	5-21-II	#	28.0	6.5	4.5	1.1	-2.5	B	a	a	b	I-b	S-II
33	S-21-II	#	12.0	12.5	4.2	0.6	-15	B'	a	a	a	I-b	S-II	25	5-21-II	#	28.0	12.0	4.0	2.5	-2.5	B	a	a	b	I-b	S-II
34	S-21-II	#	12.0	12.3	3.0	0.5	-4.5	B	b	b	-	I-b	S-II	25	5-21-II	#	28.0	6.5	3.8	0.8	-4.5	B'	a	a	b	I-b	S-II
35	S-II	#	12.1	12.0	1.9	0.6	-5.5	B	a	b	b	I-b	S-II	25	5-21-II	#	28.0	6.0	3.2	0.4	-2.5	B	a	a	b	I-b	S-II

表-27 石鉄属性表 (2)

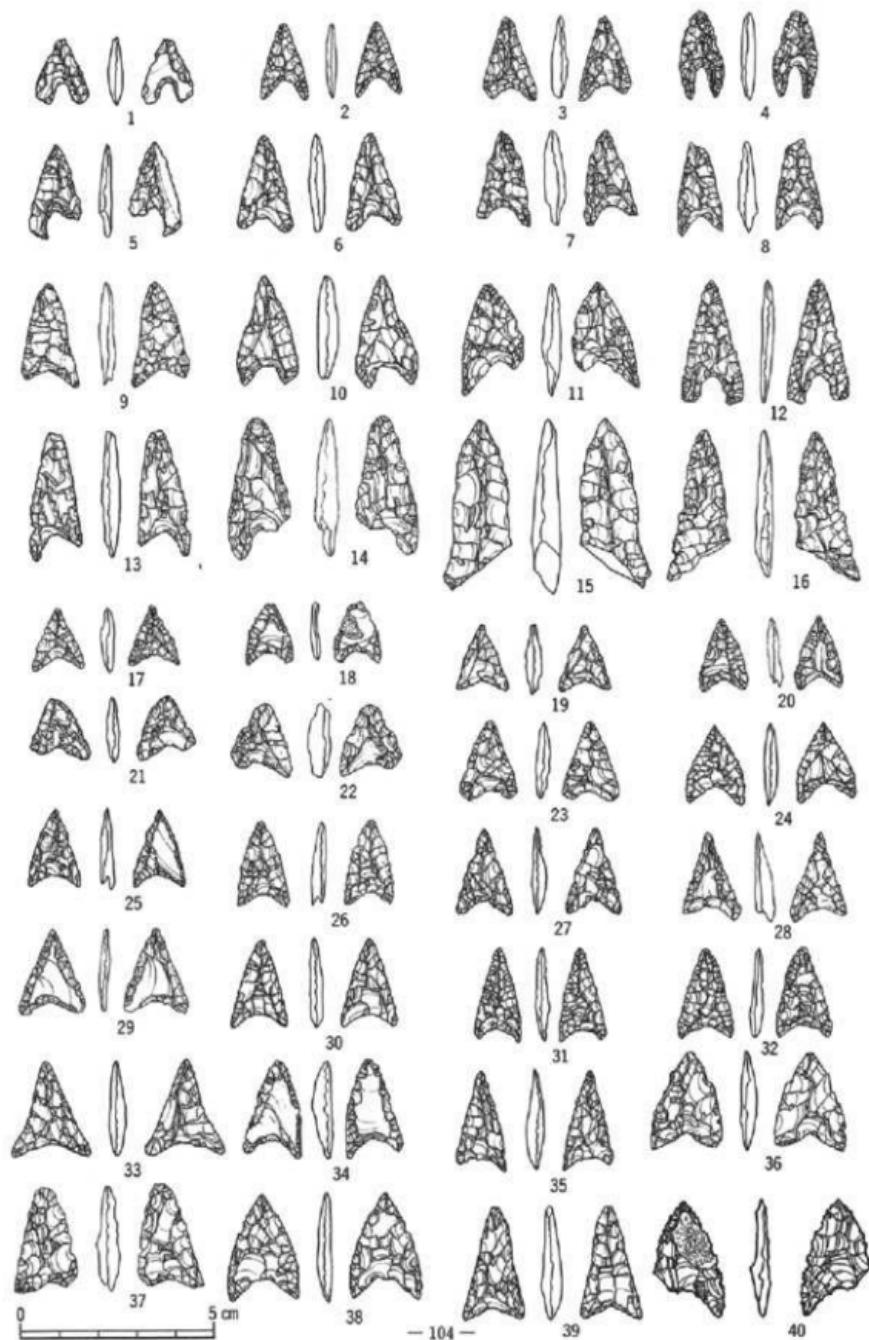
No	出土地区	石材	大きさ(mm)			重量(g)	決済 基準 の 量	他の 寸 法	側 縁 左 右	前 頭 部	分類	採 集 地	No	出土地区	石材	大きさ(mm)			重量(g)	決済 基準 の 量	他の 寸 法	側 縁 左 右	前 頭 部	分類	採 集 地	
			長	幅	厚											長	幅	厚								
5	2-21-I	良質	(3.0)	(14.0)	2.1	0.7	-2.0	B	a	b	ab	lb	17	2-20-III	良質	20.0	11.4	5.3	2.2	-2.7	B	a	n	—	Id	歩道
7	2-30-I	π	3.4	14.0	4.7	1.2	-3.5	B	b	b	—	lb	18	2-21-II	π	29.3	19.7	6.3	7.4	-1.8	B	a	a	—	Id	歩道
13	10-1-I	π	(3.0)	21.0	6.8	2.0	-3.0	B	b	b	a	lb	19	2-11-III	π	31.5	18.1	5.0	2.0	-2.3	B	a	n	—	Id	歩道
24	5-8-1-II	π	(5.0)	(14.0)	2.7	0.8	-2.5	B	b	b	ac	lb	20	5-2-II	π	21.2	11.7	3.0	0.9	-0.5	A	a	a	—	Id	歩道
5	2-21-II	π	21.0	11.0	2.9	0.8	-4.0	B	a	b	—	lb	21	2-21-II	良質	21.3	11.4	4.6	-2.1	A	b	b	—	Id	歩道	
25	2-21-II	π	21.1	11.0	2.8	0.9	-3.5	B	c	a	—	lb	22	2-21-II	良質	21.1	12.1	4.1	1.2	-2.2	B	a	a	—	Id	歩道
7	2-3-II	π	(3.0)	21.0	6.2	1.5	-3.5	B	a	a	n	lb	23	2-3-II	π	(24.0)	16.9	4.8	1.8	-2.7	B	a	a	ac	Id	歩道
3	2-5-II	π	12.7	(17.0)	3.0	0.6	-4.1	B	a	a	b	lb	24	2-5-II	π	(23.0)	14.7	5.0	-0.9	-2.5	A	b	b	a	Id	歩道
19	15-1-II	π	(6.0)	(11.0)	3.6	0.7	-2.0	B	c	c	abc	lb	25	15-3-II	π	34.3	11.8	5.0	4.4	-3.6	A	b	b	—	Id	歩道
20	2-21-II	π	(6.0)	(6.0)	5.1	0.6	-2.5	B	a	—	ac	lb	26	2-11-II	π	25.5	10.0	6.6	1.8	-2.8	B	a	a	—	Id	歩道
6	2-4-II	π	7.7	(6.0)	3.7	1.0	-4.0	B	a	a	b	lb	27	5-2-II	π	46.4	29.7	7.0	5.2	-1.1	B	a	c	—	Id	歩道
12	2-6-II	π	(7.0)	(13.0)	3.4	0.8	-2.5	B	a	a	ac	lb	28	10-7-II	π	(29.0)	16.7	4.0	0.8	-2.8	B	a	a	b	Id	歩道
15	2-7-III	π	25.0	16.4	6.2	1.8	-3.1	A	d	c	ac	lb	29	2-16-II	π	30.8	16.0	5.0	1.5	-1.5	B	a	a	c	Id	歩道
14	2-8-II	π	22.3	12.6	3.6	0.8	-2.4	B	d	a	c	lb	30	10-9-II	π	27.4	11.7	3.0	1.5	-1.3	B	b	b	—	Id	歩道
25	2-9-II	π	21.0	11.0	3.5	0.5	-2.5	B	a	a	c	lb	31	2-17-II	π	(25.0)	13.0	4.0	1.8	-2.7	B	a	a	a	Id	歩道
5	2-10-II	π	22.0	(17.0)	3.7	0.5	-4.1	B	a	a	c	lb	32	2-17-II	π	30.8	16.7	5.0	-0.9	-2.5	B	a	a	a	Id	歩道
17	2-11-II	π	20.2	14.0	3.2	1.0	-2.4	A	b	b	—	lb	33	2-10-II	π	(28.0)	16.0	5.2	1.3	-1.1	B	a	a	abc	Id	歩道
26	2-12-II	π	20.4	13.6	3.6	0.7	-3.0	A	b	b	—	lb	34	2-12-II	π	(22.0)	16.0	2.5	1.3	-1.8	B	a	a	ac	Id	歩道
20	2-13-II	π	11.0	11.5	2.4	0.4	-1.4	B	b	b	—	lb	35	2-13-II	π	(13.0)	10.0	8.0	0.7	-1.5	B	b	b	b	Id	歩道
29	2-14-II	π	16.5	12.3	3.5	0.5	-2.0	B	b	b	b	lb	36	2-16-II	π	(12.0)	10.0	8.0	0.5	-0.5	B	a	a	b	Id	歩道
5	2-15-II	π	16.8	10.6	4.1	0.8	-1.5	A	b	b	c	lb	37	2-16-II	π	(11.0)	9.0	4.0	1.4	-1.3	B	a	a	a	Id	歩道
25	2-16-II	π	15.3	11.0	4.1	0.9	-1.9	B	b	b	—	lb	38	2-18-II	π	(11.0)	10.0	4.0	1.5	-2.0	B	a	c	ab	Id	歩道
5	2-17-II	π	16.5	12.0	3.7	0.5	-2.2	B	b	b	—	lb	39	2-16-II	π	(12.0)	11.0	5.0	2.2	-1.0	B	a	a	a	Id	歩道
24	2-18-II	π	17.5	11.0	3.6	0.6	-1.6	B	a	a	b	lb	40	2-19-II	π	(11.0)	10.0	4.0	1.9	-1.5	B	a	a	a	Id	歩道
5	2-19-II	π	16.6	12.0	3.2	0.6	-2.0	B	b	b	c	lb	41	2-19-II	π	(12.0)	11.0	5.0	2.0	-1.5	B	a	a	a	Id	歩道
25	2-20-II	π	17.5	11.0	3.6	0.6	-1.6	B	a	a	b	lb	42	2-20-II	π	(11.0)	10.0	4.0	1.9	-1.5	B	a	a	a	Id	歩道
5	2-21-II	π	16.5	12.5	3.7	0.5	-2.6	B	a	a	c	lb	43	2-21-II	π	(12.0)	11.0	5.0	2.5	-1.3	B	a	a	a	Id	歩道
25	2-22-II	π	17.0	12.5	3.7	0.5	-2.6	B	a	a	c	lb	44	2-22-II	π	(12.0)	11.0	5.0	2.5	-1.3	B	a	a	a	Id	歩道
5	2-23-II	π	17.0	12.0	3.6	0.6	-1.9	B	a	a	b	lb	45	2-23-II	π	(11.0)	10.0	4.0	1.7	-1.5	B	a	a	a	Id	歩道
25	2-24-II	π	17.0	12.0	3.6	0.6	-1.9	B	a	a	b	lb	46	2-24-II	π	(11.0)	10.0	4.0	1.7	-1.5	B	a	a	a	Id	歩道
5	2-25-II	π	17.0	12.0	3.6	0.6	-1.9	B	a	a	b	lb	47	2-25-II	π	(11.0)	10.0	4.0	1.7	-1.5	B	a	a	a	Id	歩道
25	2-26-II	π	17.0	12.0	3.6	0.6	-1.9	B	a	a	b	lb	48	2-26-II	π	(11.0)	10.0	4.0	1.7	-1.5	B	a	a	a	Id	歩道
5	2-27-II	π	17.0	12.0	3.6	0.6	-1.9	B	a	a	b	lb	49	2-27-II	π	(11.0)	10.0	4.0	1.7	-1.5	B	a	a	a	Id	歩道
25	2-28-II	π	17.0	12.0	3.6	0.6	-1.9	B	a	a	b	lb	50	2-28-II	π	(11.0)	10.0	4.0	1.7	-1.5	B	a	a	a	Id	歩道
5	2-29-II	π	17.0	12.0	3.6	0.6	-1.9	B	a	a	b	lb	51	2-29-II	π	(11.0)	10.0	4.0	1.7	-1.5	B	a	a	a	Id	歩道
25	2-30-II	π	17.0	12.0	3.6	0.6	-1.9	B	a	a	b	lb	52	2-30-II	π	(11.0)	10.0	4.0	1.7	-1.5	B	a	a	a	Id	歩道
5	2-31-II	π	17.0	12.0	3.6	0.6	-1.9	B	a	a	b	lb	53	2-31-II	π	(11.0)	10.0	4.0	1.7	-1.5	B	a	a	a	Id	歩道
25	2-32-II	π	17.0	12.0	3.6	0.6	-1.9	B	a	a	b	lb	54	2-32-II	π	(11.0)	10.0	4.0	1.7	-1.5	B	a	a	a	Id	歩道
5	2-33-II	π	17.0	12.0	3.6	0.6	-1.9	B	a	a	b	lb	55	2-33-II	π	(11.0)	10.0	4.0	1.7	-1.5	B	a	a	a	Id	歩道
25	2-34-II	π	17.0	12.0	3.6	0.6	-1.9	B	a	a	b	lb	56	2-34-II	π	(11.0)	10.0	4.0	1.7	-1.5	B	a	a	a	Id	歩道
5	2-35-II	π	17.0	12.0	3.6	0.6	-1.9	B	a	a	b	lb	57	2-35-II	π	(11.0)	10.0	4.0	1.7	-1.5	B	a	a	a	Id	歩道
25	2-36-II	π	17.0	12.0	3.6	0.6	-1.9	B	a	a	b	lb	58	2-36-II	π	(11.0)	10.0	4.0	1.7	-1.5	B	a	a	a	Id	歩道
5	2-37-II	π	17.0	12.0	3.6	0.6	-1.9	B	a	a	b	lb	59	2-37-II	π	(11.0)	10.0	4.0	1.7	-1.5	B	a	a	a	Id	歩道
25	2-38-II	π	17.0	12.0	3.6	0.6	-1.9	B	a	a	b	lb	60	2-38-II	π	(11.0)	10.0	4.0	1.7	-1.5	B	a	a	a	Id	歩道
5	2-39-II	π	17.0	12.0	3.6	0.6	-1.9	B	a	a	b	lb	61	2-39-II	π	(11.0)	10.0	4.0	1.7	-1.5	B	a	a	a	Id	歩道
25	2-40-II	π	17.0	12.0	3.6	0.6	-1.9	B	a	a	b	lb	62	2-40-II	π	(11.0)	10.0	4.0	1.7	-1.5	B	a	a	a	Id	歩道
5	2-41-II	π	17.0	12.0	3.6	0.6	-1.9	B	a	a	b	lb	63	2-41-II	π	(11.0)	10.0	4.0	1.7	-1.5	B	a	a	a	Id	歩道
25	2-42-II	π	17.0	12.0	3.6	0.6	-1.9	B	a	a	b	lb	64	2-42-II	π	(11.0)	10.0	4.0	1.7	-1.5	B	a	a	a	Id	歩道
5	2-43-II	π	17.0	12.0	3.6	0.6	-1.9	B	a	a	b	lb	65	2-43-II	π	(11.0)	10.0	4.0	1.7	-1.5	B	a	a	a	Id	歩道
25	2-44-II	π	17.0	12.0	3.6	0.6	-1.9	B	a	a	b	lb	66	2-44-II	π	(11.0)	10.0	4.0	1.7	-1.5	B	a	a	a	Id	歩道
5	2-45-II	π	17.0	12.0	3.6	0.6	-1.9	B	a	a	b	lb	67	2-45-II	π	(11.0)	10.0	4.0	1.7	-1.5	B	a	a	a	Id	歩道
25	2-46-II	π	17.0	12.0	3.6	0.6	-1.9	B	a	a	b	lb	68	2-46-II	π	(11.0)	10.0	4.0	1.7	-1.5	B	a	a	a	Id	歩道
5	2-47-II	π	17.0	12.0	3.6	0.6	-1.9	B	a	a	b	lb	69	2-47-II	π	(11.0)	10.0	4.0	1.7	-1.5	B	a	a	a	Id	歩道
25	2-48-II	π	17.0	12.0	3.6	0.6	-1.9	B	a	a	b	lb	70	2-48-II	π	(11.0)	10.0	4.0	1.7	-1.5	B	a	a	a	Id	歩道
5	2-49-II	π	17.0	12.0	3.6	0.6	-1.9	B	a	a	b	lb	71	2-49-II	π	(11.0)	10.0	4.0	1.7	-1.5	B	a	a	a	Id	歩道
25	2-50-II	π	17.0	12.0	3.6	0.6	-1.9	B	a	a	b	lb	72	2-50-II	π	(11.0)	10.0	4.0	1.7	-1.5	B	a	a	a	Id	歩道
5	2-51-II	π	17.0	12.0	3.6	0.6	-1.9	B	a	a	b	lb	73	2-51-II	π	(11.0)	10.0	4.0	1.7	-1.5	B	a	a	a	Id	歩道
25	2-52-II	π	17.0	12.0	3.6	0.6	-1.9	B	a</																	

表-28 石旗属性表 (3)

No	出土区	石材	大きさ(mm)			重量 kg	形状 規則性	表面 状態	側面 状態	無 縫合	新縫合部	分類	調査	No.	出土区	大きさ(mm)			重量 kg	形状 規則性	表面 状態	側面 状態	無 縫合	新縫合部	分類	折損 右	折損 左
			長	幅	厚											長	幅	厚									
20-22-I	貴賓	35.5	1.6	4.3	1.3	-	A	c	a	-	日	Ⅲ-Ⅳ	30	22-I	35.2	1.6	4.5	±0.5	A	b	-	II					
20-22-II	J	35.8	1.7	4.3	1.3	-	A	b	a	-	日	Ⅲ-Ⅳ	28	25-II	35.0	1.6	4.1	±1.2	A	c	b	a,c	II				
20-22-III	J	22.8	12.6	5.3	2.1	±0.8	A	b	b	-	日	Ⅲ-Ⅳ	25	25-III	26.5	12.5	5.5	±0.8	A	b	a	b	II				
20-23-I	J	22.0	12.8	4.0	1.3	-	A	c	a	-	日	Ⅲ-Ⅳ	22	23-I	20.0	12.0	3.8	±0.8	A	a	a	a	II				
20-SX-F	J	24.8	11.4	3.2	1.9	±0.8	A'	a	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	23	24-4II	22.0	11.0	4.0	±0.6	A'	a	a	a	II				
20-SX-FF	J	20.2	11.2	3.8	2.9	-	A	b	b	-	日	Ⅲ-Ⅳ	24	24-4II	21.5	12.2	3.5	±0.8	A	b	a	b	II				
20-24-I	J	24.7	12.0	9.8	6.5	±0.8	A	b	b	-	日	Ⅲ-Ⅳ	25	24-4II	24.0	11.8	5.6	±0.8	A	c	b	b	II				
20-25-III	J	36.7	10.7	7.4	6.8	±0.8	A	b	b	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	25-3II	34.0	10.4	6.4	±0.8	A	b	a	b	II				
21-21-II	J	28.4	22.7	9.5	7.4	±0.8	A	b	b	-	日	Ⅲ-Ⅳ	27	21-II	24.0	11.0	6.4	±1.1	A	b	a	b	II				
21-21-III	J	28.4	22.7	9.5	7.4	±0.8	A	b	b	-	日	Ⅲ-Ⅳ	27	21-III	27.0	12.0	6.4	±0.8	A	b	a	b	II				
21-22-III	J	39.8	10.4	8.2	7.7	±0.8	A	b	b	-	日	Ⅲ-Ⅳ	28	22-III	35.0	10.0	7.8	±1.3	A	b	a	b	II				
21-25-II	J	27.4	10.3	7.5	6.2	-	A	d	b	-	日	Ⅲ-Ⅳ	29	25-II	29.0	9.8	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-25-III	J	27.4	10.3	7.5	6.2	-	A	d	b	-	日	Ⅲ-Ⅳ	29	25-III	28.0	9.8	7.0	±1.0	A	b	a	b	II				
21-26-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	26-II	22.0	10.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-27-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	27-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-28-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	28-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-29-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	29-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-30-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	30-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-31-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	31-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-32-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	32-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-33-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	33-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-34-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	34-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-35-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	35-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-36-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	36-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-37-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	37-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-38-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	38-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-39-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	39-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-40-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	40-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-41-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	41-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-42-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	42-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-43-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	43-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-44-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	44-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-45-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	45-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-46-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	46-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-47-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	47-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-48-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	48-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-49-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	49-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-50-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	50-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-51-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	51-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-52-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	52-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-53-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	53-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-54-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	54-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-55-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	55-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-56-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	56-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-57-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	57-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-58-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	58-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-59-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	59-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-60-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	60-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-61-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	61-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-62-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	62-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-63-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	63-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-64-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	64-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-65-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	65-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-66-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	66-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-67-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	67-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-68-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	68-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-69-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	69-III	21.0	11.0	7.0	±0.8	A	b	a	b	II				
21-70-III	J	21.0	11.0	7.0	7.4	±0.8	A	d	d	-	日	Ⅲ-Ⅳ	26	70-III	21.0	11											

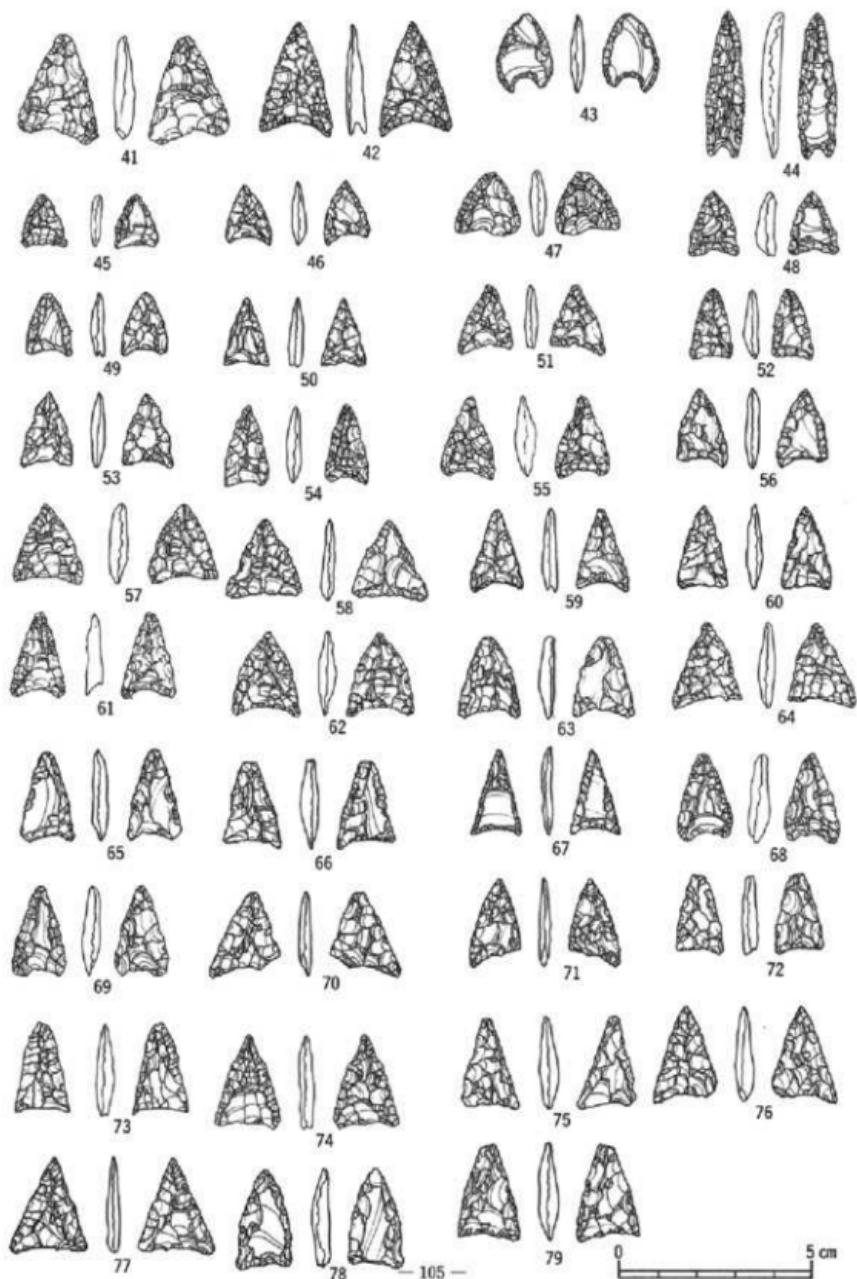
表-29 石綿屬性表 (4)

No	出土区	石材	大きさ(mm)			重量(g)	接合部	表面	分類	標題	No	出土区	大きさ(mm)			重量(g)	接合部	表面	分類	標題		
			長	幅	厚								左	右	左	右						
15	21-III	頁岩	27.0	13.0	5.2	—	—	b	a,d	Vila	48	7-II	10	4.5	19.9	2.3	0.8	—	—	a,c	Vila	
26	21-III	頁岩	13.0	8.0	5.0	—	—	b	a,d	Vila	49	20-III	10	5.0	15.3	4.7	1.0	—	—	b,d	Vila	
35	21-III	頁岩	15.0	15.0	5.0	—	—	b	b	Vila	50	21-III	10	10.0	12.0	3.0	0.7	—	—	a,d	Vila	
27	21-III	頁岩	21.0	11.0	4.3	—	—	b	b	Vila	51	9-III	10	13.0	10.0	3.6	0.7	—	A	b,d	Vila	
29	21-III	頁岩	11.0	11.0	2.2	0.2	—	a	b	a,d	52	5-III	10	15.0	10.0	3.3	0.6	—	—	a,a,d	Vila	
30	21-III	頁岩	13.5	8.5	2.4	0.4	—	b	b	a,d	53	21-III	10	15.0	10.0	3.0	0.5	—	A	c,d	Vila	
24	21-III	頁岩	10.0	10.0	2.0	0.0	—	a	b	a,d	54	2-III	10	10.0	10.0	0.8	0.5	—	—	a,d	Vila	
32	21-III	頁岩	12.0	12.0	2.2	0.2	—	A	b	b	Vila	55	5-III	10	10.0	10.0	5.8	2.4	—	—	a,a,d	Vila
33	21-III	頁岩	10.0	10.0	4.9	1.1	—	b	b	a,d	56	2-III	10	12.0	12.0	2.4	0.8	—	—	a,a,d	Vila	
34	21-III	頁岩	10.0	10.0	7.1	2.5	—	b	b	a,d	57	6-III	10	10.0	10.0	12.5	7.2	—	—	b,a,d	Vila	
36	21-III	頁岩	2.5	1.0	2.8	1.1	—	a	b	a,d	58	2-III	10	15.0	10.0	1.8	0.6	—	—	a,b	Vila	
35	21-III	頁岩	10.0	10.0	1.7	0.6	—	b	b	a,d	59	3-III	10	10.0	10.0	1.0	0.5	—	—	a,c	Vila	
37	21-III	頁岩	15.0	9.0	4.3	1.2	—	b	b	a,d	60	3-III	10	15.0	10.0	3.9	0.5	—	—	c,d	Vila	
38	21-III	頁岩	13.0	6.7	2.6	0.6	—	A	b	a,d	61	2-III	10	10.0	10.0	6.0	0.5	—	—	b,d	Vila	
39	21-III	頁岩	13.0	12.0	2.2	0.2	—	a	b	d	Vila	62	5-III	10	10.0	10.0	6.0	2.4	—	—	a,d	Vila
39	21-III	頁岩	12.0	12.0	5.1	1.9	—	b	b	a,d	63	2-III	10	10.0	10.0	3.1	2.5	—	—	a,d	Vila	
35	21-III	頁岩	6.0	12.0	3.3	0.5	—	a	a	d	Vila	64	2-III	10	10.0	10.0	2.5	0.2	—	—	b,d	Vila
52	21-III	頁岩	12.0	12.0	2.8	0.7	—	a	a	a,d	Vila	65	2-III	10	15.0	10.0	1.8	0.6	—	—	b,d	Vila
53	21-III	頁岩	15.0	15.0	2.8	0.7	—	b	b	a,d	Vila	66	3-III	10	10.0	10.0	1.9	0.5	—	—	c,d	Vila
54	21-III	頁岩	15.0	15.0	4.3	1.2	—	b	b	a,d	Vila	67	3-III	10	15.0	10.0	3.9	1.3	—	—	a,c,d	Vila
55	21-III	頁岩	12.0	6.7	2.6	0.6	—	A	b	a,d	Vila	68	2-III	10	10.0	10.0	2.1	0.2	—	—	b,d	Vila
56	21-III	頁岩	12.0	12.0	4.5	1.5	—	a	b	d	Vila	69	2-III	10	10.0	10.0	3.9	1.2	—	—	b,d	Vila
57	21-III	頁岩	12.0	12.0	5.1	1.9	—	b	b	a,d	Vila	70	2-III	10	10.0	10.0	3.0	2.5	—	—	a,d	Vila
58	21-III	頁岩	12.0	12.0	3.3	0.5	—	a	a	d	Vila	71	2-III	10	10.0	10.0	2.5	0.2	—	—	b,d	Vila
59	21-III	頁岩	12.0	12.0	2.8	0.7	—	b	b	a,d	Vila	72	2-III	10	10.0	10.0	8.4	2.6	—	—	b,d	Vila
60	21-III	頁岩	10.0	10.0	2.6	0.6	—	b	b	a,d	Vila	73	2-III	10	10.0	10.0	5.9	4.7	—	—	b,d	Vila
62	21-III	頁岩	15.0	15.0	5.3	1.3	—	a	a	d	Vila	74	2-III	10	10.0	10.0	32.0	5.6	—	—	b,d	Vila
63	21-III	頁岩	12.0	12.0	4.2	0.2	—	A	b	b	Vila	75	5-III	10	10.0	10.0	30.0	6.1	—	—	b,d	Vila
64	21-III	頁岩	13.0	13.0	2.6	0.8	—	b	b	a,d	Vila	76	2-III	10	10.0	10.0	13.0	2.4	—	—	b,d	Vila
65	21-III	頁岩	13.0	13.0	5.5	4.5	—	b	b	a,d	Vila	77	2-III	10	10.0	10.0	36.7	6.8	—	—	b,d	Vila
66	21-III	頁岩	13.0	13.0	5.0	1.6	—	a	a	d	Vila	78	2-III	10	10.0	10.0	30.9	8.7	—	—	b,d	Vila
67	21-III	頁岩	12.0	12.0	1.8	0.8	—	b	b	a,d	Vila	79	2-III	10	10.0	10.0	9.0	4.5	—	—	b,d	Vila
68	21-III	頁岩	12.0	12.0	2.6	0.6	—	b	b	a,d	Vila	80	2-III	10	10.0	10.0	22.6	7.6	—	—	b,d	Vila
69	21-III	頁岩	12.0	12.0	2.5	0.7	—	b	b	a,d	Vila	81	2-III	10	10.0	10.0	22.0	5.8	—	—	b,d	Vila
70	21-III	頁岩	11.0	11.0	5.0	1.2	—	a	a	d	Vila	82	7-III	10	10.0	10.0	31.1	9.2	—	—	b,d	Vila
71	21-III	頁岩	11.0	11.0	5.3	1.1	—	a	a	d	Vila	83	5-III	10	10.0	10.0	31.5	9.4	—	—	b,d	Vila
72	21-III	頁岩	11.0	11.0	4.7	0.8	—	a	a	d	Vila	84	2-III	10	10.0	10.0	30.0	8.4	—	—	b,d	Vila
73	21-III	頁岩	12.0	12.0	4.5	1.5	—	a	a	d	Vila	85	2-III	10	10.0	10.0	35.5	6.6	—	—	b,d	Vila
74	21-III	頁岩	12.0	12.0	3.2	0.2	—	A	b	b	Vila	86	2-III	10	10.0	10.0	25.5	8.2	—	—	b,d	Vila
75	21-III	頁岩	12.0	12.0	4.2	1.8	—	b	b	a,d	Vila	87	2-III	10	10.0	10.0	35.5	7.5	—	—	b,d	Vila
76	21-III	頁岩	12.0	12.0	2.2	0.4	—	a	b	d	Vila	88	2-III	10	10.0	10.0	35.5	6.5	—	—	b,d	Vila
77	21-III	頁岩	12.0	12.0	2.0	0.4	—	a	b	d	Vila	89	2-III	10	10.0	10.0	35.5	6.5	—	—	b,d	Vila
78	21-III	頁岩	12.0	12.0	2.0	0.4	—	a	b	d	Vila	90	2-III	10	10.0	10.0	35.5	6.5	—	—	b,d	Vila
79	21-III	頁岩	12.0	12.0	2.0	0.4	—	b	b	a,d	Vila	91	2-III	10	10.0	10.0	35.5	6.5	—	—	b,d	Vila
80	21-III	頁岩	12.0	12.0	2.0	0.4	—	b	b	a,d	Vila	92	2-III	10	10.0	10.0	35.5	6.5	—	—	b,d	Vila
81	21-III	頁岩	12.0	12.0	2.0	0.4	—	b	b	a,d	Vila	93	2-III	10	10.0	10.0	35.5	6.5	—	—	b,d	Vila
82	21-III	頁岩	12.0	12.0	2.0	0.4	—	b	b	a,d	Vila	94	2-III	10	10.0	10.0	35.5	6.5	—	—	b,d	Vila
83	21-III	頁岩	12.0	12.0	2.0	0.4	—	b	b	a,d	Vila	95	2-III	10	10.0	10.0	35.5	6.5	—	—	b,d	Vila
84	21-III	頁岩	12.0	12.0	2.0	0.4	—	b	b	a,d	Vila	96	2-III	10	10.0	10.0	35.5	6.5	—	—	b,d	Vila
85	21-III	頁岩	12.0	12.0	2.0	0.4	—	b	b	a,d	Vila	97	2-III	10	10.0	10.0	35.5	6.5	—	—	b,d	Vila
86	21-III	頁岩	12.0	12.0	2.0	0.4	—	b	b	a,d	Vila	98	2-III	10	10.0	10.0	35.5	6.5	—	—	b,d	Vila
87	21-III	頁岩	12.0	12.0	2.0	0.4	—	b	b	a,d	Vila	99	2-III	10	10.0	10.0	35.5	6.5	—	—	b,d	Vila
88	21-III	頁岩	12.0	12.0	2.0	0.4	—	b	b	a,d	Vila	100	2-III	10	10.0	10.0	35.5	6.5	—	—	b,d	Vila
89	21-III	頁岩	12.0	12.0	2.0	0.4	—	b	b	a,d	Vila	101	2-III	10	10.0	10.0	35.5	6.5	—	—	b,d	Vila
90	21-III	頁岩	12.0	12.0	2.0	0.4	—	b	b	a,d	Vila	102	2-III	10	10.0	10.0	35.5	6.5	—	—	b,d	Vila
91	21-III	頁岩	12.0	12.0	2.0	0.4	—	b	b	a,d	Vila	103	2-III	10	10.0	10.0	35.5	6.5	—	—	b,d	Vila
92	21-III	頁岩	12.0	12.0	2.0	0.4	—	b	b	a,d	Vila	104	2-III	10	10.0	10.0	35.5	6.5	—	—	b,d	Vila
93	21-III	頁岩	12.0	12.0	2.0	0.4	—	b	b	a,d	Vila	105	2-III	10	10.0	10.0	35.5	6.5	—	—	b,d	Vila
94	21-III	頁岩	12.0	12.0	2.0	0.4	—	b	b	a,d	Vila	106	2-III	10	10.0	10.0	35.5	6.5	—	—	b,d	Vila
95	21-III	頁岩	12.0	12.0	2.0	0.4	—	b	b	a,d	Vila	107	2-III	10	10.0	10.0	35.5	6.5	—	—	b,d	Vila
96	21-III	頁岩	12.0	12.0	2.0	0.4	—	b	b	a,d	Vila	108	2-III	10	10.0	10.0	35.5	6.5	—	—	b,d	Vila
97	21-III	頁岩	12.0	12.0	2.0	0.4	—	b	b	a,d	Vila	109	2-III	10	10.0	10.0	35.5	6.5	—	—	b,d	Vila
98	21-III	頁岩	12.0	12.0	2.0	0.4	—	b	b	a,d	Vila	110	2-III	10	10.0	10.0	35.5	6.5	—	—	b,d	Vila
99	21-III	頁岩	12.0	12.0	2.0	0.4	—	b	b	a,d	Vila	111	2-III	10	10.0	10.0	35.5	6.5	—	—	b,d	Vila
100	21-III	頁岩	12.0	12.0	2.0	0.4	—	b	b	a,d	Vila	112	2-III	10	10.0	10.0	35.5	6.5	—	—	b,d	Vila
101	21-III	頁岩	12.0	12.0	2.0	0.4	—	b	b	a,d	Vila	113	2-III	10	10.0	10.0	35.5	6.5	—	—	b,d	Vila
102	21-III	頁岩	12.0	12.0	2.0	0.4	—	b	b	a,d	Vila	114	2-III	10	10.0	10.0	35.5	6.5	—	—	b,d	Vila
103	21-III	頁岩	12.0	12.0	2.0	0.4	—	b	b	a,d	Vila	115	2-III	10	10.0	10.0	35.5	6.5	—	—	b,d	Vila

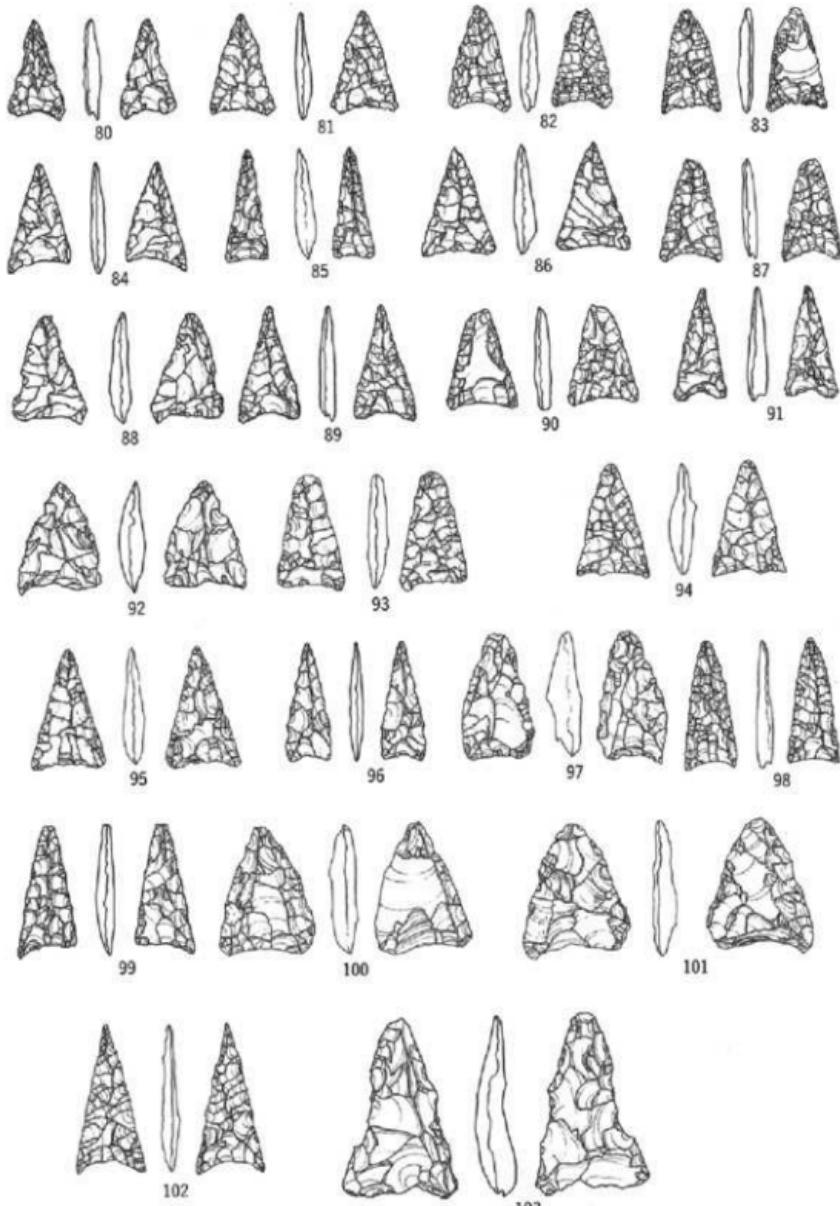


- 104 -

第57図 石器実測図 (I) 石鏃



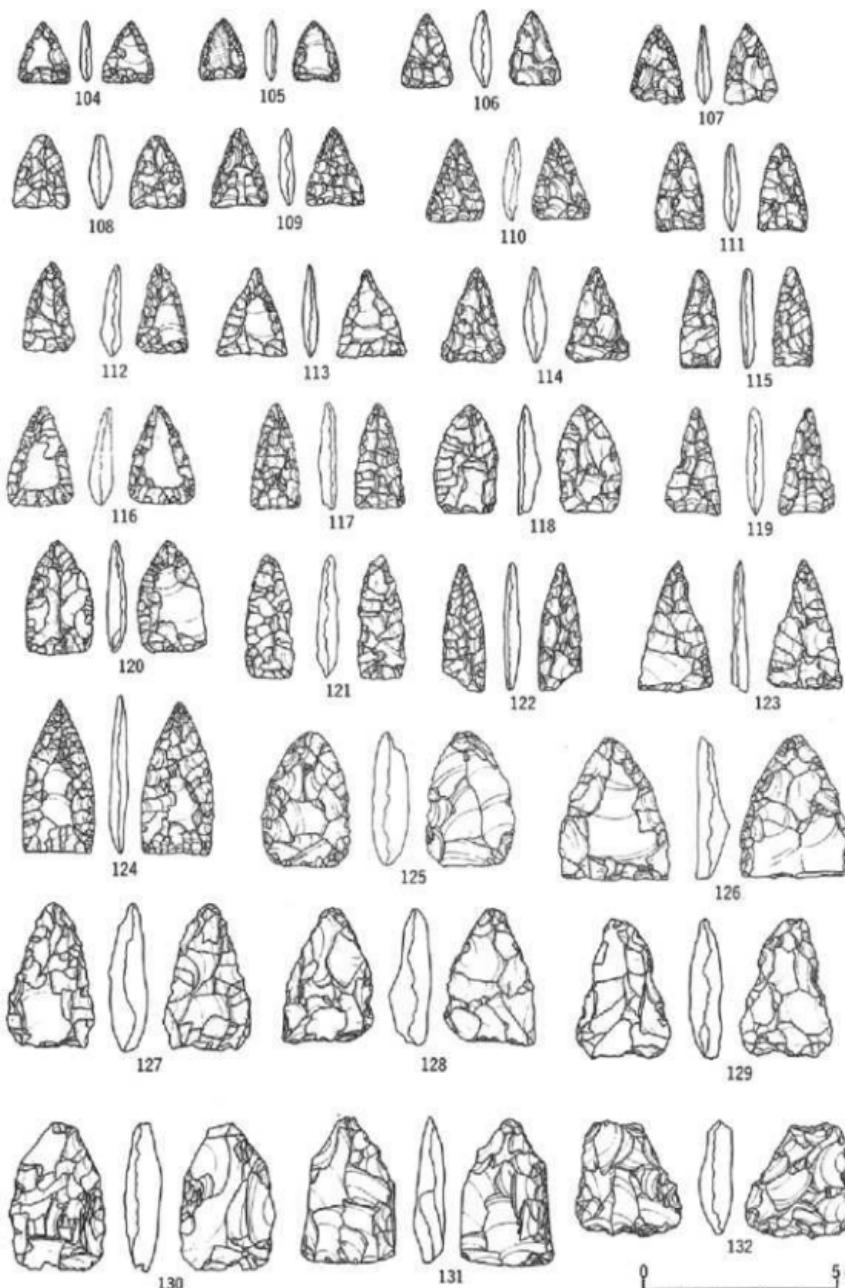
第58図 石器実測図 (2) 石鏃



- 106 -

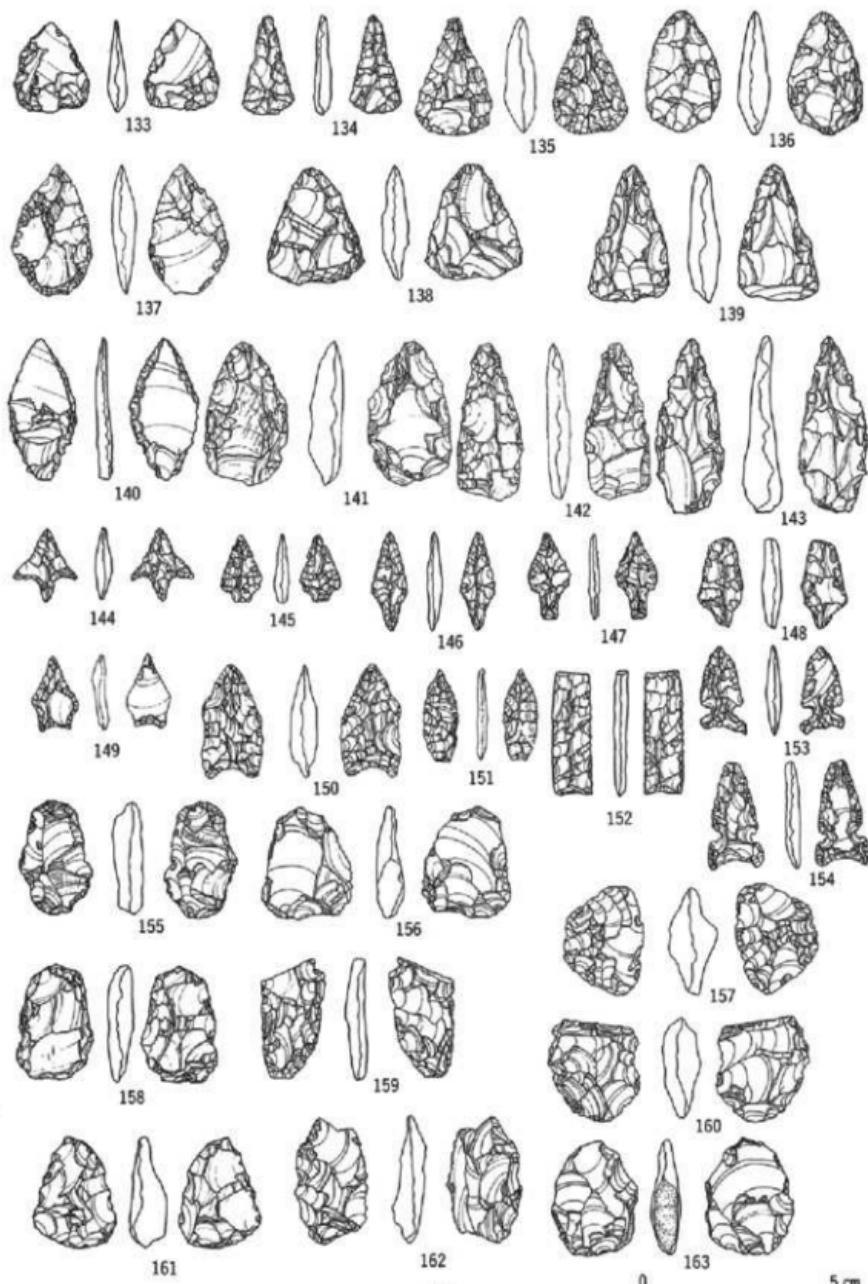
第59図 石器実測図（3） 石鏃



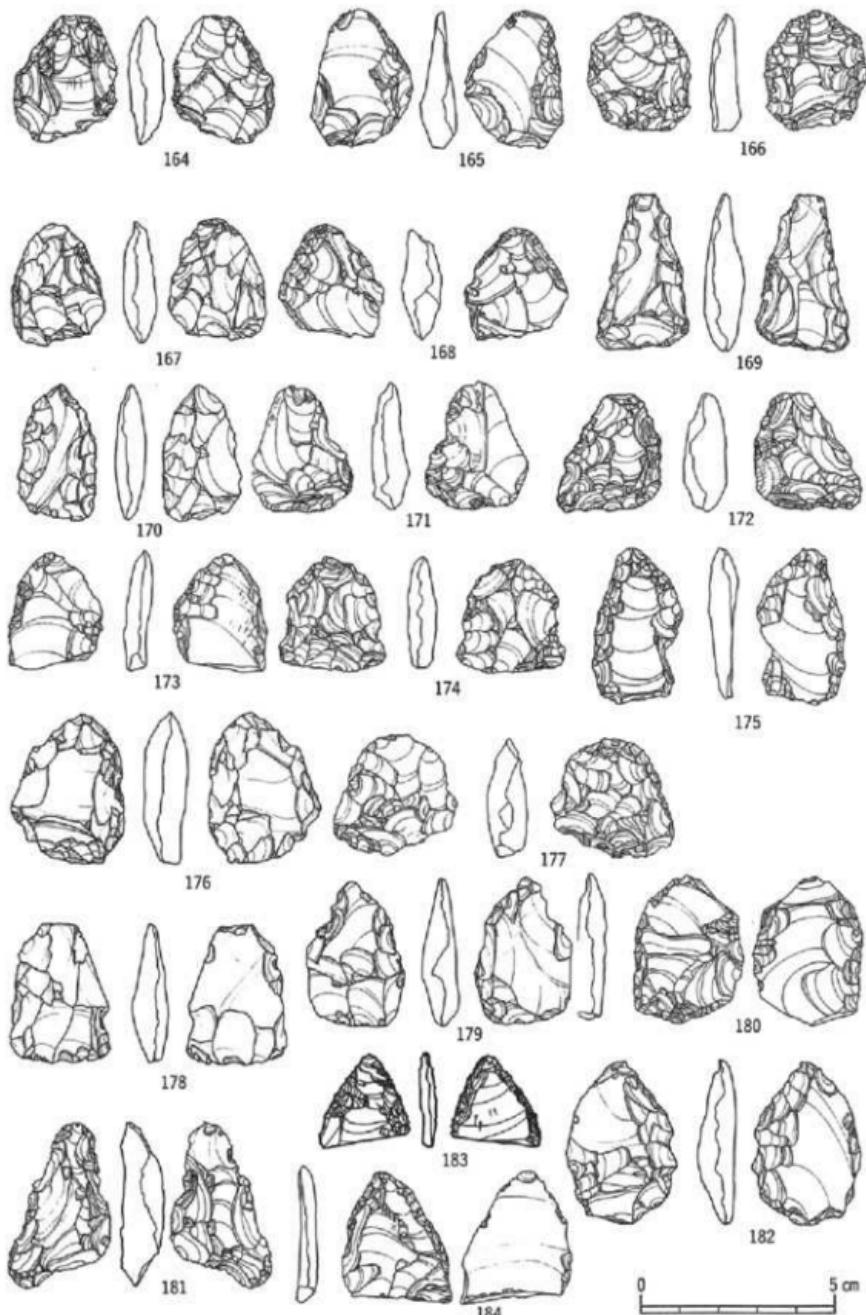


第60図 石器実測図（4）石錐

0 5 cm



- 108 -



第62図 石器実測図 (6) 石鏃

0 5 cm

尖頭器 (第63~65図 表-30 図版35)

両面加工もしくは片面加工によって尖った先端部を作出した石器を尖頭器とした。38点の出土があり、大きさや加工方法の相異で以下のように分類できる。石材はすべて頁岩である。

I類：両面加工で細身のもの。最大幅は20mm以下。薄身で精巧なつくりとなる Ia (185~187) と、厚味をもつ Ib (188、189) に細分される。Iaが3点、Ibが7点出土している。

II類：両面加工で最大幅20mm以上。幅広であるが、全長は10cm未満の中形 (190~195、

属性表注

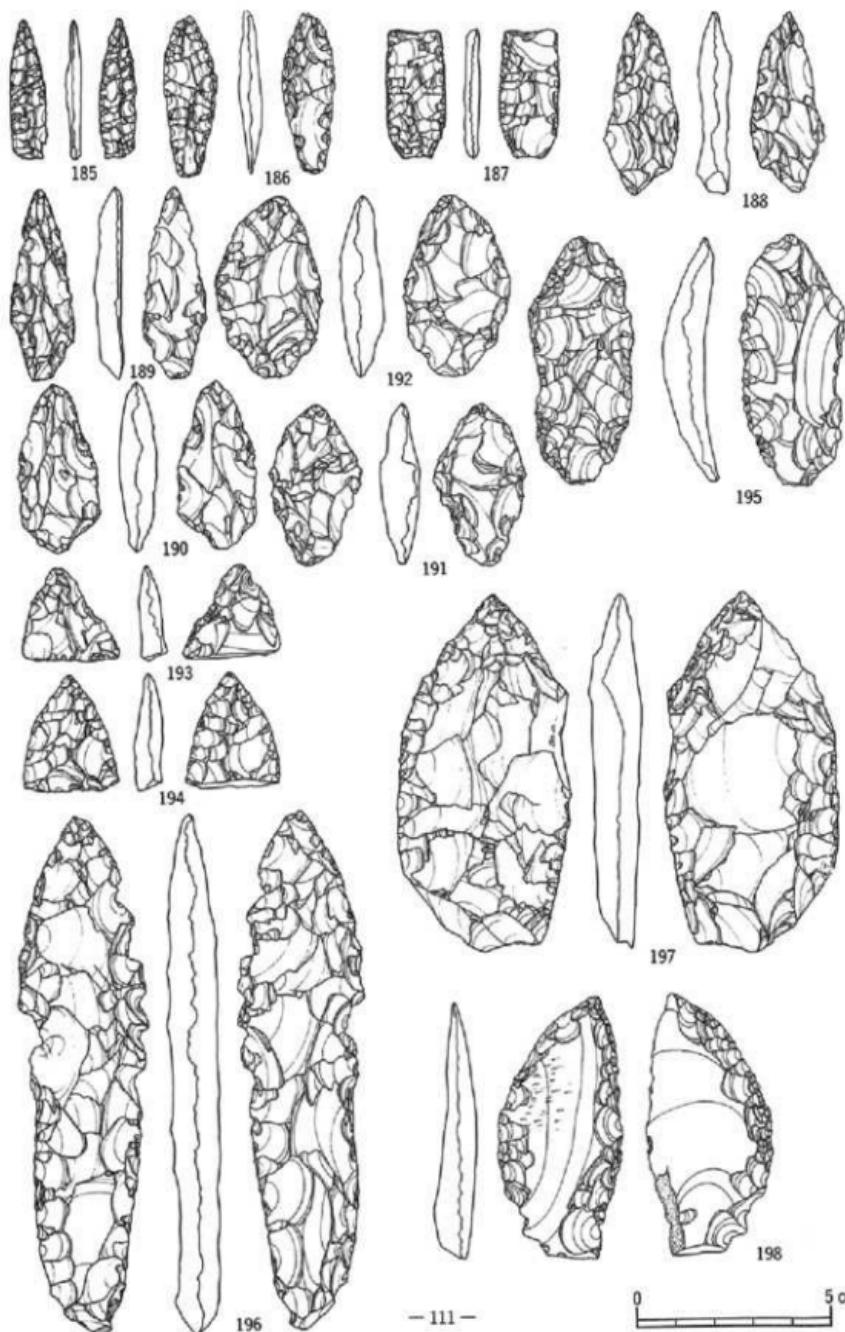
- 大きさ 兵、幅は、第63図に示したように、その全長、ならびに最大幅である。厚は最大厚とした。折損品については()を付し残存値を示した。
- 最大幅の位置 全長を二分した場合、その上半部にあるものをA、下半部にあるものをBとし、下端にあるものはDとした。
- 側縁 先端部を上に向け、調整加工により入念な方を上にして磨いた時の左側を左、右側を右とし、尖頭部から基部までの側縁の形態を、直線状に示すa、凸面を描くb、凹面をc、「く」の字状となるdの四種類に分けて示した。
- 残存部位 全長を三等分して、先端部をA、中央部をB、基部側をCとして、折損品の残っている部分を示した。



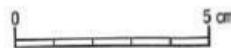
第63図 尖頭器模式図

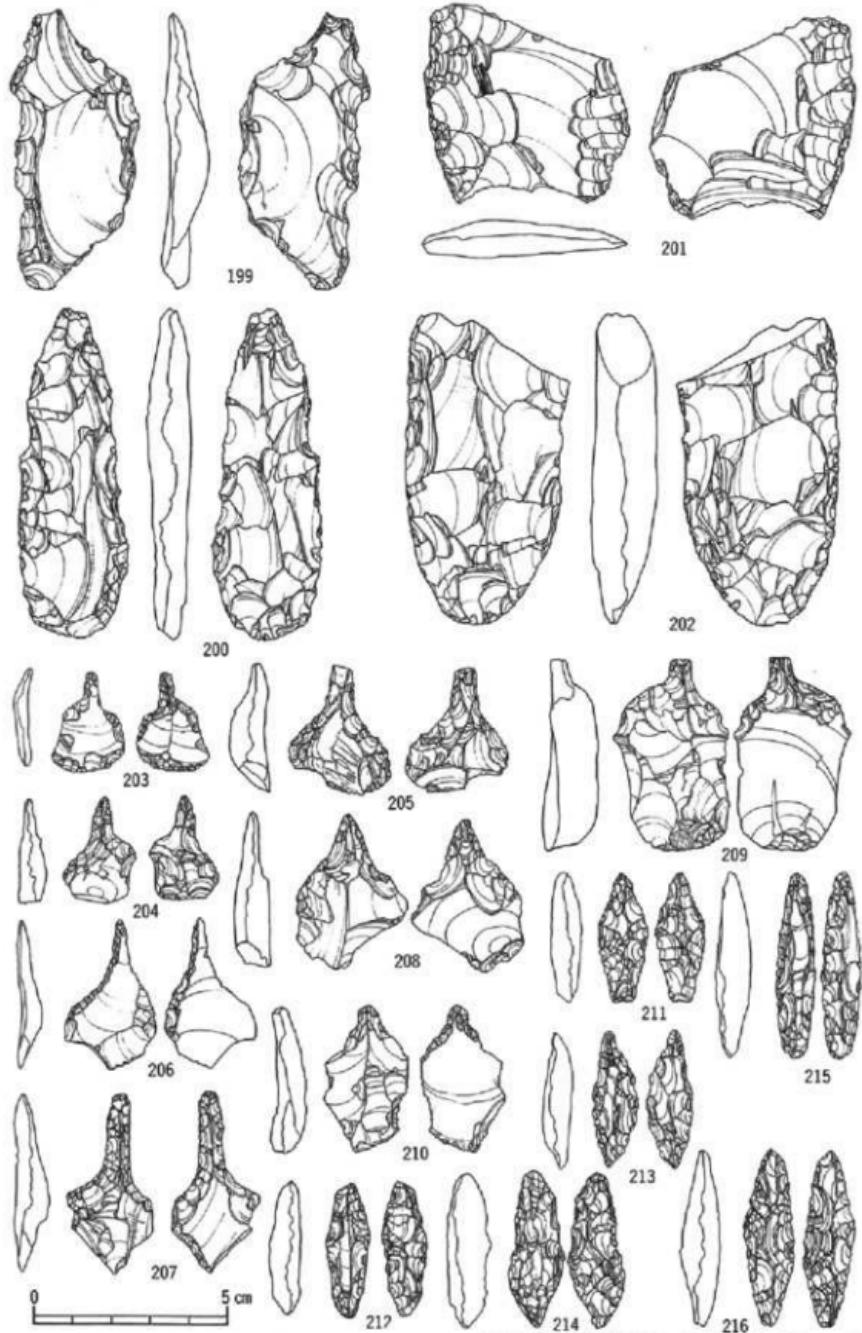
表-30 尖頭器属性表

No.	出土品	石材	大きさ (mm)			重量 (g)	最大幅の位置	側縁 左 右	残存部位	分類	押印
			兵	幅	厚						
1	24-32 II	頁岩	36.5	9.6	3.5	1.2	B	b b	-	Ia	64-185
2	26-17 II	#	42.3	13.6	6.2	2.9	A	b b	-	Ia	64-186
3	25-25 III	#	(33.2)	15.2	3.5	2.9	B	d d	B	Ia	64-187
4	27-39 II	#	46.9	19.3	7.6	6.2	B	d b	-	Ib	64-188
5	X-9	#	49.6	16.5	6.6	5.4	B	d d	-	Ib	64-189
6	26-28 II	#	(36.6)	(13.6)	4.9	2.3	a	-	B+C	Ib	
7	23-28 I	#	(24.0)	(14.8)	6.0	2.9	a	s s	C	Ib	
8	26-32 III	#	(32.4)	(14.0)	7.3	3.3	a	s s	B	Ib	
9	22-51 II	#	43.1	18.0	6.9	5.2	A	b b	-	Ib	
10	27-16 II	#	(38.9)	16.7	8.0	5.0	A	b b	C+B	Ib	
11	26-26 II	#	43.0	20.3	9.7	6.6	B	b d	-	II	64-190
12	X-9	#	41.0	23.9	9.8	8.1	A	b d	-	II	64-191
13	21-18 II	#	46.8	27.1	9.1	12.5	A	b b	-	II	64-192
14	27-22 II	#	(24.7)	25.2	5.4	3.2	b	a A	II	64-193	
15	28-19 II	#	(28.8)	(24.7)	7.0	4.9	b	b A	II	64-194	
16	28-31 II	#	64.4	26.6	10.8	17.8	A	d b	-	II	64-195
17	22-17 II	#	85.9	23.2	10.0	22.8	B	b b	-	II	65-200
18	27-32 II	#	(18.4)	(21.6)	5.1	2.0	b	b b	A	II	
19	23-12 II	#	(26.8)	(20.5)	7.4	3.5	b	a A	II		
20	27-32 II	#	(26.4)	(18.3)	8.4	3.8	b	b A	II		
21	25-22 II	#	(36.6)	(20.8)	7.2	4.7	b	b A	II		
22	25-23 II	#	(34.0)	(25.0)	6.5	6.1	b	b A	II		
23	24-22 II	#	(46.2)	(21.1)	10.1	8.2	a	a A	II		
24	25-4 II	#	(38.7)	(22.5)	10.6	10.6	a	a B	II		
25	24-19 I	#	(20.5)	(20.1)	6.5	3.6	a	a B	II		
26	26-11 I	#	(42.5)	(21.5)	10.3	12.7	a	a B	II		
27	25-32 I	#	(32.6)	(28.4)	7.7	7.8	a	b B	II		
28	28-24 II	#	(29.3)	(16.7)	9.6	5.0	b	d C	II		
29	20-32 II	#	(39.6)	(22.2)	10.3	9.4	A	b b	A+B	II	
30	25-25 III	#	(36.6)	(19.4)	11.8	7.4	a	a A	II		
31	26-29 II	#	133.1	23.3	11.3	49.7	A	b b	-	IIIa	64-196
32	15-25 I	#	(92.7)	44.9	9.5	49.4	A	b b	A+B	IIIb	64-197
33	12-18 I	#	(55.5)	(54.3)	9.1	25.5	b	b B	B	IIIb	65-201
34	27-27 II	#	(79.5)	(41.9)	15.6	60.3	B	b d	B+C	IIIb	65-202
35	X-9	#	(35.0)	(28.8)	10.3	9.8	b	b A	IIIa		
36	20-14 I	#	(22.2)	(30.8)	8.3	7.1	a	a B	IIIa		
37	23-9 II	#	67.5	32.4	9.2	20.5	B	b b	-	VI	64-198
38	26-17 II	#	71.4	29.6	9.5	20.2	A	a d	-	VI	65-199



- 111 -





第65図 石器実測図 (8) 尖頭器・石錐

200)。完形品は少なく、折損するものが多い。20点の出土がある。

III類：両面加工で全長が10cmを越える大形のもの。幅が狭く柳葉形となるIIIa(196)と

幅広で木葉形となるIIIb(197, 201, 202)に分けられる。IIIa, IIIbとも3点の出土。

IV類：周辺加工の尖頭器。198, 199の2点の出土がある。

石錐 (第65~67図 表-31・32 図版35)

素材となった剥片の縁辺に調整加工を施して、その一端あるいは相対する両端に尖った先端部を作出した石器を石錐とした。素材の全面に面的な加工のあるものも認められるが、石錐や尖頭器と比較すると全体的に厚味となり、先端部に磨耗が認められることにより、区別は容易である。全部で80点の出土があり、以下のように分類される。

I類：長い尖頭部をもつもの(203~210)。尖頭部と基部との境界にノッチが入り、その区別は明瞭である。完形品が7点、先端部のないものが6点、先端部だけのものが1点出土している。

II類：細長い棒状の形態となり、基部と尖頭部との境界が不明瞭なもの。両面加工となるものが多いが全体的に部厚い。つぎのように細分される。

a：二ヶ所の尖頭部の両端が刃部となるもの(211~216)。7点

属性表

1 大きさ 第66図に示したように、長、幅、厚は全体、最大幅、最大厚で、折損品には()を付して残存値に示した。

2 尖頭部 第66図に示したように長は尖頭部の長さ、幅は尖頭部の中間位置における幅、厚は先端部から5mmの位置で計測した。また、断面形もこの位置で観察し、折損するものは折れ口で観察した。II類の尖頭部の長さは先端に向って収束する変曲点の位置から先端までを計測した。同じく断面についても1類、I類に準じたが、なお、不明瞭なものについては裏面の調整加工のある部分から先端までを計測した。

3 尖頭部加工 先端部を上方に向け、素材の背面側を上に置いた時の左側をa、右側をb、裏面の左側をc、右側をdとした。従ってaとd、bとcで縁辺を形成することになる。○印のあるものが加工のあるものである。



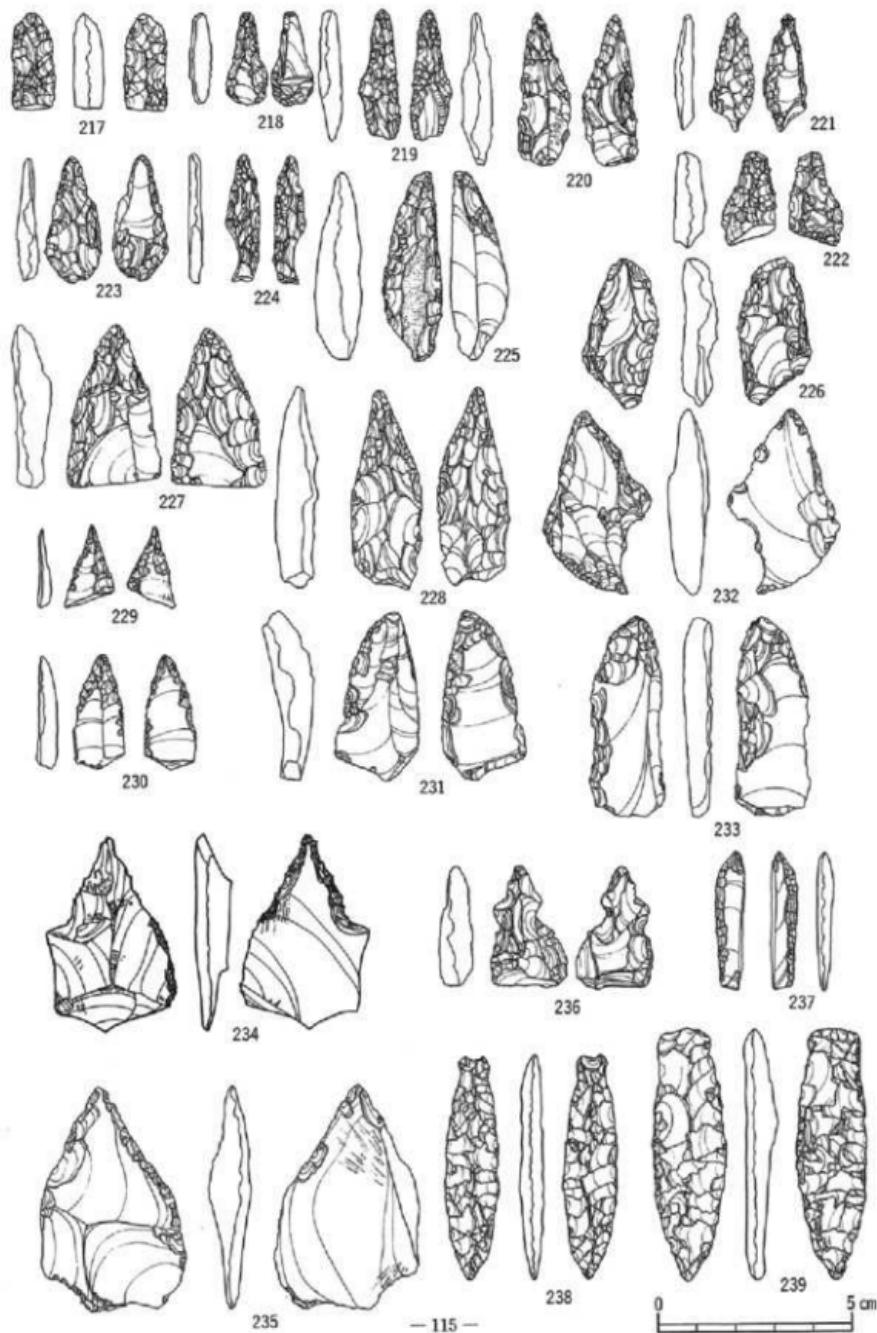
第66図 石錐模式図

表-31 石錐属性表 (1)

No	出 土 区	石 材	大 き さ (mm)			重 量 (g)	尖 頭 部				尖頭部加工	折 損	分 類	律 図
			長	幅	厚		長	幅	厚	断面形				
1	28-29-II	玉髓質	27.1	19.2	6.9	2.5	10.5	5.0	2.8	菱 形	○ ○ ○ ○ ○ ○	—	I	65-203
2	25-24-II	頁岩	25.8	18.6	3.4	1.3	9.2	3.6	2.1	菱 形	○ ○ ○ ○ ○ ○	—	I	65-204
3	15-18-I	"	(33.2)	26.6	9.5	5.7	(10.1)	5.8	(5.2)	菱 形	○ ○ ○ ○ ○ ○	先端	I	65-205
4	27-22-II	"	39.0	23.4	5.3	2.4	14.6	3.8	2.6	菱 形	○ ○ ○ ○ ○ ○	—	I	65-206
5	21-5-II	"	46.5	23.2	8.3	5.0	19.4	5.3	4.9	菱 形	○ ○ ○ ○ ○ ○	—	I	65-207
6	25-25-I+II	"	39.8	28.6	8.9	7.0	9.9	8.0	3.9	菱 形	○ ○ ○ ○ ○ ○	—	I	65-208
7	24-7	"	(49.7)	29.4	12.9	19.3	(6.0)	(5.7)	(4.6)	菱 形	○ ○ ○ ○ ○ ○	先端	I	65-209
8	22-10-II	"	(38.1)	21.7	7.1	4.6	(5.4)	(5.4)	(4.5)	菱 形	○ ○ ○ ○ ○ ○	先端	I	65-210
9	21-9-II	"	12.3	5.1	3.7	0.7	4.6	3.1	1.0	凸レンズ	○ ○ ○ ○ ○ ○	—	I	
10	23-32-II+III	"	46.0	35.1	13.4	14.6	14.4	8.6	6.1	菱 形	○ ○ ○ ○ ○ ○	—	I	
11	24-28-II	"	(26.2)	(27.3)	9.3	5.3	(5.7)	(10.6)	(5.1)	凸レンズ	○ ○ ○ ○ ○ ○	先端	I	
12	24-29-II	"	(33.8)	20.7	7.4	4.8	(5.8)	(5.3)	(3.4)	三角 形	○ ○ ○ ○ ○ ○	先端	I	
13	22-9-II	"	(37.0)	32.0	7.8	11.6	(7.8)	(6.6)	(5.6)	菱 形	○ ○ ○ ○ ○ ○	先端	I	
14	25-32-I+II	"	(12.2)	(6.5)	(3.5)	0.3	(12.2)	4.0	3.4	菱 形	○ ○ ○ ○ ○ ○	基部	I	
15	15-17-II	"	(33.1)	12.3	7.9	3.1	(5.5)	(5.3)	(3.9)	菱 形	○ ○ ○ ○ ○ ○	先端	Iia	65-211
16	25-21-II	"	(35.2)	11.7	6.6	2.7	(14.4)	(5.5)	(3.4)	菱 形	○ ○ ○ ○ ○ ○	先端	Iia	65-212
17	23-11-II	"	35.1	11.7	6.7	2.6	7.4	5.8	4.7	菱 形	○ ○ ○ ○ ○ ○	—	Iia	65-213

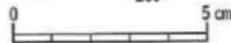
表-32 石錐属性表(2)

No	出土区	石材	大きさ(mm)			重量(g)	尖頭部				尖頭部加工				折損	分類	特徴
			長	幅	厚		長	幅	厚	断面形	a	b	c	d			
18	20-7I	#	40.0	13.3	10.1	5.5	7.0	6.9	5.9	三角形	○	○	○	○	-	HII	65-214
19	25-17III	#	47.9	9.7	8.9	3.9	8.4	6.1	6.8	三角形	○	○	○	○	-	HII	65-215
20	25-17 I+II	#	(45.4)	12.1	9.5	4.8	9.5	4.6	4.3	三角形	○	○	○	○	-	HII	65-216
21	27-17II	玉髓質	(44.6)	13.6	6.9	3.9	8.7	6.1	3.5	凸レンズ	○	○	○	○	-	HII	
22	27-28II	真岩	33.5	10.7	5.6	1.8	16.8	5.7	4.3	菱形	○	○	○	○	-	HII	67-219
23	27-31II	#	38.9	12.9	7.6	3.1	12.1	6.4	3.0	三角形	○	○	○	○	-	HII	67-220
24	26-27II	#	36.2	11.0	4.3	1.4	6.7	3.3	2.6	凸レンズ	○	○	○	○	-	HII	67-221
25	21-15II	#	32.7	14.5	5.2	2.3	8.1	5.3	2.6	台形	○	○	○	○	-	HII	67-223
26	27-29II	#	33.2	(8.7)	3.1	1.0	7.3	3.6	2.7	凸レンズ	○	○	○	○	基部左	HII	67-224
27	20-17II	#	52.2	18.3	10.2	9.6	19.9	7.5	4.0	凸レンズ	○	○	○	○	-	HII	67-228
28	27-25II	#	31.6	14.8	5.3	2.2	5.8	4.6	2.8	菱形	○	○	○	○	-	HII	
29	23-5II	#	33.3	14.3	6.9	3.3	8.8	6.4	4.8	菱形	○	○	○	○	-	HII	
30	26-30II	#	34.1	15.6	5.7	2.9	8.2	6.3	3.8	菱形	○	○	○	○	-	HII	
31	25-15III	#	49.2	15.0	12.0	7.1	17.0	9.3	5.9	菱形	○	○	○	○	-	HII	67-225
32	21-8II	玉髓質	22.5	12.3	5.9	1.7	6.4	6.1	3.4	三角形	○	○	○	○	-	HII	
33	26-21II	真岩	25.2	14.5	5.2	1.8	9.5	5.9	3.3	台形	○	○	○	○	-	HII	
34	25-20II	玉髓質	31.3	14.8	11.2	3.8	8.9	6.6	4.8	三角形	○	○	○	○	-	HII	
35	21-6II	真岩	32.3	13.3	7.4	3.1	7.1	6.7	4.4	菱形	○	○	○	○	-	HII	
36	26-23II	#	31.1	18.2	9.3	3.3	9.7	4.0	4.3	菱形	○	○	○	○	-	HII	
37	27-32II	铁石英	39.4	20.2	10.2	6.5	8.1	5.3	3.3	台形	○	○	○	○	-	HII	
38	26-25II	真岩	25.3	12.1	4.3	1.5	5.7	4.3	3.0	台形	○	○	○	○	-	HII	
39	20-10II	#	(24.9)	11.1	7.7	2.6	3.1	5.0	4.5	凸レンズ	○	○	○	○	基部	HII	67-217
40	28-19II	#	(41.1)	24.0	9.3	8.7	17.0	8.1	6.0	菱形	○	○	○	○	基部	HII	67-227
41	23-9II	#	(23.7)	(15.7)	(9.9)	2.1	16.3	7.2	4.9	凸レンズ	○	○	○	○	基部	HII	
42	26-25II	#	(21.7)	(14.5)	(7.7)	2.0	6.5	7.1	3.6	三角形	○	○	○	○	基部	HII	
43	18-11II	#	(23.5)	(11.2)	(7.1)	2.0	6.7	6.3	4.2	台形	○	○	○	○	基部	HII	
44	27-28II	#	(29.5)	(17.2)	9.2	3.7	12.2	6.4	4.0	三角形	○	○	○	○	基部	HII	
45	22-27II	#	(33.1)	(15.9)	7.1	3.7	14.6	9.5	5.0	三角形	○	○	○	○	基部	HII	
46	22-15II	#	(28.6)	(16.0)	7.3	3.3	8.3	7.2	3.7	凸レンズ	○	○	○	○	基部	HII	
47	25-13II	#	(23.6)	10.9	5.3	1.4	(11.1)	(5.3)	(4.5)	菱形	○	○	○	○	先端	HII	67-218
48	17-32-I+II	#	(24.8)	13.9	7.7	2.5	(9.0)	(7.0)	(6.2)	菱形	○	○	○	○	先端	HII	67-222
49	23-15II	#	(38.6)	12.9	8.0	6.1	(3.9)	(7.0)	(5.3)	三角形	○	○	○	○	先端	HII	67-226
50	22-16II	#	(24.9)	12.8	8.0	2.0	(15.7)	(4.8)	(4.8)	三角形	○	○	○	○	先端	HII	
51	25-26II	#	(29.0)	11.2	4.9	1.8	(5.2)	(5.6)	(2.3)	凸レンズ	○	○	○	○	先端	HII	
52	23-24II	#	(33.4)	18.2	8.9	4.8	(7.7)	(6.2)	(4.1)	菱形	○	○	○	○	先端	HII	
53	22-32-I+II	#	(38.5)	12.2	12.7	4.8	(8.1)	(6.8)	(3.2)	凸レンズ	○	○	○	○	先端	HII	
54	X-0	#	(39.6)	16.5	10.0	5.5	(4.9)	(6.4)	(4.5)	凸レンズ	○	○	○	○	先端	HII	
55	26-32II	#	(43.7)	19.5	12.2	10.4	(16.6)	(11.5)	(7.8)	菱形	○	○	○	○	先端	HII	
56	27-25II	#	(21.3)	(12.5)	3.3	0.5	7.0	3.0	1.6	凸レンズ	○	○	○	○	基部	HII	67-229
57	23-32-I+II	#	(29.3)	13.4	5.1	1.8	7.5	4.4	3.1	三角形	○	○	○	○	基部	HII	67-230
58	27-32II	#	(43.7)	21.4	9.5	6.7	(8.40)	(6.7)	(7.2)	菱形	○	○	○	○	先端	HII	67-231
59	19-11II	#	48.8	29.1	8.8	11.2	6.9	7.4	4.1	台形	○	○	○	○	-	HII	67-232
60	15-18II	#	(51.3)	(18.1)	6.7	7.7	(7.9)	(5.6)	(6.2)	菱形	○	○	○	○	先端	HII	67-233
61	SK2F	#	49.4	31.6	8.8	9.4	18.7	6.8	2.7	凸レンズ	○	○	○	○	-	HII	67-234
62	24-30II	#	56.4	37.5	10.6	15.1	11.1	7.9	3.4	凸レンズ	○	○	○	○	-	HII	67-235
63	28-15II	#	15.8	9.8	4.4	0.7	4.7	4.2	2.9	菱形	○	○	○	○	-	HII	
64	26-18II	#	23.5	11.3	3.6	0.9	6.5	4.4	2.6	凸レンズ	○	○	○	○	-	HII	
65	27-12II	#	(26.0)	(25.5)	4.9	1.9	11.6	6.4	4.2	凸レンズ	○	○	○	○	基部	HII	
66	23-6II	碧玉片岩	26.5	16.1	8.5	3.3	6.1	5.0	3.3	凸レンズ	○	○	○	○	-	HII	
67	25-26II	真岩	34.2	19.6	5.8	4.6	6.6	7.0	6.0	台形	○	○	○	○	-	HII	
68	22-30II	#	42.9	26.6	10.6	11.4	8.3	4.9	3.4	三角形	○	○	○	○	-	HII	
69	26-30II	#	38.4	25.8	7.4	6.1	9.9	25.8	7.8	三角形	○	○	○	○	-	HII	
70	27-23II	#	34.8	29.2	11.0	8.6	6.6	7.6	4.0	菱形	○	○	○	○	-	HII	
71	11TH	#	63.3	17.4	5.0	6.3	12.9	7.1	3.1	台形	○	○	○	○	-	HII	
72	27-16II	#	52.1	36.5	5.5	9.5	6.9	5.0	2.5	三角形	○	○	○	○	-	HII	
73	26-26II	#	22.1	16.3	4.1	1.2	7.8	5.6	2.4	三角形	○	○	○	○	-	HII	
74	20-21II	#	32.6	10.7	7.7	3.3	6.6	4.6	3.5	台形	○	○	○	○	-	HII	
75	22-13II	#	(27.5)	17.6	6.6	2.9	(5.1)	(4.7)	(3.8)	菱形	○	○	○	○	先端	HII	
76	26-29II	#	41.0	22.4	5.5	4.1	15.2	7.3	3.3	凸レンズ	○	○	○	○	-	HII	
77	15-18III	#	43.5	24.2	10.9	8.7	6.4	5.2	3.1	三角形	○	○	○	○	-	HII	
78	26-30II	#	(34.4)	31.3	5.8	6.3	(2.3)	(5.4)	(3.2)	凸レンズ	○	○	○	○	先端	HII	
79	10-22II	#	32.3	20.0	8.1	3.9	8.3	5.6	4.7	台形	○	○	○	○	-	HII	67-236
80	17-35 I+II	#	35.6	7.0	3.9	1.2	4.8	4.7	3.2	凸レンズ	○	○	○	○	-	HII	67-237



- 115 -

第67図 石器実測図(9) 石錐・石匙



の出土がある。

b : 一端が刃部となるもの。これには基部も両面加工となる b_1 (219~221、223、224、228) と、厚手の細長い剝片または折断剝片を素材として、その形をあまり変化させない b_2 (225) がある。 b_1 が 9 点、 b_2 が 8 点出土している。

c : IIa、または IIb₁ の折損した部分資料。基部の欠ける c_1 (217、227)、先端の欠ける c_2 (218、222、226) がある。 c_1 が 9 点、 c_2 が 9 点出土している。

III類：剝片の一端を尖がらせて刃部としたもの (229~235)。素材のかたちを大きく変えことはないが、それ故、素材のかたちに制約され、多様な形態となる。23点の出土がある。

IV類：I ~ III類以外の特殊な形態となるもの (236、237)。237は両面加工の刃部をもつ削器の刃部を折りとてその長軸先端に刃部を作出しており、この部分に磨滅が認められる。

石錐の石材は頁岩のほか、玉髓質、鉄石英、緑泥片岩がある。

石 錐 (第67~70図 表-33 図版36)

相対する二つのノッチを入れることによって作出されたつまみをもつ石器を石錐とした。全部で40点の出土があるが、石材はすべて頁岩である。これらは、つまみと刃部の位置関係によって以下のように分類される。

I類：原則とした側縁が刃部となる縦形のもので、つぎのように細分できる。

a : 左右が対称形となるもの。これらは先端部の形態の相異でさらに細分できる。完全な両面加工となり、尖頭器のような先端部をもつ a_1 (238~242)。片面加工であるが尖頭器のような先端部をもつ a_2 (243)。先端部が幅広となり、ここにも加工があって刃部となる a_3 (245、246)。幅広の先端部をもつが、加工のない a_4 (244、248)。折損のため先端部の形態が不明な a_5 (247、249)。 a_1 が 7 点、 a_2 が 1 点、 a_3 が 2 点、 a_4 が 2 点、 a_5 が 7 点出土している。

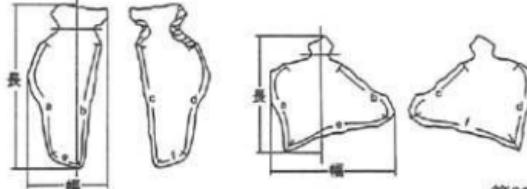
b : 左右が非対称形のもの。これらは右側縁が直線状をなし、左側縁が弧を描く b_1 (250~251)、左側縁が直線状をなし、右側縁が弧を描く b_2 (252~255)、右側縁が弧を描き、左側縁が「く」の字状に曲って肩を張る b_3 (256~258) に細分される。 b_1 が 5 点、 b_2 が 6 点、 b_3 が 3 点出土している。

II類：つまみを上方に置いた時、その下端の縁辺が刃部となる横形のもの (259、260)。5 点の出土がある。

III類：I・IIの中間的形態となるもの (261、262)。2 点の出土がある。

属性表

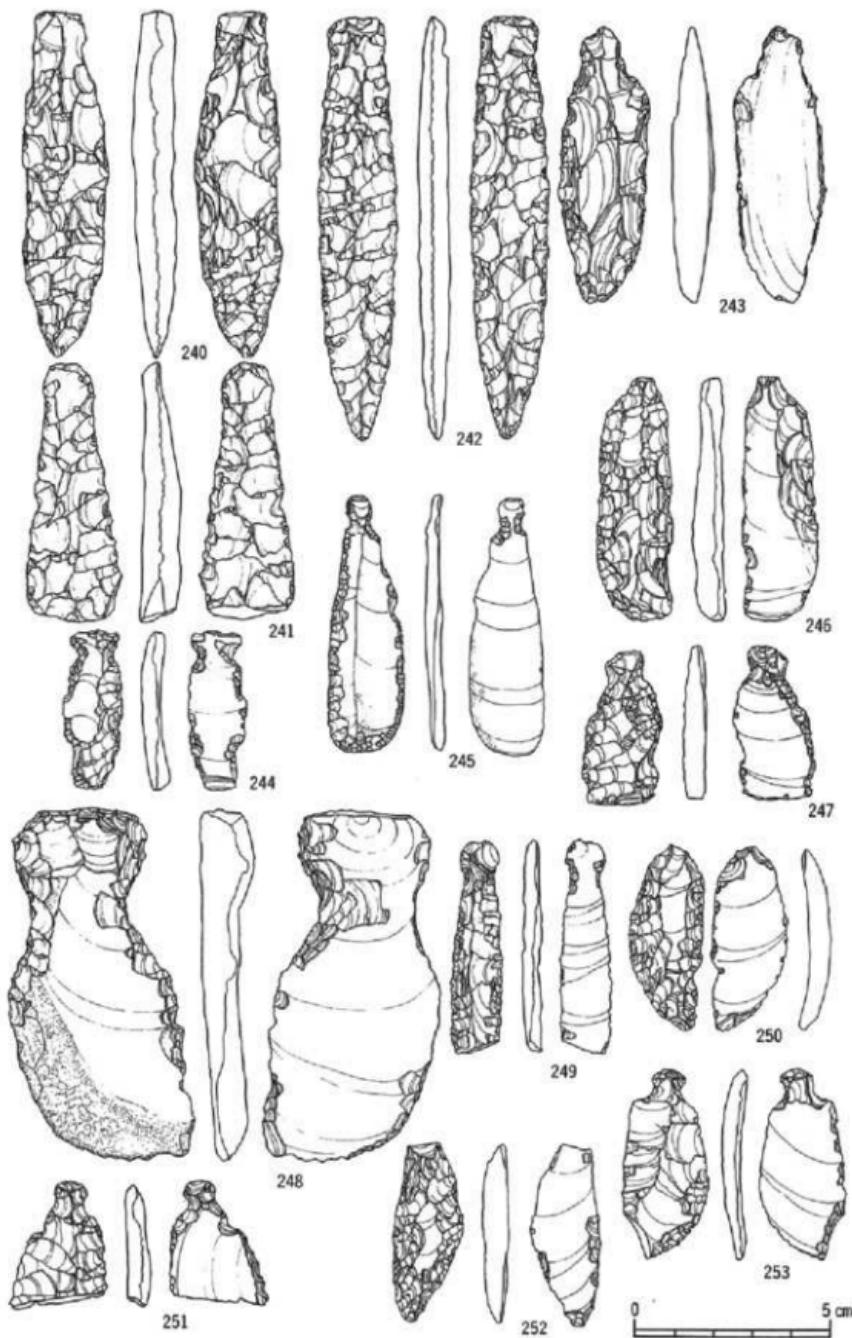
- 1 大きさ 第68図に示したように、長は左右のノッチの最奥部を結んだ線に垂直を引き、上端、下端の最も突出する位置から、この直線に直交する線を引きその距離を計測した。幅はこの垂直線を軸として、左、右の最も突出する位置から、直線に平行な線を引き、その距離を計測した。したがって、長、幅ともみかけの大きさとなる。厚は最大厚をとった。
- 2 加工部位と種類 第68図のように薬材の背面を上にして、つまみ部を上方に置いた場合、表面の左側をa、右側をb、裏面の左側をc、右側をd、また、表面の下縁をe、その裏面をfとし、それぞれの部位の加工状況を示した。先端の尖るものは、e、f側に×を入れ、加工のないものはーとした。加工の種類は：1：通常削除、2：フルーティング削除、3：奥行2mm前後の微細な削除、の三種類に分け、縁辺の全長にわたるものについてはA、縁辺を三等分した場合、その1/3以上が加工されているものをB1/3未満のものをCとした。その組合せで表記した。また一組辺が異なる種類の削除で加工されているものは、上部から順に、3→1→Aのように記した。なお、加工が薬材の中央部に達する類的な加工が施されているものは、数字を○で囲み、縁辺全体が加工されているが、折損しているものも付した。折損によって縁辺の失われたものは空欄とした。
- 3 縁辺の状況と平均刃角 縁辺が直線状になるものをB、凸弧を描くものをB、凹弧を描くものをCとした。たとえば第68図のa-dのように凸弧を二つもつものについては、B-BとB-Cというように上部から順に記述した。また刃角についてはa-d・b-c・c-e・fによって構成される各縁辺について、加工の有無を問わずに2cmに1ヶ所ずつ、5度ごとにキザミを入れたボール紙を使って計測しその平均値を記した。



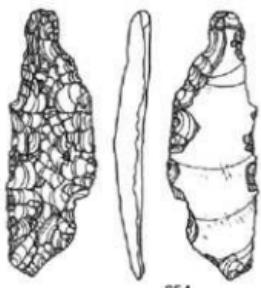
第68図 石匙模式図

表-33 石匙属性表

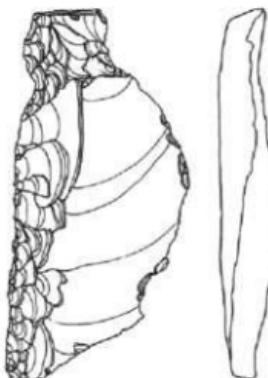
No.	出土地	石材	大きさ(mm)			重量	加工部位と種類						縁辺状況と平均刃角			折れ	分類	回数					
			長	幅	厚		a	b	c	d	e	f	a-d	万角	b-c	万角	e-f	万角					
1	SX-3	霞石	36.0	14.2	5.7	1.5	②A	②A	②A	②A	×	×	B	48	B	47	×	—	Ia ₁	2-28			
2	25-21II	石	35.1	13.7	5.5	1.2	①A	①A	①A	①A	×	×	B	46	B	45	×	—	Ia ₂	2-29			
3	25-21II	石	34.0	13.8	5.6	2.3	①A	①A	①A	①A	×	×	B	78	B	78	×	—	Ia ₃	2-30			
4	25-21II	石	35.9	20.5	9.0	1.9	①A	①A	①A	①A	①A	①A	A	22	A	22	—	末端	Ia ₄	2-31			
5	25-21II	石	34.4	13.0	7.8	1.7	②A	②A	②A	②A	②A	②A	B	40	B	40	—	—	Ia ₅	2-32			
6	21-3III	石	40.6	27.7	11.2	3.4	①A	①A	①A	①A	①A	①A	C-A	98	B	68	—	—	Ia ₆	2-33			
7	25-21II	石	40.0	23.3	9.2	3.8	①A	①A	①A	①A	①A	①A	A	30	A	30	—	—	Ia ₇	2-34			
8	25-21I	石	37.6	24.4	9.9	1.9	①A	①A	①A	①A	—	—	B	66	B	66	—	—	Ia ₈	2-35			
9	21-21II	石	46.7	30.0	14.4	5.9	①A	②B	②C	②A	—	—	A	30	B	55	A	30	Ia ₉	2-36			
10	21-21II	石	42.7	32.4	4.1	10.0	①A	①A	①A	①B	①A	①A	B	46	A	46	A	46	Ia ₁₀	2-37			
11	25-5-I	石	42.7	15.1	5.1	3.7	①A	①A	①B	①A	①A	①A	B	32	B	32	—	—	Ia ₁₁	2-38			
12	25-21II	石	39.6	6.2	8.0	46.7	①A	①A	①B	①C	①A	①A	B	65	B	65	B	65	Ia ₁₂	2-39			
13	25-25II	石	39.9	9.4	4.9	4.7	①A	①A	①C	①A	①A	①A	B	30	B	26-C	6	—	Ia ₁₃	2-40			
14	25-10II	石	36.9	21.1	4.4	3.0	①A	①A	①C	—	—	—	B	22	A	22	—	—	Ia ₁₄	2-41			
15	25-28II	石	35.5	22.0	4.6	2.1	①A	①A	①A	①A	①A	①A	X	—	B	55	B	55	—	—	Ia ₁₅	2-42	
16	25-24II	石	38.8	22.0	3.0	8.8	①A	①A	①A	—	—	—	B	55	B	55	—	—	Ia ₁₆	2-43			
17	25-26II	石	35.7	15.0	5.1	1.8	①A	①A	①A	①A	①A	①A	A	30	C-C	6	—	—	Ia ₁₇	2-44			
18	25-22II	石	36.4	26.0	6.5	8.9	①A	①A	①A	—	—	—	B	30	B	30	—	—	Ia ₁₈	2-45			
19	25-14II	石	34.4	12.3	5.2	1.2	①A	①A	①A	—	—	—	A	35	A	35	—	—	Ia ₁₉	2-46			
20	25-29II	石	41.7	6.3	6.8	5.3	①A	①A	①C	—	—	—	B	55	B	45-C	6	—	Ib ₁	2-47			
21	25-19II	石	35.6	25.5	4.7	4.0	①A	①A	①B	①A	①A	①A	X	—	B	6	B	30	—	Ib ₂	2-48		
22	25-18II	石	38.6	26.4	6.1	2.2	①A	①A	①A	①A	①A	①A	B	55	B	55	—	—	Ib ₃	2-49			
23	25-25II	石	29.5	13.9	5.2	1.5	①A	①A	①A	①A	①A	①A	B	30	A	6	—	—	Ib ₄	2-50			
24	25-23II	石	35.1	24.4	14.0	9.7	①A	①A	①A	①B	—	—	X	C-B	6	A	6	—	Ib ₅	2-51			
25	25-27II	石	46.0	17.8	5.6	5.7	①A	①A	①B	①B	①B	①B	X	A	6	B	6	—	Ib ₆	2-52			
26	25-22II	石	46.0	22.3	4.7	4.3	①A	①A	①A	—	—	—	X	A	30	B	30	—	Ib ₇	2-53			
27	25-25II	石	46.1	22.0	7.5	8.8	①A	①A	①A	①C	—	—	X	A	30	B-C	6	—	Ib ₈	2-54			
28	25-24II	石	39.5	6.1	12.9	8.5	①A	—	—	①B	①A	①A	X	A	30	B-C	35	—	Ib ₉	2-55			
29	25-21II	石	35.5	24.3	9.4	9.3	①A	—	—	—	—	—	B	30	—	—	—	右半	Ib ₁₀	2-56			
30	25-11II	石	35.0	11.5	6.4	1.7	①A	①A	—	—	—	—	A	30	B	30	—	—	Ib ₁₁	2-57			
31	25-20II	石	38.4	38.5	10.7	9.3	①A	①A	①C	①D	①A	①A	X	A	30	B	30	—	—	Ib ₁₂	2-58		
32	25-11II	石	46.0	27.6	11.3	8.7	①A	①A	①B	①A	—	—	X	A	30	B	30	—	—	Ib ₁₃	2-59		
33	25-22II	石	32.3	47.4	6.5	9.4	①A	①A	①C	①A	①A	①A	X	B	30	B	30	—	—	Ib ₁₄	2-60		
34	25-7II	石	35.5	46.7	10.7	9.9	①A	①A	①C	①A	①A	①A	A-B-C	5	A	30	A	30	—	Ib ₁₅	2-61		
35	25-4II	石	35.2	38.7	6.6	9.8	①A	①A	①C	①A	①A	①A	—	B	30	A	30	A	30	Ib ₁₆	2-62		
36	25-11II	石	38.3	27.1	2.5	7.1	①A	①A	①A	—	—	—	B	30	A	30	A	30	—	Ib ₁₇	2-63		
37	25-20II	石	32.3	35.5	4.6	2.9	①A	①A	①A	①A	①A	①A	B	30	B	30	B	30	—	Ib ₁₈	2-64		
38	25-21II	石	35.0	27.1	8.0	8.4	①A	①A	①A	①A	①A	①A	I-C-A	9	B	30	C-A	9	—	Ib ₁₉	2-65		
39	25-9II	石	36.1	36.1	8.4	8.9	①A	①A	①C	①B	①A	①A	—	B	30	C-C	6	C	30	—	Ib ₂₀	2-66	
40	25-10II	石	46.0	32.0	6.5	12.8	①A	①A	①C	①B	①A	①A	—	E-C-B	6	B	30	A	30	—	Ib ₂₁	2-67	



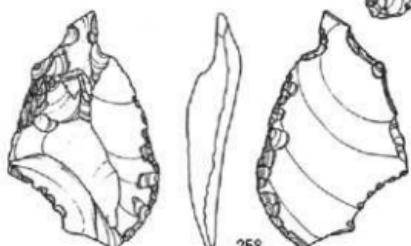
第69図 石器実測図 (10) 石匙



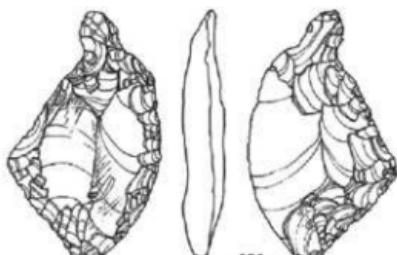
254



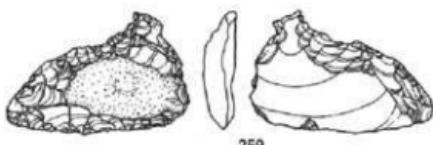
255



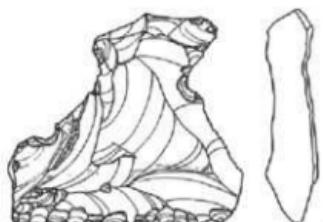
258



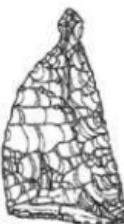
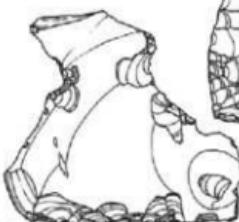
256



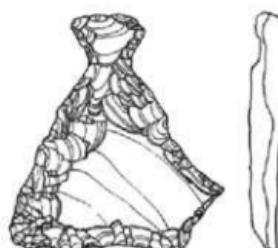
259



257



257



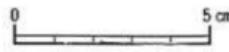
260



261



262



第70図 石器実測図 (II) 石匙

石 範 (第71~85図 表-34~37 圖版36・37)

素材となった剥片の背面と主要剝離面の両面に加工され、その長軸の末端が刃部になると考えられる一群、また、背面側だけの片面加工であっても、刃部と考えられる末端の刃角が小さく、搔器とはなり得ないものもここで扱った。この定義に合致する石器は240点で、他にこの石器の製作段階と理解できるものが42点ある。石材は玉髓質が1点あるが残りはすべて頁岩である。これらは平面的なかたち、刃部の形態、加工部位の相異によって以下のように分類される。

I類：撥形で刃部が片刃状となるもの。これはさらにつぎのように細分される。

- a：両面加工のもの。刃部が丸味を帯びるa₁ (263~266)、直線状をなすa₂ (267~280) があり、それぞれ7点、14点の出土がある。
- b：素材の背面側はほぼ全面が調整加工面で覆われるが、主要剝離面側は側縁部だけに周辺加工が施されるもの。刃部が丸味を帯びるb₁ (281~287)、と直線状となるb₂ (288~295) があり、b₁、b₂とも8点の出土がある。
- c：素材の背面側はほぼ全面が調整加工面で覆われるが、主要剝離面側は刃部と考えられる先端部にわずかに浅い加工が認められるもの。刃部が丸味を帯びるc₁ (296~297) と直線状をなすc₂ (298) があり、c₁は2点、c₂は3点の出土。
- d：主要剝離面側に一切の加工が認められないもの。刃部が丸味を帯びるd₁ (299~301) と直線状をなすd₂ (302、303) があり、各3点の出土がある。
- e：刃部が素材の剝離面や自然面で構成され刃部加工の認められないもの。いわゆるトランシェ様石器である。刃部が丸味を帯びるe₁ (306、307) と、直線状となるe₂ (304、305) があり、e₁が3点、e₂が5点出土している。
- f：刃部はI eと同様、素材の剝離面や自然面で構成されるが、裏面側(素材の主要剝離面)に浅い加工が認められるもの (308~310)。3点とも直線状の刃部となる。

II類：撥形で刃部が両刃状となるもの。

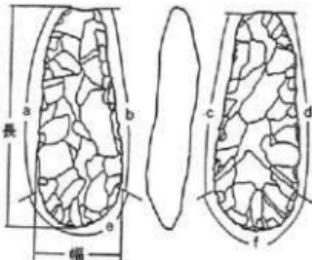
- a：両面加工となるもの。刃部が丸味を帯びるa₁ (311~326) と、直線状となるa₂ (327~329) があり、a₁は20点、a₂は8点の出土である。
- b：刃部の一面に素材面を残すもの (330~334)。5点とも刃部は直線状をなす。

III類：短冊形で刃部が片刃状となるもの。

- a：両面加工となるもの。刃部が丸味を帯びるa₁ (335~337) と直線状をなすa₂ (338~340) があり、a₁は7点、a₂は5点の出土となっている。
- b：素材の背面側はほぼ全面が調整加工面で覆われるが、主要剝離面側は側縁部

属性表注

- 大きさ** 第71図に示すように、石器の輪郭を基準として、その全長を長さ、みかけの幅を幅、最大厚さを厚の欄に記した。
- 加工部位と種類** 原則として素材的主要剖面側を下に、基部側を上位に置いた時の左側縁をa、右側縁をb、末端をc、この状態から正位で裏返した時の左側縁をc、右側縁をd、末端をfと区分した。加工の種類は石器と同じである。なお、完全に開口部加工となっていたて、素材の背面、主要剖面側の違いがわからないものについては、末端にフルーティングなど入念な加工が施されている方が表面とした。末端の形状でもなお、表・高の区別のつかないものは、任意に表面側を決定した。
- 縁辺の状況と平均刃角** 縁辺の状況については石器と同様であるが、平均刃角は開口部加工のある部分を石器に準じて記した。
- 残存部位** 完成品は空欄、上部が残存しているものはA、中間部資料はB、末端部資料はCと記した。



第71図 石器模式図

表-34 石器属性表 (1)

No.	出土区	石器	大きさ (mm)		重量 (g)	加工部位と種類							縁辺状況と平均刃角							分類	標目
			長	幅		a	b	c	d	e	f	a+d	刃内	b+c	刃外	e+f	刃角				
1	29-11-I	直刃	47.7	33.0	10.5	13.4	QDA	QDA	DA	DA	DA	DA	A	#	B	C	B	■	I a ₁	75-26	
2	29-11-II	II	45.4	36.8	19.1	4.4	QDA	IA	IA	IA	IA	IA	B	■	B	■	B	■	I a ₂	75-24	
3	29-11-III	III	45.6	36.0	17.9	8.7	QDA	IA	IA	IA	IA	IA	C-C	■	B	■	B	■	I a ₃	75-25	
4	29-11-I+II	II	42.6	32.2	13.2	26.6	IA	QDA	IA	IA	IA	IA	B	■	B	■	B	■	I a ₄	75-26	
5	29-11-IV	IV	25.0	25.6	8.1	5.5	IA	—	IA	IA	IA	IA	B	■	B	■	B	■	I a ₅	75-26	
6	29-12-II	II	42.9	32.3	15.5	21.3	IA	IB	—	IA	IA	IA	B	■	B	■	B	■	I a ₆	75-26	
7	29-12-III	III	50.4	35.6	11.1	18.8	IB	—	IB	IA	IA	IA	B	■	B	■	B	■	I a ₇	75-26	
8	29-12-IV	IV	42.3	31.7	7.7	7.6	IA	QDA	IA	IA	IA	IA	A	■	B	■	A	■	I a ₈	75-26	
9	29-17-II	II	42.8	32.3	9.6	11.2	QDA	QDA	IA	IA	IA	IA	A	■	B	■	A	■	I a ₉	75-26	
10	29-21-II	II	42.4	32.0	15.1	20.4	IA	QDA	IA	IA	IA	IA	A	■	B	■	A	■	I a ₁₀	75-26	
11	29-22-II	II	42.1	35.0	9.5	15.5	QDA	QDA	IA	IA	IA	IA	B	■	A	■	B	■	I a ₁₁	75-27	
12	29-11-III	III	42.4	29.6	9.3	14.5	IA	IA	IC	IA	IA	IA	B	■	A	■	A	■	I a ₁₂	75-27	
13	29-22-II	II	32.2	35.6	13.9	17.7	QDA	QDA	IA	IA	IA	IA	A	■	A	■	A	■	I a ₁₃	75-27	
14	29-5-II	II	42.5	36.5	14.6	17.0	IA	IA	IA	IA	IA	IA	C	■	A	■	A	■	I a ₁₄	75-27	
15	29-5-II	II	42.7	33.0	11.0	8.6	IA	IB	IA	IA	IA	IA	B	■	A	■	A	■	I a ₁₅	75-27	
16	29-7-II	II	42.8	34.4	17.8	12.7	IA	QDA	IA	IA	IA	IA	B	■	A	■	A	■	I a ₁₆	75-27	
17	29-8-II	II	39.9	32.7	16.3	14.9	IA	QDA	IA	IA	IA	IA	B	■	A	■	A	■	I a ₁₇	75-26	
18	29-10-III	III	27.7	32.3	21.0	14.3	IA	IA	IA	IA	IA	IA	B	■	A	■	B	■	I a ₁₈	75-27	
19	29-12-IV	IV	42.3	42.9	16.7	17.0	QDA	QDA	IA	IA	IA	IA	A	■	A	■	A	■	I a ₁₉	75-27	
20	29-11-II	II	42.7	42.7	17.1	17.9	IA	QDA	IA	IA	IA	IA	A	■	A	■	A	■	I a ₂₀	75-27	
21	29-12-II	II	42.9	32.2	16.7	18.7	IA	QDA	IA	IA	IA	IA	A	■	A	■	A	■	I a ₂₁	75-27	
22	29-6-II	II	42.5	30.9	15.1	15.4	QDA	QDA	IA	IA	IA	IA	A	■	A	■	A	■	I b ₁	75-26	
23	29-4-II	II	42.2	31.1	16.6	13.9	IC	—	IA	—	IA	IC	A	■	A	■	B	■	I b ₂	75-26	
24	29-3-III	III	56.4	35.4	9.5	30.4	IA	IA	IA	IA	IA	IA	B	■	B	■	B	■	I b ₃	75-23	
25	29-5-II	II	21.1	42.3	8.5	8.2	QDA	QDA	IA	IA	IA	IA	A	■	A	■	A	■	I b ₄	75-24	
26	29-6-II	II	42.7	50.0	16.8	8.5	IA	QDA	IB	IA	IA	IA	B	■	B	■	B	■	I b ₅	75-25	
27	29-7-II	II	42.8	52.2	16.6	10.5	QDA	IB	IA	IA	IA	IA	A	■	S2.5	B	■	B	■	I b ₆	75-26
28	29-8-II	II	42.4	46.4	12.8	10.6	IA	QDA	IA	—	IA	IA	B	■	A	■	B	■	I b ₇	75-27	
29	29-5-III	III	42.4	39.0	14.4	9.3	QDA	QDA	IA	IA	IA	IA	B	■	A	■	B	■	I b ₈	75-27	
30	29-8-III	III	27.7	27.4	19.0	7.2	QDA	QDA	IA	IA	IA	IA	B	■	A	■	B	■	I b ₉	75-26	
31	29-5-II	II	42.6	39.5	13.5	11.8	QDA	QDA	IB	IA	IA	IA	C	■	B	■	A	■	I b ₁₀	75-27	
32	29-5-II	II	42.5	38.6	13.8	10.2	QDA	QDA	IA	IA	IA	IA	A	■	S2.5	B	■	B	■	I b ₁₁	75-27
33	29-5-III	III	42.3	32.8	13.8	9.0	QDA	QDA	IB	IB	IA	IB	A	■	S2.5	B	■	B	■	I b ₁₂	75-26
34	29-2-II	II	42.5	27.6	13.6	8.4	IA	IA	IA	IB	IA	IB	A	■	B	■	A	■	I b ₁₃	75-26	
35	29-2-II	II	42.9	30.0	15.9	8.1	QDA	QDA	IA	IA	IA	IA	A	■	C	■	C	■	I b ₁₄	75-26	
36	29-5-II	II	42.5	30.4	10.0	6.2	QDA	QDA	IA	IA	IA	IA	B	■	S2.5	A	■	A	■	I b ₁₅	75-24
37	29-4-III	III	42.3	47.8	12.5	6.3	IA	IA	—	IA	IA	IC	C	■	B	■	C	■	I b ₁₆	75-25	
38	29-5-III	III	42.9	27.9	13.5	6.0	QDA	IA	IC	—	IA	C	S2.5	B	■	B	■	C	■	I c ₁	75-26
39	29-5-II	II	21.1	30.0	11.8	17.5	IA	IA	—	IA	IA	GA	B	■	B	■	B	■	I c ₂	75-26	
40	29-3-III	III	22.0	27.4	9.5	6.0	QDA	IA	—	IA	IA	GA	B	■	B	■	B	■	I c ₃	75-26	
41	29-5-II	II	42.4	22.9	7.2	5.5	QCA	IA	IB	IA	IA	IA	B	■	B	■	B	■	I c ₄	75-26	
42	29-1-II	II	37.7	27.2	6.3	10.5	QDA	QDA	IA	IA	IA	IA	B	■	B	■	A	■	I c ₅	75-26	
43	SKSF	II	42.1	22.4	6.9	13.5	QDA	QDA	IA	IA	IA	IA	B	■	A	■	A	■	I d ₁	75-26	
44	29-5-II	II	42.1	22.2	10.5	16.0	IA	QB	—	IC	IA	—	A	■	A	■	G	■	I d ₂	75-26	

表-35 石斧属性表 (2)

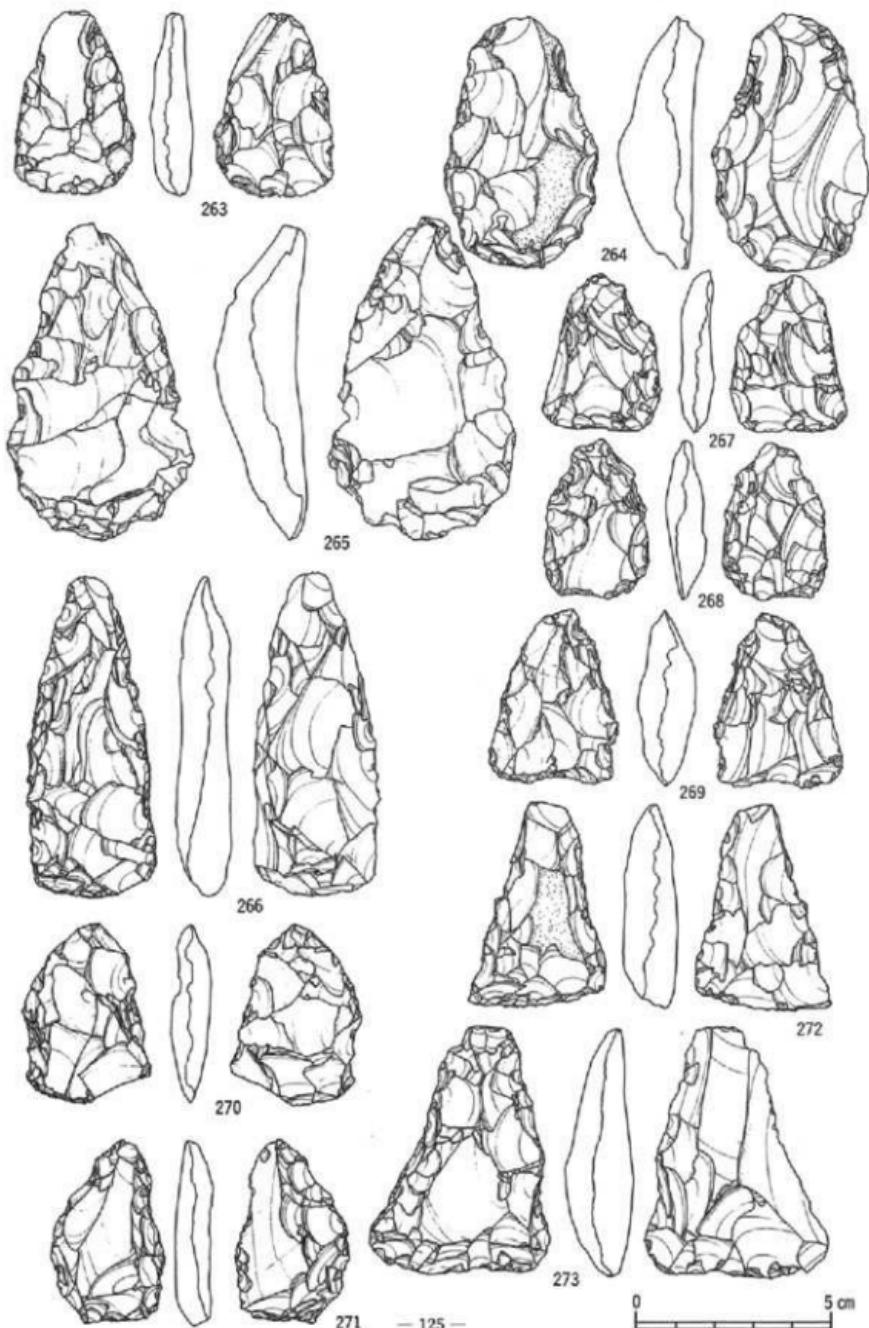
No.	出土区	石材	大きさ (mm)		重量 (g)	加工部位と種類						縁刃状況と平均刃角				残存部位	分類	補足			
			長	幅		a	b	c	d	e	f	a-d	刃角	b-c	刃角	c-f	刃角				
6	2-12-II	頁岩	37.1	31.1	13.7	31.1	①A	①A	—	—	IA	—	B	⑤	B	②	B	④	—	I d ₁ 75-30	
6	2-2-II	石	37.1	31.1	13.3	30.4	①B	①A	IB	—	IA	—	B	③	B	③	B	④	—	I d ₁ 75-30	
6	2-15-II	石	37.4	32.5	12.7	31.3	①A	①A	—	IC	IA	—	A	②	A	⑤	A	④	—	I d ₂ 75-30	
45	2-4-II	石	64.9	28.6	15.3	30.3	①A	①A	—	—	IA	—	A	②	A	⑤	A	④	—	I d ₂ 75-30	
45	2-13-II	石	65.1	37.4	15.3	31.4	IA	IB	—	—	IA	IA	A	④	C	②	A	③	—	I d ₂	
50	2-9-II	石	75.4	45.2	21.5	65.0	①A	①A	①A	①A	①A	—	—	A	③	B	⑤	B	④	—	I e ₁ 75-30
50	2-13-II	石	77.1	46.7	19.7	36.9	①A	①A	IC	—	—	IC	A	③	C	②	B	④	—	I e ₁ 75-30	
52	2-5-II	石	69.7	33.5	6.9	9.6	IB	IA	IB	IB	—	—	A	②	A	③	B	④	—	I e ₁	
52	2-6-II	石	65.1	33.5	8.4	22.7	①A	IA	IA	IA	—	—	A	④	A	④	A	④	—	I e ₁ 75-30	
54	2-2-II	石	71.1	49.3	22.0	33.4	①A	①A	①B	IB	—	—	B	⑦	A	②	A	⑤	—	I e ₁ 75-30	
55	2-9-II	石	31.5	26.4	11.6	10.5	①B	①A	IC	—	IB	IA	A	②	A	③	A	④	—	I e ₁	
55	2-10-II	石	66.9	41.7	11.4	10.5	IB	IB	IA	IA	—	—	A	④	B	④	C	④	—	I e ₁	
55	2-2-II	石	71.1	52.0	23.6	30.9	①A	①A	—	IB	—	—	B	④	B	④	C	④	—	I e ₁	
55	2-3-II	石	61.5	31.7	9.0	10.5	IA	①A	IA	IC	IC	—	CA	②	B	④	A	④	—	I e ₁	
55	2-7-II	石	65.6	32.0	8.5	9.2	①A	①A	①A	①A	—	LA	B	⑥	B	④	A	④	—	I f 75-30	
58	SXF	石	71.0	41.0	16.5	42.3	—	IC	IA	IA	IA	—	IA	B	⑦	A	④	B	④	—	I f 75-30
6	2-3-II	石	30.8	23.1	9.8	9.0	①A	①A	①A	①A	①A	—	DA	③	B	④	B	④	—	I a ₁ 75-30	
6	2-4-II	石	35.7	26.7	11.8	11.0	①A	①A	IA	IA	—	IA	B	④	B	④	B	④	—	I a ₁ 75-30	
6	2-5-II	石	36.0	23.6	11.7	12.3	①A	①A	①A	①A	①A	—	DA	④	B	④	B	④	—	I a ₁ 75-30	
6	2-6-II	石	34.8	21.9	8.8	10.5	—	IA	①A	—	IA	IA	A	④	B	④	B	④	—	I a ₁ 75-30	
6	2-7-II	石	38.5	29.3	8.8	11.0	IA	IB	—	IA	IB	—	B	④	B	④	C	④	—	I a ₁ 75-30	
6	2-9-II	石	40.0	26.6	11.2	11.9	①A	①A	IB	①A	①A	—	DA	④	B	④	B	④	—	I a ₁ 75-30	
6	2-10-II	石	45.7	30.5	10.0	12.9	①A	①A	①A	①A	①A	—	DA	④	B	④	B	④	—	I a ₁ 75-30	
6	2-11-II	石	46.2	30.9	4.9	11.2	IA	①A	①B	IA	IA	IA	B	④	B	④	B	④	—	I a ₁ 75-30	
6	2-12-II	石	46.2	30.5	10.0	14.8	IC	IB	IB	IB	IA	IC	A	④	A-B	④	B	④	—	I a ₁ 75-30	
6	2-13-II	石	52.0	30.0	10.9	18.2	—	IA	IB	—	IB	IA	A	④	B	④	B	④	—	I a ₁ 75-30	
21	2-11-II	石	56.6	41.2	9.5	16.0	①A	①B	①B	①A	IB	IB	B	④	A	—	A	④	—	I a ₁ 75-30	
22	2-16-II	石	62.7	38.8	11.7	20.7	IC	IB	IB	IA	IA	IA	B	④	B	④	B	④	—	I a ₁ 75-30	
23	2-17-II	石	62.7	36.5	14.5	10.5	①A	①A	IB	IA	IA	IA	B	④	C	④	B	④	—	I a ₁ 75-30	
24	2-20-II	石	77.5	35.8	17.8	31.1	IB	①A	IA	IB	IB	IA	A	④	B	④	B	④	—	I a ₁ 75-30	
25	2-21-II	石	84.1	43.1	22.0	75.5	①A	①A	IB	IB	IA	IA	A	④	B	④	B	④	—	I a ₁ 75-30	
26	2-16-III	石	93.1	47.9	18.5	16.7	①A	①A	①A	①A	①A	①A	DA	④	B	④	B	④	—	I a ₁ 75-30	
27	2-21-III	石	93.5	38.0	8.7	8.3	IA	IA	IA	IA	IA	IA	A	④	A	④	B	④	—	I a ₂	
28	2-29-III	石	46.1	32.7	16.0	16.5	IA	IA	IA	IA	IA	IA	A	④	A	④	B	④	—	I a ₂	
29	2-29-III	石	38.8	40.2	9.5	10.8	IB	IA	IA	IB	IA	IB	B	④	B	④	B	④	—	I a ₂	
29	2-29-III	石	29.7	32.2	19.5	22.5	①A	①A	①A	①A	IA	IA	B	④	C	④	B	④	—	I a ₂	
30	2-18-III	石	42.6	21.8	18.0	9.0	IB	IA	IA	IA	IA	IA	A	④	B	④	B	④	—	I a ₂ 75-25	
32	2-20-III	石	45.5	46.1	18.9	31.1	①A	①A	①A	①A	—	IC	A	③	S	④	A	④	—	I a ₂ 75-25	
32	2-21-III	石	52.7	38.0	15.2	11.5	IA	IA	IA	IB	IA	IB	A	④	B	④	S	④	—	I a ₂ 75-25	
34	2-24-III	石	39.4	38.0	4.6	5.6	IA	①A	IA	IA	IA	IA	A	④	C	④	B	④	—	I a ₂	
35	2-6-III	石	38.0	33.2	8.9	8.2	IA	IA	IB	IA	IA	IA	B	④	C	④	B	④	—	I a ₂	
36	2-20-III	石	33.0	33.5	8.6	10.3	①A	①A	IA	IA	IA	IA	B	④	B	④	G	④	—	I a ₂	
36	2-10-III	石	45.7	35.8	12.2	12.7	①A	IB	IA	IA	IA	IA	A	④	C	④	C	④	—	I a ₂	
36	2-20-III	石	59.7	41.0	14.4	10.0	FC	IA	IA	IC	IA	IA	A	④	B	④	B	④	—	I a ₂	
37	2-21-III	石	52.8	48.5	15.7	11.4	IA	IA	IA	IA	IA	IA	A	④	S	④	A	④	—	I b 75-30	
39	2-24-III	石	29.3	36.9	12.5	5.9	IB	IA	IA	IB	—	IC	B	④	E	④	E	④	—	I b 75-30	
41	2-31-III	石	12.2	32.7	14.8	10.2	IA	IA	IB	IA	IA	IA	B	④	A	④	A	④	—	I b 75-30	
41	2-31-III	石	52.2	56.9	16.6	16.6	IB	IA	IA	IA	IA	IA	A	④	A	④	A	④	—	I b 75-30	
41	2-32-III	石	56.7	54.4	22.6	19.8	IB	①A	IB	IB	IA	IA	B	④	C	④	B	④	—	I b 75-30	
42	2-15-III	石	46.2	35.8	12.9	5.2	IA	IA	IA	IA	IA	IA	C	④	B	④	B	④	—	I b 75-30	
42	2-21-III	石	57.5	32.1	14.2	9.5	①A	IA	IA	IA	IA	IA	B	④	S	④	B	④	—	I b 75-30	
42	2-21-III	石	59.4	32.3	11.9	9.8	IA	IA	IA	IA	IA	IA	A	④	A	④	B	④	—	I b 75-30	
43	2-22-III	石	33.3	24.0	17.0	6.6	IB	IA	IA	IB	IA	IA	B	④	E	④	B	④	—	I b 75-30	
43	2-22-III	石	32.0	25.0	17.2	13.9	IA	IA	IA	IA	IA	IA	B	④	A	④	B	④	—	I b 75-30	
43	2-23-III	石	58.5	36.8	14.1	10.6	IA	IB	IA	IA	IA	IA	C	④	B	④	B	④	—	I b 75-30	
43	2-23-III	石	51.9	30.5	12.3	19.5	①A	①A	IA	IA	IA	IA	B	④	B	④	B	④	—	I b 75-30	
44	2-22-III	石	54.6	32.7	11.6	10.8	IA	IA	IA	IA	IA	IA	A	④	A	④	B	④	—	I b 75-30	
44	2-23-III	石	21.6	41.9	16.4	30.2	IA	IA	IA	IA	IA	IA	B	④	C	④	B	④	—	I b 75-30	
44	2-23-III	石	22.9	36.8	16.9	51.3	IA	IA	①A	①A	IA	IA	B	④	A	④	B	④	—	I b 75-30	
44	2-23-III	石	44.1	35.7	14.8	32.7	①A	IA	IA	①A	IA	IA	B	④	B	④	B	④	—	I b 75-30	
45	2-11-III	石	66.9	32.9	15.1	26.9	①A	IA	IA	IA	IA	IA	B	④	C	④	B	④	—	I b 75-30	
46	2-12-III	石	26.7	29.5	11.9	17.7	①A	①A	IA	IA	IA	IA	A	④	A	④	B	④	—	I b 75-30	
46	2-12-III	石	56.4	37.5	11.7	20.1	①A	①A	IA	IA	IA	IA	C	④	B	④	B	④	—	I b 75-30	
46	2-12-III	石	60.5	37.6	9.2	17.6	①A	①A	—	IA	IA	—	B	④	B	④	B	④	—	I b 75-30	
46	2-12-III	石	71.0	36.1	11.1	29.8	①A	①A	IA	IA	IA	IA	C	④	C	④	B	④	—	I b 75-30	
46	2-12-III	石	75.6	38.8	9.8	9.7	①A	①A	IA	IA	IA	IA	B	④	C	④	B	④	—	I b 75-30	

表-36 石鎚属性表(3)

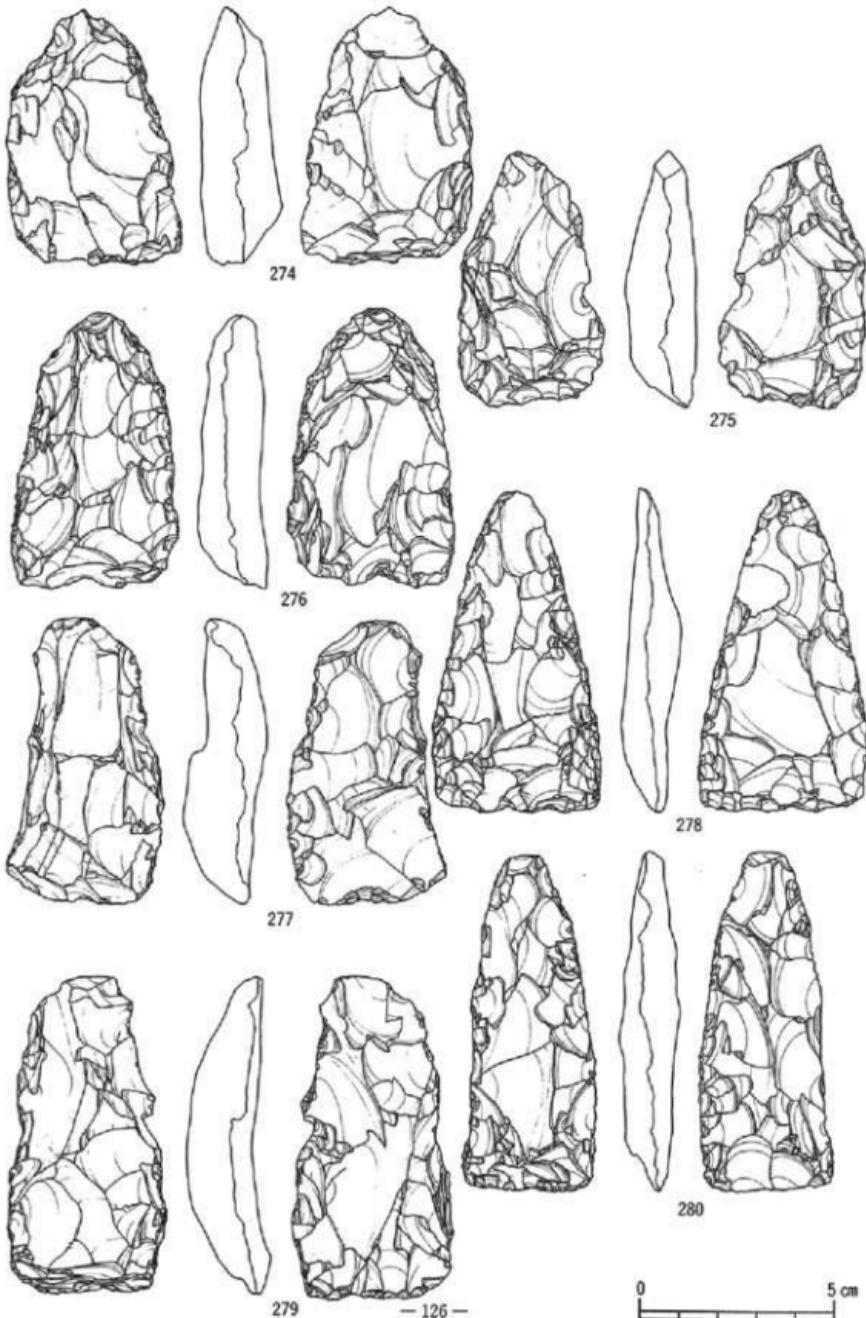
No	出土区	石材	大きさ(mm)					重量 (kg)	加工部位と種類					跡状況と平均刃角					残存部位	分類	特徴
			長	幅	厚	(mm)	(mm)		a	b	c	d	e	f	a+d	刃角	b+c	刃角	e+f	刃角	
11	36-10II	頁岩	68.3	39.8	14.9	55.6	①A	IA	IC	IA	IA	IA	A	14.8	A	15.8	A	15.8	A	IIIb ₁	E-36
12	37-11II	η	78.3	34.8	16.7	56.7	②A	IC	IB	IA	IB	C	14.2	C	16.2	A	15.8	B	16.7	IIIb ₂	E-37
13	37-5I	η	36.6	35.5	16.1	5.6	③A	IA	IA	IA	IA	IB	A	14.8	B	16.0	B	16.0	B	IIIb ₂	
14	36-5II	η	59.5	36.9	12.3	36.0	④A	DA	IA	IB	IA	IA	B	14.8	A	15.5	B	15.5	B	IIIb ₂	
15	37-6II	η	88.4	38.7	12.2	69.9	⑤A	IA	IA	IA	IA	IA	IC	B-C	B	16.0	B	16.0	A	IIIb ₂	
16	36-6I	η	68.1	34.4	13.5	36.9	⑥A	IA	IA	—	IC	IA	A	14.2	C	15.8	B	15.8	B	IIIb ₂	
17	37-5II	η	71.9	39.9	15.1	6.6	⑦A	DA	IC	IC	IA	IA	B	14.2	B	16.0	B	16.0	A	IIIc ₁	
18	37-2II	η	77.7	46.5	16.9	6.0	⑧A	DA	IA	IB	IA	IA	B	14.2	B	16.0	B	16.0	A	IIIc ₁	
19	37-2II	η	62.3	35.5	12.8	35.3	⑨A	IA	IA	—	IA	IC	A	14.8	B	17.7	A	15.5	C	IIIc ₁	
20	37-3II	η	82.9	33.1	13.6	55.6	⑩A	—	IA	—	—	—	A	14.2	B	16.0	B	16.0	C	IIIc ₁	
21	E-T-II	η	65.2	36.9	12.9	44.8	⑪A	IA	IC	IC	IA	IA	C	14.2	B	17.7	A	16.0	C	E-E	
22	37-6II	η	46.1	35.1	9.5	8.1	⑫A	DA	IB	—	IA	IB	B	14.2	B	16.0	A	15.5	C	IIIc ₂	
23	37-2-I	η	26.5	23.8	16.2	8.5	⑬A	DA	IA	IA	IA	IA	A	14.8	A	15.5	B	15.5	C	IIIc ₂	
24	37-3II	η	39.5	35.6	12.1	30.0	⑭A	IA	IB	IC	IA	IC	A	14.2	B	16.0	B	16.0	C	IIIc ₂	
25	37-3I	η	65.9	36.8	12.7	6.3	⑮A	DA	IA	IC	IA	IC	B-C	B	17.7	C	16.0	C	IIIc ₂		
26	37-5II	η	62.6	32.9	11.7	11.5	⑯A	DA	IA	IA	IA	IA	B	14.2	B	16.0	B	16.0	C	IVa ₁	
27	37-5II	η	61.9	36.6	12.1	16.9	⑰A	DA	IA	IA	IA	IA	B	14.2	B	16.0	B	16.0	C	IVa ₁	
28	37-2II	η	57.8	36.7	16.4	30.2	⑱A	IA	IA	IA	IA	IA	A	14.2	A	15.7	B	16.0	C	IVa ₁	
29	37-3II	η	64.9	42.7	16.2	6.0	⑲A	DA	IA	IA	IA	IA	B	14.7	B	16.0	B	16.0	C	IVa ₂	
30	37-2II	η	65.9	36.5	15.2	46.8	⑳A	IA	IA	IA	IA	IA	C	14.2	B	16.0	B	16.0	C	IVa ₂	
31	37-3II	η	69.5	35.5	16.3	6.7	㉑A	DA	IA	IA	IA	IA	C	14.2	B	16.0	B	16.0	C	IVa ₂	
32	37-5II	η	63.9	35.9	15.0	8.5	㉒A	IA	IA	IA	IA	IA	B	14.2	C	16.0	B-C	16.0	C	IVa ₂	
33	37-3II	η	65.7	36.3	15.3	14.7	㉓A	DA	IA	IA	IA	IA	B	14.2	C	16.0	B-C	16.0	C	IVa ₂	
34	37-2II	η	63.9	35.9	15.0	14.7	㉔A	DA	IA	IA	IA	IA	B	14.2	C	16.0	B-C	16.0	C	IVa ₂	
35	37-3II	η	63.5	35.4	9.1	8.9	㉕A	—	—	IA	IA	B	14.2	C	16.0	B	16.0	C	IVa ₂		
36	37-2II	η	63.0	36.1	16.5	9.5	㉖A	IA	IA	—	IC	IA	B	14.2	B	16.0	B	16.0	C	IVa ₂	
37	37-2II	η	65.0	34.0	12.5	11.4	㉗A	IC	IA	IC	—	IA	B	14.2	B	16.0	A	16.0	C	IVa ₂	
38	37-5-II	η	65.0	34.9	9.9	13.2	㉘A	DA	IB	DA	IC	C-C	B	14.2	B	16.0	B	16.0	C	IVa ₂	
39	37-3II	η	66.0	41.0	15.0	36.2	㉙A	DA	IA	IA	IA	B	14.2	A	15.8	A	15.8	C	IVa ₂		
40	37-3II	η	67.0	35.0	12.2	30.5	㉚A	DA	IA	IA	IA	B	14.2	A	15.8	B	15.8	C	IVa ₂		
41	37-3II	η	68.0	41.0	15.8	6.4	㉛A	DA	IA	DA	IA	B	14.2	A	15.8	A	15.8	C	IVa ₂		
42	36-2II	η	71.0	38.0	12.3	55.5	㉜A	DA	IA	IA	IA	IA	A	14.2	B	16.0	B	16.0	C	IVa ₂	
43	37-2II	η	62.4	35.1	12.4	30.8	㉝A	IA	IA	IA	IA	IA	B	14.2	B	16.0	B	16.0	C	IVa ₂	
44	37-5I	η	52.1	35.6	17.5	54.8	㉞A	DA	DA	DA	IA	IA	A	14.2	B	16.0	B	16.0	C	IVa ₂	
45	37-2II	η	62.0	34.0	8.7	17.1	㉟A	DA	IA	IA	IA	IA	B	14.2	B	16.0	B	16.0	C	IVa ₂	
46	37-3II	η	65.5	36.5	9.5	7.3	㉟A	IA	IA	IA	IA	IA	B	14.2	C	16.0	B	16.0	C	IVa ₂	
47	37-3II	η	50.5	35.0	6.6	7.8	㉞A	IA	IA	IA	IA	IA	B	14.2	A	15.8	B	15.8	C	IVa ₂	
48	37-2II	η	52.4	35.9	16.3	12.9	㉙A	DA	IB	—	IA	IA	B	14.2	A	15.8	B	15.8	C	IVa ₂	
49	37-2II	η	62.0	37.7	11.8	14.4	㉚A	—	—	IA	IA	A	14.2	B	16.0	B	16.0	C	IVa ₂		
50	37-2II	η	62.0	35.6	12.2	16.5	㉛A	IB	IA	IA	IA	IA	B	14.2	C	16.0	B	16.0	C	IVa ₂	
51	37-2II	η	62.0	35.6	12.2	16.5	㉜A	IB	IA	IA	IA	IA	B	14.2	B	16.0	B	16.0	C	IVa ₂	
52	37-3II	η	60.0	37.7	17.1	17.1	㉝A	IA	IA	—	IA	IA	C	14.2	B	16.0	B	16.0	C	IVa ₂	
53	37-3II	η	64.0	35.5	14.4	21.8	㉞A	DA	DA	DA	IA	IA	B	14.2	A	15.8	B	15.8	C	IVa ₂	
54	37-3II	η	56.1	32.0	19.6	9.9	㉟A	IA	IA	IA	IA	IA	A	14.2	A	15.8	B	15.8	C	IVa ₂	
55	37-3II	η	64.0	41.4	11.6	17.7	㉟A	DA	IA	IA	IA	IA	B	14.2	C	17.7	B	16.0	C	IVa ₂	
56	37-3II	η	60.9	36.6	12.4	14.4	㉛A	DA	IA	IA	IA	IA	B	14.2	C	17.7	B	16.0	C	IVa ₂	
57	37-3II	η	62.0	36.6	14.6	24.4	㉜A	IA	IA	IA	IA	IA	B	14.2	C	17.7	B	16.0	C	IVa ₂	
58	37-3II	η	64.0	38.7	8.2	18.0	㉝A	DA	IA	IA	IA	IA	B	14.2	B	16.0	B	16.0	A	V	
59	37-3II	η	68.0	35.5	12.2	17.2	㉞A	DA	IC	IA	IA	IA	A	14.2	A	15.8	A	15.8	C	V	
60	37-3II	η	69.0	36.2	16.5	35.2	㉟A	IB	IA	IA	IA	IA	A	14.2	A	15.8	A	15.8	C	V	
61	37-3II	η	68.0	34.0	16.4	25.9	㉞A	DA	DA	IA	IA	IA	A	14.2	A	15.8	A	15.8	C	V	
62	37-3II	η	66.0	36.5	16.8	21.0	㉟A	DA	IC	IA	IA	IA	B	14.2	B	16.0	B	16.0	C	V	
63	37-3II	η	64.0	32.0	16.6	18.0	㉛A	DA	IC	IA	IA	IA	B	14.2	B	16.0	B	16.0	C	V	
64	37-3II	η	64.0	32.0	16.6	18.0	㉜A	DA	IC	IA	IA	IA	A	14.2	A	15.8	A	15.8	C	V	
65	37-3II	η	62.0	36.6	12.2	17.7	㉟A	DA	IA	IA	IA	IA	B	14.2	B	16.0	B	16.0	C	V	
66	37-3II	η	62.0	36.6	12.2	17.7	㉞A	DA	IA	IA	IA	IA	B	14.2	B	16.0	B	16.0	C	V	
67	37-3II	η	62.0	36.6	12.2	17.7	㉟A	DA	IA	IA	IA	IA	B	14.2	B	16.0	B	16.0	C	V	
68	37-3II	η	68.0	34.0	16.4	25.9	㉞A	DA	DA	IA	IA	IA	A	14.2	A	15.8	A	15.8	C	V	
69	37-3II	η	62.0	36.6	12.2	17.7	㉟A	DA	IA	IA	IA	IA	B	14.2	B	16.0	B	16.0	C	V	
70	37-3II	η	62.0	36.6	12.2	17.7	㉛A	DA	IA	IA	IA	IA	B	14.2	B	16.0	B	16.0	C	V	
71	X-4	η	62.0	36.6	12.2	17.7	㉜A	DA	IA	IA	IA	IA	B	14.2	B	16.0	B	16.0	C	V	
72	37-3II	η	68.0	32.3	13.4	8.2	㉝A	DA	IA	DA	IA	IA	C	14.2	C	16.0	B	16.0	A	V	
73	37-3II	η	62.0	36.6	12.2	17.7	㉞A	DA	IA	IA	IA	IA	A	14.2	A	15.8	B	15.8	C	V	
74	37-3II	η	62.0	36.6	12.2	17.7	㉟A	DA	IA	IA	IA	IA	B	14.2	B	16.0	B	16.0	A	V	
75	37-3II	η	68.0	38.8	9.7	18.8	㉟A	IA	IA	—	IB	IA	B	14.2	B	16.0	B	16.0	A	V	
76	37-3II	η	68.0	36.0	12.2	17.7	㉛A	IA	IA	IB	IA	IA	B	14.2	B	16.0	B	16.0	A	V	

表-37 石鎚属性表(4)

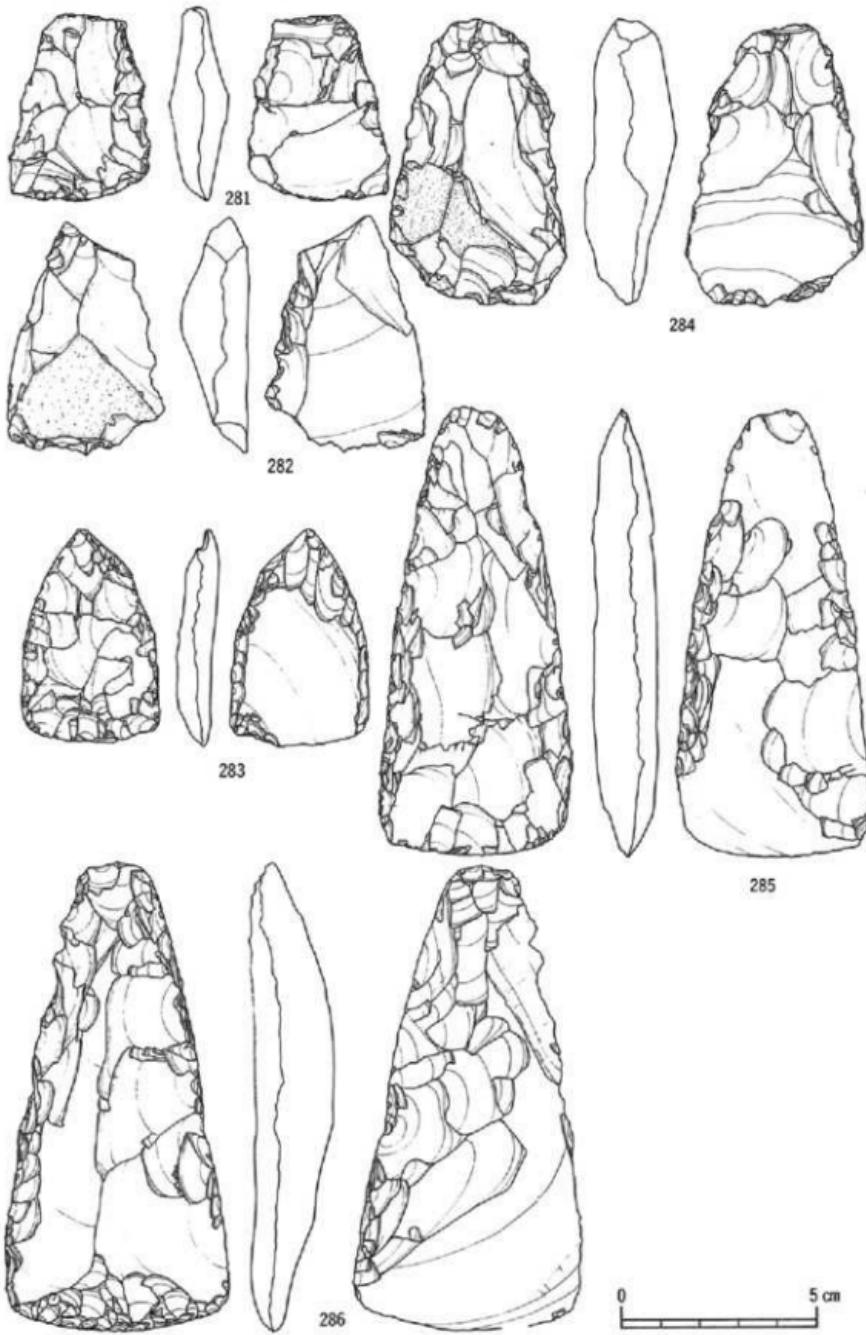
No	出土区	石材	大きさ(cm)		重量 (kg)	加工部位と種類						建設状況と平均刃角					分類	脚註		
			長	幅		a	b	c	d	e	f	a+d	刃角	b+c	刃角	c+f	刃角			
17	38-18II	青岩	98.6	51.1	12.7	35.5	①A	②A	IA	IA	—	B	3°	B	6°	—	A	VI		
18	38-21II	H	64.0	33.8	12.5	17.9	③A	④A	IA	IA	—	A	3°	B	6°	—	A	VI		
19	38-19II	H	67.0	35.9	12.0	26.7	①A	②A	③A	④A	—	B	5°	B	7°	—	A	VI		
20	38-21+II	H	65.0	32.4	11.2	19.2	①A	②A	IA	IB	—	B	6°	C+B	6°	—	A	VI		
21	38-32II	H	68.0	32.2	16.5	23.9	①A	②A	IA	IA	—	B	7°	B	6°	—	A	VI		
22	38-14II	H	68.9	31.4	12.2	24.4	IA	IA	IA	IA	—	B	5°	B	6°	—	A	VI		
23	37-17II	H	63.0	6.9	14.8	23.8	①A	②A	③A	④A	—	B	7°	B	6°	—	A	VI		
24	38-1+II	H	60.9	35.9	16.5	34.3	①A	②A	③A	④A	—	A	6°	A	6°	—	A	VI		
25	38-24II	H	65.0	32.2	15.5	32.6	①A	—	IC	—	—	A	6°	B	6°	—	A	VI		
26	38-4II	H	62.0	38.6	16.9	22.7	①A	②A	IA	IA	—	B	5°	A	2°	—	A	VI		
27	35-21II	H	53.8	34.4	16.9	6.9	①A	②A	IB	④A	—	A	6°	B	6°	—	A	VI		
28	37-22II	H	60.0	38.2	13.3	43.0	①A	②A	IA	IB	—	A	6°	B	6°	—	A	VI		
29	38-18II	H	60.7	35.8	16.5	6.0	IA	IA	IA	IA	—	B	5°	B	7°	—	A	VI		
30	38-15II	H	36.4	22.7	8.4	5.1	IB	IA	IB	IB	IA	A	5°	A+B	7°	B	3°	H-39		
31	38-14II	H	51.9	40.1	9.5	38.0	IC	IC	IA	④A	IA	B	3°	C	3°	A	DB	—		
32	38-5II	H	54.3	32.4	24.4	16.8	IA	③A	④A	IA	IA	—	A	6°	A	5°	—	VII	H-31	
33	38-7II	H	60.5	25.0	13.1	23.0	IA	IA	—	—	IA	IC	C	6°	B	5°	—	VII	H-32	
34	38-22II	H	94.7	42.6	16.6	47.7	IB	IC	IB	IB	IA	—	B	3°	A	6°	—	VII	H-33	
35	38-22II	H	55.4	40.9	18.9	18.0	—	—	IA	IA	IA	IA	B	6°	B	6°	—	VII		
36	38-29II	H	57.9	35.4	18.1	23.4	①A	②A	IA	③A	IA	IA	B	5°	B	6°	—	VII		
37	38-30II	H	65.5	38.5	14.5	35.5	IA	IA	③A	④A	—	B	6°	B	6°	—	VII			
38	38-27II	H	64.4	31.5	14.6	24.0	IB	IA	IA	IA	IA	IB	B	6°	B	6°	—	VII		
39	38-15II	H	52.4	6.8	13.7	3.7	IA	③A	④A	IA	IA	IA	IC	C	6°	B	6°	—	VII	
40	38-28II	H	52.9	34.7	12.6	22.6	IA	IA	IA	IA	IA	IA	B	6°	B	6°	—	VII		
41	38-23II	H	52.6	35.5	18.4	27.7	IC	IA	③A	IA	IA	IA	A	9°	A	3°	—	VII		
42	38-24II	H	55.6	42.7	18.8	43.3	IA	IA	③A	④A	IA	IA	D	B	N	A	—	VII		
43	38-27II	H	66.7	41.4	17.3	45.6	①A	②A	③A	④B	IA	—	B	6°	B	6°	—	VII		
44	38-4II	H	70.3	45.7	28.1	72.1	①A	②A	IB	④A	IB	IB	S	B	S	B	—	VII		
45	38-21II	H	57.9	55.0	22.8	133.1	—	IA	③A	IB	IB	IA	A	9°	B	9°	—	VII		
46	38-16II	H	50.8	35.5	14.4	2.1	①A	②A	③A	IA	IA	IC	B	6°	B	6°	—	VII		
47	38-29II	H	30.0	28.5	16.5	9.8	①A	IA	IA	IB	IC	B	6°	B	6°	—	VII			
48	38-5II	H	35.9	36.5	17.2	13.7	IA	IA	③A	—	IA	IC	B	5°	A	9°	—	VII		
49	38-25+II	H	42.5	39.4	11.5	16.8	IA	IA	IA	IA	IA	A	9°	E	6°	—	VII			
50	38-21II	H	32.1	38.5	7.8	6.8	IA	IA	IA	IA	IB	—	B	6°	B	6°	—	VII		
51	38-29II	H	51.1	40.2	19.9	19.9	IA	IA	IA	IA	IA	—	B	6°	B	6°	—	VII		
52	38-21II	H	31.3	38.5	14.5	12.8	IA	IA	IA	IA	IB	IA	B	6°	B	6°	—	VII		
53	38-26II	H	51.7	35.0	11.2	13.1	IA	IA	IA	IA	IA	IA	A	5°	B	6°	—	VII		
54	38-7II	H	48.8	33.4	18.4	15.4	①A	②A	IA	③A	IA	IA	B	6°	C	6°	—	VII		
55	38-11II	H	51.1	36.1	16.6	2.1	①A	IA	IA	IA	IA	IA	B	6°	C	6°	—	VII		
56	38-21II	H	61.1	37.4	14.0	23.9	①A	②A	IA	IA	IA	IA	B	6°	B	6°	—	VII		
57	38-27II	H	44.1	33.1	14.1	—	①A	②A	IA	—	IA	—	B	6°	C	6°	—	VII		
58	38-25II	H	30.0	38.5	18.1	15.9	IA	IA	IA	IA	IB	—	A	6°	E	6°	—	VII		
59	38-21II	H	61.1	39.5	16.8	25.7	①A	②A	IA	IA	IA	IA	B	6°	A	9°	—	VII		
60	38-23II	H	55.6	32.3	18.9	2.1	IA	IA	IA	IA	IA	IB	E	B	6°	C	6°	VII		
61	38-21II	H	61.7	35.0	18.4	31.6	IB	IA	IB	IA	IA	B	6°	C	6°	B	—	VII		
62	38-17II	H	61.9	38.4	20.0	35.5	IA	IA	IA	IB	IA	B	6°	B	6°	C	6°	VII		
63	38-5+II	H	48.1	36.6	15.5	3.1	IA	IA	IA	IC	IA	IB	B	6°	E	6°	B	—	VII	
64	38-27II	H	35.6	34.6	17.6	18.3	IA	IA	IA	IA	IA	IA	A	5°	B	6°	—	C	VII	
65	38-26II	H	48.5	35.2	15.2	3.8	①A	IA	IA	IA	IA	IA	B	6°	B	6°	C	6°	VII	
66	38-14II	H	54.5	37.7	14.9	26.7	IA	IA	IA	IA	IA	IA	B	6°	A	9°	B	7°	VII	
67	38-25II	H	54.2	38.0	12.8	2.4	IA	IA	IB	IA	IA	A	9°	B	6°	C	6°	VII		
68	38-25II	H	35.9	31.3	11.0	3.9	IA	IA	IA	IB	IA	B	6°	C	6°	B	6°	VII		
69	38-17II	H	61.9	38.4	20.0	35.5	IA	IA	IA	IB	IA	B	6°	B	6°	C	6°	VII		
70	38-21II	H	48.1	36.6	15.5	3.1	IA	IA	IA	IC	IA	IB	B	6°	E	6°	B	—	VII	
71	38-24II	H	48.4	29.3	15.9	2.1	IA	IA	IA	IA	IA	IA	B	6°	B	6°	A	9°	VII	
72	38-4+II	H	48.1	6.9	28.2	7.1	IA	IA	IA	IA	IA	IA	B	6°	C	6°	B	6°	C	VII
73	38-22II	H	37.0	38.8	20.0	8.0	①A	IA	IA	IA	IA	IA	B	6°	B	6°	B	6°	VII	
74	38-28II	H	53.2	42.2	22.0	5.1	①A	IA	IA	IA	IA	IA	A	9°	B	6°	B	6°	VII	
75	38-18II	H	38.9	48.6	16.5	2.8	IA	IA	IA	IA	IA	IA	B	6°	B	6°	6	B	VII	
76	38-12II	石鎚	91.2	33.6	24.4	6.3	①A	②A	③A	④A	IA	IA	B	6°	B	6°	A	9°	VII	
77	38-29II	H	62.0	62.0	17.0	6.7	IA	IA	IA	IA	IA	IA	B	6°	C	6°	A	9°	VII	
78	38-19II	H	39.0	47.6	18.0	7.2	IA	IA	IA	IA	IA	IA	A	9°	B	6°	C	6°	VII	
79	38-26II	H	5.8	36.5	20.7	14.2	①A	IA	IA	IA	IA	IA	A	6°	B	6°	A	9°	VII	



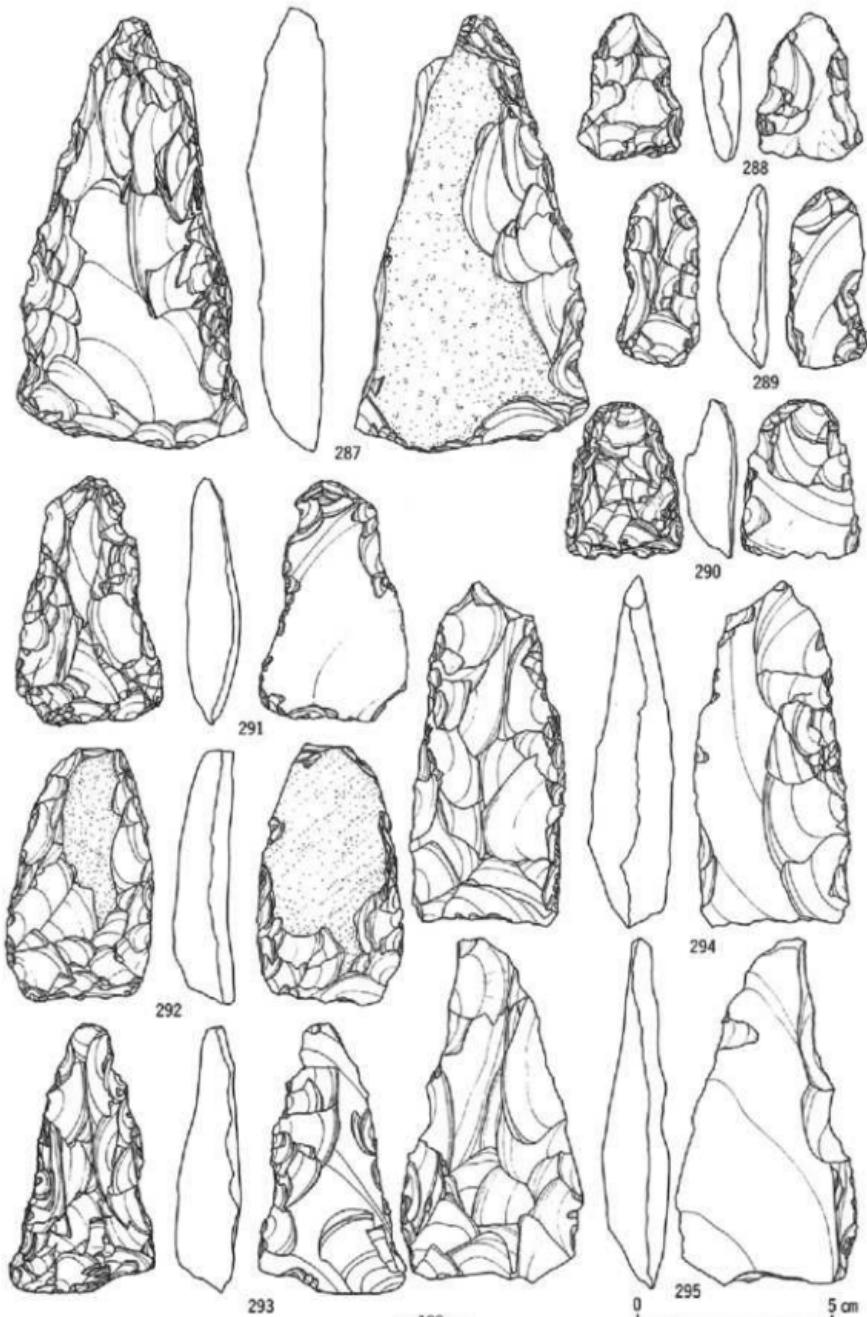
第72図 石器実測図 (12) 石斧



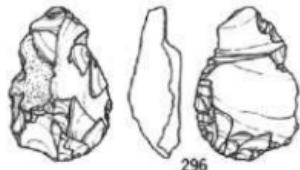
0 5 cm



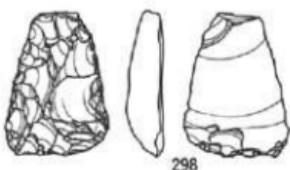
第74図 石器実測図 (14) 石鎧



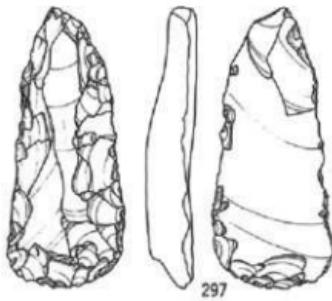
- 128 -



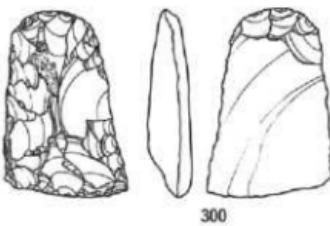
296



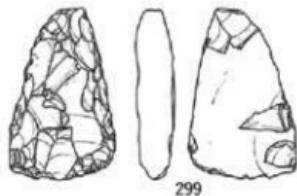
298



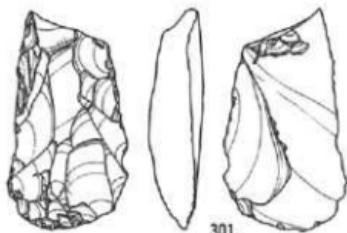
297



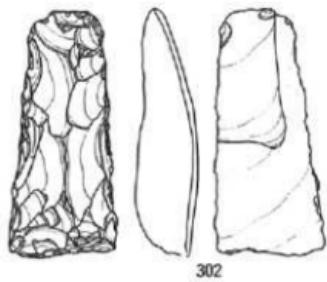
300



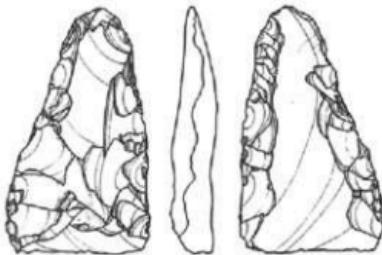
299



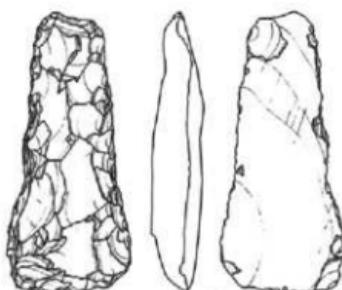
301



302



304



303



305

— 129 —

0 5 cm



308



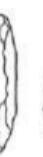
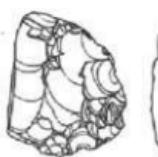
309



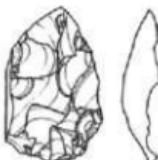
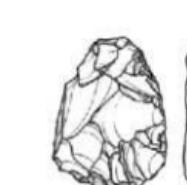
311



312



314

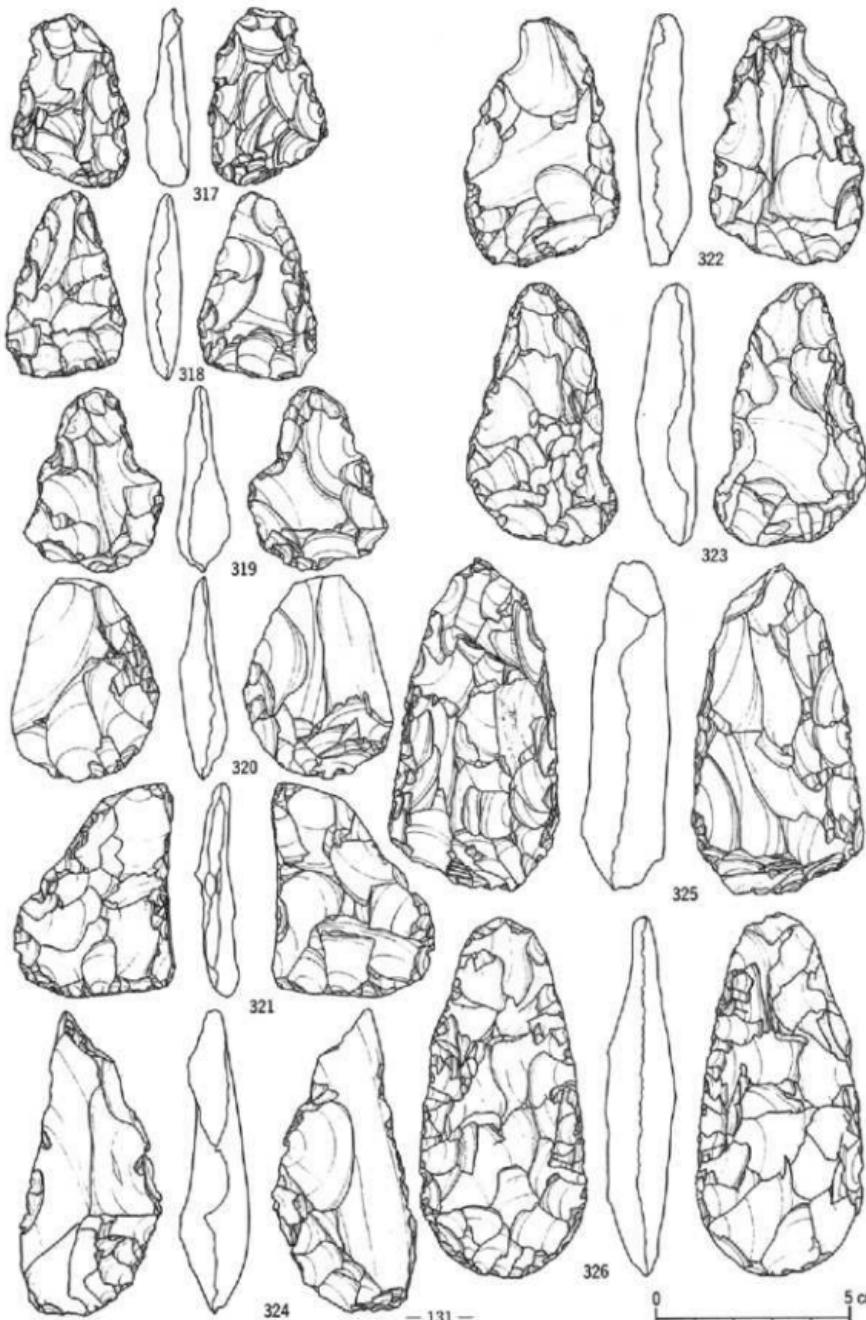


316

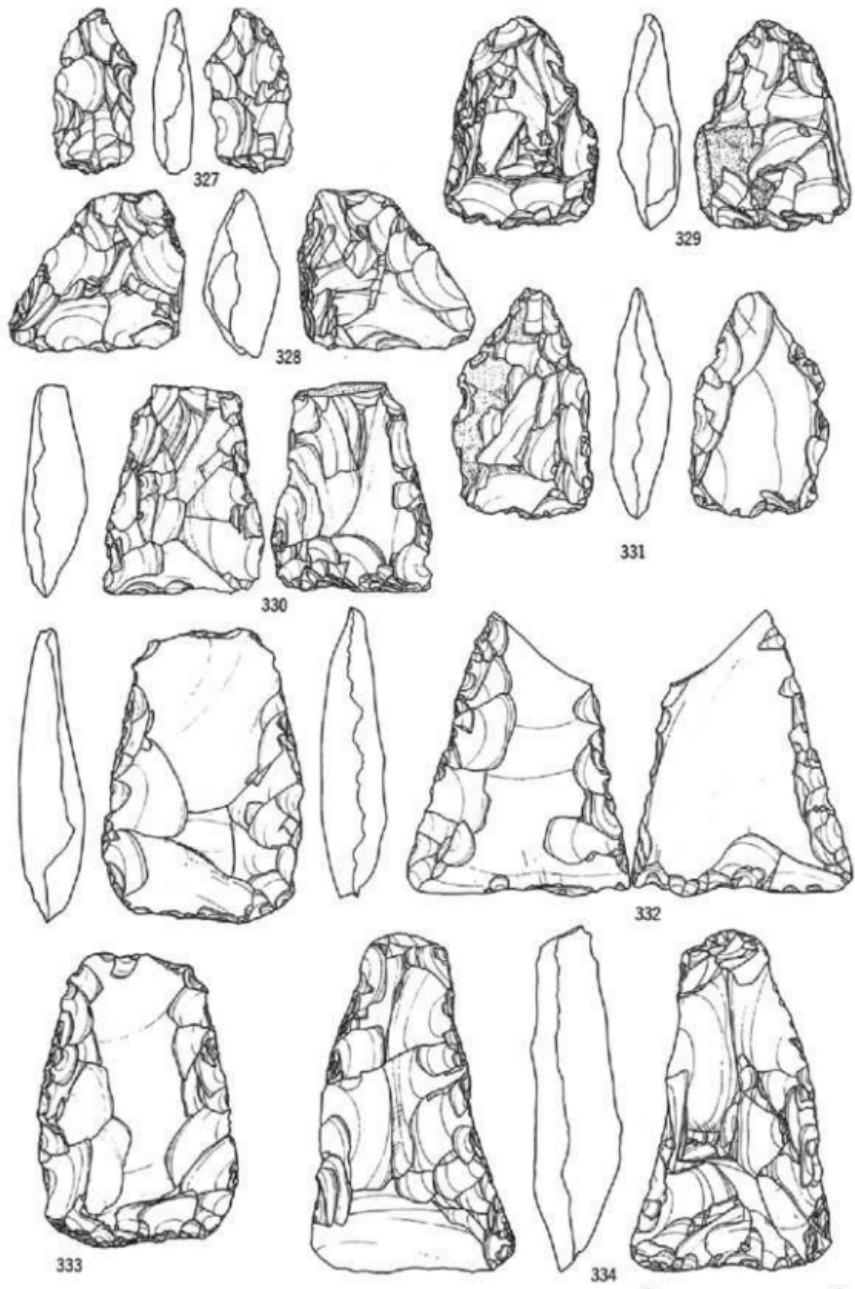
315

— 130 —





- 131 -



— 132 —





335



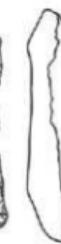
340



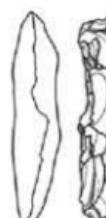
336



341



337



342



338



343



339

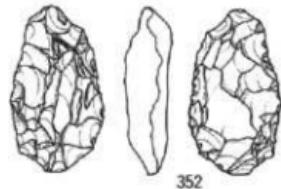


第80図 石器実測図 (20) 石器

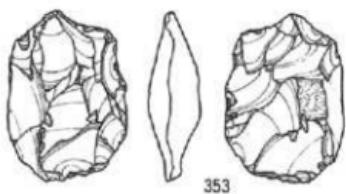


0 5 cm

- 134 -



352



353



354



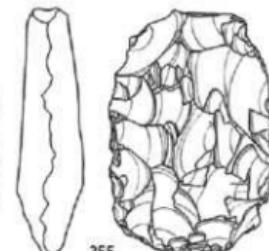
355



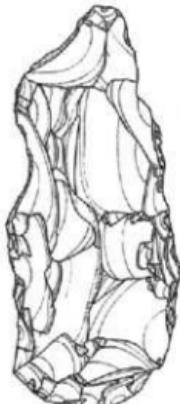
356



357



359



360

0 5 cm



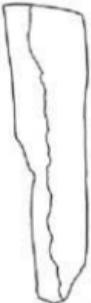
364

361



365

362



366

363



367

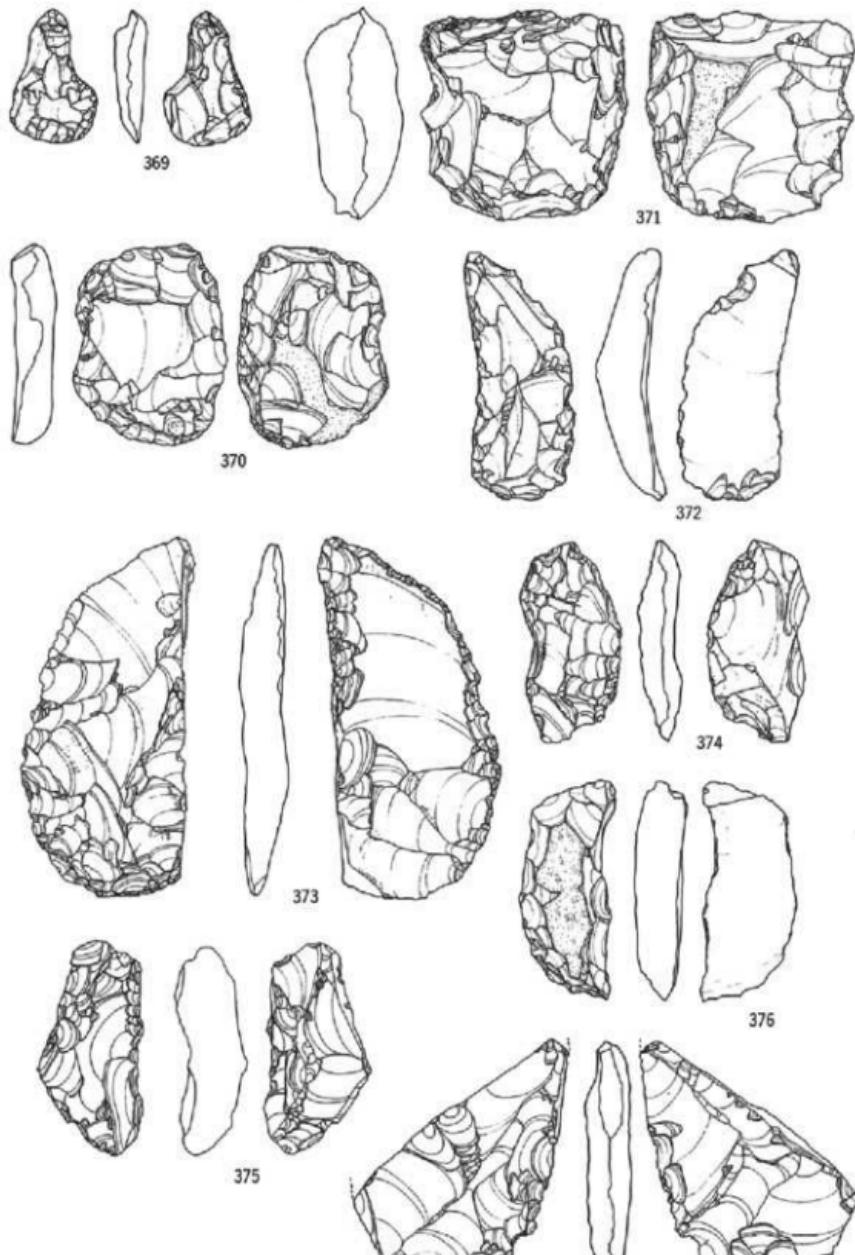


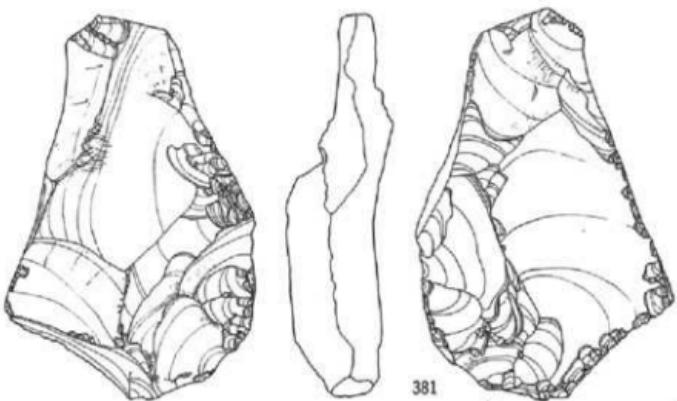
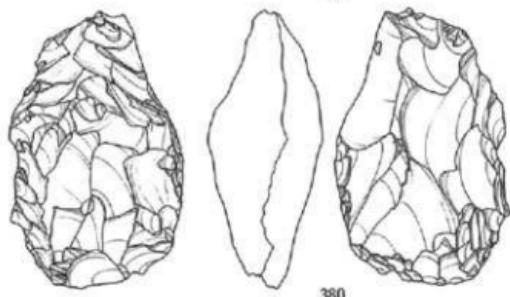
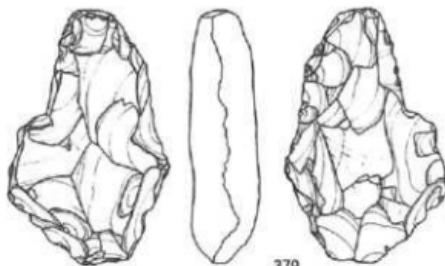
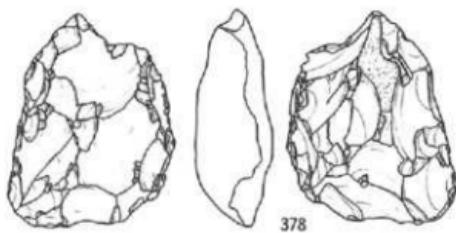
368

- 136 -

0

5 cm





- 138 -

0 5 cm

第85図 石器実測図 (25) 石斧

だけに周辺加工が施されるもの。刃部が丸味を帯びる b_1 (341~345)、直線状となる b_2 (346、347)、尖頭状となる b_3 (348) に細分される。 b_1 が 5 点、 b_2 が 5 点、 b_3 が 1 点の出土となっている。

c : 素材の背面側は全面が調整加工面で覆われるが、主要剝離面側は先端部に浅い加工が入るもの。刃部が丸味を帯びる c_1 (349、350)、直線状となる c_2 (351) があり、それぞれ 4 点、5 点の出土となっている。

IV類：短冊形で刃部が両刃状となるもの。

a : 両面加工となるもの。刃部が丸味を帯びる a_1 (352~358)、直線状となる a_2 (360~362) がある。 a_1 が 20 点、 a_2 が 11 点出土している。

b : 素材の背面側は全面が調整加工面で覆われるが、主要剝離面側は側縁部だけに周辺加工が施されているもの。刃部が丸味を帯びる b_1 (364、365) と直線状の b_2 (366) がある。 b_1 は 3 点、 b_2 は 1 点の出土である。

c : 素材の背面側は全面に調整加工が施されるが、主要剝離面側は先端部だけに浅い加工が認められるもの。刃部が丸味を帯びる c_1 (368)、直線状をなす c_2 があるが、 c_1 は 1 点だけ、 c_2 も 2 点の出土である。

V類：撥形のかたちとなるが刃部の折損するもの。図示しなかったが 5 点の出土がある。

VI類：短冊形であるが刃部の折損するもの (363)。全部で 17 点の出土がある。

VII類：平面形が撥形にも短冊形にもならないもの (369~373)。かたちは多様であるが、いずれも長軸先端を刃部と認めることができる。11 点の出土がある。

VIII類：製作段階の途中もしくは製作中の折損により廃棄されたとみられる一群。未完成品、失敗品と考えられる (374~381)。前述したように 42 点の出土がある。

搔 器 (第 86・87 図 表-38 図版 37)

急角度の調整加工によって刃部を作出した石器を搔器とした。この定義にあてはまる石器は 50 点出土している。刃部の作出に際し穂状剝離が多用される。石材は黒曜石が 1 点ある他は頁岩である。素材は縦長剝片のほか、横長剝片も用いられるが、そのいずれの場合もその長軸端には必ず刃部を作出している。刃部の位置と数により以下のように分類される。

I類：素材の全周が刃部となり得るラウンドスクレーパー (382~384)。全部で 4 点の出土があるが、図示しなかった 1 点を除けば片面加工である。

II類：素材の一縁辺を除く三縁辺が刃部となり得るもの (385~392)。13 点の出土があり、そのうちの 9 点は素材の打面側が基部となる。

III類：縦長剝片が素材として用いられ、その左側縁と末端が刃部となり得るもの (393、395)。6 点の出土がある。

IV類：縦長削片が素材として用いられ、その右側縁と末端が刃部となり得るもの（394、396）。3点の出土がある。

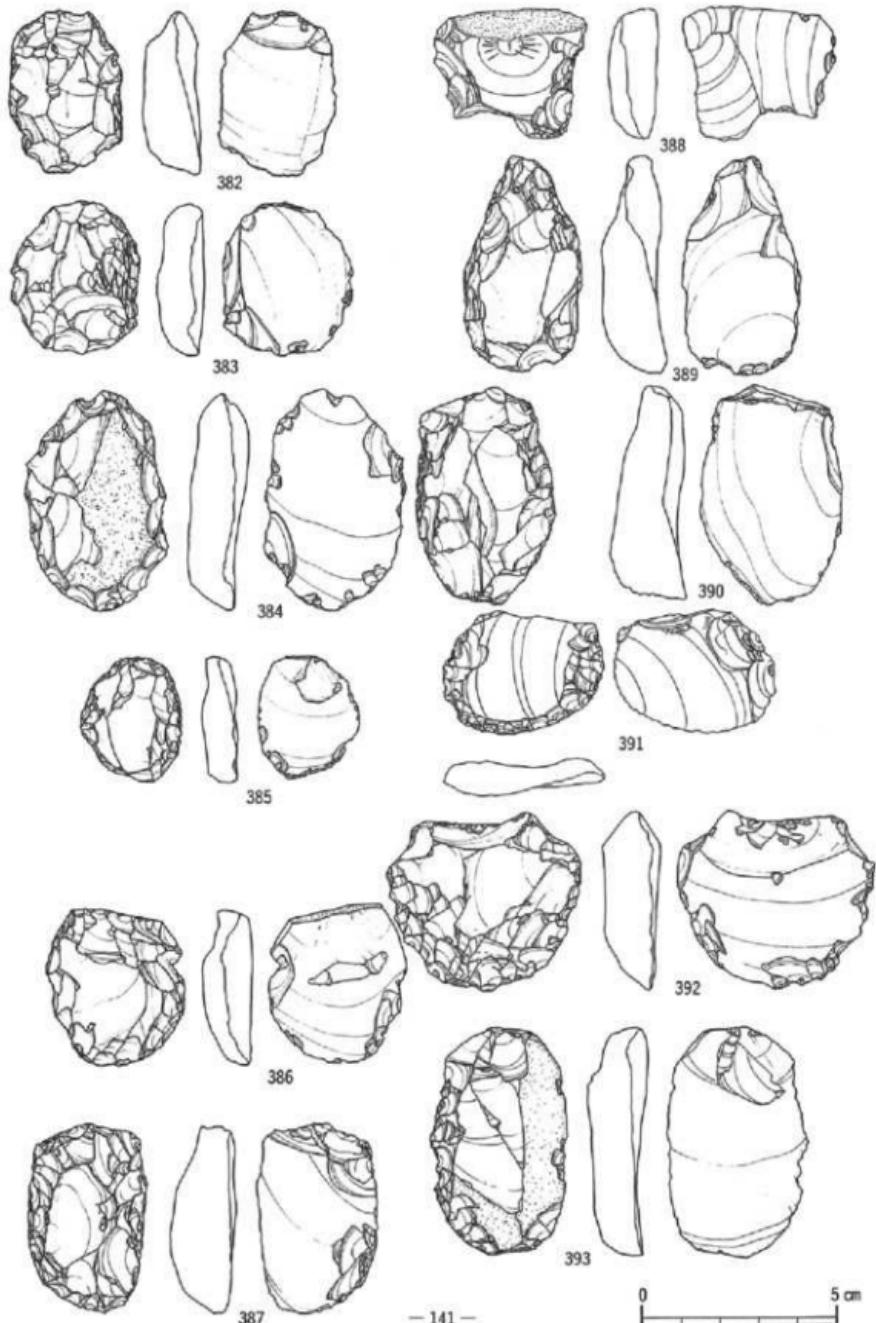
V類：素材の長軸先端部に刃部を作出したもの（397～406）。他の側縁には調整加工が認められても、角度が浅く、搔器の刃部とはならない。24点の出土がある。

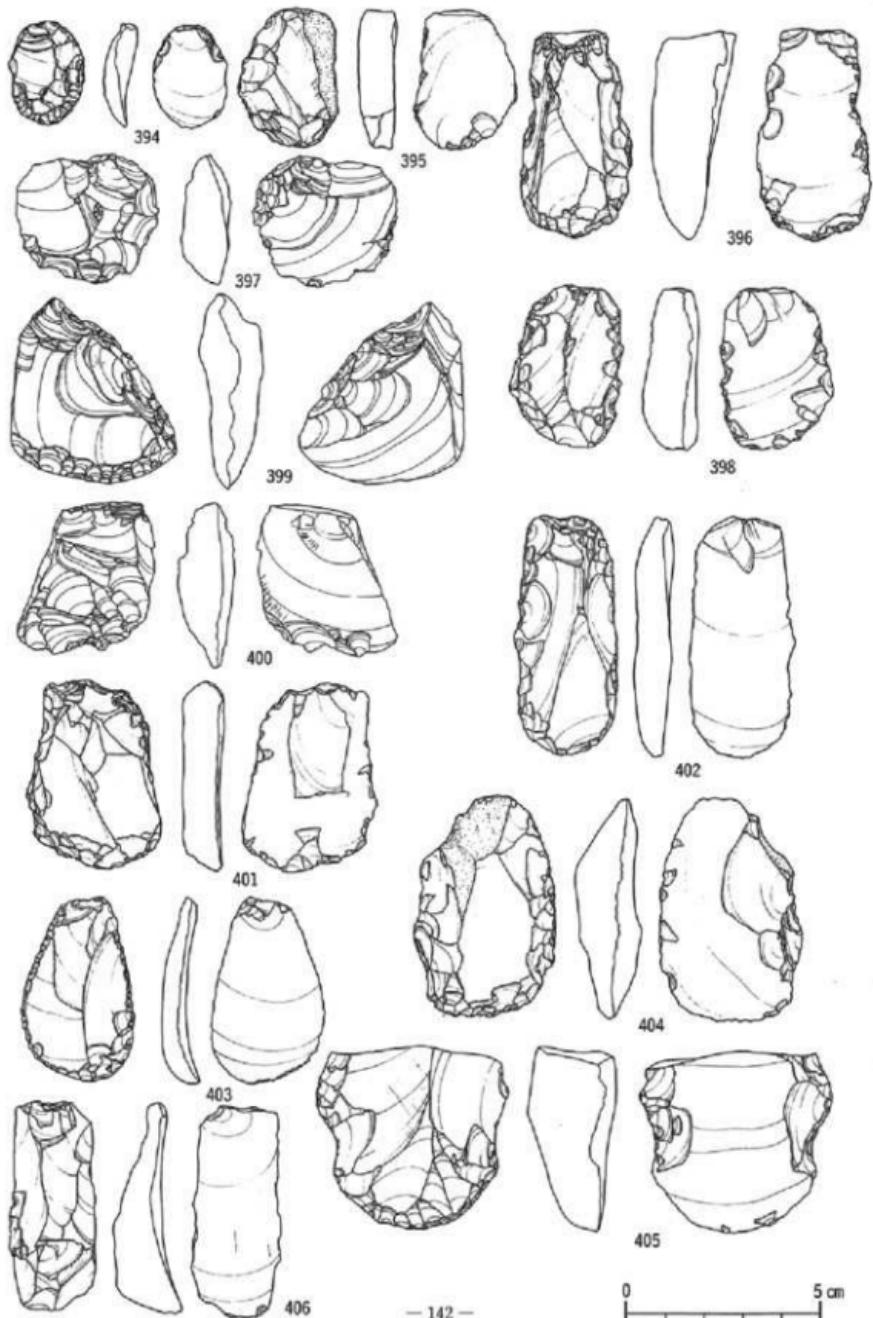
属性表注

- 大きさ 素材の背面側を表す。主要斜面側を裏とし、基部側を上位に置いた時の全長を長、最大幅を幅、最大厚を厚に記した。
- 加工部位と種類 1と同様。素材の背面側を表す。基部側を上位に置いた時の左側縁をa、右側縁をb、末端をeとし、c、d、fは、石吹、石突と同様である。また、その記載方法も石吹に準じた。
- 残存部 完成品は上部、上部が残っているものはA、中间部資料はB、末端部資料はCと記した。

表-38 搔器属性表

No.	出土区	石材	大きさ(mm)		重量 (kg)	加工部位と種類						疊伏状況と平均刃角						分類	辨認		
			a	b		c	d	e	f	a+d	b+c	刃角	b+d	e+f	刃角						
1	25-26II	頁岩	21.0	29.8	15.1	3.0	①A	①A	—	—	1-IA	—	B	③	B	③	B	③	I	III-32	
2	23-6II	頁岩	10.9	33.2	11.2	2.8	①A	②A	—	—	1-IA	—	B	④	B	④	B	④	I	III-33	
3	23-21II	頁岩	35.0	36.7	11.0	3.5	1A	1A	—	—	1-IA	—	B	⑤	B	⑤	B	⑤	I	III-34	
4	23-21II	頁岩	24.6	31.5	9.1	4.4	①A	②A	①A	①A	①A	①A	B	⑥	B	⑥	B	⑥	I	III-35	
5	23-11I-II	頁岩	31.1	36.8	7.4	9.3	1A	1A	—	—	1-IA	—	B	⑦	B	⑦	B	⑦	II	III-36	
6	67-I-II	石	42.0	35.6	11.2	8.7	1A	1A	—	—	1-IA	—	B	⑧	B	⑧	B	⑧	II	III-36	
7	23-8II	石	43.3	30.4	15.7	5.2	①A	②A	—	—	1-B	1A	A	⑨	A	⑨	B	⑨	II	III-37	
8	19-7II	石	21.7	36.5	12.6	10.3	1A	1A	—	—	1-IA	—	B	⑩	A	⑩	C	⑩	II	III-38	
9	25-23II	石	36.4	30.7	14.5	9.5	1A	1A	—	—	1-IA	—	A	⑪	B	⑪	B	⑪	II	III-39	
10	23-24II	石	32.8	36.6	18.6	8.5	①A	1A	—	—	1-2A	—	B	⑫	B	⑫	B	⑫	II	III-39	
11	23-7II	石	22.6	42.4	8.8	10.8	1A	1A	—	—	1-IA	—	B	⑬	B	⑬	B	⑬	II	III-40	
12	23-23II	石	45.9	30.7	8.9	8.6	①A	②A	—	—	1-2A	—	B	⑭	B	⑭	B	⑭	II	III-40	
13	23-23II	石	⑩.9	32.1	9.2	9.0	1A'	1A'	—	—	1A	—	C	⑮	A	⑮	B	⑮	C	II	
14	23-7II	石	⑩.0	33.9	12.7	12.0	①A	②A	—	—	1A	—	B	⑯	B	⑯	B	⑯	II	III-41	
15	23-8I-II	石	⑩.0	35.2	18.4	5.7	1A'	1A'	—	—	1A	—	B	⑰	B	⑰	B	⑰	C	II	
16	23-23II	石	⑩.0	37.2	8.8	9.3	1A'	1A'	—	—	2A	—	A	⑲	A	⑲	A	⑲	C	II	
17	23-24II	石	32.6	30.1	28.4	6.4	①A	②A	①B	①B	①A	①A	B	⑳	B	⑳	B	⑳	II	III-42	
18	23-30II	石	32.6	34.9	13.7	10.2	1A	1C	—	—	1A	—	B	㉑	B	㉑	B	㉑	III-30		
19	23-24II	石	36.3	25.9	9.6	9.9	1A	—	—	—	1A	—	B	㉒	A	㉒	B	㉒	III-35		
20	23-30II	石	⑩.0	36.3	6.3	6.4	1A'	1A'	—	—	1A	—	A	㉓	B	㉓	C	㉓	III-36		
21	57-II	石	⑩.0	37.0	14.4	7.8	1A'	—	—	—	1A	—	B	㉔	A	㉔	B	㉔	C	III-37	
22	19-11II	石	⑩.0	32.5	16.9	21.7	1A'	1A'	1B'	1B'	2A	1A	A	㉕	B	㉕	B	㉕	C	III-38	
23	23-15II	石	⑩.0	36.1	7.6	8.9	1A'	1A'	—	—	1A	—	A	㉖	A	㉖	B	㉖	C	III-39	
24	19-7II	石	22.4	38.5	6.5	2.6	—	①A	1C	1B	②A	—	B	㉗	B	㉗	B	㉗	IV	III-20	
25	24-16I	石	32.2	36.6	18.8	10.9	1C	1A	—	—	1-2A	—	A	㉘	B	㉘	B	㉘	IV	III-20	
26	23-7II	石	⑩.0	36.0	8.2	9.5	—	1A'	—	—	1A	—	C	㉙	C	㉙	B	㉙	C	IV	
27	23-5II	石	33.5	36.0	11.2	14.7	—	—	1B	—	1A	—	B	㉚	B	㉚	B	㉚	V	III-20	
28	23-16	石	48.8	38.4	13.6	18.7	1A	1A	—	—	1A	—	IC	㉛	B	㉛	B	㉛	V	III-20	
29	23-24II	石	44.7	40.7	15.5	22.2	—	1A	1A	—	—	1A	—	A	㉜	B	㉜	B	㉜	V	III-20
30	23-7II	石	33.9	36.4	13.4	18.7	—	—	1A	—	1A	—	A	㉝	B	㉝	B	㉝	V	III-40	
31	23-5II-II	石	40.5	33.8	18.0	22.4	1A	1B	—	—	1A	—	B	㉞	A	㉞	B	㉞	V	III-41	
32	23-24II	石	42.6	27.4	8.8	20.9	1A	1A	—	—	1A	—	A	㉟	A	㉟	B	㉟	V	III-42	
33	23-23II	石	42.5	29.0	9.0	9.5	1A	1A	—	—	1A	—	B	㉛	B	㉛	B	㉛	V	III-43	
34	23-18II	石	32.6	36.5	15.3	8.6	1A	1A	—	①B	1A	—	B	㉜	B	㉜	B	㉜	V	III-44	
35	23-11II	石	46.5	42.9	23.6	6.4	1A'	—	1A'	1A'	—	—	B-C	㉝	C-B	㉝	B	㉝	C	V	III-45
36	23-23II	石	34.0	32.8	15.4	17.7	1C	—	—	—	1-2A	—	A	㉞	A	㉞	B	㉞	V	III-46	
37	19-12II	石	⑩.0	38.2	7.9	2.6	2A'	—	—	1A'	—	B	㉟	B	㉟	B	㉟	C	V		
38	19-6II	石	⑩.0	38.4	7.8	5.6	1A'	—	—	1A	—	B	㉛	B	㉛	B	㉛	C	V		
39	20-11I-II	石	6.0	37.6	12.4	16.5	—	—	1A	—	—	A-A	㉜	A	㉜	B	㉜	V	V		
40	23-14II	石	55.3	37.9	18.0	6.3	—	—	1A	1A	—	A	㉝	B	㉝	B	㉝	V	V		
41	23-22II	石	33.0	34.8	7.4	5.2	1A	—	—	1A	—	B	㉞	B	㉞	B	㉞	V	V		
42	23-5I-II	石	⑩.0	38.0	10.9	5.2	1A'	—	—	1-2A	—	B	㉟	B	㉟	B	㉟	C	V		
43	23-21II	石	57.4	55.1	5.9	11.4	①A	1A	—	—	1A	—	B	㉛	B	㉛	B	㉛	V	V	
44	23-27I-II	石	⑩.0	35.5	11.9	16.8	—	—	1B	1A	—	B	㉜	B	㉜	B	㉜	C	V		
45	23-7II	石	52.4	36.0	10.5	5.6	1A	1A	—	—	1A	—	A	㉝	B	㉝	B	㉝	V	V	
46	23-23II	石	57.0	36.9	11.9	6.9	1A	1A	—	—	1A	—	A	㉞	B	㉞	B	㉞	C	V	
47	23-27II	石	47.5	38.0	14.2	21.1	—	—	1A	—	—	A	㉟	A	㉟	A	㉟	V	V		
48	23-14II	石	44.0	36.4	13.6	21.2	—	—	1A'	—	—	1-2A	—	B	㉛	B	㉛	B	㉛	C	V
49	23-5I-II	石	⑩.0	37.9	7.2	6.3	—	—	1B'	—	—	1A	—	B	㉜	B	㉜	B	㉜	V	V
50	23-21II	石	40.0	33.5	14.0	8.3	①A'	1A'	—	—	1A	—	B	㉟	B	㉟	B	㉟	C	V	





- 142 -

削 器 (第88~95図 表-39~42 図版38)

剥片の縁辺に連続的に調整加工を施して刃部を作出した石器を削器とした。不定形であり、素材や刃部の作出方法、その位置関係の相異で分類できる。石材は1点の黒曜石を除けば頁岩である。239点が出土した。

I類：縦長剥片を素材とし、両面加工によって刃部が作出されるもの。

- a : 素材の左側縁が刃部となるもの (407、408)。3点の出土がある。
- b : 素材の右側縁が刃部となるもの (409)。4点の出土がある。
- c : 素材の両側縁が刃部となるもの (410~412)。6点の出土がある。
- d : 素材の左側縁と末端が刃部となるもの。2点が出土している。
- e : 素材の右側縁と末端が刃部となるもの。1点だけの出土である。

II類：縦長剥片を素材とし両面加工によって作出された刃部と片面加工によって作出された刃部を合わせもつもの。

- a : 素材の左側縁が両面加工の刃部となり、右側縁が片面加工となるもの。3点の出土がある。
- b : 素材の右側縁が両面加工、左側縁が片面加工の刃部となるもの (413~415)。6点の出土がある。
- c : 素材の両側縁が両面加工、末端が片面加工の刃部となるもの。2点の出土がある。
- d : 素材の両側縁が片面加工、末端が両面加工の刃部となるもの。2点の出土がある。
- e : 素材の右側縁が両面加工、末端が片面加工の刃部となるもの。1点の出土。
- f : 素材の右側縁が両面加工、左側縁と末端が片面加工の刃部となるもの。1点の出土。
- g : 素材の末端が両面加工、両側が片面加工の刃部となるもの。1点の出土。

III類：縦長剥片を素材とし、片面加工によって刃部が作出されるもの。

- a : 素材の左側縁が刃部となるもの。背面側に加工が施されるa₁ (416~422)、主要剥離面側に加工が施されるa₂がある。a₁が31点、a₂が6点出土している。
- b : 素材が右側縁が刃部となるもの。背面側に加工が施されるb₁ (423~430)、主要剥離面側に加工が施されるb₂ (431) がある。b₁が23点、b₂が7点出土している。
- c : 素材が末端部が刃部となるもの。背面側に加工が施されるc₁ (431) と、主要剥離面側に加工が施されるc₂がある。c₁が3点、c₂が1点出土している。

d : 素材の両側縁が刃部となるもの。両側とも背面側に加工の施される d_1 (433~443)、左側縁は背面側に、右側縁が主要剝離面側に加工が施される d_2 (444、445)、左側縁は主要剝離面側に、右側縁が背面側に加工が施される d_3 (446)、両側縁とも主要剝離面側に加工の施される d_4 (447) に細分される。

d_1 が47点、 d_2 が6点、 d_3 が7点、 d_4 が5点出土している。

e : 素材の左側縁と末端が刃部となるもの。両縁辺とも背面側に加工の施される e_1 (448、449)、左側縁は主剝離面側に、末端は背面側に加工が施される e_2 、両縁辺とも主要剝離面側に加工の施される e_3 がある。出土数は e_1 が3点、 e_2 、 e_3 が各1点となっている。

属性表注

- 大きさ 素材の背面側を表し、主要剝離面側を裏とし、基部側を上位に置いた時の全長を長、最大幅を幅、最大厚を厚に記した。
- 加工部位と種類 1と同様、素材の背面側を表し、基部側を上位に置いた時の左側縁をa、右側縁をb、末端をcとし、d、e、fは、石趾、石底と同様である。また、その記載方法を石趾に準じた。
- 残存部位 完形品は空欄、上部が残っているものはA、中間部資料はB、末端部資料はCと記した。

表-39 削器属性表 (1)

No.	出土区	石材	大きさ (mm)		重量 (g)	加工部位と種類						縁辺状況と平均刃角				残存部位	分類	押出		
			長	幅		a	b	c	d	e	f	a+d	刃角	b+c	刃角	e+f	刃角			
1	E-2-II	頁岩	37.7	36.0	30.1	27.5	IA	IC	IB	X	X	C	6	C.B	2	X	—	Ia	B-EF	
2	SX2F	石	36.6	41.2	36.5	39.3	IA	—	IB	—	—	B	2	A.A	5	B	5	Ia	B-EF	
3	E-2-II	頁岩	38.0	38.4	38.6	32.0	IA	—	IA	—	—	A·A	4	B	6	—	—	Ia	Ia	
4	E-2-II	頁岩	54.0	40.0	47.0	4.7	21.6	IB	IA	—	—	B	3	B	6	—	—	A	Ib	
5	E-2-II	頁岩	47.0	25.4	6.0	9.8	—	IA	IA	—	X	A	3	B	9	X	—	Ib		
6	E-2-II	頁岩	41.6	20.6	8.5	5.8	—	IA	IA	—	—	B	8	B	3	A	3	Ib		
7	E-2-II	頁岩	53.0	46.5	33.3	4.4	—	IA	2·IA	—	—	A·A	2	B	6	—	—	A	Ib	
8	E-2-II	頁岩	39.5	30.4	9.3	55.2	IA	IC	IA	IB	X	X	B	3	B-C	6	X	Ic	B-EF	
9	E-2-II	頁岩	10.8	4.6	15.5	5.5	35.5	①IA	IA	IC	IB	X	X	C-C	6	B	7	X	Ic	B-EF
10	E-2-II	頁岩	6.7	22.5	10.0	6.9	①IA	IA	IA	IB	X	X	B	9	A	9	X	Ic	B-EF	
11	E-2-II	頁岩	55.1	27.5	8.4	13.4	①A'	①A	IC	IC	X	X	B	9	B	6	X	B-C	Ic	
12	E-2-II	頁岩	48.9	30.8	13.6	22.3	IA	IB	IA	IA	—	—	B	6	B	6	—	A	Ic	
13	E-2-II	頁岩	44.8	36.5	16.8	6.3	②B	IA	②B	IB	X	X	B	6	B	9	X	Ic		
14	E-2-II	頁岩	44.9	30.5	8.7	10.2	IA	—	—	IB	IA	IB	A	6	A	6	B	6	C	Ib
15	E-2-II	頁岩	55.0	31.0	5.5	3.2	IA	IB	IA	3·IA	—	—	B	3	A	6	—	B	C	Ib
16	E-2-II	頁岩	52.3	27.4	9.0	14.4	—	IB	IA	—	IA	IA	A	2	B	6	C	5	Ie	
17	E-2-II	頁岩	6.5	26.6	7.4	32.1	①A	①A	—	IA	—	—	B	6	B	3	—	A	Ha	
18	E-2-II	頁岩	54.9	32.2	14.7	22.0	IB	IA	—	IA	X	X	C	7	A	6	X	IIa		
19	E-2-II	頁岩	46.2	36.1	10.3	16.0	①A	—	IA	IA	—	—	A	2	B	6	—	A	IIa	
20	E-2-II	頁岩	40.5	25.6	9.2	7.4	①A	IA	IB	—	IC	IC	B	3	A	3	B-B	2	IIb	B-EF
21	E-2-II	頁岩	48.9	19.8	7.9	5.8	IB	IB	IB	—	IA	—	A	2	B	3	A	5	IIb	B-EF
22	E-2-II	頁岩	57.0	68.7	15.9	9.5	—	IA	IA	IA	—	—	B	7	C-A	6	—	A	IIb	
23	E-2-II	頁岩	33.0	36.5	15.4	14.8	IA	IC	IA	—	—	A	6	A	2	—	A	IIb		
24	E-2-II	頁岩	32.0	32.0	14.0	4.9	1.8	—	IA	IA	X	X	B	4	B	3	X	—	C	IIb
25	E-2-II	頁岩	41.0	25.9	10.9	11.5	IA	IA	—	—	X	X	B-C	6	B	3	X	—	C	IIb
26	E-2-II	頁岩	36.0	30.7	6.2	9.7	IA	3·IA	IA	—	IA	B	2	A	3	A	6	C	Ic	
27	E-2-II	頁岩	33.3	26.7	7.8	16.4	IA	IB	IA	IA	—	A	8	B-B	6	B	8	—	Ic	
28	E-2-II	頁岩	36.7	18.5	5.9	4.4	—	IA	—	①A	①A	IA	A	6	A	6	B	6	C	IId
29	E-2-II	頁岩	34.9	35.6	8.0	0.3	IA	IB	—	—	IA	IA	B-B	3	B	6	C	5	C	IId
30	E-2-II	頁岩	33.5	31.6	10.0	2.1	7.2	—	IA	IB	—	—	C	6	B	6	B	4	He	
31	E-2-II	頁岩	47.8	39.4	6.3	18.2	IA	IB	IA	—	—	A	2	B	3	A	6	Hf		
32	E-2-II	頁岩	37.0	21.4	5.6	7.5	—	—	IA	IA	①A	IA	A	6	B	6	C	4	Hg	
33	E-2-II	頁岩	36.3	21.0	9.6	9.1	IA	IC	—	—	—	B-C	6	B	5	B	5	IIIa	B-EF	
34	E-2-II	頁岩	33.7	24.6	7.7	9.7	IA	—	—	X	X	A	6	A	6	X	—	C	IIIa	
35	E-2-II	頁岩	32.9	20.6	5.6	12.6	IA	IC	IA	—	—	A	6	A-C	5	A	5	IIIa	B-EF	
36	E-2-II	頁岩	46.4	34.3	6.5	5.7	IA	—	—	—	—	A	6	C	6	C	6	IIIa	B-EF	
37	E-2-II	頁岩	54.0	37.2	11.6	10.0	IA	—	—	X	X	B	6	B	5	X	—	IIIa	B-EF	
38	E-2-II	頁岩	51.8	41.6	12.8	10.8	IA	—	—	—	—	B-C	6	A	10	A	9	IIIa	B-EF	
39	E-2-II	頁岩	35.2	27.8	9.5	9.3	IA	IA	②B	—	X	X	B	3	B	3	X	—	IIIa	B-EF
40	E-2-II	頁岩	33.0	35.8	7.9	7.3	IA	—	—	—	—	B	6	B	5	—	A	IIIa		

表-40 削器属性表(2)

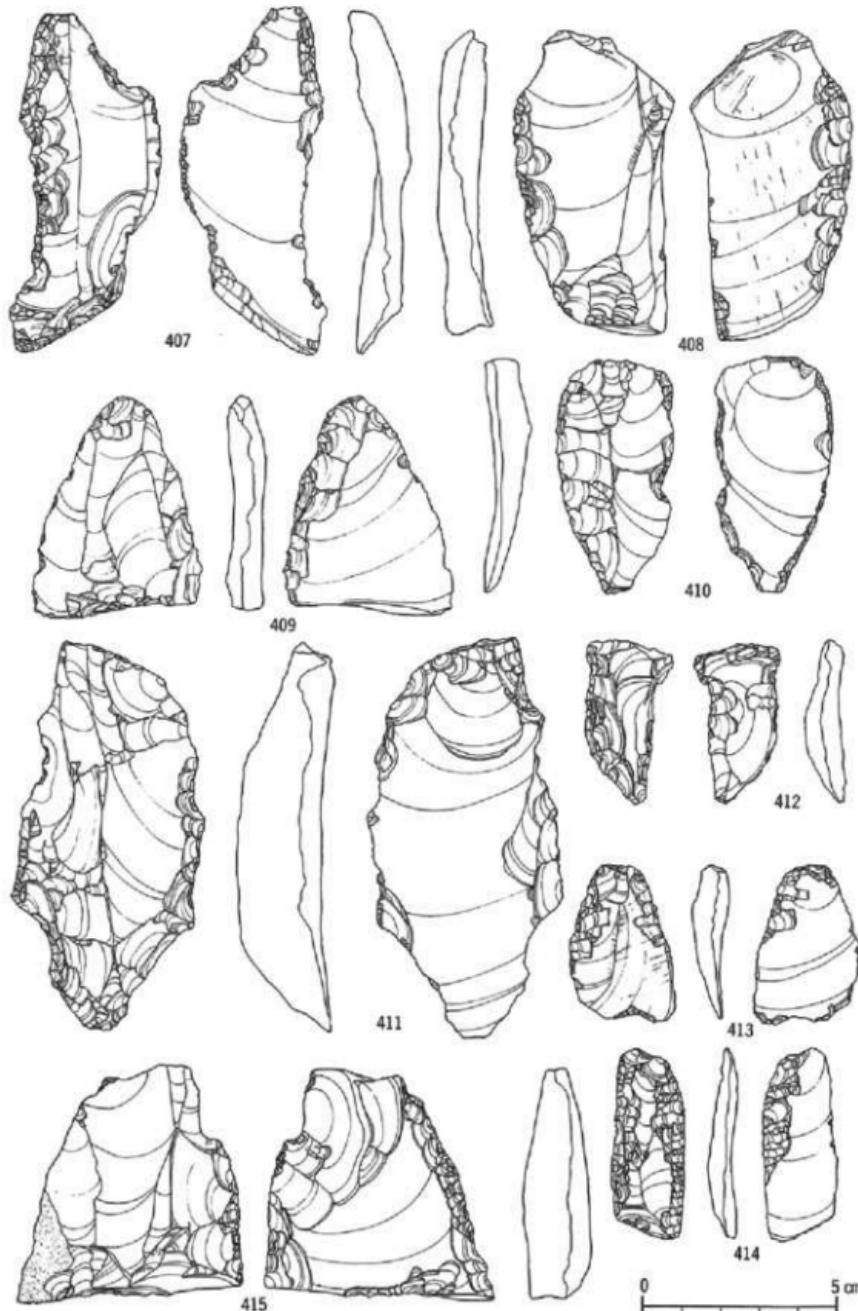
No.	出土区	石材	大きさ(mm)		重量 (kg)	加工部位と種類						被刃状況と平均刃角					残存部	分類	序号		
			長	幅		a	b	c	d	e	f	a+d	刃角	b+c	刃角	c+f	刃角				
41	5-81-II	夏井	6.3	16.0	9.6	13.1	IA	—	—	—	×	×	A	9	C	9	×	—	C	IIIa ₁	
42	5-81-II	〃	64.9	32.1	9.0	11.3	IA	—	—	—	×	×	B	6	A	9	×	—	C	IIIa ₁	
43	27-1II	〃	67.0	22.5	11.9	26.2	IA	—	—	—	—	—	B	6	C	9	—	—	A	IIIa ₁	
44	25-2II	〃	63.0	21.1	10.3	14.1	IA	—	—	—	—	—	B	9	B	5	—	—	A	IIIa ₁	
45	16-2II	〃	64.0	25.8	8.5	17.2	IA	—	—	—	—	—	B	6	B	8	—	—	A	IIIa ₁	
46	27-1II	〃	64.0	22.7	10.4	14.4	IA	—	—	—	—	—	B	6	B	4	—	—	A	IIIa ₁	
47	28-2II	〃	68.9	22.8	7.6	17.7	IA	—	—	—	—	—	B	3	C	6	A	G	C	IIIa ₁	
48	26-6II	〃	67.9	21.3	12.9	21.1	IA	—	—	—	—	—	A	6	B	5	—	—	A	IIIa ₁	
49	25-8II	〃	67.0	22.3	4.5	11.1	IA	—	—	—	—	—	B	6	B	8	—	—	B	IIIa ₁	
50	22-8II	〃	65.1	22.4	4.2	6.3	IA	—	—	—	—	—	B	6	C	8	—	—	A	IIIa ₁	
51	5-81-II	〃	63.0	25.3	5.6	8.2	IA	—	—	—	—	—	A	3	A	8	—	—	C	IIIa ₁	
52	29-9II	〃	73.6	60.4	14.4	27.7	IA	—	—	—	—	—	B	6	B	8	—	—	A	IIIa ₁	
53	21-2II	〃	68.0	24.5	10.5	6.6	IA	—	—	—	—	—	A	6	B	5	—	—	A	IIIa ₁	
54	26-4II	〃	68.1	26.6	10.8	15.8	IA	—	—	—	—	—	B	9	A	8	—	—	A	IIIa ₁	
55	22-1II	〃	65.8	28.4	7.7	9.5	IA	—	—	—	—	—	B	6	A	8	—	—	A	IIIa ₁	
56	22-7II	〃	65.2	30.5	7.6	6.7	IB	—	—	—	—	—	B	6	A	8	—	—	A	IIIa ₁	
57	26-2II	〃	31.7	15.6	5.2	2.5	IA	—	—	—	—	—	C	6	A	8	C	G	A	IIIa ₁	
58	29-2II	〃	65.7	21.1	6.8	4.8	IA	—	—	—	—	—	B	6	B	5	—	—	A	IIIa ₁	
59	14-7II	〃	60.9	33.0	13.8	13.5	IA	—	—	—	—	—	B	6	B	8	—	—	C	IIIa ₁	
60	25-2II	〃	64.0	36.6	11.9	14.2	IA	—	—	—	—	—	B	6	A	8	—	—	C	IIIa ₁	
61	25-9II	〃	63.0	32.7	7.4	3.8	IA	—	—	—	—	—	B	6	B	6	—	—	C	IIIa ₁	
62	23-3II	〃	32.3	18.1	9.3	5.6	①A	—	—	—	—	—	B	6	A	8	—	—	A	IIIa ₁	
63	25-3II	〃	68.0	28.8	11.1	18.6	IA	—	—	—	—	—	B	6	B	8	—	—	A	IIIa ₁	
64	5-21-II	〃	44.7	17.5	8.7	2.7	—	—	—	IA	—	—	B	2	A	8	—	—	A	IIIa ₂	
65	23-2II	〃	65.0	21.0	8.5	6.1	—	—	—	IA	—	—	A	6	B	8	—	—	A	IIIa ₁	
66	23-20II	〃	60.7	36.1	11.9	13.7	—	—	—	IA	—	—	A	6	B	6	—	—	A	IIIa ₁	
67	27-2II	〃	39.4	30.0	14.1	22.2	—	—	—	IA	—	—	B	6	A	8	B	IIJ	A	IIIa ₂	
68	25-16II	〃	65.4	32.6	8.7	13.9	—	—	—	IA	—	—	B	6	B	8	—	—	A	IIIa ₁	
69	25-2II	〃	64.0	35.5	8.4	15.9	—	—	—	IA	—	—	B	6	A	8	—	—	A	IIIa ₂	
70	28-2-I	〃	67.2	89.8	12.2	4.8	—	—	—	IA	—	—	A	6	A	6	A	9	IIIb ₁	III-45	
71	28-23II	夏井	66.4	22.9	8.3	12.4	—	—	—	IA	—	—	B	6	E	6	A	8	IIIb ₁	III-45	
72	25-29II	瓦版	36.1	37.2	10.8	10.8	—	—	—	—	—	—	B	6	E	6	A	8	IIIb ₁	III-45	
73	25-6II	〃	62.3	30.0	6.5	13.7	—	—	—	—	—	—	A	2	Z	6	B	5	IIIb ₂	III-45	
74	22-7II	〃	58.1	35.5	9.1	10.9	—	—	—	IC	IC	—	B	6	B	6	—	—	A	IIIb ₁	III-47
75	25-29II	〃	65.1	37.4	6.8	14.5	—	—	—	IC	—	—	C	C	S	A	8	C	IIIb ₂	III-48	
76	26-19II	〃	56.1	29.7	11.0	14.3	—	—	—	IA	—	—	A	2	Z	6	A	8	IIIb ₂	III-48	
77	28-2-I	〃	91.7	38.6	12.8	36.6	IC	IA	—	—	—	—	—	B	6	A	8	—	—	IIIb ₂	III-48
78	5-29-II	〃	65.0	36.4	5.8	2.7	—	—	—	IA	—	—	A	2	Z	6	B	6	—	A	IIIb ₂
79	25-12II	〃	55.1	34.5	7.9	5.5	—	—	—	IA	—	—	C	6	B	6	—	—	C	IIIb ₂	
80	25-22II	〃	65.9	37.6	9.0	5.5	—	—	—	IA	—	—	A	6	B	5	—	—	IIIb ₂	III-49	
81	5-81-II	〃	63.0	28.0	8.0	5.5	—	—	—	IA	—	—	A	C	9	A	8	A	46	C	IIIb ₂
82	25-25II	〃	65.0	38.7	8.3	6.5	—	—	—	IA	—	—	B	5	B	6	—	—	B	IIIb ₂	
83	25-5II	〃	61.2	23.9	5.9	8.5	—	—	—	IA	—	—	X	B	6	B	6	—	C	IIIb ₂	
84	22-10II	〃	55.0	36.0	10.8	8.1	—	—	—	IA	—	—	B	2	A	8	A	9	IIIb ₁	III-50	
85	25-24II	〃	65.0	35.8	7.8	9.5	—	—	—	IA	—	—	B	2	A	8	—	—	A	IIIb ₂	
86	25-12II	〃	65.0	32.9	8.9	8.1	—	—	—	IA	—	—	X	A	4	A	3	—	C	IIIb ₁	
87	25-25II	〃	65.0	33.0	5.9	3.7	—	—	—	IA	—	—	X	C	6	B	3	—	C	IIIb ₂	
88	25-21II	〃	65.0	35.4	6.0	9.5	—	—	—	IA	—	—	X	A	6	B	6	C	IIIb ₂		
89	25-25II	〃	65.0	33.0	6.0	2.2	①A	—	—	—	—	—	X	A	2	A	5	—	C	IIIb ₂	
90	25-14II	〃	62.0	32.2	5.5	5.1	—	—	—	IA	—	—	A	2	B	6	—	—	C	IIIb ₂	
91	25-8II	〃	67.8	32.4	9.4	17.5	—	—	—	IA	—	—	A	2	B	5	A	9	IIIb ₂	III-51	
92	25-10II	〃	66.9	33.0	6.8	14.2	—	—	—	—	—	—	B	C	3	B	5	A	10	IIIb ₂	III-51
93	25-6II	〃	59.2	45.5	12.6	22.2	—	—	—	IB	—	—	X	C	A	4	B	6	—	IIIb ₂	III-51
94	25-2II	〃	62.0	27.0	8.5	17.7	—	—	—	IA	—	—	X	A	5	B	6	C	IIIb ₂	III-51	
95	25-25II	〃	64.0	23.0	6.0	2.2	①A	—	—	—	—	—	X	A	2	A	5	—	C	IIIb ₂	
96	25-7II	〃	73.6	31.7	11.1	18.8	—	—	—	IA	—	—	X	B	4	B	3	A	2	IIIb ₂	III-52
97	25-8II	〃	68.6	15.9	5.4	3.2	—	—	—	IA	—	—	X	A	2	A	6	B	6	IIIb ₂	III-52
98	25-6II	〃	63.9	35.5	12.6	21.7	—	—	—	IA	—	—	C	2	B	6	B	6	IIIb ₂	III-52	
99	25-2II	〃	65.0	35.9	18.8	18.6	—	—	—	IA	—	—	B	5	B	6	—	—	A	IIIb ₂	
100	25-2II	〃	59.8	35.4	16.0	11.1	—	—	—	①A	—	—	A	A	2	B	6	C-C	6	IIIc ₁	III-52
101	25-1TII	〃	65.0	22.2	6.1	3.7	—	—	—	IA	—	—	A	2	A	9	B	6	C	IIIc ₁	III-53
102	25-3II	〃	55.7	26.6	10.8	16.7	—	—	—	IA	—	—	A	2	A	5	B	6	C	IIIc ₁	III-53
103	X-8	〃	65.0	47.7	5.0	9.0	—	—	—	—	—	—	IA	C-B	S	C-B	8	B	9	IIIc ₁	III-53
104	5-29-II	〃	65.0	18.0	4.3	3.8	IA	IA	—	—	—	—	X	C	2	B	3	A	9	IIId ₁	III-54
105	10-11II	〃	65.0	17.0	6.7	7.5	IA	IA	—	—	—	—	A	2	A	5	B	3	IIId ₁	III-54	
106	27-27II	〃	65.0	25.0	12.0	14.8	IA	IA	—	—	—	—	A	2	B-A	6	—	—	A	IIId ₁	III-55

表-41 削器属性表 (3)

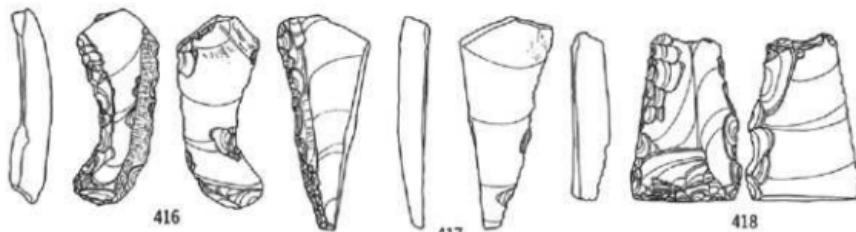
No	出土区	石材	大きさ(mm)		重さ(g)	加工部位と種類						鍛造状況と平均刃角						分類	押印	
			a	b		c	d	e	f	a-d	刃角	b-c	刃角	c-f	刃角					
16	2-9II	花崗岩	5.5	30.5	7.0	5.5	1A	IA	-	-	-	C-B	B	B	A	S	IIIId ₁	II-03		
18	3-20II	#	70.0	33.8	12.0	30.0	IA	IA	-	-	X	B-C	B	B	E	X	IIIId ₁	II-02		
19	21-7II	#	50.6	41.5	10.2	31.2	IA'	IA'	-	-	-	B	B	B	6	A	IIIId ₁	II-03		
18	25-4I	#	47.8	31.7	4.7	17.2	IA	IA	-	-	-	B	B	A	8	A	IIIId ₁	II-03		
18	22-5II	#	45.1	35.6	7.5	11.8	IA'	IA'	-	-	X	B	6	B	30	X	C	IIIId ₁	II-03	
18	30-14II	#	56.2	34.0	7.2	14.7	IA'	IA'	-	-	-	B	6	B	6	A	IIIId ₁	II-03		
13	26-27II	#	56.7	36.5	11.0	20.0	IA'	QA	-	-	-	B	6	B-C	6	B	IIIId ₁	II-02		
18	18-2I	#	82.1	33.7	6.4	18.6	IB	IB	-	-	-	A-B	S	S	A	5	IIIId ₁	II-03		
15	38-27II	#	650.0	31.0	7.9	16.1	IA	IA	-	-	X	B	6	B	6	X	C	IIIId ₁	II-03	
18	12-30II	#	41.0	41.0	3.9	1.7	IA	IA	-	-	-	A	5	A	30	B	IIIId ₁			
15	30-8II	#	46.0	32.0	7.9	11.8	IA	IB	-	-	X	B	5	B	6	X	-	C	IIIId ₁	
18	25-7I	#	43.0	25.0	6.8	15.5	IA	IA	-	-	-	A	5	A	5	B	IIIId ₁			
18	22-6II	#	44.0	35.0	12.0	32.7	①A	IA	-	-	X	A	5	A	30	X	C	IIIId ₁		
15	25-22II	#	41.0	39.0	4.7	4.0	①A	IB	-	-	X	B	6	C	6	X	C	IIIId ₁		
18	34-2I	#	62.0	40.0	7.8	18.6	IA	IA	-	-	-	C-A	6	A	8	C	IIIId ₁			
18	26-26II	#	31.6	25.3	5.9	4.8	IA	IA	-	-	X	A	6	B	5	X	-	IIIId ₁		
15	19-13II	#	42.0	25.6	5.8	4.9	IA	IA	-	-	-	C	5	C-B	5	A	IIIId ₁			
15	12-20II	#	42.0	41.2	14.0	21.0	①A	IA	-	-	-	C	5	C-A	2	B	IIIId ₁			
15	9-5-I	#	42.0	32.0	6.5	8.3	IA	IA	-	-	-	A	5	B	6	A	IIIId ₁			
15	31-1-I	#	40.0	45.0	7.4	10.5	IA	IA	-	-	-	A	6	B	30	C	IIIId ₁			
15	22-6II	#	51.8	35.0	10.5	18.5	IA	IA	-	-	-	A	5	A	5	X	IIIId ₁			
15	24-4II	#	45.0	38.0	12.4	21.6	IA	IA	-	-	-	B	5	A	5	B	IIIId ₁			
15	26-36II	#	42.0	42.0	6.4	7.7	IA	IA	-	-	-	B	5	B	5	A	IIIId ₁			
18	27-22II	#	48.0	48.0	8.2	4.7	IA	IB	-	-	-	C	5	A	5	A	IIIId ₁			
18	9-2-I	#	43.0	43.0	4.3	2.0	IA	IA	-	-	X	A	5	B	6	X	-	C	IIIId ₁	
18	30-22II	#	65.0	65.0	6.5	8.4	IA	IA	-	-	X	B	5	B	5	X	-	C	IIIId ₁	
18	24-2II	#	44.0	35.3	11.4	20.6	IA	IA	-	-	-	A	6	B	6	B	IIIId ₁			
18	36-15II	#	42.0	43.0	10.0	15.0	IA	IA	-	-	-	B-C	5	B	5	A	IIIId ₁			
15	27-23II	#	7.0	5.4	8.6	3.6	IA	IA	-	-	-	B	6	C	5	B	IIIId ₁			
15	38-12II	#	50.0	35.1	5.7	4.7	IA	IA	-	-	-	B	5	A	6	A	IIIId ₁			
15	5-9-II	#	54.6	30.5	7.5	11.0	IA	IA	-	-	-	B	5	B	6	B	IIIId ₁			
15	15-25I	#	61.2	33.7	4.6	9.7	IA	IA	-	-	-	A-A	6	A	5	B	IIIId ₁			
15	24-4I	#	6.7	23.7	9.8	17.0	IA	IA	-	-	X	B	6	B	6	X	-	C	IIIId ₁	
15	25-22II	#	44.0	34.0	7.2	5.6	IA	IA	-	-	-	A	5	A	6	B	IIIId ₁			
15	25-23II	#	30.7	34.5	13.0	15.0	IA	IA	-	-	-	B	5	B	5	A	IIIId ₁			
15	22-5II	#	52.3	31.8	4.1	2.0	IA	IA	-	-	X	B	5	A	5	X	-	IIIId ₁		
15	9-9II	#	48.5	34.6	4.8	16.0	IB	IA	-	-	-	B	5	A	5	A	IIIId ₁			
15	36-29II	#	44.0	22.7	9.8	16.0	IB	IA	-	-	-	B	6	C	5	A	IIIId ₁			
15	16-7II	#	42.0	31.5	9.3	8.3	IA	IA	-	-	-	B	6	B	6	B	IIIId ₁			
15	36-27II	#	67.7	30.0	7.1	5.1	IA	IA	-	-	X	A-B	6	A-A	5	X	-	C	IIIId ₁	
15	36-30II	#	62.6	36.3	10.3	21.0	IA	IA	-	-	X	A-C	5	B	6	X	-	IIIId ₁		
15	22-2II	#	67.7	30.0	9.5	15.7	IA	IA	-	-	-	B	5	B-C	5	A	IIIId ₁			
15	5-5-III	#	32.5	23.0	10.6	8.7	IA	IA	-	-	-	A	5	A-B	5	A	IIIId ₁			
15	36-24II	#	68.0	39.0	6.5	17.7	IA	IA	-	-	X	B	6	B	6	X	-	C	IIIId ₁	
15	22-2II	#	69.5	31.0	6.3	12.5	IA	IB	-	-	X	C	5	C-A	6	X	-	B	IIIId ₁	II-44
15	22-22II	#	97.5	35.4	14.2	44.7	IA	IA	-	-	X	A-B	5	A	6	X	-	IIIId ₁	II-45	
15	32-2II	#	36.8	30.8	6.1	14.4	IA	IA	-	-	-	B	5	B	5	B	IIIId ₁			
15	25-2II	#	63.9	34.0	6.5	16.6	IA	IA	-	-	X	B	5	B	5	X	-	C	IIIId ₁	
15	22-21-II	#	53.9	35.0	6.1	5.9	IA	IA	-	-	-	C-A	6	A	5	A	IIIId ₁			
15	25-3II	#	64.0	57.7	7.5	8.9	IA	IA	-	-	-	B	6	A	30	B	IIIId ₁			
15	21-2II	#	50.6	39.9	7.5	11.8	IC	IA	-	-	-	C-A	6	B	2	A	IIIId ₁	II-46		
15	2-7-II	#	23.0	23.0	5.5	2.6	-	IA	-	X	C-C	5	C	6	X	-	C	IIIId ₁		
15	30-6II	#	6.5	6.7	10.3	11.8	-	IA	-	X	A-A	6	B	5	X	-	IIIId ₁			
15	16-11II	#	64.0	45.0	7.2	8.5	-	IA	-	-	B	5	A	6	B	5	IIIId ₁			
15	37-3II	#	67.0	60.0	14.0	34.7	-	IA	-	-	C	5	B	5	B	6	C	IIIId ₁		
15	16-11II	#	32.0	23.0	6.2	7.1	-	IA	-	X	B	6	B	6	X	-	C	IIIId ₁		
15	15-5II	#	33.8	36.5	4.2	6.1	-	IA	-	IB	A	5	B	6	X	-	IIIId ₁			
15	16-8II	#	41.9	38.7	11.3	17.3	-	IA	-	-	B	5	C	5	A	40	IIIId ₁	II-47		
15	14-7II	#	4.0	25.3	11.0	12.4	-	IA	-	-	A	7	B	6	B	50	IIIId ₁			
15	36-3II	#	61.2	23.0	10.0	11.0	-	IA	-	-	B	6	B	6	A	50	A	IIIId ₁		
15	22-5II	#	45.7	47.4	10.7	10.0	IA	IA	-	-	IA	A	6	A-C	5	C	2	IIIId ₁	II-48	
15	16-7II	#	63.0	38.7	5.4	14.3	IA	-	-	-	IA	-	B	6	A	30	B	IIIId ₁	II-49	
15	22-5II	#	30.7	25.3	7.3	4.8	IA	-	-	-	IA	-	B	6	A	30	B	IIIId ₁	II-49	
15	16-8II	#	29.8	38.5	10.7	10.6	IA	-	-	-	IA	-	B	6	A	30	B	IIIId ₁	II-49	

表-42 削器属性表 (4)

No	出土区	石材	大きさ (mm)		重量 (g)	加工部位と種類						端面状況と平均刃角						残存部	分類	採用	
			長	幅		a	b	c	d	e	f	a-d	万角	b-c	刃角	e-f	刃内				
13	27-2111	花崗岩	31.0	19.0	5.4	19	—	—	—	IC	IA	—	B	S	A	0	B	C	IIIc ₂		
14	27-1-1	花崗岩	31.0	19.0	6.1	13	—	—	—	IB	—	IA	B	S	C-C	S	B	0	C	IIIc ₂	
15	27-2111	花崗岩	41.7	20.0	8.1	34.7	—	IA	—	—	IA	—	B-C	S	B	0	B	6	IIIc ₁		
16	27-2111	花崗岩	41.0	15.0	4.4	15	—	IA	—	—	IA	—	B-A	S	B	0	B	6	IIIc ₁		
17	27-2111	花崗岩	38.8	19.0	8.1	31.7	—	IA	—	—	IA	—	A-C	S	B	0	B	6	IIIc ₁		
18	27-2111	花崗岩	31.0	19.0	6.5	2.6	—	IA	—	—	IA	A	0	B	0	A	5	C	IIIc ₂		
19	27-2111	花崗岩	31.0	19.0	6.2	16.7	—	IA	IC	IB	IB	A-C	S	B	0	A	5	IIIc ₂	2-69		
20	27-2111	花崗岩	31.3	18.8	12.3	55.1	—	IA	—	—	IA	A	0	B	0	B	0	IIIc ₂			
21	27-2111	花崗岩	41.0	22.0	9.3	1.2	IA	IA	—	—	IA	—	C	S	B	0	B	3	IIIc ₁	2-64	
22	27-2111	花崗岩	26.6	15.9	6.0	1.7	IA	IA	—	—	IA	—	B	E	B	5	A	3	IIIc ₁	2-62	
23	27-2111	花崗岩	41.0	21.1	9.9	11.5	IA	IA	—	—	IA	—	B	S	B	6	B	6	IIIc ₁	2-63	
24	27-2111	花崗岩	41.0	21.0	7.5	16.5	IA	IA	—	IC	IA	—	B	0	A	0	A	0	IIIc ₁	2-64	
25	27-2111	花崗岩	26.0	15.5	14.5	31.0	IA	IA	—	—	IA	—	B	0	B	3	B	3	IIIc ₁	2-65	
26	27-2111	花崗岩	41.0	18.0	6.1	3.8	IA	IA	—	—	IA	—	B	S	A-C	S	B	0	C	IIIc ₂	
27	27-2111	花崗岩	50.0	25.5	9.0	32.6	IB	IA	—	—	IA	—	B	P	A-B	0	B	6	IIIc ₂		
28	27-2111	花崗岩	41.0	18.5	7.5	14.8	IA	IA	—	—	IA	—	B	S	C	0	A	5	IIIc ₁		
29	27-2111	花崗岩	34.6	15.5	10.7	24.6	IB	IA	—	—	IA	—	B-C	S	A	6	B	6	IIIc ₂		
30	27-2111	花崗岩	52.7	21.1	12.5	23.1	IA	IA	—	—	IA	—	B	S	B	5	C	3	IIIc ₂		
31	27-2111	花崗岩	31.2	15.9	9.8	16.1	IB	IC	—	—	IA	B-A	B	C-A	S	A	6	IIIc ₂	2-66		
32	27-2111	花崗岩	27.0	14.0	4.4	1.1	—	IA	IA	—	IA	A	S	B	E	B	0	C	IIIc ₂		
33	27-2111	花崗岩	41.0	20.0	7.5	1.6	IA	IB	IA	—	IA	—	A	B	B	B	B	5	IIIc ₂		
34	27-2111	花崗岩	26.6	15.2	10.5	13.0	IA	IA	—	—	IB	A	S	B	6	A	2	IIIc ₂			
35	27-2111	花崗岩	41.5	22.5	5.2	1.3	—	—	—	—	—	—	C	S	B	0	B	3	IIIc ₂		
36	27-2111	花崗岩	36.6	16.6	7.5	8.5	IA	IA	—	—	IA	—	B	S	B	0	A	5	IV		
37	27-2111	花崗岩	38.6	20.3	6.5	16.7	IA	IA	—	—	IA	IA	B-C	S	B	0	B	5	V		
38	27-2111	花崗岩	38	18.5	12.0	21.1	IA	IA	—	—	—	—	B	S	B	0	A	0	Vla ₁		
39	27-2111	花崗岩	41.5	21.2	9.1	26.2	—	IA	—	—	IA	—	B	E	C-E	S	—	—	Vla ₂	2-67	
40	27-2111	花崗岩	21.9	12.0	7.3	10.1	—	—	—	IA	—	A	B	S	A-C	S	Vla ₂				
41	27-2111	花崗岩	31.9	15.9	10.6	11.2	—	IA	—	—	—	—	B	S	A	S-A	0	Vlb ₁			
42	27-2111	花崗岩	21.1	13.3	5.8	6.0	IA	IA	—	—	—	—	A	S	C	0	A	0	Vlb ₂		
43	27-2111	花崗岩	41.7	21.0	13.7	25.5	IA	IA	—	—	—	—	B-A	E	B	S-A	0	A	0	Vlb ₃	
44	27-2111	花崗岩	21.1	18.0	6.7	6.4	—	IA	—	—	—	—	A	S	A	S	C	0	Vlb ₂		
45	27-2111	花崗岩	30.1	18.1	8.9	13.6	—	IA	—	—	—	—	A-A	S	B-C	S	A	0	Vlb ₂		
46	27-2111	花崗岩	31.5	21.4	14.7	6.4	—	—	—	IA	—	C	E	B	S	B	0	Vc ₁	2-68		
47	27-2111	花崗岩	25.0	14.0	11.5	1.6	—	IB	IB	IA	—	—	B	S	S	C	0	C	Vc ₁		
48	27-2111	花崗岩	41.0	22.7	7.4	20.9	—	—	IA	—	—	—	A	S	B	0	B	0	Vc ₁		
49	27-2111	花崗岩	41.5	27.9	14.1	15.3	—	IA	—	—	—	—	B-C	S	C	0	B	25	Vc ₂	2-68	
50	27-2111	花崗岩	32.0	20.2	6.9	18.4	IA	IA	—	—	—	—	A	S	B	0	B	25	A	Vid	
51	27-2111	花崗岩	31.4	14.0	10.2	12.9	IA	IA	—	—	—	—	A-A	S	A	0	A	0	Vle ₁		
52	27-2111	花崗岩	31.6	25.5	9.0	16.6	IA	IA	—	—	—	—	B	S	A	0	B	0	Vle ₁		
53	27-2111	花崗岩	41.5	32.4	9.2	20.5	IA	IA	—	—	—	—	B-C	S	C-A	0	B	30	Vle ₂		
54	27-2111	花崗岩	34.4	21.3	10.6	21.4	IA	IA	—	—	—	—	A	S	A-A	0	B	25	Vle ₂		
55	27-2111	花崗岩	31.1	25.1	7.0	2.8	IB	—	IA	IA	—	—	A	B	A	0	B	0	Vle ₃		
56	27-2111	花崗岩	32.2	26.4	16.2	54.1	IC	IA	—	—	IA	—	B	C	E	0	B	0	Vlh ₁	2-69	
57	27-2111	花崗岩	41.4	37.0	13.3	10.6	IA	—	—	—	IB	IA	—	B	S	A	0	B	30	Vlh ₁	2-70
58	27-2111	花崗岩	36.4	36.3	10.2	25.9	—	IA	—	—	IA	—	B	S	B	0	C	0	Vlh ₂	2-70	
59	27-2111	花崗岩	36.0	36.7	12.7	29.8	—	IA	—	—	IA	—	C-B	S	C-A	0	C	25	Vlh ₂		
60	27-2111	花崗岩	31.9	4.2	4.2	4.2	—	IA	—	—	IA	—	A	S	B-C	0	B	25	Vlh ₂		
61	27-2111	花崗岩	37.1	58.1	11.6	24.3	IA	IA	—	—	IA	—	A	S	A	0	B	0	Vlh ₂	2-72	
62	27-2111	花崗岩	35.7	37.7	6.8	18.8	IA	IB	—	—	IA	—	B	S	C-A	0	A	0	Vlh ₂		
63	27-2111	花崗岩	41.2	58.7	6.7	44.2	IA	IA	—	—	IA	—	A	S	C-A	S	C-C	0	Vlh ₂		
64	27-2111	花崗岩	38.1	52.2	11.0	22.9	IA	—	—	IA	—	B	S	B	0	B	0	Vlh ₂	2-73		
65	27-2111	花崗岩	39.2	48.3	12.5	34.0	—	IB	—	IA	—	IA	B	S	B	0	A	0	Vlh ₂	2-74	
66	27-2111	花崗岩	41.9	67.7	8.5	37.2	—	IA	IA	—	IA	—	B	S	B	0	B-A	0	Vlh ₂	2-74	
67	27-2111	花崗岩	34.4	32.0	7.0	4.2	—	IA	IA	—	IA	—	A	S	B	0	A	0	Vlh ₂	2-75	
68	27-2111	花崗岩	31.1	31.9	9.5	7.9	—	IA	IA	—	IA	—	A	S	B	0	A	0	Vlh ₂	2-76	
69	27-2111	花崗岩	41.6	35.6	13.1	15.5	—	IA	IA	—	IA	—	A	S	B	0	Vlh ₂	2-77			
70	27-2111	花崗岩	22.7	12.7	7.4	2.3	—	—	—	IA	—	B	0	Vlh ₂	2-78						
71	27-2111	花崗岩	38.2	18.8	12.7	7.5	—	—	—	IA	—	B	0	Vlh ₂	2-78						
72	27-2111	花崗岩	41.9	35.6	10.3	9.3	—	—	—	IA	—	A	0	Vlh ₂	2-79						
73	27-2111	花崗岩	33.3	31.5	6.7	5.6	—	—	—	IA	—	A	0	Vlh ₂	2-80						
74	27-2111	花崗岩	36.4	36.7	10.6	17.0	—	—	—	IA	—	H	0	Vlh ₂							
75	27-2111	花崗岩	40.2	40.2	12.6	39.4	—	—	—	IA	—	A	0	Vlh ₂							
76	27-2111	花崗岩	35.9	38.8	10.3	34.2	—	—	—	IA	—	B	0	Vlh ₂	2-81						
77	27-2111	花崗岩	40.5	43.5	12.0	22.0	IC	—	—	IA	—	A	S	A	0	A	0	Vlh ₂	2-81		
78	27-2111	花崗岩	36.4	38.3	12.4	38.6	—	IA	IB	—	IA	A	0	A	0	B	0	Vlh ₂	2-82		
79	27-2111	花崗岩	41.1	32.0	6.8	15.2	—	—	—	IA	—	B	S	B	0	B	0	Vlh ₂	2-83		



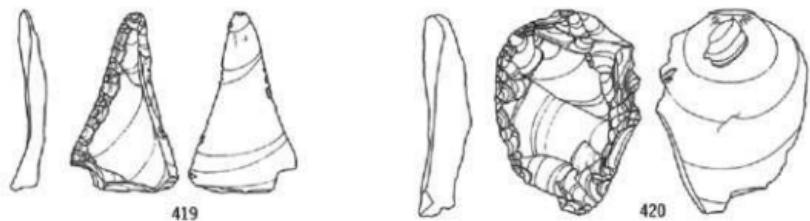
第88図 石器実測図 (28) 削器



416

417

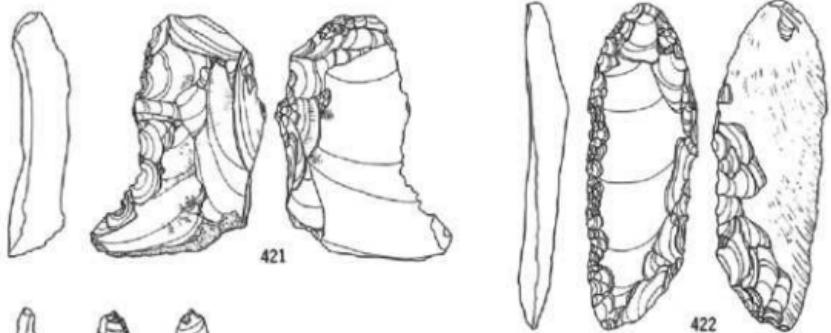
418



419

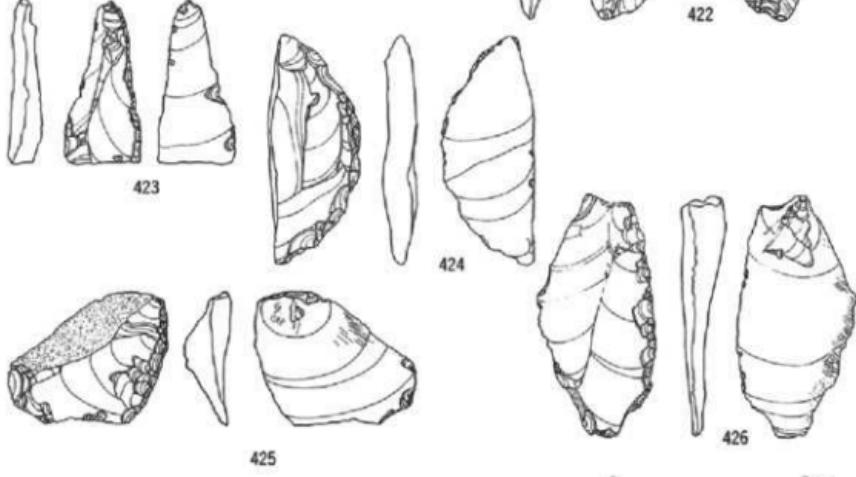
420

421



422

423



424

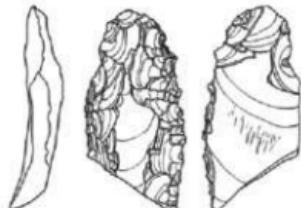
425

426

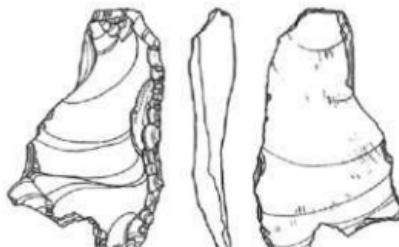
— 149 —

0 5 cm

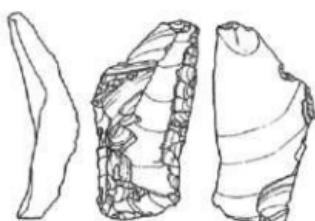
第89図 石器実測図 (29) 削器



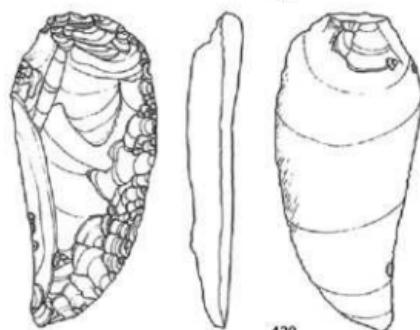
427



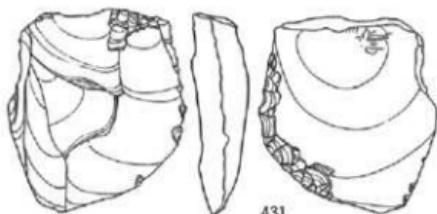
428



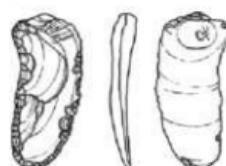
429



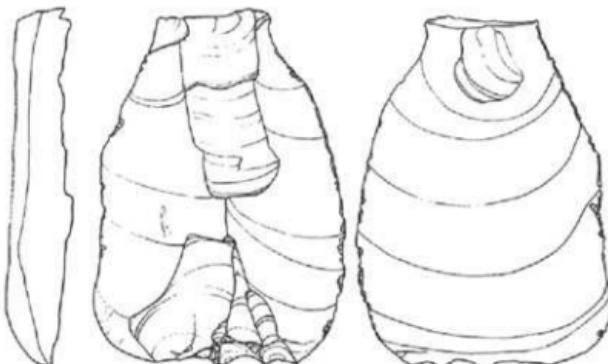
430



431



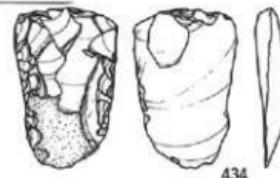
433



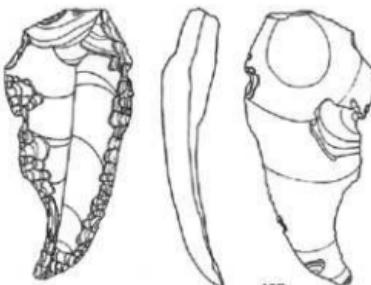
432

- 150 -





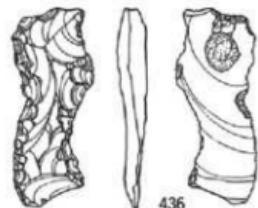
434



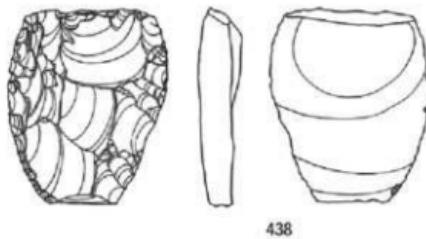
437



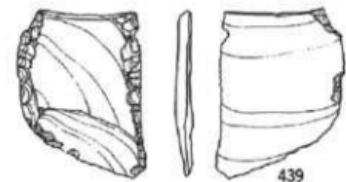
435



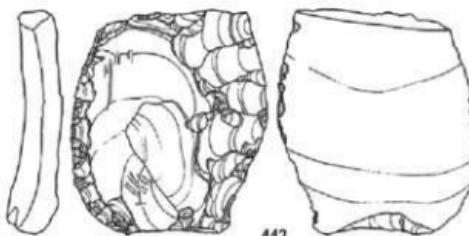
436



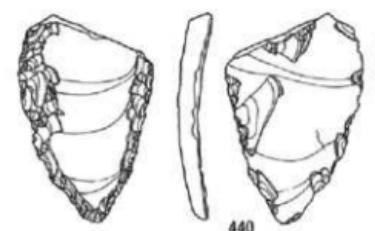
438



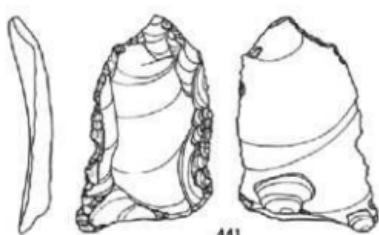
439



442



440

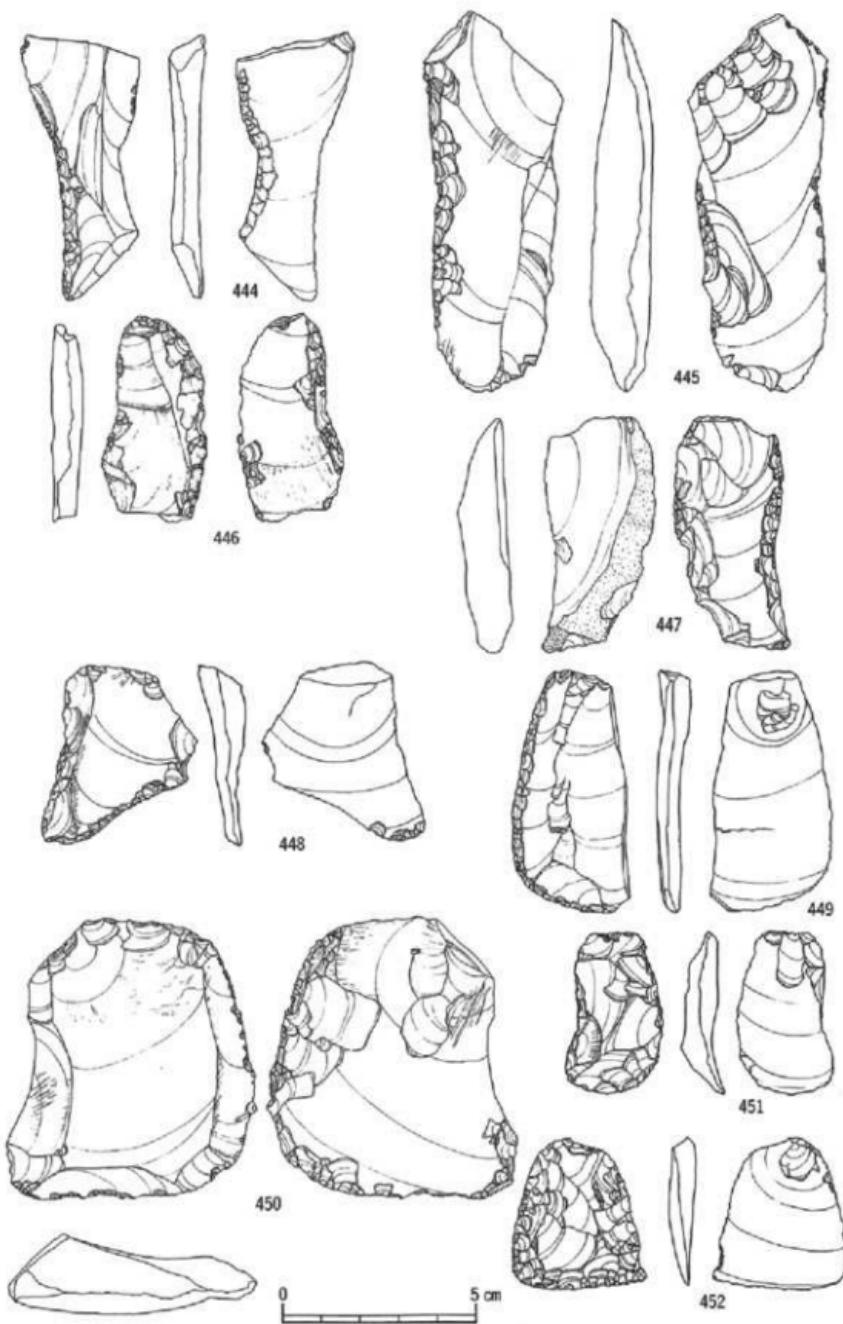


441

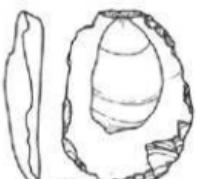
- 151 -

0 5 cm

第91図 石器実測図(31) 削器



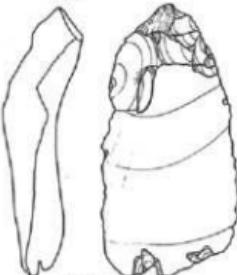
第92図 石器実測図 (32) 削器



453



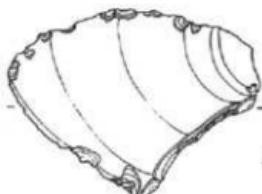
454



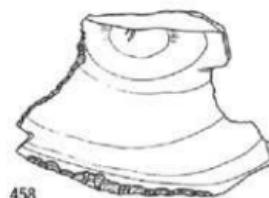
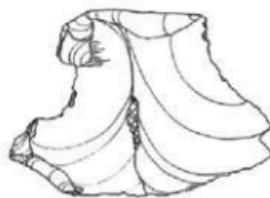
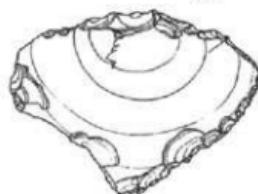
455



456



457



458

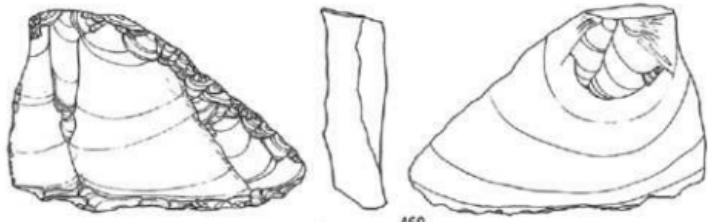


459

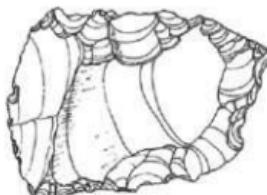


— 153 —

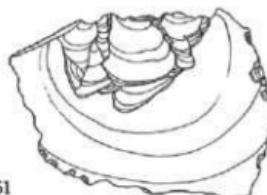
第93図 石器実測図 (33) 削器



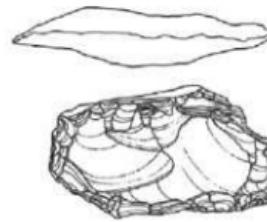
460



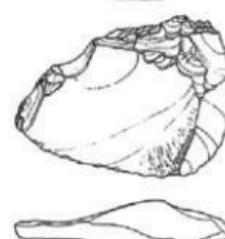
461



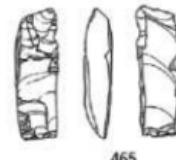
462



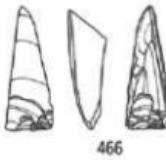
463



464



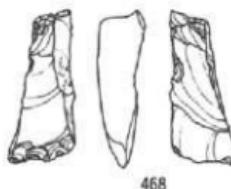
465



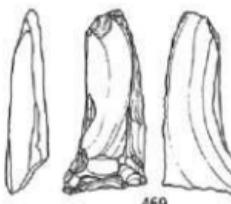
466



467



468



469

0 5 cm

— 154 —

f : 素材の右側縁と末端が刃部となるもの。両縁辺とも背面側に加工が施される
f₁、右側は背面側に、末端は主要剝離面側に加工が施されるf₂、両縁辺とも主要剝離面側に加工が施されるf₃(450)に細分される。f₁が3点、f₂が1点、f₃が2点出土している。

g : 素材の三縁辺が刃部となるもの。三縁辺とも背面側に加工が施されるg₁(451~455)、両側縁が背面側、末端が主要剝離面側に加工が施されるg₂(456)、三縁辺とも主要剝離面側に加工が施されるg₃、左側縁が主要剝離面に、右側縁と末端の背面に加工が施されるg₄、素材の基部側と末端が主要剝離面に、右側の背面側に加工が施されるg₅に細分される。g₁が10点、g₂、g₃、g₄、g₅がそれぞれ1点の出土となっている。

h : 素材の基部が刃部となるもの。主要剝離面側に加工の施されるものが1点出土した。

IV類：横長剝片を素材とし、両面加工によって刃部を作出したもの。素材の左側縁が刃部となるものが1点出土している。

V類：横長剝片を素材とし、両面加工と片面加工の刃部をもつもの。素材の末端が両面加工の刃部、右側縁が主要剝離面側の加工となるものが1点出土している。

VI類：横長剝片を素材として、片面加工によって刃部を作出したもの。

a : 素材の左側縁が刃部となるもの。背面側に加工が施されるa₁と、主要剝離面側に加工が施されるa₂(457)があり、各1点の出土がある。

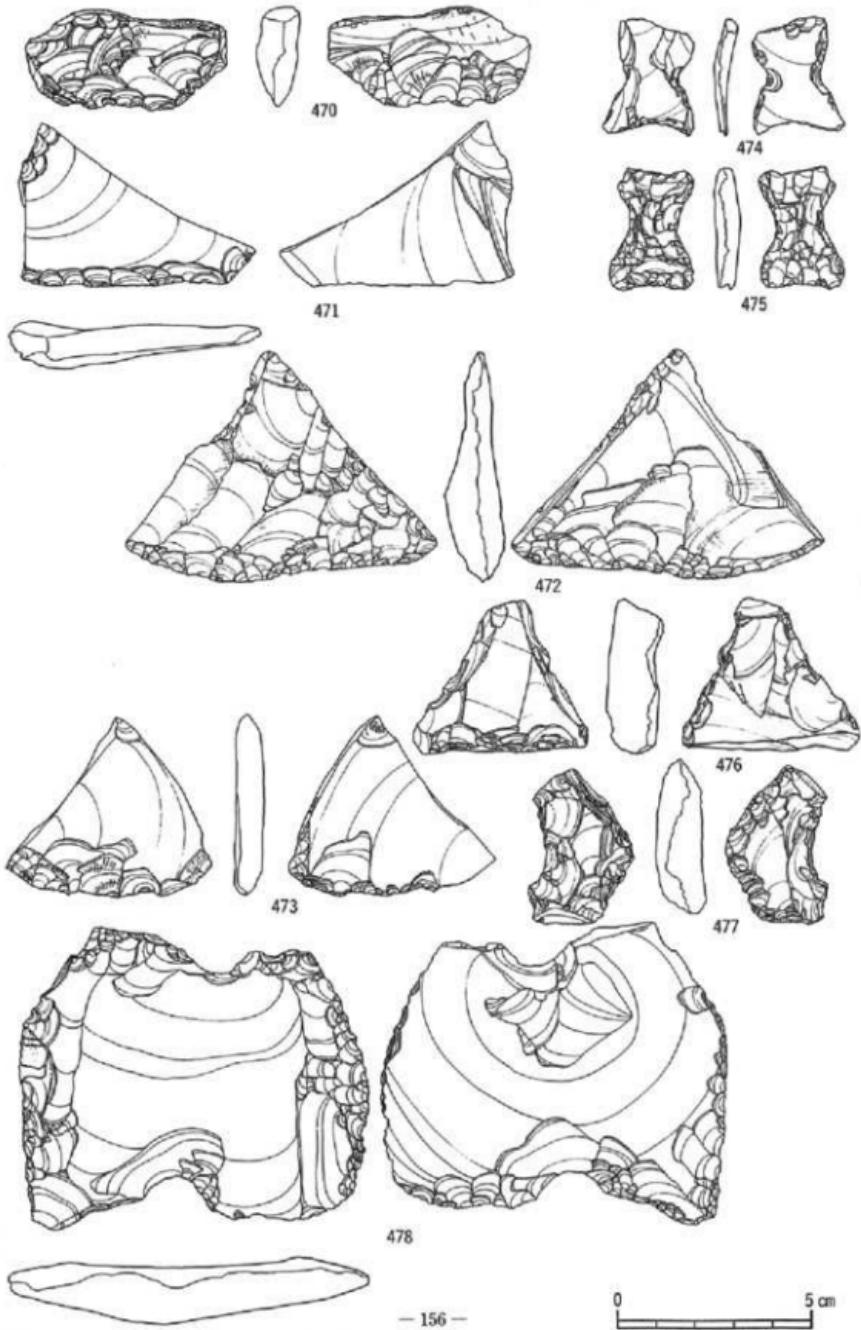
b : 素材の右側縁が刃部となるもの。背面側に加工が施されるb₁と、主要剝離面側に加工が施されるb₂がある。b₁が3点、b₂が2点出土している。

c : 素材の末端が刃部となるもの。背面側に加工が施されるc₁(459)と、主要剝離面側に加工が施されるc₂(458)がある。c₁が3点、c₂が1点出土している。

d : 素材の両側縁が刃部となるもの。左側縁は背面側に、右側縁が主要剝離面側に加工が施されるものが1点出土した。

e : 素材の左側縁と末端が刃部となるもの。両縁辺とも背面側に加工されるe₁、左側縁は背面側に、末端が主要剝離面側に加工が施されるe₂、左側縁は主要剝離面に、末端は背面側に加工が施されるe₃に細分される。e₁が2点、e₂が2点、e₃が1点の出土となっている。

f : 素材の右側縁と末端部が刃部となるもの。両縁辺とも背面側に加工されるf₁(460、461)、右側縁は背面側に、末端は主要剝離面側に加工が施されるf₂、両縁辺とも主要剝離面側に加工が施されるf₃に細分される。出土数はf₁が3



- 156 -

0 5 cm

第95図 石器実測図 (35) 削器・異型石器

点、 f_2 、 f_3 がそれぞれ1点となっている。

g : 素材の三縁辺が刃部となるもの。三縁辺とも背面側に加工が施される g_1 (462)、左側縁は背面側に、右側縁と末端は主要剝離面側に加工が施される g_2 (463)、右側縁は背面側に、左側縁と末端は主要剝離面側に加工が施される g_3 (464)、三縁辺とも主要剝離面に加工が施される g_4 に細分される。出土点数は g_1 が3点、 g_2 、 g_3 、 g_4 が各1点である。

VII類：剥片を2ヶ所で折断して素材とし、その折断面を両側縁として末端に刃部を作出したもの。末端の刃部作出の加工が折断面を切っていることから、折断は意識的なものと考えられる。平面形は長方形、台形のものが各1点あるが、残りは三角形となりこの点でも規格性を窺うことができる。刃部の加工方法の差異により、以下のように細分される。

a : 両面加工によって刃部が作出されるもの (465、466)。全部で3点の出土である。

b : 片面加工によって刃部が作出されるもの (467~469)。6点の出土がある。

VIII類：折れや加工の進展によって素材の形状が不明となったものをVII類とした。4点の出土がある。470は短期末端に両面加工の刃部をもつ。471は同じく短軸末端に片面加工の刃部をもつ。472・473は折れて三角形となった素材の一辺に両面加工によって刃部を作出している。

異形石器（第95図）

特殊なかたちとなる石器を異形石器とした。

474、475は糸巻形石器と呼ばれている石器である。両者とも石材は頁岩である。474は全長29.5mm、最大幅23.9mm、最大厚4.3mm、重さ2.4gを測る。20-7区のII層から出土した。縦長剥片の基部を背面から主要剝離面への調整加工によって除去し、両側と末端にノッチを入れて仕上げているが、素材のかたちを大きく変えることはない。475は全長32.2mm、最大幅21.4mm、最大厚6.6mm、重さ4.1gを測る。22-25区のII層から出土した。両面とも完全に調整されており、素材の種類は不明である。両側と上・下端の四ヶ所にノッチが入るが、両側が深くなっている。

476は25-14区のII層から出土した石器である。頁岩の縦長剥片を折断したものを素材とし、調整加工を施して三角形に仕上げているが刃部となる縁辺はない。三脚石器の製作途中のもの可能性がある。図示した方向で計測すると全長38.8mm、最大幅45.0mm、最大厚11.8mm、重さ19.5gを測る。

477は「く」の字状を呈する石器である。内湾する縁辺が刃部となる可能性がある。全長

39.9mm、最大幅25.0mm、最大厚11.8mm、重さ11.8gを測る。頁岩製で上下両端は素材面を残している。26-14区のII層から出土した。

478は大形の横長剝片を素材として基部と末端にノッチを入れた石器である。両側縁は削器と同じような調整加工が施されている。全長79.4mm、最大幅89.5mm、最大厚13.0mm、重さ110gを測る。石材は頁岩である。22-8区のII層から出土した。

ピエス・エスキュー（第96図 表-43）

ハンマーによる加熱と対象物からの衝撃による剥離痕が認められる石器である。平面形は四角形になるものが多く、縱断面のかたちは例外なく中央部がふくらむ凸レンズ状となる。全部で19点の出土があるが、加熱と衝撃による剥離痕が完全に一方に抜けきったものは少ない。

表-43 ピエス・エスキュー計測表

No	出土区	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	標因	No	出土区	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	標因
1	26-25II	頁岩	22.7	24.0	4.4	3.8	96-479	11	23-26II	頁岩	42.5	33.8	9.3	16.1	96-489
2	X-9	フ	20.4	28.0	5.9	3.2	96-480	12	25-30II	フ	25.5	28.6	6.5	5.4	
3	25-20II	フ	27.3	25.2	17.8	5.1	96-481	13	21-22II	フ	30.9	26.7	8.6	8.7	
4	27-27II	フ	28.0	26.4	9.8	6.9	96-485	14	20-9II	フ	24.0	29.8	7.9	5.3	
5	22-25II	フ	32.1	31.6	11.2	12.1	96-483	15	19-18II	フ	29.6	28.2	8.6	7.7	
6	28-15II	フ	26.2	34.3	9.2	8.3	96-484	16	28-17II	フ	53.1	30.6	12.5	21.9	
7	26-25II	フ	30.6	35.9	12.0	13.6	96-485	17	25-31II	フ	29.5	30.5	14.0	10.2	
8	26-25II	フ	32.3	30.3	10.0	9.7	96-486	18	25-24II	フ	26.0	24.5	10.9	10.2	
9	26-30II	フ	25.9	39.4	6.6	8.4	96-487	19	25-29II	フ	28.8	36.7	8.9	8.2	
10	20-29II	フ	39.3	27.5	8.0	10.5	96-488								

加工痕ある剝片（第97図）

剝片に二次加工を施しながらも、刃部を形成するような連続した加工とはなっていないものである。全部で1,113点の出土がある。490~495はその一部である。

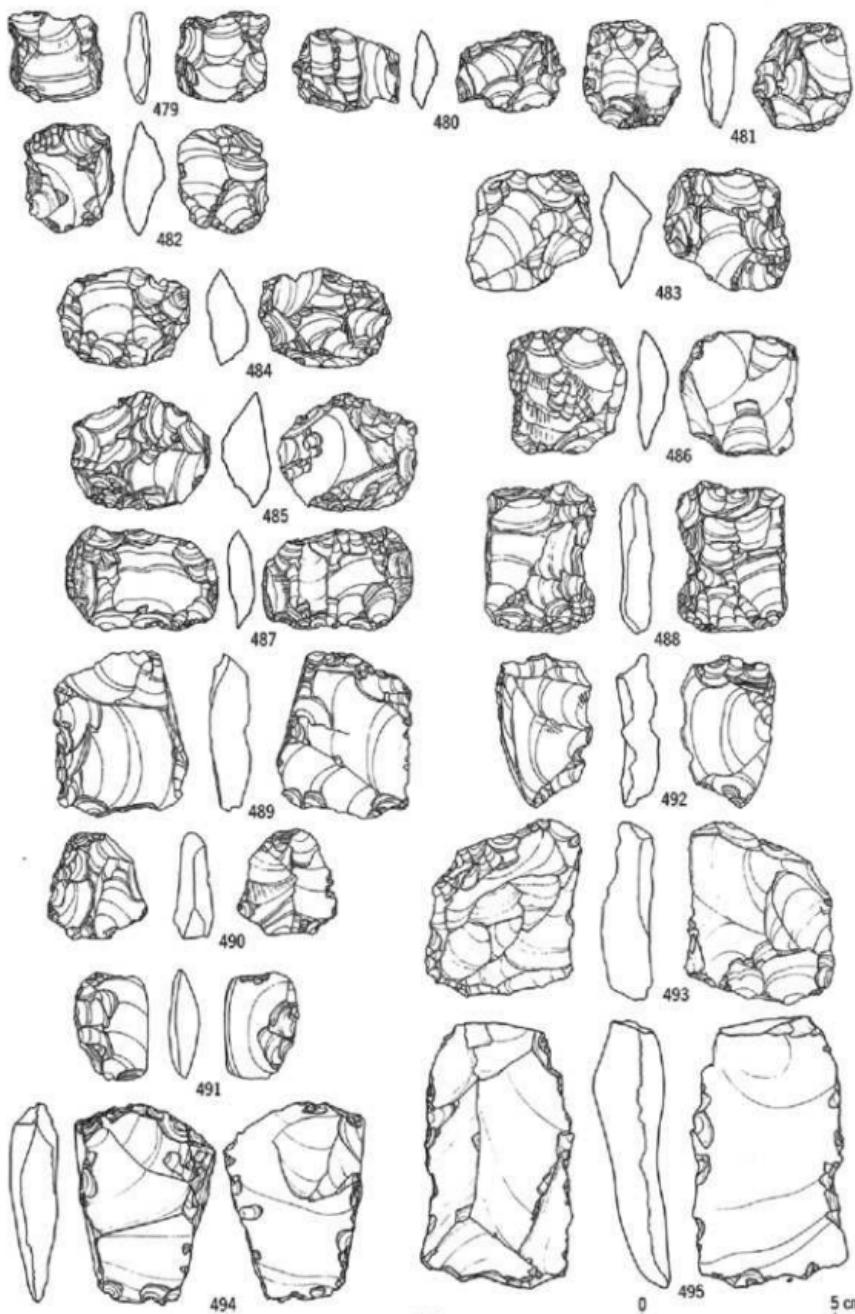
石核（第97図）

石核は17点の出土がある。すべて多方向からの剥離面で構成されており、打面を頻繁に変える剝片生産技術の存在を暗示するものと考えられる。なお、素材面を残している石器の背面の剥離面の構成を見ても、多方面からの剥離面のあるものが圧倒的に多い。これらのうちの7点を図示したが、それ以外のものを含めても、その全長は最小のもので4cm、最大のものでも7cmを越えるものはない。したがって、これらの石核から最終的に剥離された剝片は石器の素材にしかなり得ない。そういう意味で、本遺跡から出土した石核は、まさに残核と呼べるものであろう。

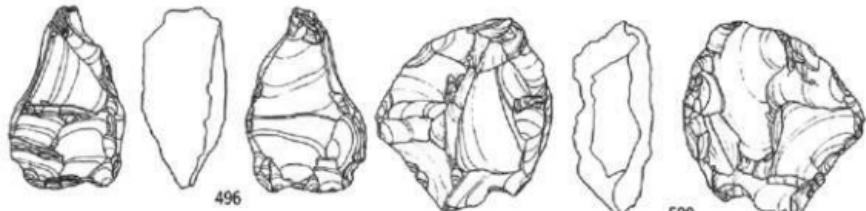
磨製石斧（第98図 図版38）

磨製石斧は折損するものを含めて6点しかない。このうち完形品は2点だけである。

505は緑泥片岩製の比較的小形の石斧である。両側縁には面取りがあり、定角式の石斧といいうことができる。刃部は両刃で丸味を帯びている。刃部幅は34.1mmで現存部分と長さは



第96図 石器実測図 (36) ピエス・エスキュー、加工痕ある削片



496

500

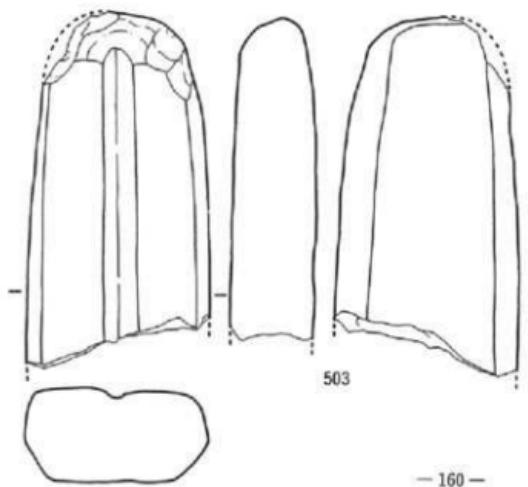
497

501

498

499

502



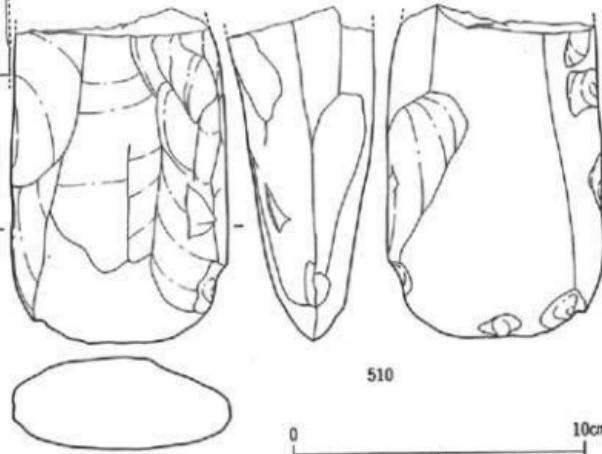
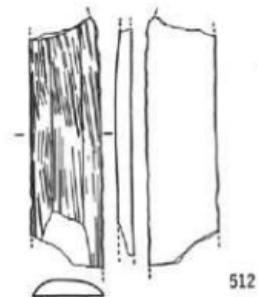
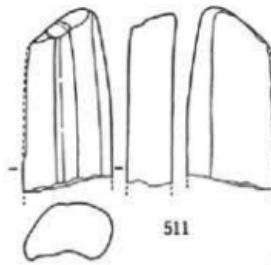
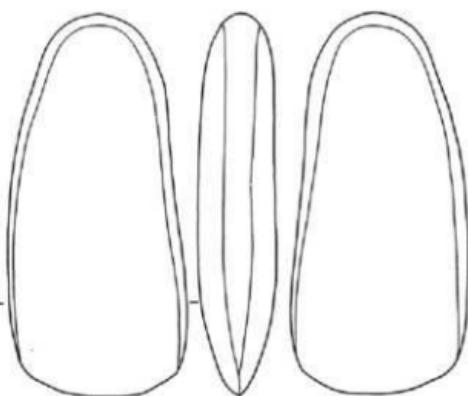
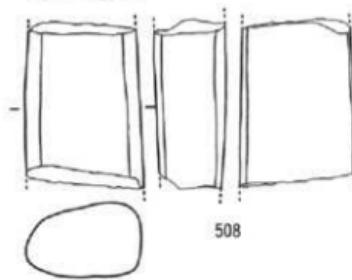
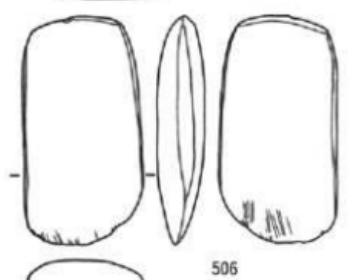
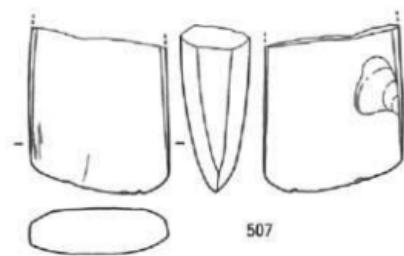
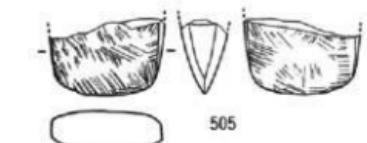
503

504

0 5 cm

— 160 —

第97図 石器実測図 (37) 石核・有溝砸石、块状砸



0 10cm

25.3mm、幅は39.6mm、厚さは16.3mm、重さ22.5gを測る。全面に製作時の研磨の際の擦痕が残っている。26-29区のII層から出土した。

506は流紋岩製の小形の石斧である。両側縁と正面との境界は丸味を帯びている。刃部は両刃で一方に偏っている。刃に直交する使用痕が観察されることから、縦斧とみることができる。全長78.7mm、最大幅41.1mm、最大厚15.8mm、重さ87gで、刃部幅40.6mmを測る。23-9区のII層から出土した。

507は砂岩製の中形の石斧である。定角式となり上半部は折損する。両刃で刃先は一方に偏っている。正面に初期整形の際の敲打痕が残っている。刃部幅は47.1mmで現存部分の長さは52.2mm、幅は48.0mm、厚さは23.8mm、重さ90gを測る。27-31区のII層から出土した。

508は砂岩製の中形の石斧である。定角式であるが両側縁の面取りはない。刃部、基部とも折損する。現存部分の長さは54.5mm、幅40.4mm、厚さ23.8mmで重さ109gを測る。25-22区のII層から出土した。

509は石英安山岩製の石斧である。両側縁は丸味を帯びており正面とも境界は不明瞭である。刃部は両刃となり緩い弧を描いている。全長130.5mm、最大幅60.9mm、最大厚27.6mm、重さ353gを測る。刃部幅は56.2mmである。27-28区のII層から出土した。

510は石英安山岩製の大形の石斧である。側縁、正面とも初期整形の敲打痕が残っているが刃部は完成されている。刃部は両刃となり側縁に近い部分は弧を描いているが、中央部は直線状をなす。現存部分の長さは109.3mm、幅73mm、厚50.5mmを測り、重さは582gとなる。21-12区の擾乱層から出土した。

有溝砥石（第97図 図版34）

いわゆる矢柄研磨器が1点出土している。目の粗い砂岩製で現存部分の長さは92.7mm、幅47.6mm、厚さは24.6mmで124gを測る。溝のある方の面は平坦で、中央部にある溝の幅は8.5mm、深さは3.1mmを測る。25-27区のII層から出土した。

凹 石（第99図 表-44）

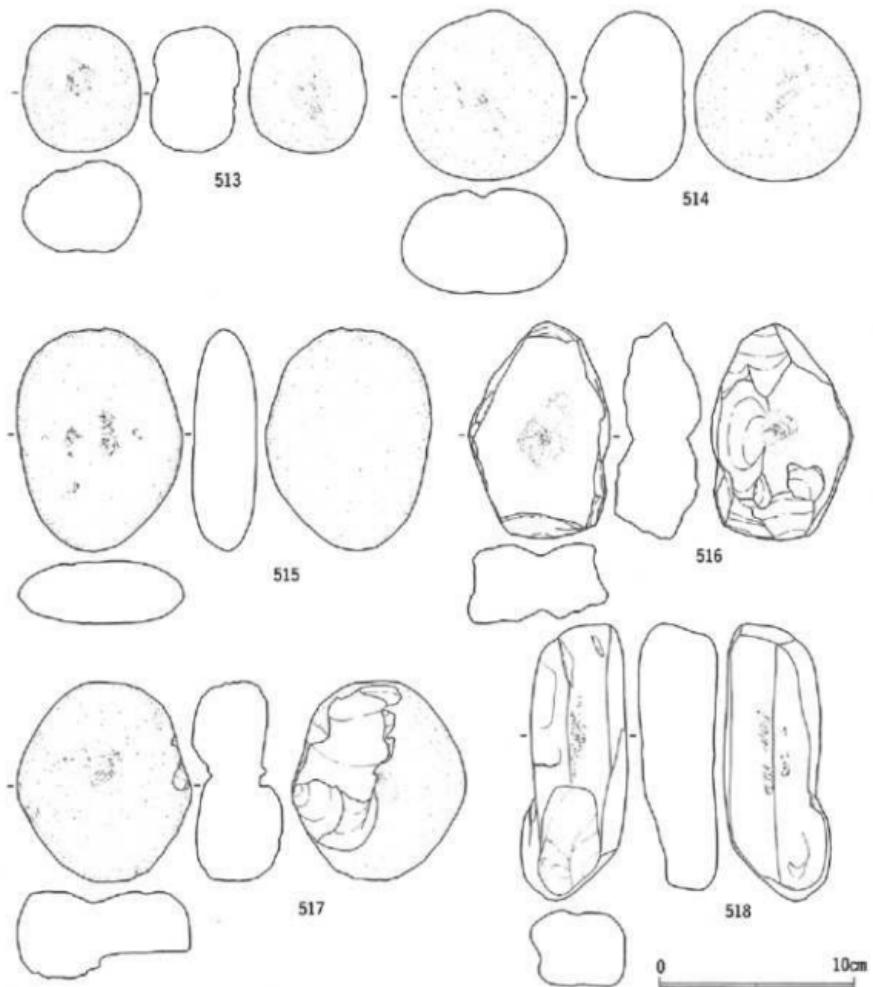
凹石は12点出土した。多孔質の河原石を素材とし、すべて磨面を合わせ持っている。

表-44 凹石計測表

No.	出土区	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	備 考	No.	出土区	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	備 考
1	23-31II	65.4	60.4	48.0	224	99-513	7	22-8II	73.5	72.1	52.4	326	
2	18-10II	86.9	85.4	54.0	438	99-514	8	24-9II	80.0	58.9	48.8	276	
3	24-30II	112.2	80.3	31.9	357	99-515	9	20-9II	(57.0)	44.2	21.2	57	
4	23-32II	110.4	72.3	40.9	339	99-516	10	19-10II	81.0	58.8	35.8	211	
5	SX3F	102.1	85.2	42.1	435	99-517	11	15-25I	94.4	52.4	42.4	294	
6	28-25II	145.9	49.6	39.5	315	99-518	12	27-22II	79.5	70.5	31.9	270	

石 製 品（第97・98図 図版）

504は滑石製の球状耳飾りである。四分の一弱の残存と思われ、推定外径35mm前後、中央



第99図 石器実測図 (39) 凹石

の孔の径は22mm前後の大ささをもつ。28—29区のII層から出土した。

512は珪化木製の棒状石製品である。一面の中央に浅い溝が観察される。折損している。現存長60.4mm、幅30.0mm、厚16.3mmで重さ48gを測る。20—33区のII層から出土した。

513は泥岩製の石刀の破片である。先端、基部側とも折損し、一面は剥落している。現存長85.8mm、幅24.0mm、厚5.7mmで重さ22gを測る。表面には製作時の擦痕が筋状に多数観察される。18—11区のII層から出土した。

VI 若干の考察

1 土 器

本遺跡出土の土器は、第V章2に示した如く縄文時代早期から中世に至る広範な内容を包括している。得られた土器の大半は磨滅の著しい小破片で、分類不能なものが多数を占める。また殆どの遺物が表土及び遺物包含層から出土したもので、包含層内では各期の遺物が混在した状況を呈し、層位的な新旧関係及び遺構内でのセット関係を検証することができなかった。しかし今回特に出土数量の多かった縄文時代早期から前期前葉にかけての時期は、年々の発掘件数増加の中にあっても断片的な報告に留まる場合が多く、その意味では今回呈示し得たものは上記のような問題をはらんでいるにしても県内における当該様相理解の一助となろう。

本項では先に分類した第1～第13群土器について、周辺各遺跡の調査成果との比較検討から、各群の土器について若干の考察を試みる。

〈第1群土器〉

a類は押型文により重層山形文、重層菱形文を描出するものであり、所謂日計式の範疇で把握することができる。得られた資料はいずれも小破片で器面の磨滅が著しい。そのため、施文の特徴は明瞭さを欠くが、原体はいずれも横位回転施文である。他の文様要素との組合せは不明であるが1、2は原体末端部分の様子が知られる資料であり、1の場合は上下の施文間隔が狭く接合部に部分的な粘土の盛り上がりを生じている。また2では上下の施文間に横走する沈線がみられる。

山形県において押型文を施文する類似の資料は、尾花沢市森岡北遺跡（大類・山口1981）、米沢市ニタ侯A（八幡原No.5）遺跡第I群（手塚・菊地1983）、尾花沢市いるかい遺跡第I群1類（阿部1983）、日向第I洞穴V類（加藤1967）が知られる程度であり、資料的に限られる。ニタ侯A遺跡例では重層菱形文と区画的な横走平行沈線文が施文され上部に無文帯を有する。またいるかい遺跡出土のものは重層山形文と重層菱形文が同一器面上に施文される。胎土中に多量の纖維を含有するが焼成、器面調整ともに良好な資料である。森岡北遺跡出土例は口唇部に刺突を有し口縁部から頸部にかけて7条の沈線を施すもの（第I類）と重層山形文内部を平行線で充填するもの（第II類）、縄文地に重層山形文を施文したもの（第III類）である。日向第I洞穴出土のものは実見する機会を逸したままであるが大類・山口（前掲）によれば「数条の条線で区画した間に、重層したV字状の連続施文が見られる。平行線状文とV字状のモチーフを組合せたものと考えられるが……（以下略）」とあり森岡北第II類土器に類似するものであるという。

b類は0段多条の単節繩文を地文とし口縁部付近に横走する平行沈繩文を多段施文するものであり、福島県竹之内遺跡5-b（馬目1982）、宮城県松田遺跡（土岐山1982）、同県座敷乱木遺跡（石器文化談話会1978）等に類例を求められる。おそらく山形県内では初出であろう。

日計式の編年的位置付けについては、岩手県蛇王洞洞穴における分層的発掘調査の結果（芹沢・林1965）、第VII層中より平板式に平行関係があるとされる薄手無文土器を伴出し、 笹津備洋氏・江坂輝弥氏（笹津1960）と佐藤達夫氏（佐藤1961）による論争に終止譜をうつこととなった。しかし日計式そのものの型式学的な変遷過程は、その初源期と終末期の問題をも含めて未だ不明な点が多いように思われる。その中で土岐山氏は前掲報文中第1号住居跡出土第II群土器のあり方から、平行線状文・重層押型文→平行線状文・重層押型文・区画内充填→沈線文の変遷を指摘した。また近年相原淳一氏（相原1982）、武田良夫氏（1982）、岡本東三氏（岡本1987）らにより日計式の細分が試みられその様相が明らかになりつつあるが、大粹の流れには共通性が認められよう。前記した山形県内出土の該期土器をこれらにあてはめて考えることは資料不足もあり軽率と思われるが、森岡北II類、日向V類土器は岡本氏の後半期にあたるものと思われ（相原氏はこれらを日計期後葉に位置付けている）、いるかいI群1類、月ノ木B1群a類はそれより古い様相をもつものとして理解されよう。また森岡北I類は3cm以上の大さな原体の使用からより新しい要素を含むともみられるが判然としない。

b類土器と押型文との関係については異論も多い。岡本氏は前掲論文中日計式前半期において「重層山形紋と重層菱形文の日計式と繩紋を施紋した土器が共伴、あるいは併用され」とし、相原氏はこれを原日計期におき「口縁部に集約した横位平行沈線を施す繩文土器群が、型式学的には所謂日計式の成立に直接的に関与したもの」と把えている。また竹之内報文中では共存関係ある中にも時間差を認めており、竹之内出土の押型文より時間的に遅る羽状繩文土器の存在を指摘している。更に加藤稔氏は森岡北遺跡出土の押型文（森岡北I式）中、綾杉文に横走する沈線の加えられるもの（前掲II類）の存在から、蛇王洞、秋田県岩井堂第四洞穴、座敷乱木III層にある斜繩文の上に横斜めの沈線による綾杉文を加えた文様帯をもつ土器群が共存するか又は新しく位置付けられる可能性を示唆している（加藤1982）。これら諸説のいう繩文施文の土器は必ずしも同一の内容を指してはいないと思われるが細かな点ではかなり混乱した状況が存在することは確かなようである。本遺跡出土例をみた場合、出土層位に問題はあるが、区画内充填文ある押型文は出土しておらず、a類と共存するかあるいは古く位置付けられるものとして大まかに捉えておく。

〈第2群土器〉

斜格子状沈線文を表微的に施文する一群である。小破片のため器形、文様構成を知り得る資料はなく、区画沈線が8、13に認められるのみである。後述する第3群との比較では、胎土は砂粒がより細かな印象を受けるが器面調整、特に裏面の調整は劣る。焼成は良好である。

県内では村山市後原、高畠町日向第IV岩陰(佐々木1971)、米沢市二タ俣A遺跡IV群a類に類似例がみられ、にひゃく寺遺跡第1群2類d(安部1985)もあるいはこの仲間かとも思われる。村山市山ノ内遺跡第I類a(加藤1982前掲)、にひゃく寺遺跡第1群1類、二タ俣A遺跡第III群とは施文の様相を異にする。また佐々木(前掲書)第153図中にみられる格子状沈線文は沈線区画内を充填するとみられ、宮城県松田遺跡、岩手県大新町遺跡(盛岡市教委1983)等に類似例が見出されるが、裏面に条痕が施文され注意を要する。山口博之氏は後原、日向第IV岩陰出土のこれらの遺物を大平式に比定されている(山口1980)。本遺跡第2群土器は竹之内遺跡8—a、b(竹之内式)の斜格子状沈線文に施文技法が酷似し(いわき市教育文化事業団の御厚意により実見の機会を得た)、今後の資料増加により細分の可能性を孕んでいるものと思われる。

〈第3群土器〉

関東の田戸下層式に併行するとみられる一群である。

a類は太く粗雑な沈線文を施文するもので、南陽市須刈田大野平遺跡(佐藤・吉野1986)第I群、二タ俣A遺跡第IV群b、c類(手塚・菊地1983前掲書)、日向洞穴第II類a、高畠町一ノ沢岩陰第I類a、高畠町ムジナ岩岩陰第I類aの一部(以上山口1980前掲書)、大石田町大畠山、同町沖ノ面、天童市かくまくば、山形市にひゃく寺第1群2類a、尾花沢市徳良湖湖底(大類誠氏の御教示による)森岡北遺跡第1類(大類1979)、西川町月山沢遺跡(佐藤1980)などに類似例がある。大野平遺跡からは略完形の深鉢一個体を得ており「口唇が急に薄くなり、口縁はゆるい波状をなす。頸部でややしまって胴部で少々張り出し、鋭角な尖り底をもつ。赤褐色で、厚さ7~8mm。文様は、器面にあらい擦痕を施し、その上に太い沈線文を施している。横、斜め方向に抉り取ったような状態、短かく切れた状態で底部近くまで器面をめぐる。」という特徴を有する。本類の特徴を把握するにおいて貴重な示唆を与えるものであろう。

これらは素山下層式に共通する一群として「大野平式」と仮称されてきたものであり(加藤・佐々木1962他)、新潟県室谷洞穴第2次発掘3層出土の尖底土器との類似性から北陸方面との関連性が論じられている(林1965他)。この手の施文のみられる土器は千葉県城ノ台貝塚(吉田1955)、福島県竹之内遺跡、同県源平C遺跡第I群第3類(日高・芳賀1980)などからも出土している。特に本群a類としたものは竹之内遺跡10-dとの関連が注目され

る。

b類は棒状工具あるいは籠状工具による鋭い沈線文を描出するものである。これらのうちb₁類、b₂類としたものは、沈線の施文技法、胎土、調整等の観点から田戸下層式期に分類したが、竹之内式の沈線施文技法に共通するところもあり、東北北半の小船渡平式との関連も考慮すれば、あるいはもっと古く位置付けるのが妥当かとも考えられる（二タ俣A遺跡報文中ではb₃類類似の土器を初期沈線文土器群として扱っている）。本遺跡では比較的出土数量に恵まれているが、周辺では二タ俣A遺跡の他日向洞穴に類例が見出される程度である。

しかしながらb類としたものの大半は本群に組入れることに問題はないと思われる。これらの意匠は高畠町日向洞穴、ムジナ岩岩陰、一ノ沢岩陰、西川町弓張平A遺跡、山形市にひやく寺遺跡、村山市山ノ内遺跡、大石田町大畑山遺跡、尾花沢市森岡北遺跡などに類例が知られる。

今回の調査では本群に属する貝殻腹縁圧痕文ある土器が比較的多量に検出されている。胎土、器面調整、沈線の施文法などは本群a、b類に共通のものである。これまで県内では貝殻腹縁圧痕文と沈線文が組み合うものを大寺式、物見台式に併行するものとして扱う場合が多かったように思われ、既存の資料に対する再検討の余地があろう。

c類は喰出皺をもった連續刺突文を施文するものであるが東北北半の白浜式との関連が想起されよう。県内での類例はにひやく寺遺跡第1群8類にみられ、また福島県では松ヶ平A遺跡（鈴鹿1983）、竹之内遺跡、宮城県吉田浜貝塚（後藤1968）などから出土している。284は縄文を施文した例である。田戸下層式に併行するとみられる土器の器面に縄文の施文されることは屢々報告されているが、本遺跡出土例の場合、条間が広く不整であり、非常に浅い施文となっていることから、1段の縄文原体の側面圧痕ともみられる。同様な縄文施文の特徴は第4群f類とした389、390にもみられる。

〈第4群土器〉

関東の田戸上層式に併行する一群である。

a類は「く」字状連續押引文、「ハ」字状短沈線文により文様構成されるもので明神裏III式に比定される。焼成、調整ともに良好であり第3群土器に近い印象を受けるものもある。特に太い沈線文を伴うa₁類はその傾向が強い。395にみられる外反しながら外傾する器形は田戸下層式の特徴を残すものともみられ、同類2・3とは時間差として細分し得る可能性をもつ。a₂類は「く」字状連續押引文とb₃類の施文要素が組み合うものである。特に405は305、309と近似した文様モチーフを有し、沈線文と「く」字状連續押引文が置換したかたちになっている。a₃類は横位隆帯を伴う例で岩手県蛇王洞洞穴VI層出土の土器（蛇王洞III

式)、尾花沢市いるかい遺跡など比較的多くの類例がみられる。

山形県内で本類と同様の施文がなされる土器を出土する遺跡には、尾花沢市いるかい遺跡、東山遺跡、鶴子中原遺跡（以上阿部1982前掲書）、同市森岡北遺跡、五十沢No16遺跡、大石田町大畠山遺跡、村山市赤石遺跡、山形市にひやく寺遺跡、南陽市須刈田大野平遺跡、高畠町日向洞穴、尼子岩陰、米沢市二タ俣A遺跡、八幡平No4遺跡（手塚・菊地1982）、などが知られており、尼子岩陰からはかなりまとまった資料が出土している。さらに八幡原No.4遺跡からは頸部からキャリバー状に開く器形をもつ深鉢が出土している。森岡北遺跡、赤石遺跡（佐藤・名和1981）からは、本遺跡では未検出であるが所謂「簾状角押紋」が施文された土器が出土しており、竹之内遺跡11-aとの類似が注目される。

b₁類は、細い半截竹管あるいは棒状工具の先端により規画性のない沈線文を描出するものである。胎土、調整などに第3群と共通する特徴も認められるが施文がかなり弱々しい印象を受ける。b₂類も沈線文を主体的に施文するものである。器面調整、焼成は他のb類土器と共に通な特徴が認められるが胎土中に雲母粒がかなり混入する。b₂類については広義の田戸上層式の範疇で把えることに差し支えはなかろうが、これまで管見には触れておらず、今後の資料増加が望まれる。

b₃類は沈線文と貝殻腹縁圧痕文を主体に文様構成されるもので東北地方北部の物見台式に比定される。物見台式土器はその命名者である江坂輝弥氏によれば（江坂1950）、アツマニシキ等の貝殻腹縁の圧痕と窓状工具による三角形、菱形、方形等の幾何学的文様を口頸部より胴部上半に施し、また三角形の頂点及び沈線上の適宜な場所に箋状工具先端部を刺突した如き刺突文による文様構成をとる。口頸部裏面に短い貝殻腹縁文の継位施文がみられるとき、器形はあまり顯著な波状口縁はみられず、口縁部が外反し、口頸部内反、胴部が再び外反した口唇部より底部へ向ってゆるやかな屈曲を示して底部に至る砲弾形尖底深鉢と屈曲のない砲弾形尖底深鉢があるとしている。また興野義一氏（興野1970）は宮城県大寺遺跡出土資料中物見台式併行とされた第2類土器aについて「沈線文に貝殻による短条痕が加わり窓文のつくもの」で窓文間を連絡する一条の沈線が回繞し沈線に沿って側面に短条痕がつく他、平行沈線文が出現し、短条痕が平行沈線間にまたがって施文される。また貝殻腹縁文は平行直線文を避けた空間に直線状に長く引かれる、口縁部裏面継位腹縁文、口縁山形突起等の特徴をあげている。以上のような特徴は本群b₃類に看取され、胎土、器面調整も大寺遺跡第2類土器に近似する。

山形県内における当該期資料には、物見台式の影響がかなり強くみられる。尾花沢市いるかい遺跡第I群6類、森岡北遺跡、大石田町大畠山遺跡、高畠町日向第IV岩陰等に好例が知られる。また村山市赤石遺跡で得られた第I群a類の略完形資料は大寺遺跡第2類土

器aの典型例であろう。また日向洞穴からは大寺遺跡第2類bの類似例が多くみられるが本遺跡では稀有である。

b_a類の山形沈線文を施文するものは大寺遺跡第3類土器中に類例がある。

c類は大寺上層式、常世I式に所属するものを一括した。貝殻腹縁による押引文、半截竹管状の工具あるいは肋のある貝殻腹縁による波状沈線文、刺突文を主に施文するものである。胎土はa、b類に比較して粗い印象を受け雲母の混入が目立つ。若干量纖維を混入するものがある。

c₁類は胎土中に若干纖維が混入する。肋のある貝殻腹縁による押引文と半截竹管状工具による波状沈線文を施文する。裏面に条痕がみられる。県内ではこの種のモチーフをもつ土器の類例は稀有であるが大寺上層式の範疇に所属するものと思われる。

c₂類は貝殻破片による押引文を主体的に施文するグループである。福島県富作遺跡（藤原・田中他1986）第I群4類Aに類似例が求められる。県内では米沢市八幡原No.24遺跡（手塚1976）に類例が知られる。本遺跡出土例では比較的沈線の使用が目立ち常世I式的色彩が強いように思われる。c₃類は貝殻腹縁による連続刺突文が施文されるもので殆どが口縁部小破片である。c₄類は肋のない貝殻腹縁文を施文するものである。いずれも県内での類例は稀有である。

c₅類は表面に地文として貝殻条痕文が施文されるものである。条痕に使用された工具は圧痕に使用されたと同様のものと思われる。竹之内遺跡報文中貝殻沈線文系土器VIとしたものとの類似性が注目される。

d類は福島県常世遺跡（芳賀1975）、富作遺跡に類例がある。胎土はc₅類に似る。

e類は貝殻腹縁圧痕文のみの資料である。施文についての詳細な検討が間に合わなかつたが、吹切沢式等との関連を考慮する必要があろう。f類は特異な意匠をもつものを一括した。いずれも第4群土器の中で理解されよう。

〈第5群土器〉

縞条体圧痕文を施文する一群であり、関東の子母口式に比定されよう。本遺跡からは図化し得たものだけで11点（他にSK2覆土より小破片1点が出土している）と少なく、またいずれも小破片のため文様構成は不明である。胎土中には雲母粒を多量に含むものが多く纖維混入は稀である。また条痕も殆どみられない。

縞条体圧痕文を施文する一群は宮城県大寺遺跡上層（大寺3式）、福島県常世遺跡（常世II式）などにあるが、山形県内では非常に稀であり、尾花沢市鶴子中原遺跡、山形市にひやく寺遺跡、同市新山A遺跡（太田・黒坂1987）、日向第I洞穴で知られる程度であり、未だ資料不足の感は否めない。子母口式の内容に関して多くの問題が指摘されており（安

孫子1982他)、今後の資料増加が望まれる。

〈第6群土器〉

微隆起線文を主な文様構成要素とする一群である。関東の野島式、宮城県の榎木下層式に併行するものと考えられる。

a類は絡条体圧痕文と微隆起線文により文様構成されるものである。口唇部に細かな絡条体による圧痕を斜方向に充填し、表面の微隆起線上に同じ絡条体による刻目が付加される。420は口唇部のみ絡条体が施文される。422には胎土中に纖維が混入されるが、他は全く認められない。福島県竹之内遺跡16—aに類似するが、本類418～421に比較すると隆線が太く意匠が単純である。また裏面条痕がかなり発達しているなどの相違点も認められる。418～421では器表面無文帶部分に浅い条線が認められるが、これは竹之内例同様絡条体を工具としたものと思われる。424の器表面も同様である。口唇部の施文方法に違いはあるが、竹之内例にはむしろa₂類の方が近い印象を受ける。絡条体の使用を考えても第6群土器中では古手のものとみてよかろう。県内ではおそらく初出と思われる。

b₁類は453を除けばいずれも口縁部資料である。425は4本、427は2本の横走する平行微隆起線を口縁部に施文し以下は無文あるいは浅い条痕文が施される程度の単純な文様構成を示すものである。b₂類も同様に単純な文様構成をとると思われるが纖維を多量に混入している。

c₁類は微隆起線による区画文、充填文を施文するものでかなり装飾的である。県内では高畠町日向第I洞穴、ムジナ岩岩陰、大石田町大畑山遺跡、尾花沢市森岡北遺跡、いるかい遺跡から出土している。胎土、焼成、器面調整とともにいるかい遺跡例に近似するが、区画文の幅が広く条痕文はいるかい例ほど発達しないなどの相違点も認められ、文様構成ではムジナ岩岩陰に近いと思われる。c₂類は斜走する微隆起線を軸として条痕文を矢羽根状に施文する特異なモチーフを有する。条痕文は微隆起線文施文前に施され右傾するものはかなり浅く施文されている。裏面にはやや粗い条痕文が横→縦の順で格子状施文される。条痕文が文様要素として意匠化された稀有な例とみられる。

d₁類は微隆起線文と沈線文が組み合うものである。口縁部をわずかに欠損するが、縱走する微隆起線を中心に細く鋭い多段沈線を矩形に配したモチーフをもつと思われる。胴部下半は微隆起線区画以下に縄文を施文する。表裏面の条痕は比較的まばらである。胎土中に纖維を多量に含む。胎土、焼成の状況は第7群a類に近いが、胴部下半の縄文施文はあるいは素山上層式以後の縄文条痕文土器の発達に示唆を与えるものであろうか。現段階では資料不足のため結論は保留せざるを得ない。d₂類も同様に微隆起線文と沈線文の組み合う例であるが、器面が荒れているため詳細は不明である。第7群c₂に類似点もあるが、沈線が

が細く胎土中に纖維を含まないことから第6群土器として取り扱った。

〈第7群土器〉

器表裏面に条痕文を施文する鶴ガ島台式併行期以降を一括した。

a類は円形竹管刺突文を表微的に施文し、沈線文、隆起線文等と組み合って文様構成されるものである。関東地方の鶴ガ島台式に比定される。鶴ガ島台式が強い齊一性をもって東北南部に分布していることは以前から指摘されるところであり(林1965前掲書)、鶴ガ島台式の特徴とされる隆起線、沈線、刺突の併用による独自のデザイン、細隆起線の交差したところを起点に一定間隔に竹管を押圧する(岡本1961)という手法及び意匠は本類にも多くの共通点が見い出せる。村山市三ヶノ瀬遺跡、土生田遺跡、尾花沢市いりかい遺跡、森岡北遺跡、山形市にひやく寺遺跡、南陽市須刈田大野平遺跡、高畠町日向洞穴遺跡から同様の資料が得られている。

b₁類は口縁部の筒状突起とみられるが隆起線の発達、円形竹管の使用等から鶴ガ島台式に併行するものと思われる。

b₂類は連続刺突文と沈線文により文様構成されるものである。495は沈線区画内を刺突文により充填する鶴ガ島台式的なモチーフをもつが、494とともに三ヶノ瀬I式(加藤1982前掲書)の特徴にも類似する。c類の内容も三ヶノ瀬I式に類似するがc₁類は細い沈線による区画文を有するものであり意匠はa₂類に近いと考えられる。c₂～c₅類は三ヶノ瀬I式に類するものであろう。

d類は頸部に連続刺突文が浅い横位隆帶上あるいは沈線区画を伴って巡らされ、他は表裏面に条痕文が施文される。装飾性に乏しくその他の施文は口唇部に刻目文が認められる程度である。三ヶノ瀬II式、櫻木貝塚上層、素山貝塚上層の一部に類似例が認められる。また関東の茅山上層式(赤星・岡本1957)にも類例があり、ほぼ該期に併行するとみて差し支えないものと考えられる。

e類は表裏条痕地文上に平坦な面をもつ植物の茎葉の圧痕が施文されるものであるが、現在のところ出自は不明である。

f類は条痕地文上に沈線の施文される一群であるがいずれも小破片のためモチーフの明確なものはない。相当な時間幅をもつことが想像されるが、茅山下層式～茅山上層式期の範疇で理解されるものであろう。g類にも同様のことがいえるが八幡原No33(細原)遺跡から口唇部に刻目文のみ施文された略完形の資料が得られている(秦1975)。底部は尖底となるらしい。

〈第8群土器〉

条痕文のみ施文されたものである。出土点数は多いが器面の状態が悪く図化できないも

のが多かった。本群で注意しなければならないのは胎土中に纖維を含有しない条痕無文がかなりの数存在することである。焼成、裏面の調整、胎土、色調の傾向等が第3群土器に近似する。興野氏（興野1970前掲書）は大寺遺跡最下層下部から出土した第1類土器について三戸式に併行するものとしているが、胎土、裏面の調整等はかなり近似した印象を受ける。ただし条痕は大寺遺跡例のように粗いものではない。本遺跡例は田戸下層式に併行するものと私考するが他の文様が施文されるもので同様の条痕文を伴った例がなく確言できない。なお649は口縁部まで条痕文の施文されたものであるが、条痕文が胸部下半だけではなく器面全体に及ぶ可能性を示唆するものであろう。

表裏面ともに条痕文が施文されるものは個体による差はあっても纖維を含有する場合が殆どである。668の如く第4群c類に伴うものもあるが、大方は第5群から第7群に伴うものとみられる。

条痕施文に使用された工具の詳細な観察は未だ行なっていないが所謂サルボウ等の貝殻腹縁を使用していないと思われるものがかなりの数見受けられる。今後の検討課題である。

〈第9群土器〉

無文土器を一括した。胎土中に雲母を若干量含むものが多く、焼成、器面調整の観点からも第4群あるいは第5群土器に伴うものが大半と思われる。現段階では尼子岩陰や一ノ沢岩陰に比肩し得るような資料は抽出されていない。

〈第10群土器〉

縄文条痕文の施文された一群である。装飾性に乏しく地文以外の施文が認められたのは3点のみである。a₁類は口唇部に刻目を有するもの。a₂類は頸部に隆起による区画をもち半截竹管沈線文による口縁部文様帯を形成するらしい。a₃類は沈線の施された胸部破片である。林氏によれば東北地方における縄文条痕文の出現期を素山IIb式期に求め、以後上川名I式—梨木畠式—船入島下層式の編年序列を示した（林1965前掲書）。また加藤稔氏は三カノ瀬I式の文様帶の施文に斜行縄文の施文されたものが伴う可能性を示唆している（加藤1982前掲書）。近年相原淳一氏は陸前を中心とする当該期資料を再検討し関東の茅山上層式から花積下層式直前の間にI～IV期の変遷過程を示されている（相原1985）。

山形県内ではこれまで大石田町玉ノ木平B遺跡（小向1973）、三カノ瀬遺跡、温海町大瀬台遺跡（佐藤1981）、遊佐町金俣B遺跡等からまとまって出土している。大瀬台遺跡には横走沈線の区画内に矢羽根状沈線を配する口縁部文様帯をもつものが出土しており、早稻田V類との関連が注目される。本遺跡出土例は器形の判然とするものがなく、全体の文様構成も不明であることからここでは大きく茅山上層式から花積下層式期の範疇でとらえておく。b類は福島県松ヶ平A遺跡に類似例が認められるが詳細は不明である。

〈第11群土器〉

器表裏面に縄文あるいは撚糸文を施文するものである。第10群土器のある時期に判出するものと思われる。林氏前掲によれば表裏縄文の出現する時期は上川名I式期であり、次の梨木畠式に盛行し船入島下層式には伴わないらしい。一方相原氏は第II期、第IV期に表裏縄文の存在をあげている。いずれにせよ茅山上層式以降の時期に伴うものと考えられる。

本県では尾花沢市森岡北遺跡、大石田町庚申町遺跡(保角1973)、玉ノ木平G遺跡、金俣B遺跡、大淵台遺跡などに類例がみられる。

〈第12群土器〉

縄文時代早期末葉に属する撚糸文のみ施文された一群である。胎土焼成などは第11群中の撚糸文施文の土器に類似する。裏面の調整は粗雑で凹凸が激しい。

〈第13群土器〉

縄文時代前期前葉上川名II式期から大木3式期までのものを一括する。

a類は口縁部に縄文原体側面圧痕文、単沈線文等により文様構成される。上川名II式に併行する内容をもつ。県内では、大石田町庚申町遺跡(中嶋1976)、米沢市松原遺跡(秦1977)、八幡原No.26遺跡(手塚1975)、高畠町大峯原遺跡、尼子第1洞穴、南陽市須刈田大野平遺跡などから出土している。

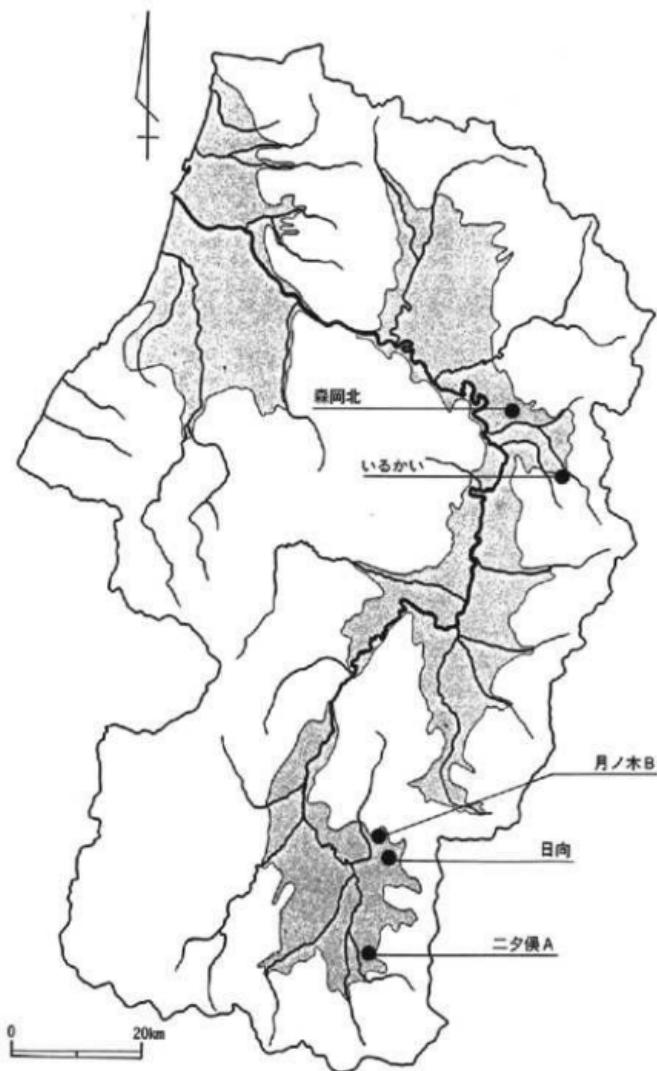
b類は小国町墓窪遺跡(佐藤1982)、飯豊町野山遺跡(林1962)、米沢市松原遺跡、温海町木ノ俣遺跡などに類似例がみられる。関東の二ツ木式、宮城の桂島式に併行するとみられる。

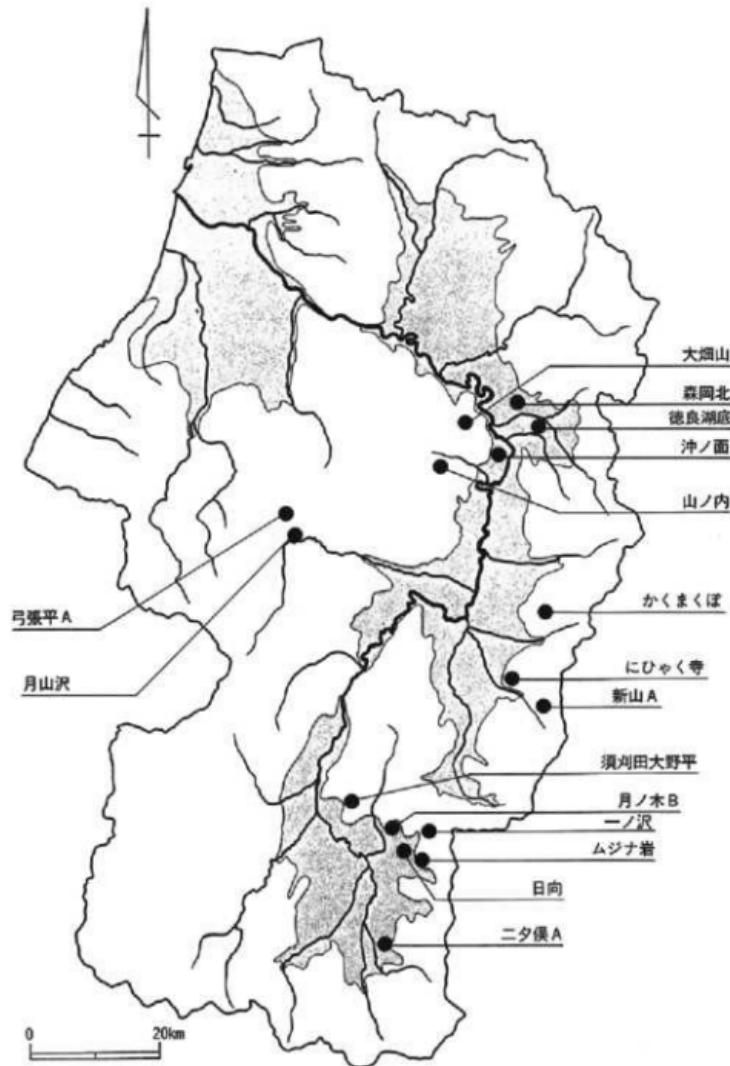
c類はループ文が施文されるものである。ループ文の施文は縄文時代早期末葉には既に認められている(麻生・荒井他1978)。しかし県内では未だその例は指摘されていない。本類も胎土中の纖維の含有が少ないので気にかかるが上川名II式から大木2a式の範囲でとらえられるものと考えられる。

d類は現在まで県内では出土例が少なく東根市小林A遺跡(保角1975)第II群、山形市大森A遺跡・村山市櫛山遺跡に類似例が求められる程度である。本遺跡出土のものの器形は胴膨らみで頸部でくびれ、口縁に向って内弯しながら外傾する器形と、頸部であまりくびれず胴部下半が外反しながら外傾する二種がある。いずれも大ぶりな波状縁である。胴部にはS字状連鎖撚糸文(阿部1986)の他縄文の施文もみられる。大木2b式期に比定される。

e類は半截竹管による押引文、沈線文を施文するものである。大木2b~3式期に比定しえると思われるが、938、947等は諸磯a式との関連を考慮する必要があろう。

f類は沈線文、刺突文が施文されるもので焼成がもともと不良ぎみなのに加えて二次的





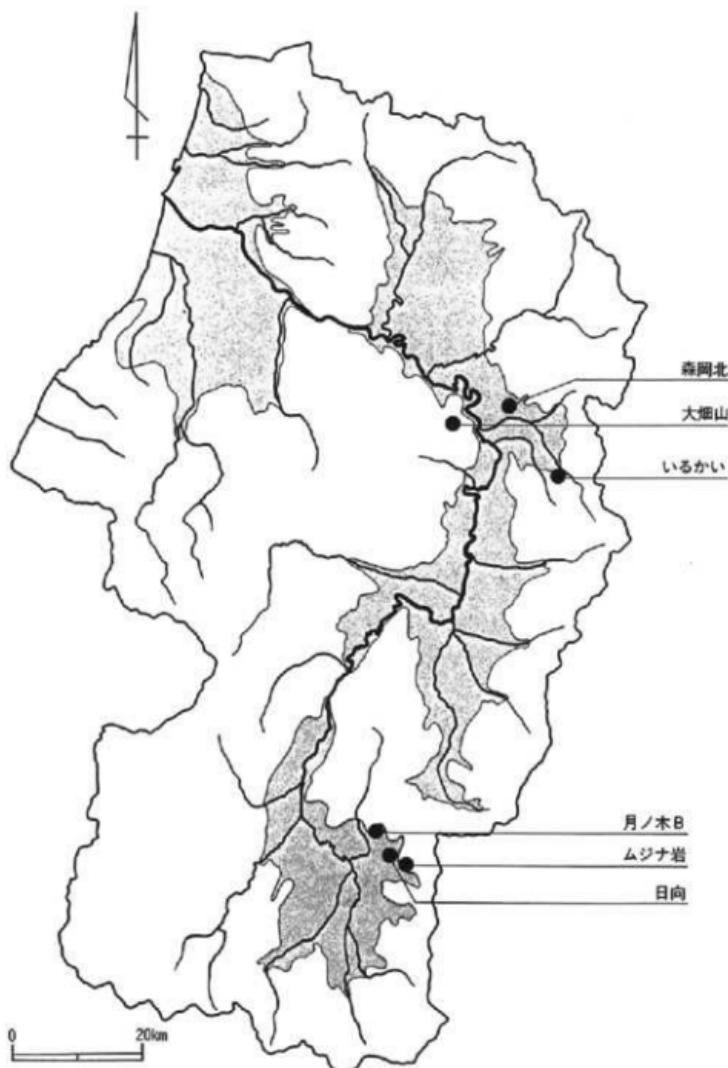


表-45 縄文時代早期土器編年対比表

加 藤 (1982)					月ノ木 B 遺跡		
南 関 東	宮 城	青 森	山形盆地北半 (含尾花沢盆地)				
吉井上層	船入島下層	長七谷地	早稻田 V	玉ノ木平 B	第 11 群		第 12 群
					第 10 群		
茅山上層	素山上層	ムシリ II	三カノ瀬 II	第 7 群 d	第 7 群 f・g	第	8
		赤御堂					
茅山下層	館木上層	館前	三カノ瀬 I	第 7 群 c ₂ ~5	第 7 群 b ₂	群	9
			土生田	第 7 群 a・b ₁	第 7 群 c ₁		
野 島	楓木下層	ムシリ I	大畑山 III	第 6 群 b・c	第 6 群 a	第	群
子母口	大寺上層		細野 II	第 5 群	第 6 群 a		
田戸上層 2		吹切沢	山ノ内 III	第 4 群 c			
田戸上層 1	大寺下層	物見台	赤石 II	第 4 群 b ₃		群	9
	明神裏 III		細野 I	第 4 群 a			
田戸下層	素山下層		赤石 I	第 3 群			
三 戸	(+)	白浜	後原	第 2 群			
		日計	森岡北 I	第 1 群			
平 坂	(+)						

な加熱をかなり受けており、器面が著しく荒れている。大木2a～2b式期に所属するものと思われるが詳細は不明である。

2 石 器

本遺跡から出土した石器時代の土器は、縄文時代早期の日計型押型文土器から弥生時代後期の天王山式まで、従来の土器型式で言えば実に30型式を数える。この中でも出土量という観点から見れば、縄文時代早期の田戸下層、上層、野島、鶴ヶ島台、茅山下層、上層、上川名I式、それに前期の大木1、2b式、中期の大木9式が目立っている。前述したように厚い堆積層をもつ調査区北部で、これらを層位的に分離することが可能であるとの予測をもって調査を進めたが、層位の逆転現象が認められたことにより、石器を時期別に抽出することは不可能となった。これにより、本遺跡の石器は上記30型式のいずれかの時期の所産という、きわめて長いタイムスケールの中で考えざるを得ないことになり、一括性という観点に立てばその資料的価値は低いと言わざるを得ない。状況的属性を根拠として時期を推定できるものはSK1の石鎌(152)と、SK2の石鎌(40、183)、石錐(234)の4点だけである。SK1からは田戸下層式、SK2からは子母口式の土器が出土している。これ以外のものについては石器自身のもつ内包的属性により時期別に分ける以外に方法はないが、現段階では153、154のアメリカ型石鎌が弥生時代の桜井式もしくは天王山式に伴うものであることはほぼ疑いないが、他のものについては確定させる根拠をもたない。将来の課題としたい。

さて、本遺跡の石器は時期別に分離することは不可能であったが、遺跡に残された石器は、その遺跡における生産行為を反映するものと考えられる。この観点で本遺跡の石器群を見ると以下のような事実を指摘できる。

石器群は総数16,387点で、そのうちの約85.8%にあたる14,054点が剝片、碎片であることは、本遺跡において盛んに打製石器の製作が行なわれたことを示している。いわゆるtool 2,333点のうち、加工痕ある剝片と石製品を除くと1,217点となるが、これらを打製石器、磨製石器、礫石器に区分した場合、それぞれ1,198点、6点、13点となり、石器のうち98.4%が打製石器でその比率はきわめて高い。礫石器がほとんど認められないことは、本遺跡において植物質食料の調理に関わる作業がほとんど行なわれなかつたことを暗示する。このことは、縄文時代の食料の多くが食物質のものであったと考えられていることと矛盾し、本遺跡が各時代を通じて定住的な集落ではなかった可能性が高い。打製石器の内訳をみると、その39%は石鎌であり、その比率はきわめて高い。次いで、木や骨に対する工具や皮なめしなどの機能が考えられる石対と、同じく工具や動植物の切裁具と考えられる削器がそれぞれ約20%を占め、この三器種で全体のほぼ8割となる。全体的にみて、動物に対す

る直接、間接生産用具の比率が高く、とりわけ石器が多いことから本遺跡が白竜湖に飛来する鳥類の狩猟に係わる遺跡だったのではないかと推定することが可能であろう。

3 調査のまとめ

国道13号線南陽バイパス建設工事に伴う昭和62年度の月ノ木B遺跡の緊急発掘調査の結果を要約するとつぎのようになる。

- 1) 月ノ木B遺跡は山形県南陽市大字北町字月ノ木前2462の1番地他に所在し、白竜湖に南面する標高213~220mの山麓斜面上に立地する。遺跡面積は約3,000m²で、今回の発掘調査では路線にかかる部分1,103.4m²について発掘調査を行い、縄文時代早期から鎌倉時代にかけての遺構、遺物が発見された。
- 2) 縄文時代の遺構は土壙2基、溝跡1基で、その他性格不明の落ち込みが2箇所から検出された。しかし竪穴住居跡、炉跡は検出されず、遺物包含層もその堆積が不安定なことから、遺物の大半は上方からの流れ込みと考えられる。
- 3) 出土した土器は、縄文時代早期日計型押型文土器を最古として古墳時代まで31型式以上を数えるが、中でも早期中葉田戸下層式から前期前葉大木2b式の間は出土量も豊富であり、高い継続性が認められた。その後は断続的となり、特に前期の大木4、5式、後期の大半の土器は出土せず、古墳時代前期以降は更に散発的な出土となる。これら土器型式の消長と大谷地の自然景観との因果関係を探ることが今後の課題となる。
- 4) 石器では、白竜湖・大谷地での狩猟を物語るかのように石器が多数出土し、また獲物の解体や、木や骨に対する工具や皮なめしに使用されたとも考えられる石籠、搔、削器も多く、更に二次的な加工を受けた剥片の出土量も多い。反面、磨石、凹石、石皿など植物質食料の調理用の石器が極端に少ないなど、器種毎の数量比にばらつきがみられた。石器も土器同様その分布に何らの傾向も認められず、各々がどの時期の土器に判出するかを知ることはできなかった。

参考・引用文献

- 相原淳一 (1982) : 「概説日計式土器群の成立と解体」 「赤い本」 1 PP1~15
- 相原淳一 (1985) : 「縄文条痕土器群の諸段階について」 「赤い本」 2 PP23~45
- 赤星直忠 (1948) : 「神奈川県野島貝塚」 「考古学集刊」 1 PP8~21
- 赤星直忠・岡本 勇 (1957) : 「茅山貝塚」 「横須賀市立博物館研究報告」 1
- 赤星直忠 (1962) : 「横須賀市吉井城山第1貝塚調査概報 (1)」 「横須賀市立博物館研究報告」 6 PP1~22
- 安孫子昭二 (1982) : 「子母口式土器の再検討」 「東京考古」 PP1~49
- 阿部明彦 (1980) : 「弓張平A遺跡発掘調査報告書」 山形県西村山郡西川町垣堀文化財調査報告書第1集
- 阿部明彦 (1983) : 「いるかい遺跡発掘調査報告書」 山形県埋蔵文化財調査報告書第69集
- 阿部明彦 (1986) : 「大木2b式におけるS字状連鎖撚糸文の原体復元」 「山形考古」 4-1 PP54~62
- 安部 実 (1985) : 「にひゃく寺遺跡発掘調査報告書」 山形県埋蔵文化財調査報告書第92集
- 石岡雄志 (1974) : 「東北地方早期繩文時代土器型式編年に関して」 「遮光器」 8
- 伊東信雄 (1940) : 「宮城県遠田郡不動堂村紫山貝塚調査報告書」
- 江坂輝弥 (1950) : 「青森県下北郡東通村、尻屋、物見台遺跡の調査報告」 「考古学雑誌」 36-4 PP39~46
- 江坂輝弥 (1957) : 「ムシリI式土器について」 「先史時代」 5 PP1~4
- 太田 優・黒坂雅人 (1987) : 「新山A遺跡発掘調査報告書」 山形県埋蔵文化財調査報告書第109集
- 大類 駿 (1979) : 「森岡北遺跡発掘調査概報」 「さあべい」 3-2 PP1~16
- 大類 駿・山口博之 (1980) : 「山形県尾花沢市森岡遺跡出土の回転押型文土器について」 「さあべい」 3-3 PP34~38
- 岡本 勇 (1953) : 「相模・平板貝塚」 「駿台史学」 3
- 岡本 勇 (1961) : 「三浦鷲が島台遺跡」 「横須賀市立博物館研究報告書」 5 PP1~15
- 岡本 勇 (1962) : 「横須賀市吉井城山第1貝塚の土器 (1)」 「横須賀市立博物館研究報告書」 6 PP23~44
- 岡本 勇・戸沢充則 (1965) : 「II縄文文化の発展と地域性 3関東」 「日本の考古学II縄文時代」 河出書房 PP97~107
- 岡本東三 (1987) : 「押型文土器」 「季刊考古学」 21 PP33~39
- 柏倉亮吉・加藤 稔 (1967) : 「4山形県下の洞穴遺跡」 「日本の洞穴遺跡」 PP51~65
- 柏倉亮吉 (1969) : 「山形県史資料篇11 考古資料」 山形県
- 加藤 孝 (1961) : 「宮城県上川名貝塚の研究」 「宮城学院女子大学論文集」 1 PP183~199
- 加藤 稔・佐々木洋治 (1962) : 「山形県一ノ沢岩陰遺跡」 「上代文化」 第31・32 PP37~47
- 加藤 稔 (1967) : 「山形県日向洞穴における縄文時代初頭の文化」 「山形県の考古と歴史」 PP27~47
- 加藤 稔 (1982) : 「第二章縄文時代早期」 「村山市史別巻1原始古代編」 PP128~228
- 川崎利夫・保角里志他 (1975) : 「小林遺跡-縄文前期遺跡と平安時代集落跡-」 東松市教育委員会
- 菊地政信・金子正廣 (1988) : 「矢子大日向一発掘調査報告書」 米沢市埋蔵文化財調査報告書第22集
- 北林八洲晴・杉山 武他 (1976) : 「千歳遺跡 (13) 発掘調査報告書」 青森県埋蔵文化財報告書第27集
- 興野義一 (1967) : 「大木式土器理解のために (I)」 「考古学ジャーナル」 13 PP16~18
- 興野義一 (1968) : 「大木式土器理解のために (II)」 「考古学ジャーナル」 16 PP22~25
- 興野義一 (1968) : 「大木式土器理解のために (III)」 「考古学ジャーナル」 18 PP8~10
- 興野義一 (1969) : 「宮城県大穴遺跡の早期縄文土器について」 「北海道考古学」 5 PP7~14
- 興野義一 (1970) : 「宮城県大寺遺跡出土の早期縄文土器」 「古代文化」 22-11 PP239~242
- 後藤勝彦 (1968) : 「宮城県七ヶ浜町吉田浜貝塚 (I)」 「仙台湾周辺の考古学研究」 PP1~20
- 小向裕明 (1973) : 「玉ノ木平B遺跡」 「さあべい」 2-1 PP1~5
- 佐々木洋治 (1971) : 「高畠町史別巻考古資料編」

- 筆津健洋 (1960) : 「八戸市日計遺跡」『史学』33-1 PP71~83
- 佐藤龍雄・吉野一郎 (1986) : 「南陽市須刈田大野平遺跡第2次調査報告書」 山形県南陽市埋蔵文化財調査報告書第2集
- 佐藤庄一・尾形興典 (1979) : 「山形西高畠内遺跡発掘調査報告書」 山形県埋蔵文化財調査報告書第17集
- 佐藤庄一・名和達朗 (1981) : 「赤石遺跡北原遺跡発掘調査報告書」 山形県埋蔵文化財調査報告書第35集
- 佐藤達夫・渡辺景庸 (1958) : 「青森県上北郡出土の早期縄文土器」 『考古学雑誌』43-3 PP74~78
- 佐藤達夫 (1961) : 「青森県上北郡出土の早期縄文土器(追加)」 『考古学雑誌』46-4 PP42~43
- 佐藤正俊・大槻 誠 (1980) : 「月山沢遺跡」 山形県埋蔵文化財調査報告書第29集
- 佐藤正俊・名和達朗 (1982) : 「喜富遺跡発掘調査報告書」 山形県埋蔵文化財調査報告書第58集
- 佐藤正俊・長橋 至 (1983) : 「原の内A遺跡第2次発掘調査報告書」 山形県埋蔵文化財調査報告書第71集
- 佐藤慎宏・佐藤鎮雄 (1972) : 「神矢田遺跡」 山形県佐町教育委員会
- 渋谷孝雄・佐藤正俊 (1981) : 「大淵台遺跡発掘調査報告書」 山形県埋蔵文化財調査報告書第42集
- 渋谷孝雄 (1984) : 「境田C・D遺跡発掘調査報告書」 山形県埋蔵文化財調査報告書76集
- 渋谷孝雄・黒板雅人 (1988) : 「次浦遺跡第3・4次緊急発掘調査報告書」 山形県埋蔵文化財調査報告書第120集
- 鉢鹿良一他 (1983) : 「真野ダム開通遺跡発掘調査報告書IV」 福島県文化財調査報告書118集
- 鉢鹿良一他 (1984) : 「真野ダム開通遺跡発掘調査報告書VI」 福島県文化財調査報告書129集
- 瀬川裕市郎 (1982) : 「条痕文土器」 『縄文文化の研究3 縄文土器I』 PP121~134
- 関野哲夫 (1980) : 「縄文鳥台式土器細分への観察」 『古代探査』 PP17~36
- 関野哲夫 (1986) : 「茅山下層式土器について」
- 芹沢長介・林 謙作 (1965) : 「岩手県蛇王洞穴」 石器時代7 PP1~15
- 高橋 誠 (1986) : 「貝殻・沈線文系土器」 『季刊考古学』17 PP22~25
- 高橋 誠 (1987) : 「貝殻・沈線文系土器」 『季刊考古学』21 PP28~32
- 竹島国基 (1958) : 「福島県双葉郡大平遺跡略報」 『石器時代』5 PP15~18
- 武田良夫 (1982) : 「岩手県における押型文土器文化の様相」 『赤い本』1 PP16~36
- 手塚 孝 (1980) : 「米沢市八幡原中核工業団地造成予定地内埋蔵文化財調査報告書第1集」 米沢市教育委員会
- 手塚 孝 (1981) : 「米沢市八幡原中核工業団地造成予定地内埋蔵文化財調査報告書第2集」 米沢市教育委員会
- 手塚 孝・菊地政信 (1982) : 「米沢市万世町桑山団地造成地内埋蔵文化財調査報告第1集」 米沢市埋蔵文化財調査報告書第6集
- 手塚 孝・菊地政信 (1983) : 「米沢市万世町桑山団地造成地内埋蔵文化財調査報告第II集」 米沢市埋蔵文化財調査報告書第8集
- 土岐山武 (1982) : 「仙南・仙塩・広城水道関係遺跡調査報告書II」 宮城県文化財調査報告書第88集
- 中馬 寛 (1976) : 「大石田町庚甲町遺跡について」 『山大史学』5
- 中村季三郎 (1964) : 「縄文早期 宝谷洞窟」 長岡市立科学博物館研究調査報告書第6冊
- 中村五郎 (1983) : 「東北地方南部の縄文早期後半の土器編年試論」 『福島考古』24 PP131~140
- 名久井文明 (1974) : 「北日本縄文早中期編年に関する一試考」 『考古学雑誌』 PP1~26
- 名久井文明 (1982) : 「貝殻文尖器土器」 『縄文文化の研究3 縄文土器I』 PP85~95
- 名和達朗他 (1983) : 「分布調査報告書(10)」 山形県埋蔵文化財調査報告書74集
- 名和達朗他 (1987) : 「分布調査報告書(14)」 山形県埋蔵文化財調査報告書110集
- 西川博考 (1980) : 「三戸式土器の研究」 『古代探査』 PP1~16
- 西村正衛他 (1955) : 「千葉県西之城貝塚」 『石器時代』2 PP1~20
- 二本柳正一・角鹿慎三・佐藤達夫 (1957) : 「青森県上北郡早稻田貝塚」 『考古学雑誌』43-2 PP35~58

- 芳賀英一 (1975) : 「常世遺跡の早期繩文土器について」 『遺光器』 9 PP 9~19
- 芳賀英一 (1977) : 「常世遺跡出土の早期繩文土器をめぐる 2・3 の問題点」 『福島考古』 18 PP 21~35
- 横爪 健・秦 昭繁 (1977) : 「松原」 置賜考古学会編
- 林 謙作 (1960) : 「宮城県桂島貝塚出土の前期繩文式土器群」 『考古学雑誌』 46-3 PP 20~32
- 林 謙作 (1962) : 「山形県野山遺跡の土器」 『考古学雑誌』 47-4 PP 68~70
- 林 謙作 (1962) : 「東北地方早期繩文式文化の展望」 『考古学研究』 9-2 PP 20~31
- 林 謙作 (1964) : 「事実誤認と見解の相違」 『考古学研究』 11-2 PP 8~11
- 林 謙作 (1965) : 「II 繩文文化の発展と地域性 2 東北」 『日本の考古学 II 繩文時代』 PP 64~70 河北書房
- 日高 努・芳賀英一 (1980) : 「国営総合農地開発事業 母畠地区遺跡発掘調査報告書IV」 福島県文化財調査報告書84集
- 藤谷 誠・芳賀英一 (1986) : 「面當会沖農業水利事業関連遺跡調査報告書IV」 福島県文化財調査報告書164集
- 藤原紀敏・田中 敏也 (1986) : 「富作遺跡発掘調査概報」 福島県立博物館調査報告第13集
- 保角里志 (1973) : 「山形県大石田町庚平町遺跡の繩文土器について」 『山形考古』 2-2 PP 19~28
- 馬目順一・原川雄二他 (1975) : 「大畑貝塚調査報告」 福島県いわき市教育委員会
- 馬目順一・吉田生彦 (1982) : 「竹之内遺跡」 いわき市埋蔵文化財調査報告第8冊
- 三浦圭介他 (1985) : 「荒場遺跡発掘調査報告書」 青森県埋蔵文化財調査報告書第93集
- 三宅徹也・白鳥文雄他 (1984) : 「表館遺跡」 青森県埋蔵文化財調査報告書第91集
- 山口博之 (1980) : 「山形県内の早期中葉の土器群について」 『弓張平A 遺跡発掘調査報告書』
- 八木光剛・千田和文他 (1983) : 「大館遺跡群 大新町遺跡 昭和57年度発掘調査概報」 盛岡市教育委員会
- 山形県教育委員会 (1983) : 「分布調査報告書(10)」 山形県埋蔵文化財調査報告書第74集
- 山形県教育委員会 (1985a) : 「分布調査報告書(12)」 山形県埋蔵文化財調査報告書第94集
- 山形県教育委員会 (1985b) : 「押出遺跡第1次調査説明資料」
- 山形県教育委員会 (1986a) : 「分布調査報告書(13)」 山形県埋蔵文化財調査報告書第96集
- 山形県教育委員会 (1986b) : 「押出遺跡第2次調査説明資料」
- 山形県教育委員会 (1987) : 「押出遺跡第3次調査説明資料」
- 山内清男 (1929) : 「関東北に於ける繩維土器」 『史前学雑誌』 1-2
- 山内清男 (1930) : 「繩維土器に就いて追加第二」 『史前学雑誌』 2-1
- 山内清男 (1930) : 「繩維土器に就いて追加第三」 『史前学雑誌』 2-3
- 山内清男 (1979) : 「日本先史土器の繩紋」 先史考古学会
- 吉崎昌一 (1965) : 「II 繩文文化の発展と地域性 1 北海道」 『日本の考古学 II 繩文時代』 河出書房 PP 30~41
- 吉田 格 (1955) : 「千葉県城ノ台貝塚」 『石器時代』 1 PP 1~14

図 版



遺跡遠景（北東から）



遺跡近景（北から）



20-8・9区ベルト土層断面（東から）



20-25-20-25区調査風景（南東から）



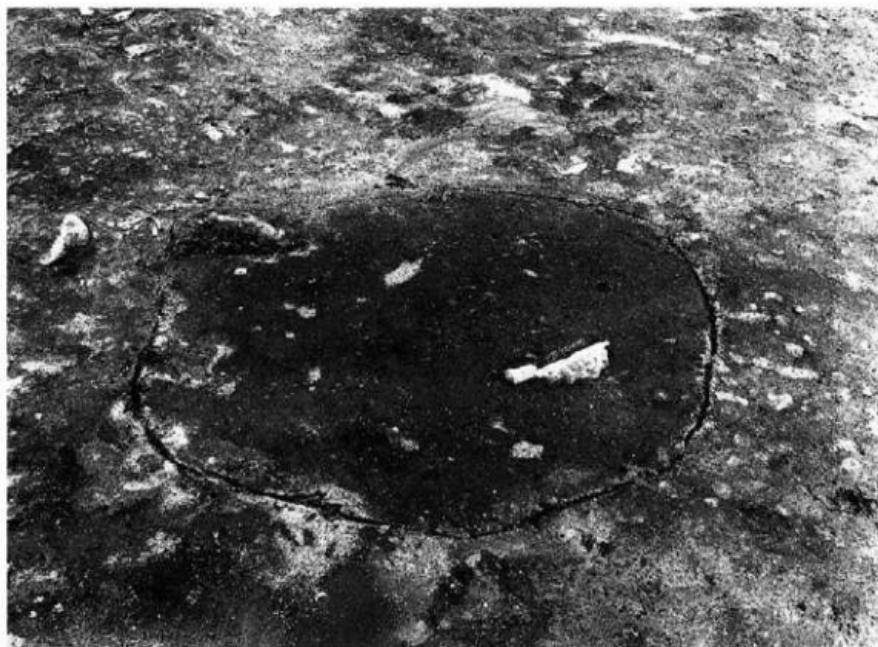
SKI検出状況（西から）



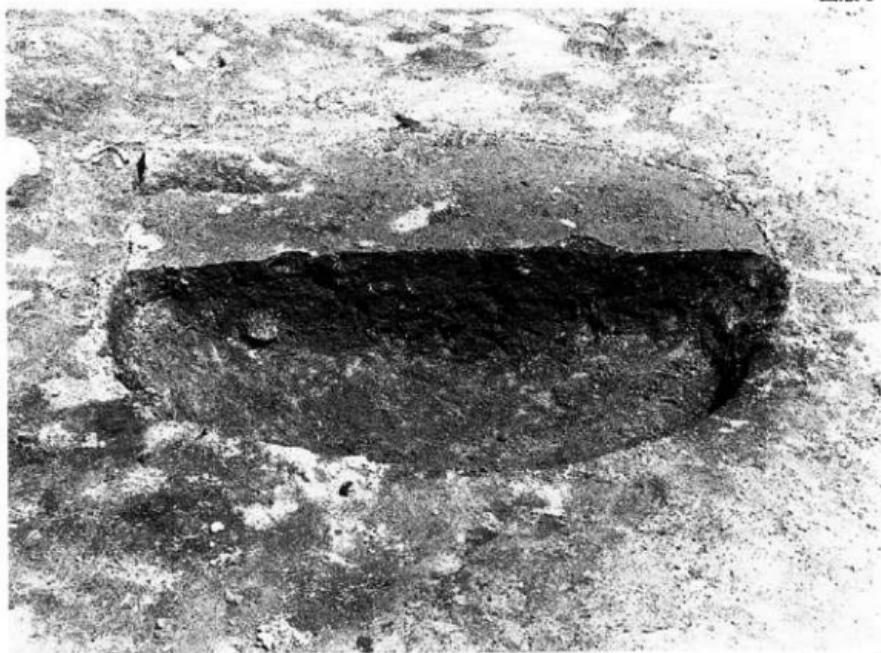
SKI土層断面（南西から）



SK1発掘状況（南西から）



SK2検出状況（南から）



SK2 土層断面（南から）



SK2 完掘状況（南から）



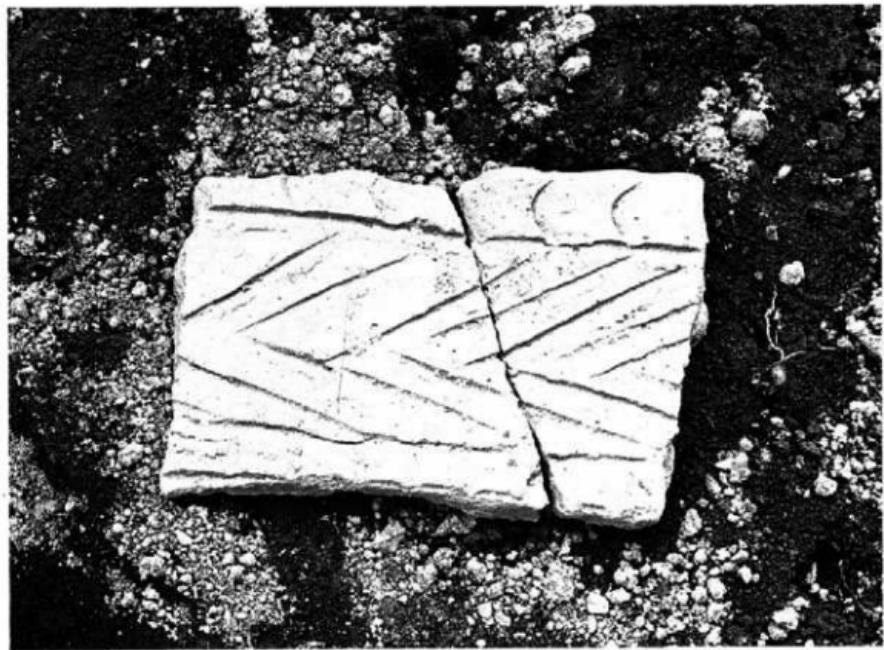
25~28-25~28区遺物出土状況（西から）



調査区全景（北から）



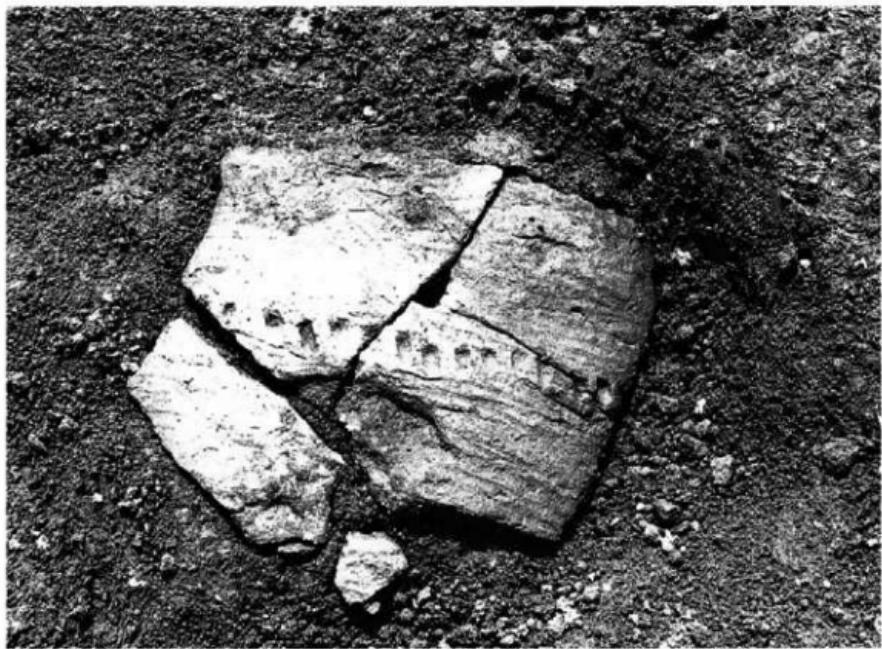
No.1431・1432 出土状況（北から）



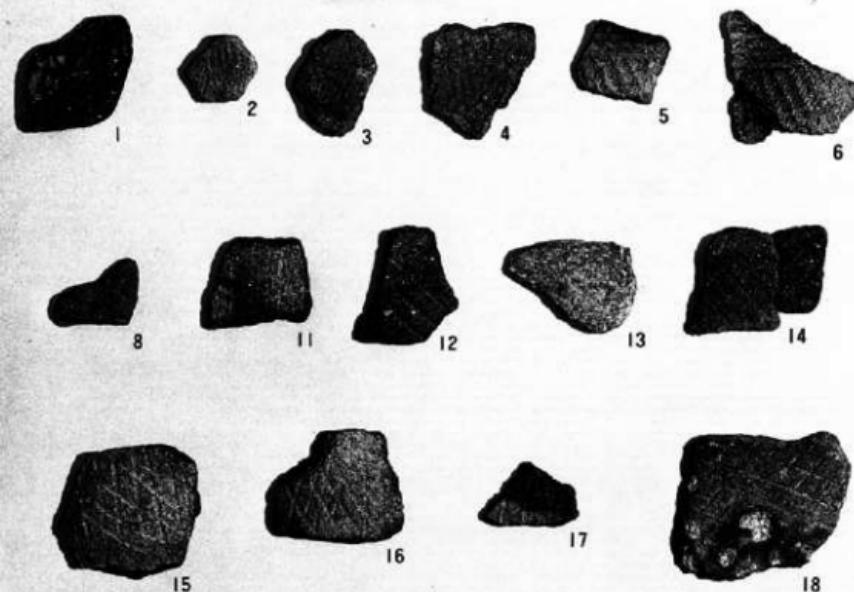
No.5090 出土状況（西から）



No.500 出土状況（北東から）

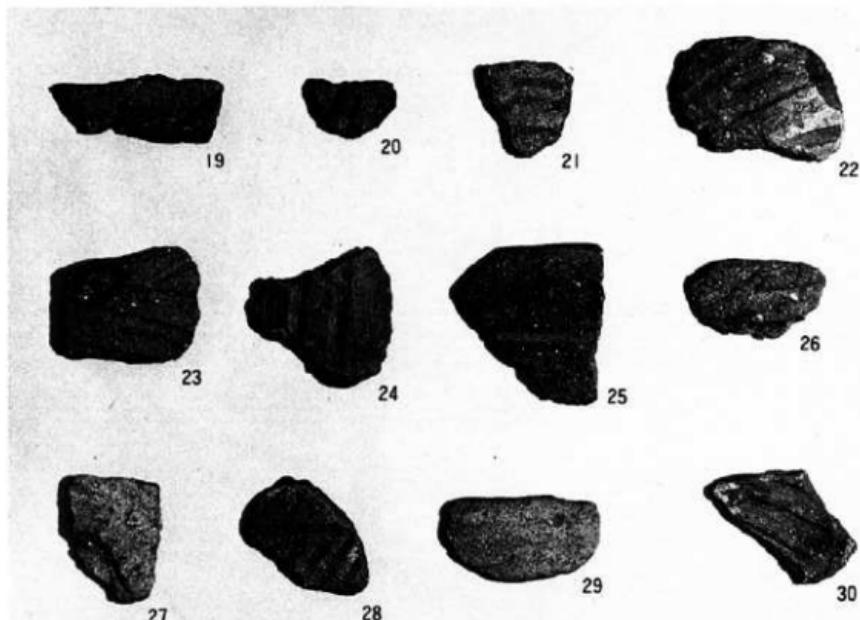


No.333I 出土状況（西から）



(S = 1 : 2)

繩文土器（早期・貝殼沈線文以前）



(S = 1 : 2)

繩文土器（早期・貝殼沈線文①）



31



32



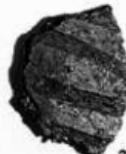
33



34



35



36



38



39



40



42



43

(S = 1 : 2)

縄文土器（早期・貝殻沈線文②）



67



68



69



74



75



76



77



78



79



80



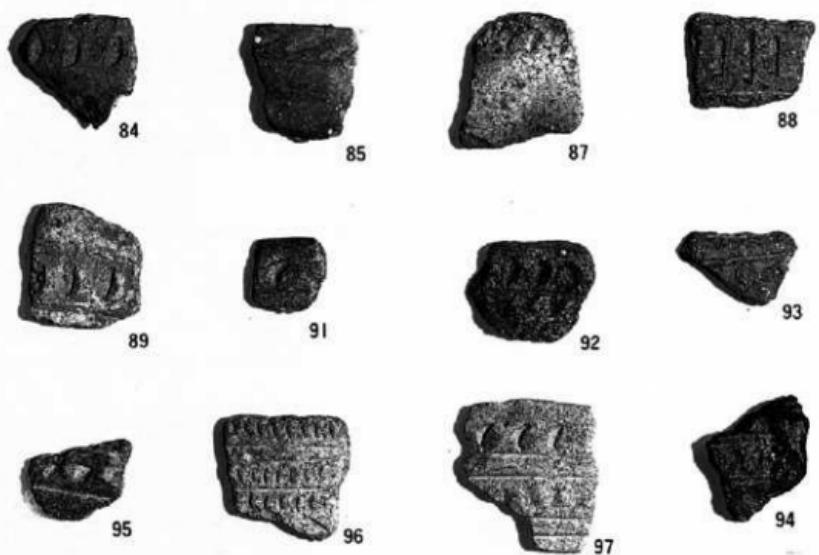
81



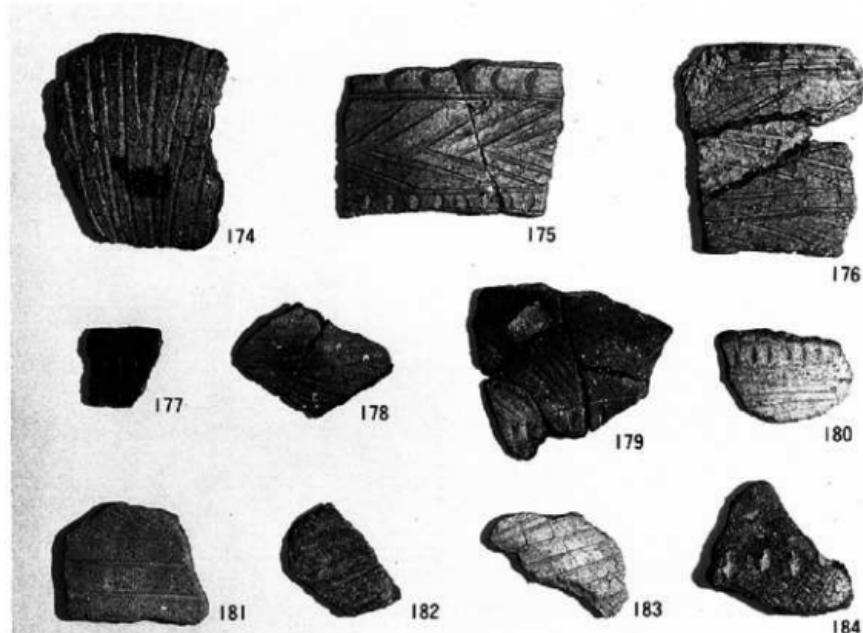
82

(S = 1 : 2)

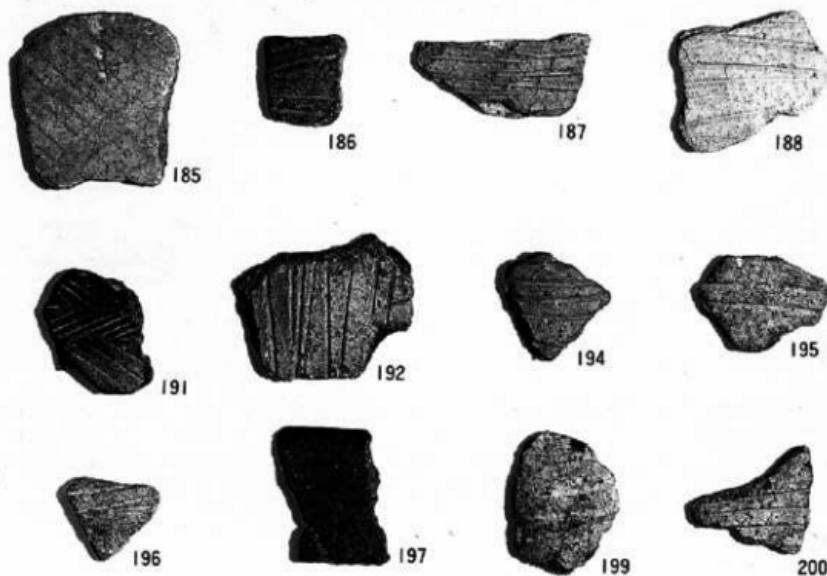
縄文土器（早期・貝殻沈線文③）

 $(S = 1 : 2)$

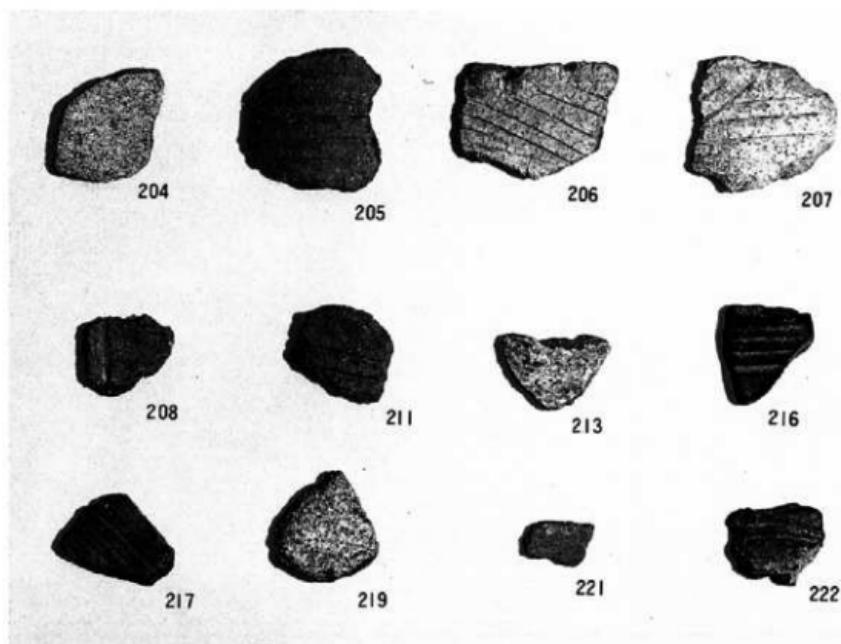
縹文土器（早期・貝殼沈線文④）

 $(S = 1 : 2)$

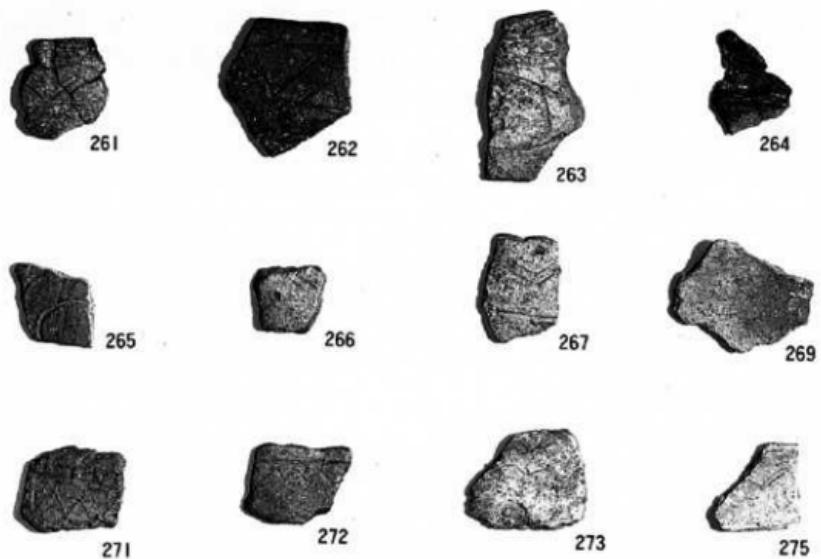
縹文土器（早期・貝殼沈線文⑤）

 $(S = 1 : 2)$

縄文土器（早期・貝殻沈線文⑥）

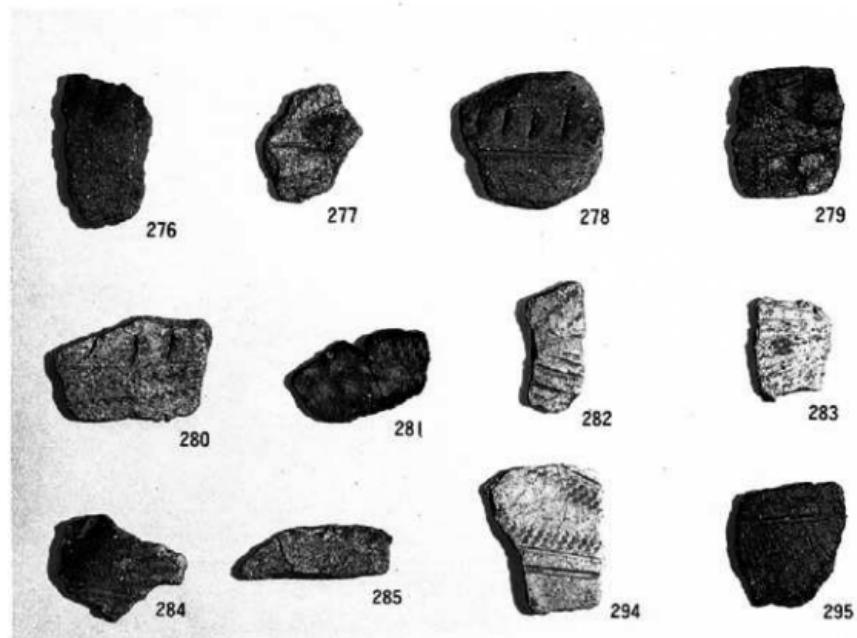
 $(S = 1 : 2)$

縄文土器（早期・貝殻沈線文⑦）



(S = 1 : 2)

縄文土器（早期・貝殻沈線文⑧）



(S = 1 : 2)

縄文土器（早期・貝殻沈線文⑨）



298



299



300



301



303



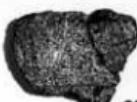
304



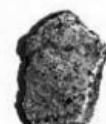
305



306



307



308



309



310

(S = 1 : 2)

縄文土器（早期・貝殻沈線文⑩）



312



313



314



315



316



321



322



323



325



326



327



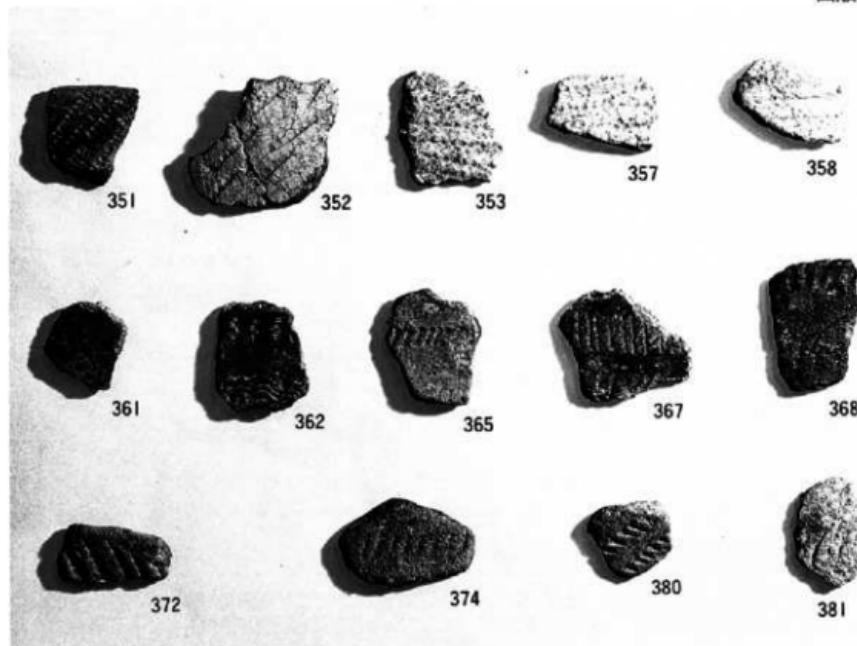
328



329

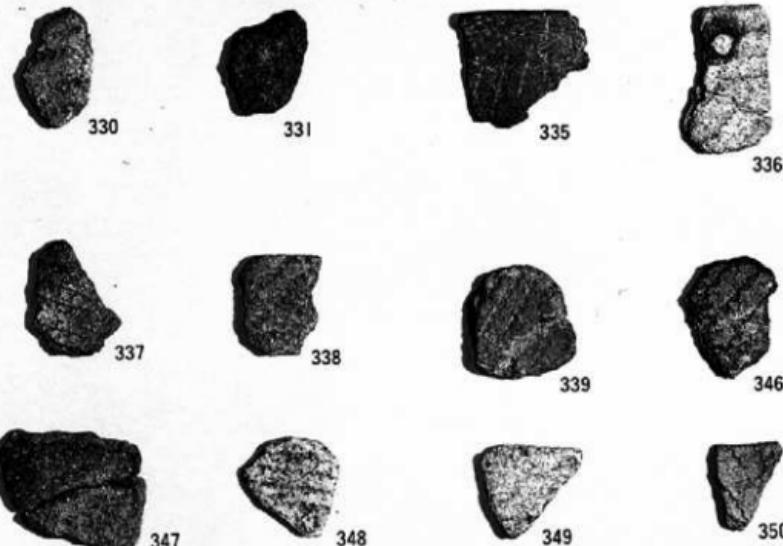
(S = 1 : 2)

縄文土器（早期・貝殻沈線文⑪）



(S = 1 : 2)

縄文土器（早期・貝殻沈線文⑫）



(S = 1 : 2)

縄文土器（早期・貝殻沈線文⑬）

表面



360



366



369



370



371

 $(S = 1 : 2)$

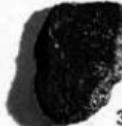
裏面



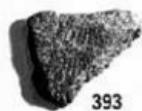
縄文土器（早期・貝殻沈線文⑭）



384



389



393



394



395



396



399



400



401



403



404



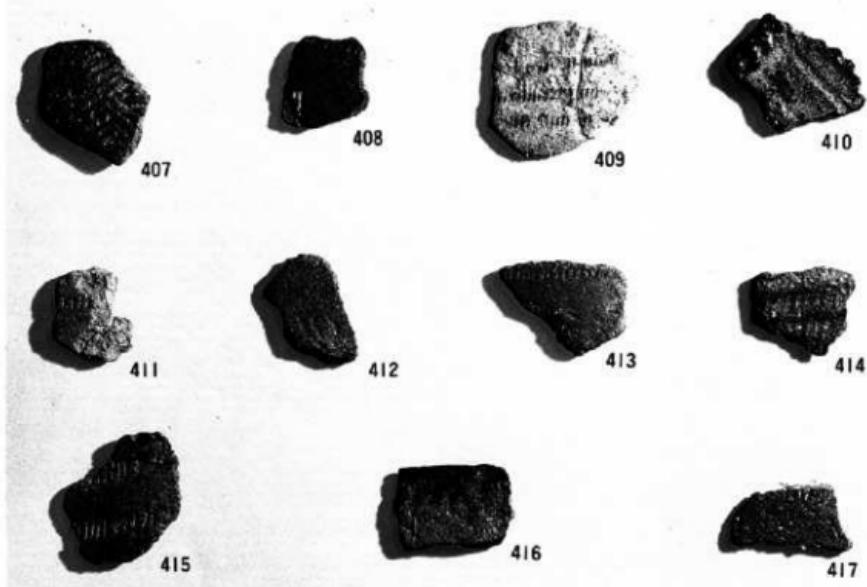
405



406

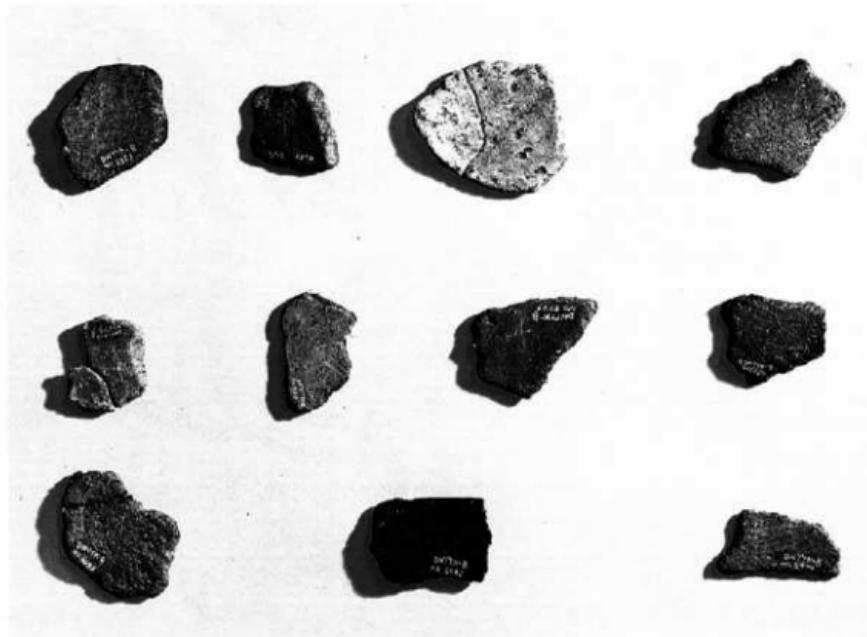
 $(S = 1 : 2)$

縄文土器（早期・貝殻沈線文⑮）



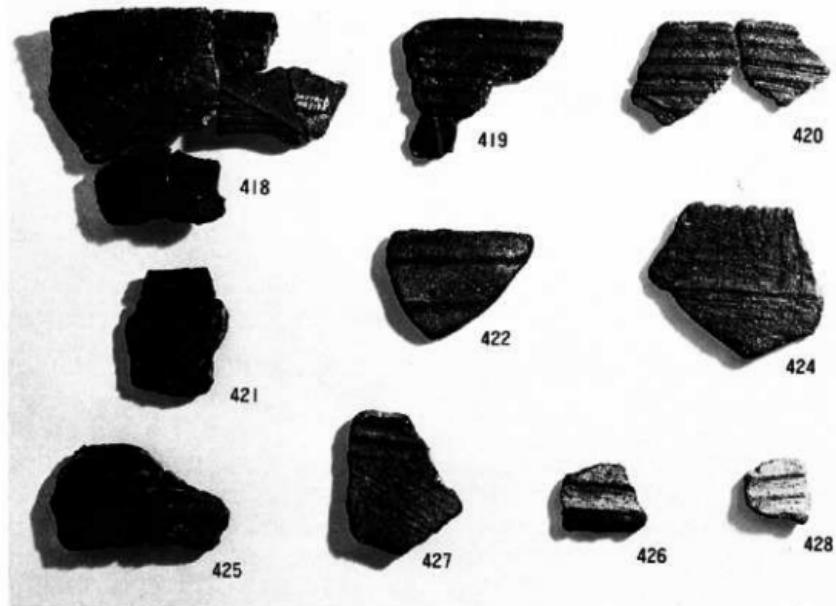
(S = 1 : 2)

縄文土器（早期・縞条体压痕文・表面）



(S = 1 : 2)

同上裏面



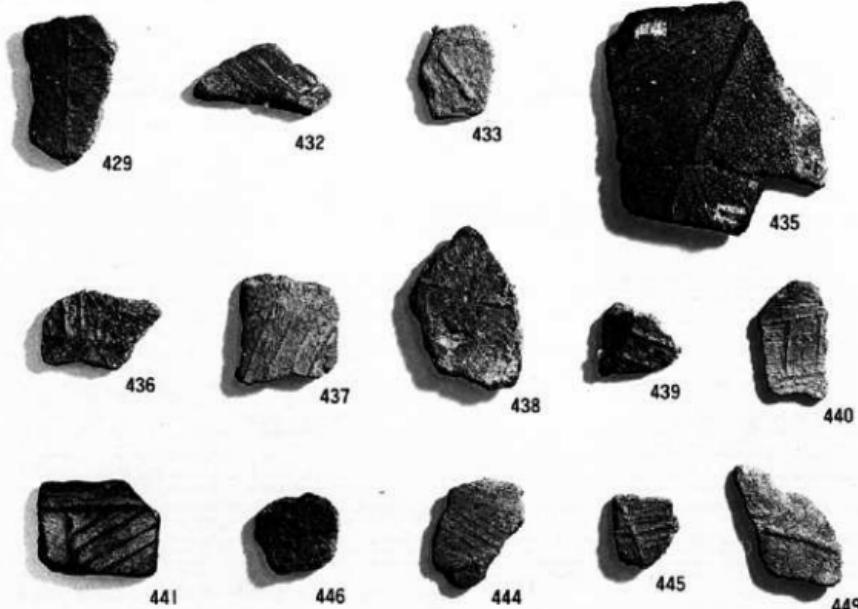
(S = 1 : 2)

縄文土器（早期・微隆起線①・表面）



(S = 1 : 2)

同上裏面



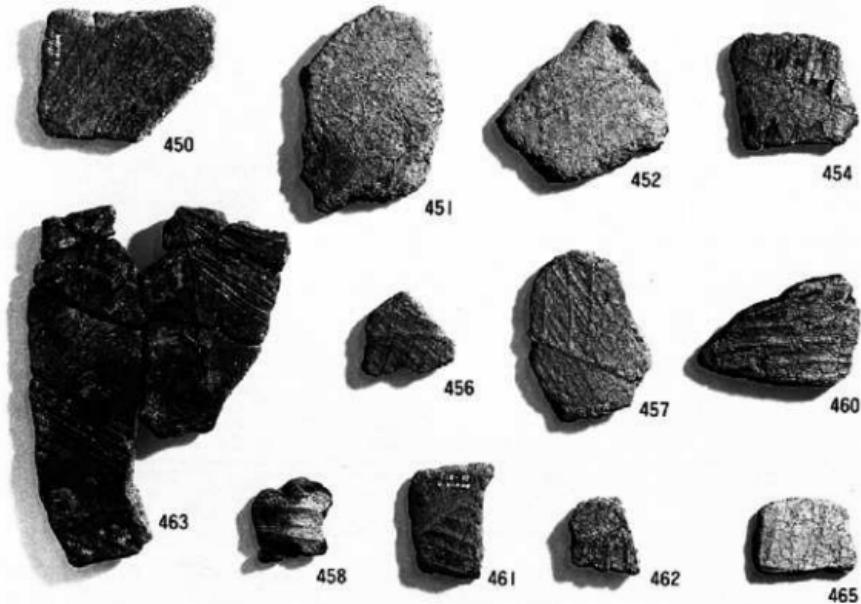
(S = 1 : 2)

繩文土器（早期・微隆起線②・表面）



(S = 1 : 2)

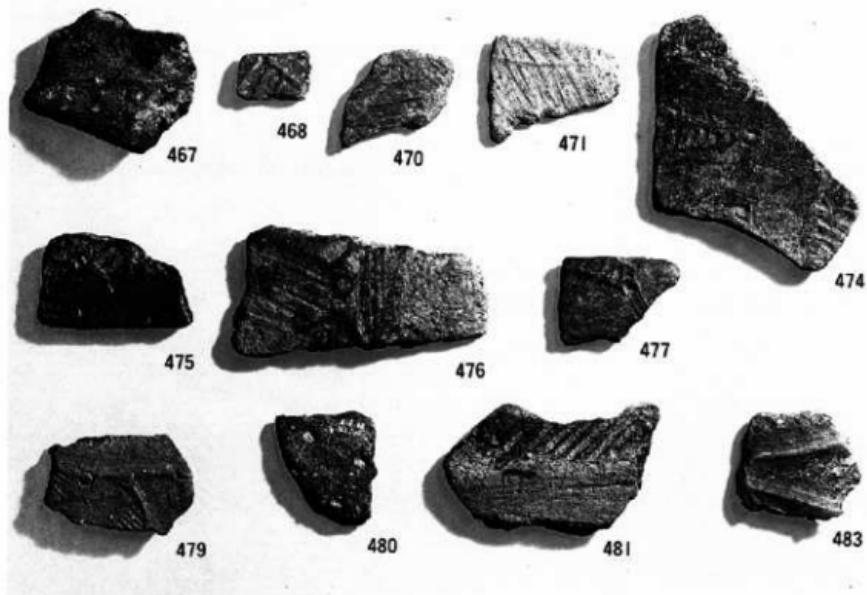
同上裏面



縄文土器（早期・微陸起線③・表面）



同上裏面



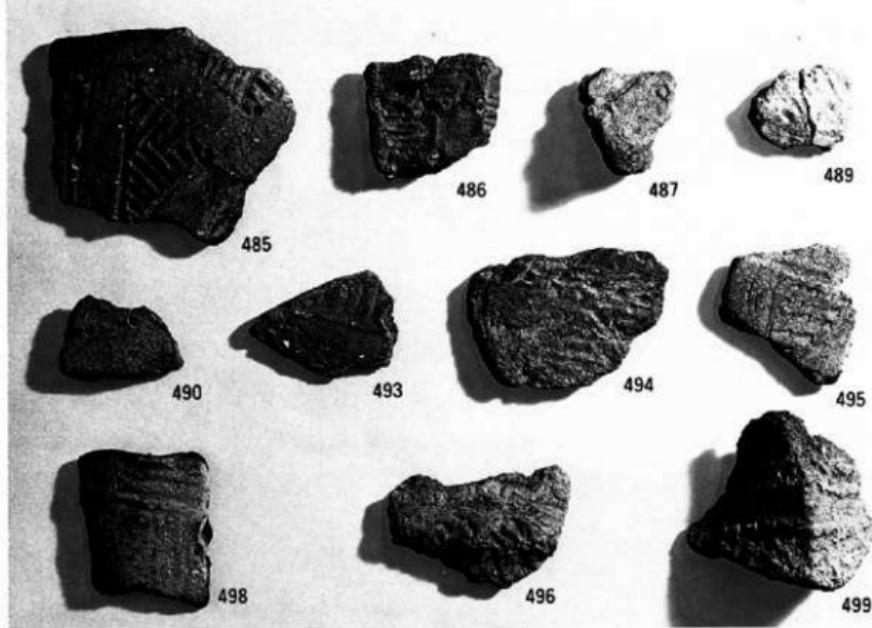
(S = 1 : 2)

縄文土器（早期・条痕文①・表面）



(S = 1 : 2)

同上裏面



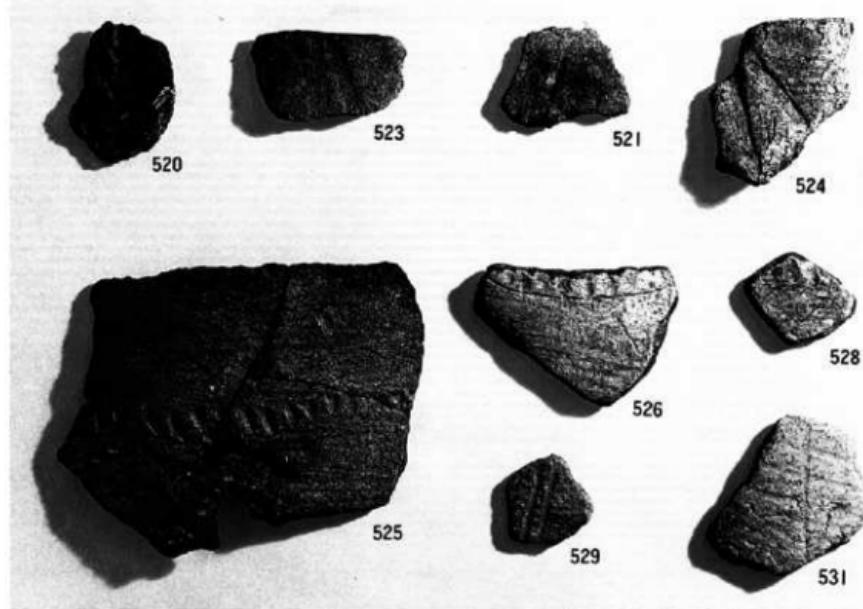
(S = 1 : 2)

構文土器（早期・条痕文②・表面）



(S = 1 : 2)

同上裏面



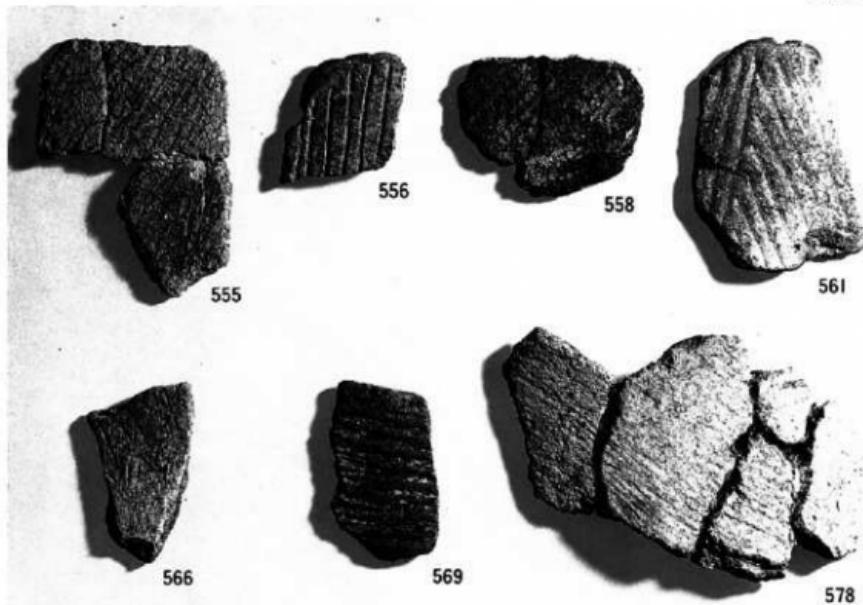
(S = 1 : 2)

縄文土器（早期・条痕文③・表面）

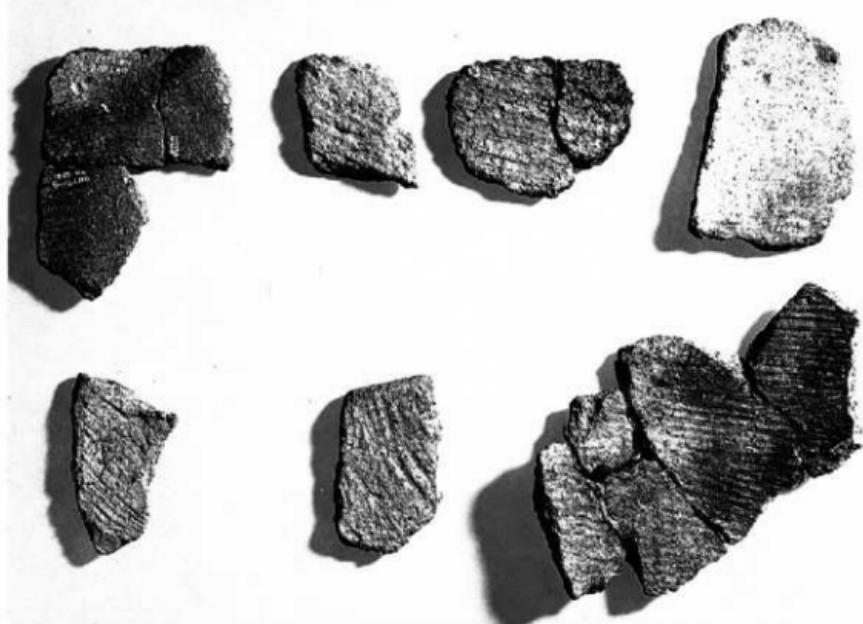


(S = 1 : 2)

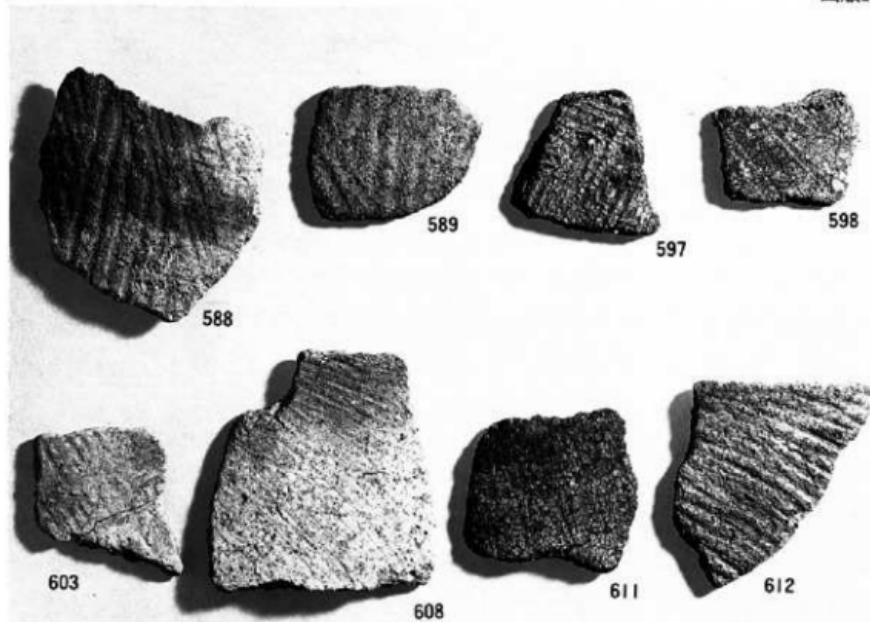
同上裏面

 $(S = 1 : 2)$

縄文土器（早期・条痕文④・表面）

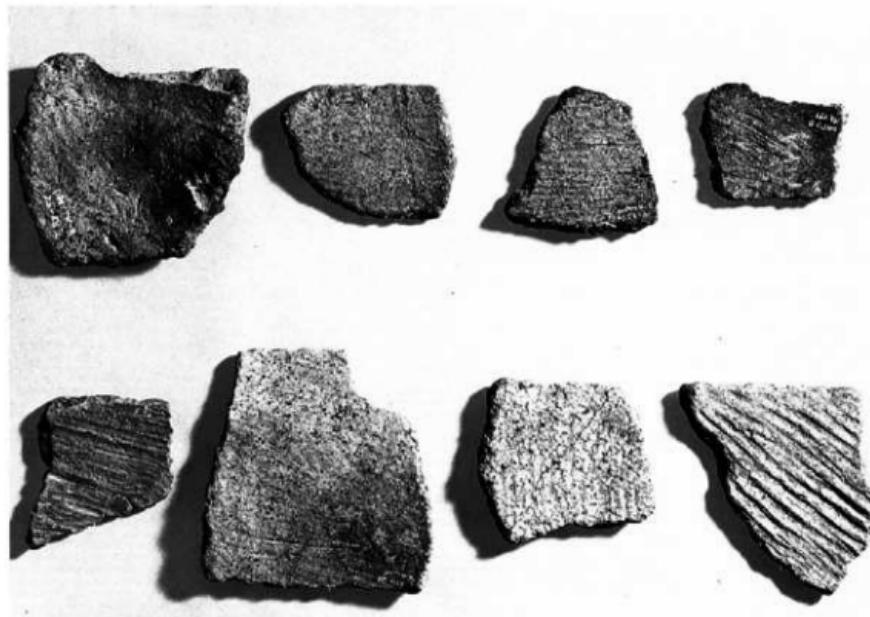
 $(S = 1 : 2)$

同上裏面



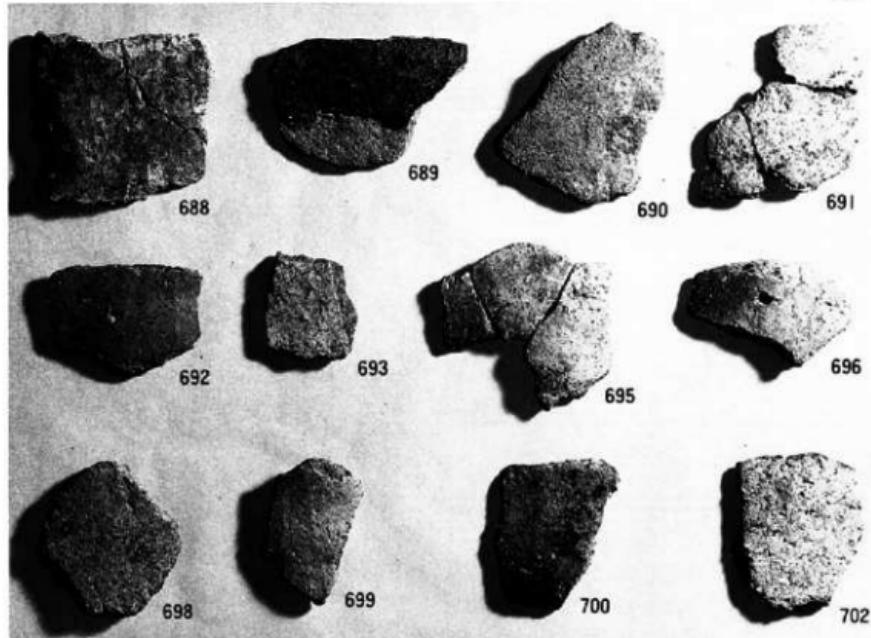
(S = 1 : 2)

繩文土器（早期・条痕文⑤・表面）



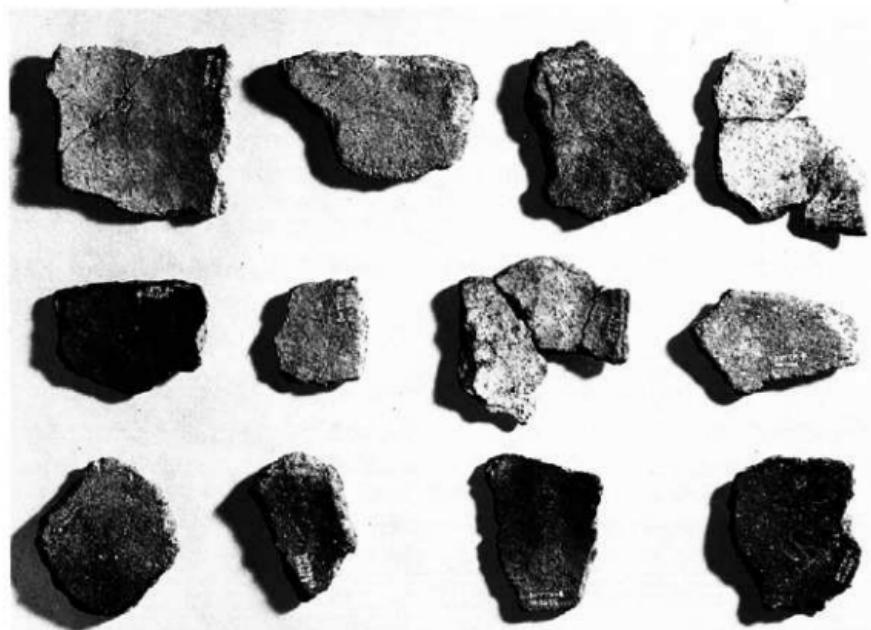
(S = 1 : 2)

同上裏面



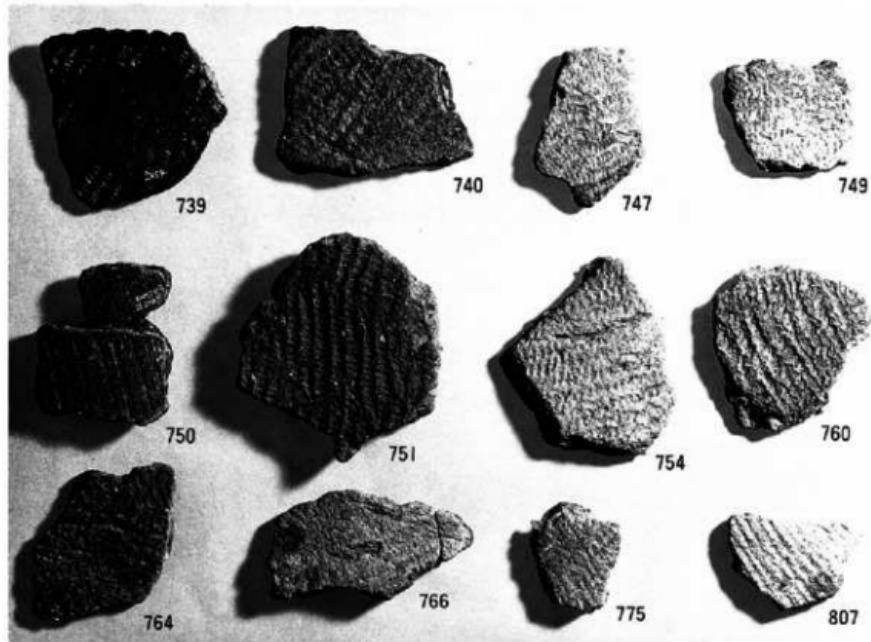
(S = 1 : 2)

陶文土器（早期・無文・表面）

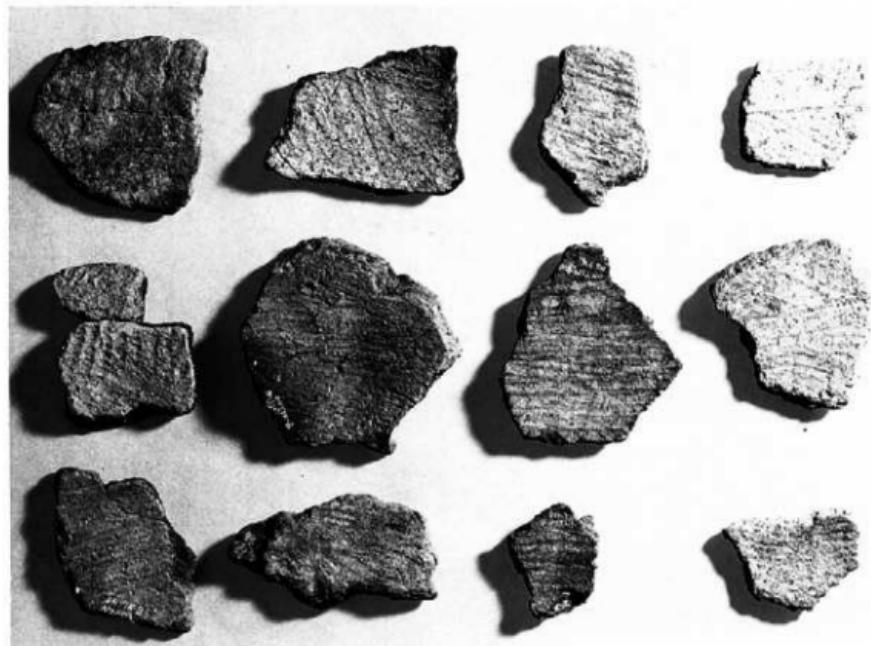


(S = 1 : 2)

同上裏面



縄文土器（早期・縄文条痕文①・表面）



(S = 1 : 2)

同上裏面



900



901



903



904



905



906

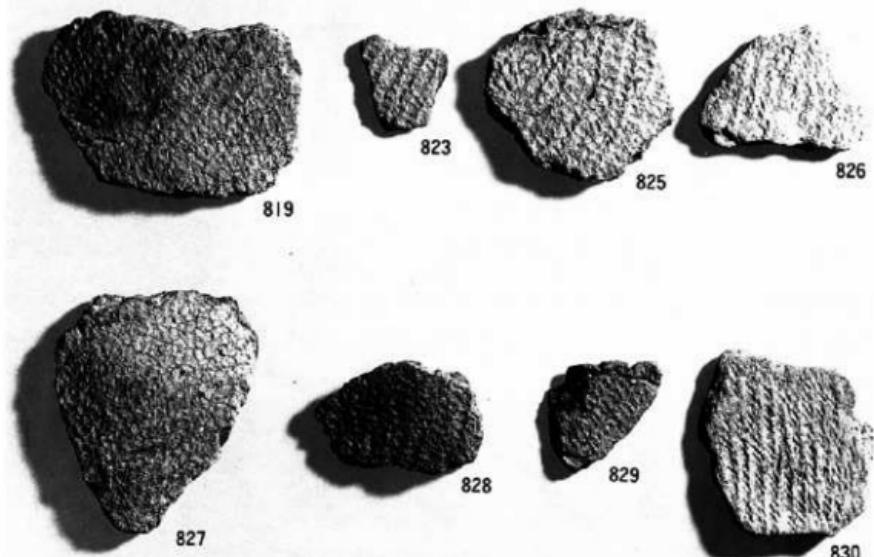
(S = 1 : 2)

縄文土器早期・縄文条痕文②・表面)



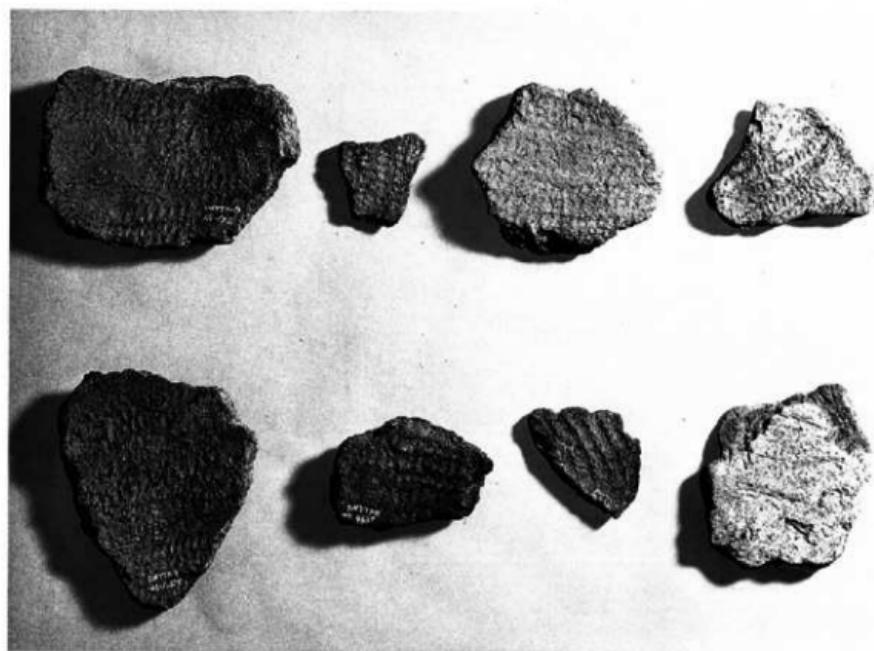
(S = 1 : 2)

同上裏面



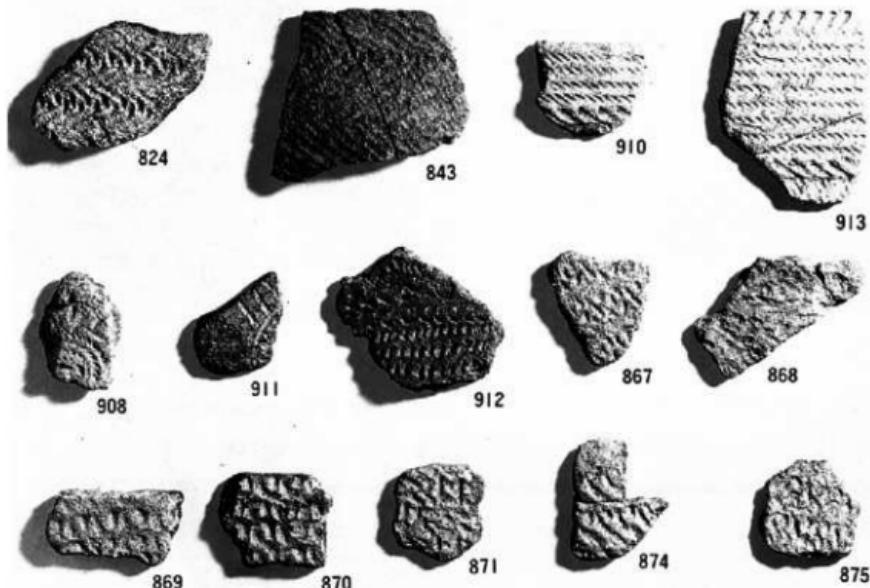
(S = 1 : 2)

縄文土器（早期・表裏縄文・表面）



(S = 1 : 2)

同上裏面



(S = 1 : 2)

縄文土器（前期①）



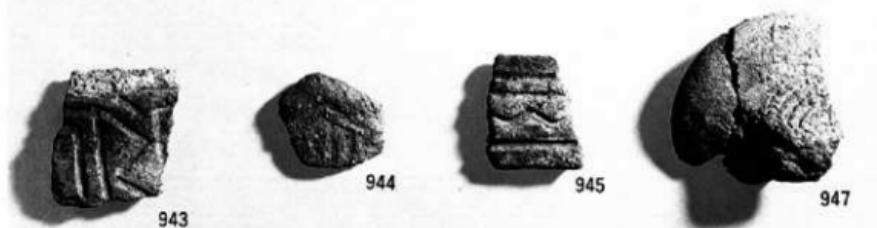
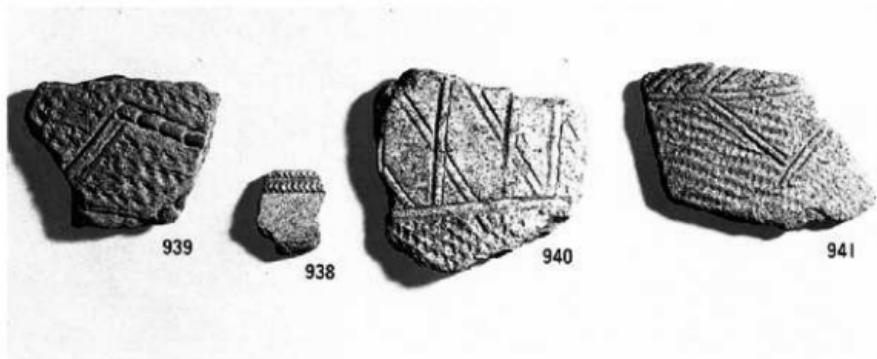
(S = 1 : 2)

縄文土器（前期②）



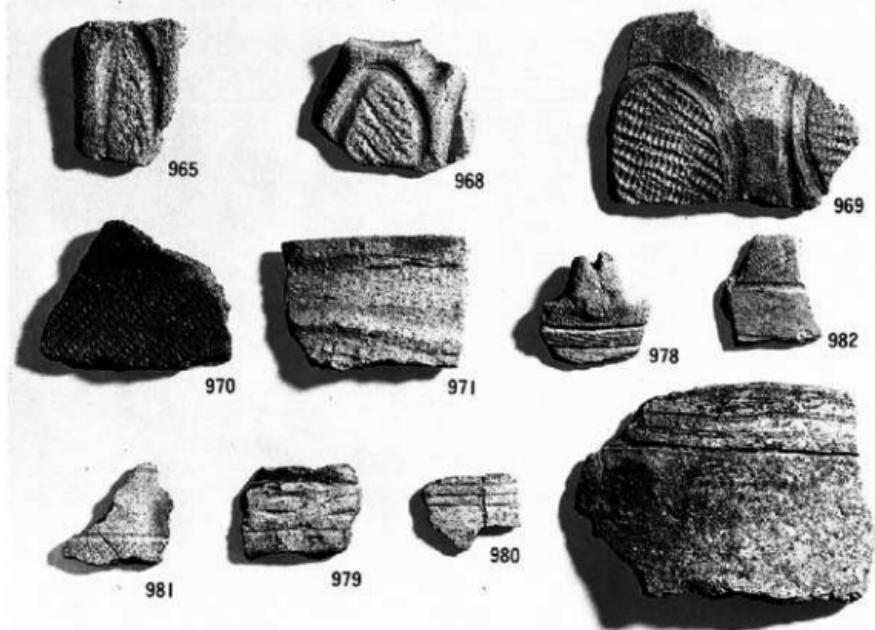
(S = 1 : 2)

绳文土器（前期③）



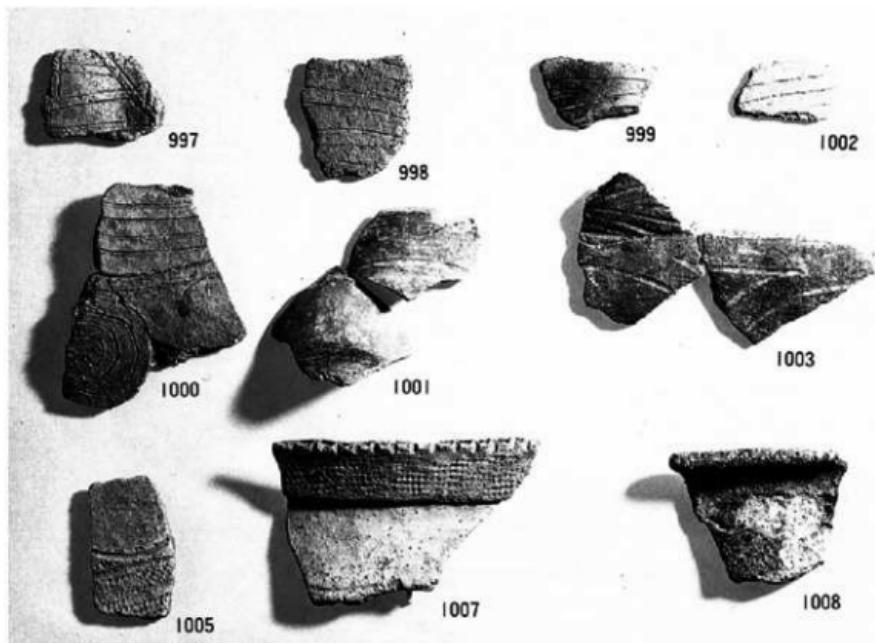
(S = 1 : 2)

绳文土器（前期④）

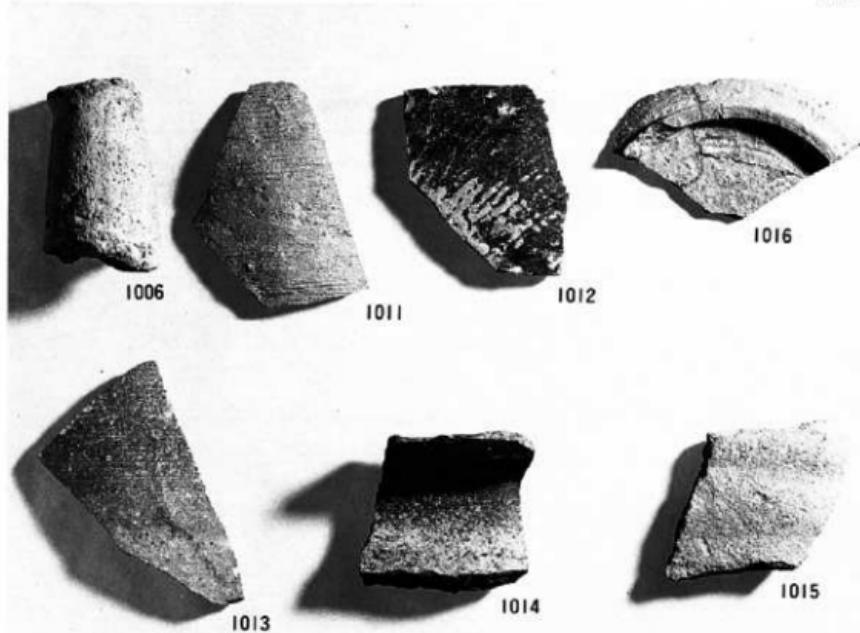


(S = 1 : 2)

縄文土器（中期～晩期）



弥生土器



(S = 1 : 2)

古墳時代以降の土器（外面）



(S = 1 : 2)

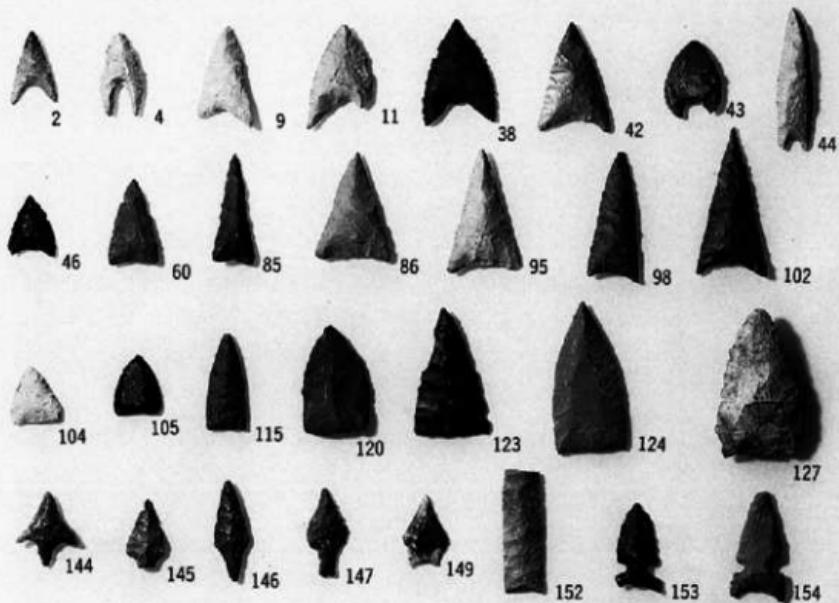
同上内面



(S = 1 : 1)

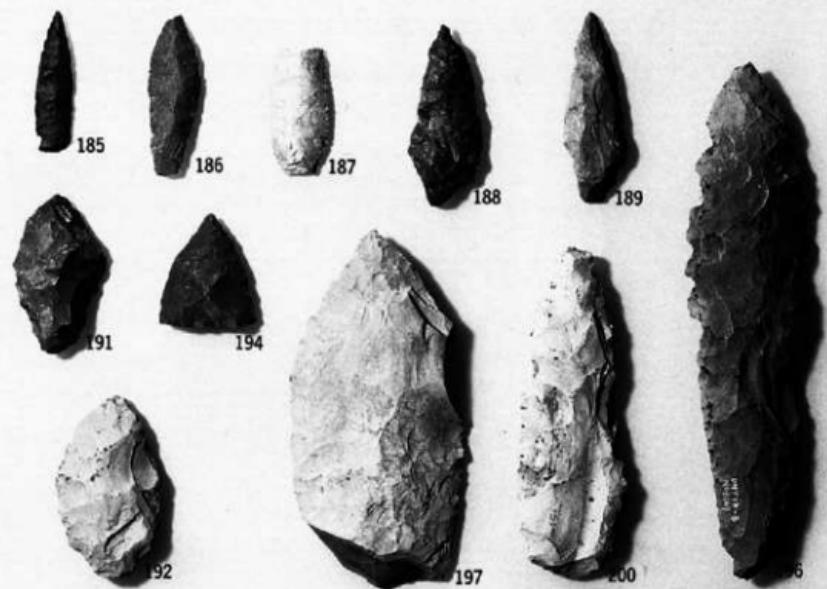


有溝砥石 (503)

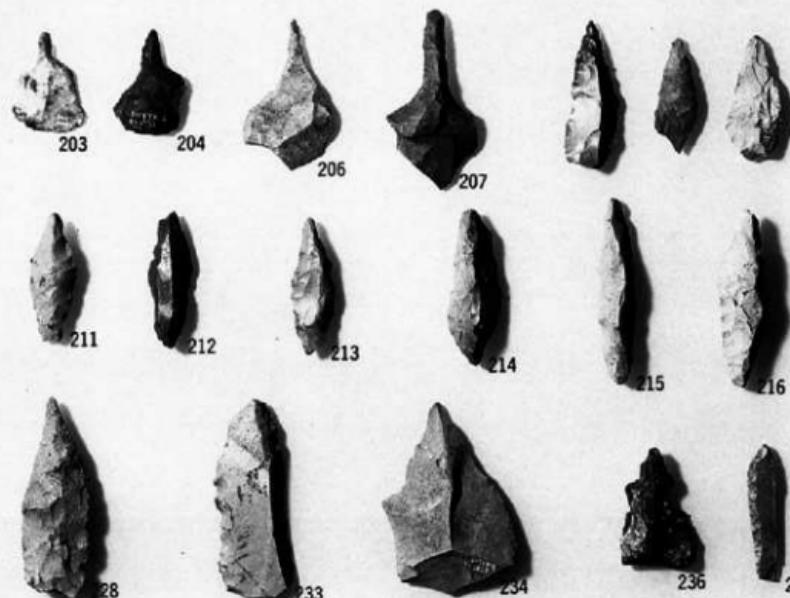


(S = 2 : 3)

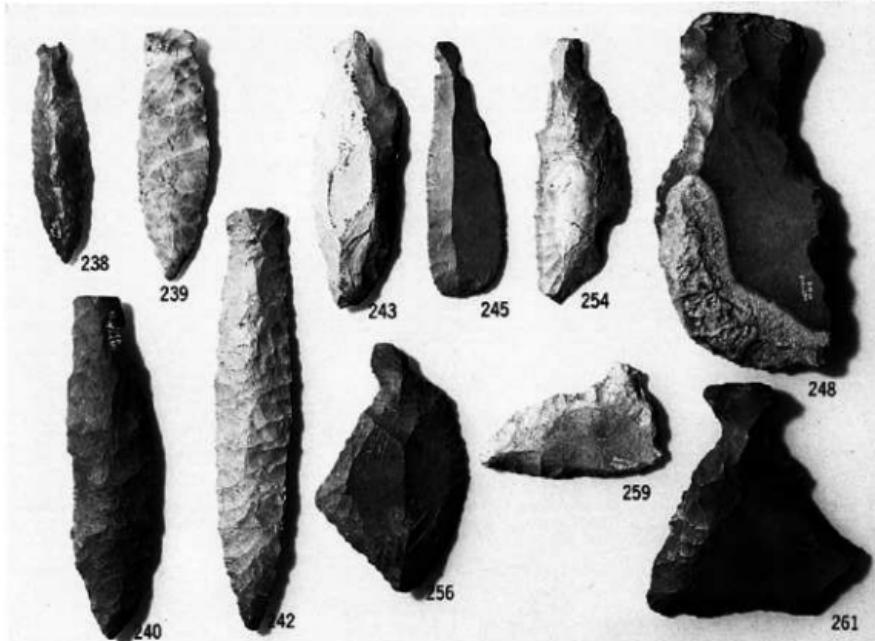
石 錐

 $(S = 2 : 3)$

尖頭器

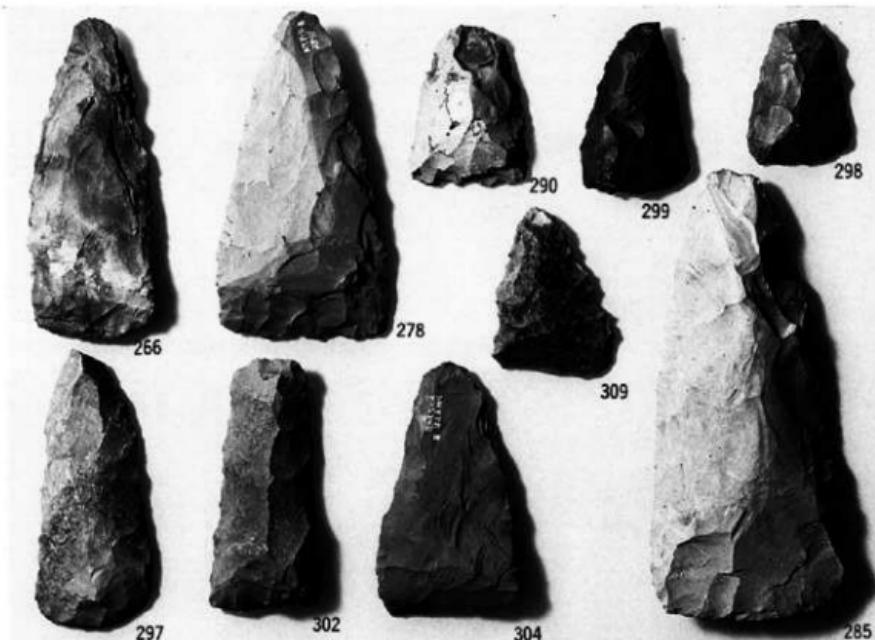
 $(S = 2 : 3)$

石錐



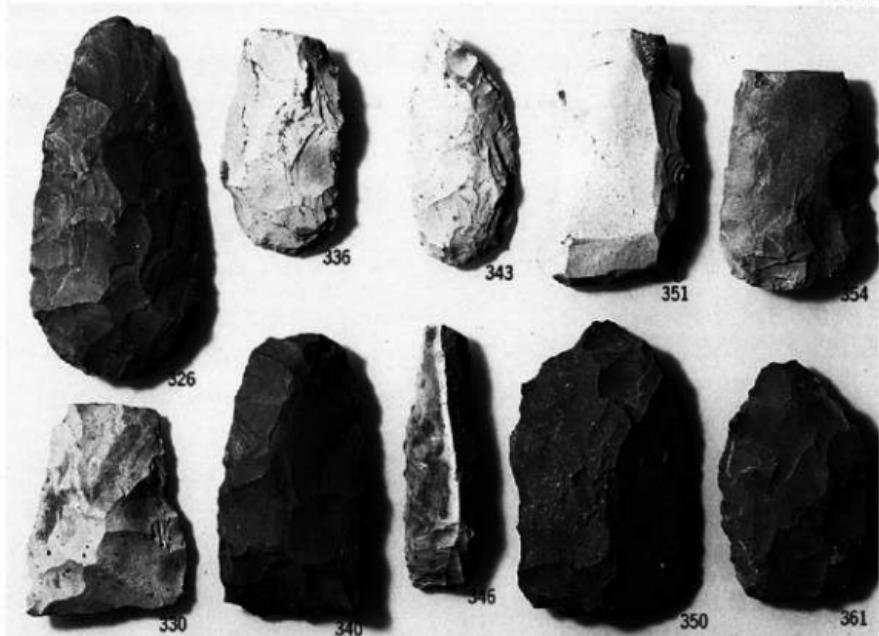
(S = 2 : 3)

石匙



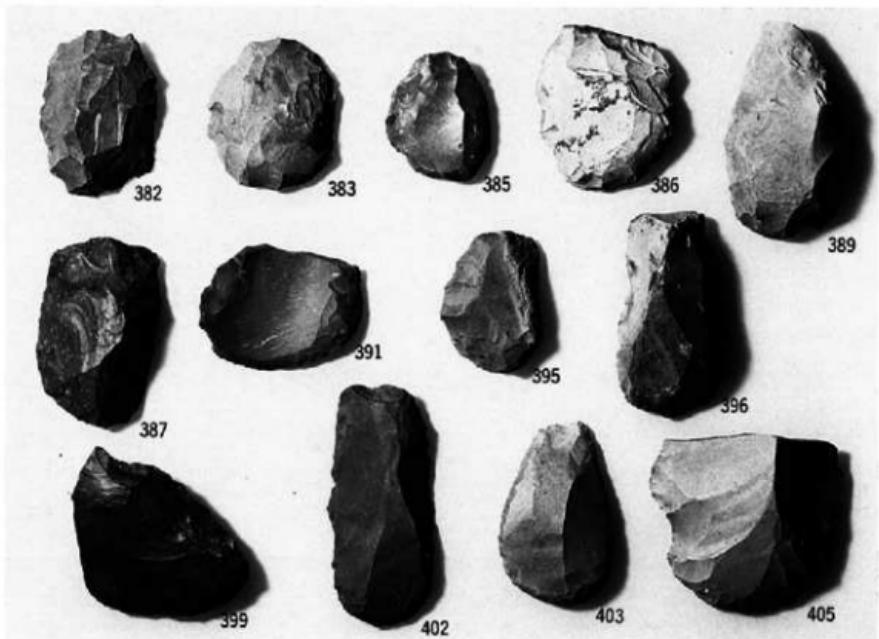
(S = 2 : 3)

石刮 (I)



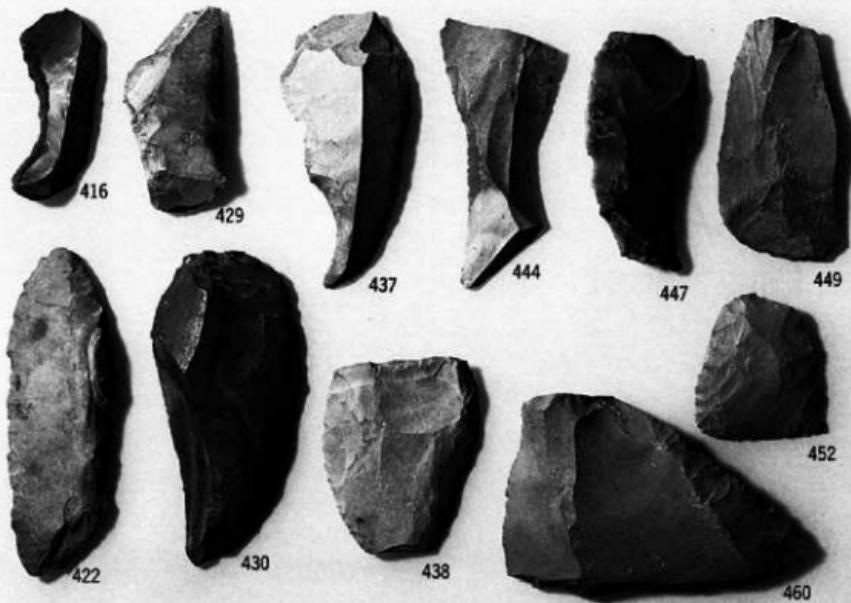
(S = 2 : 3)

石 範 (2)



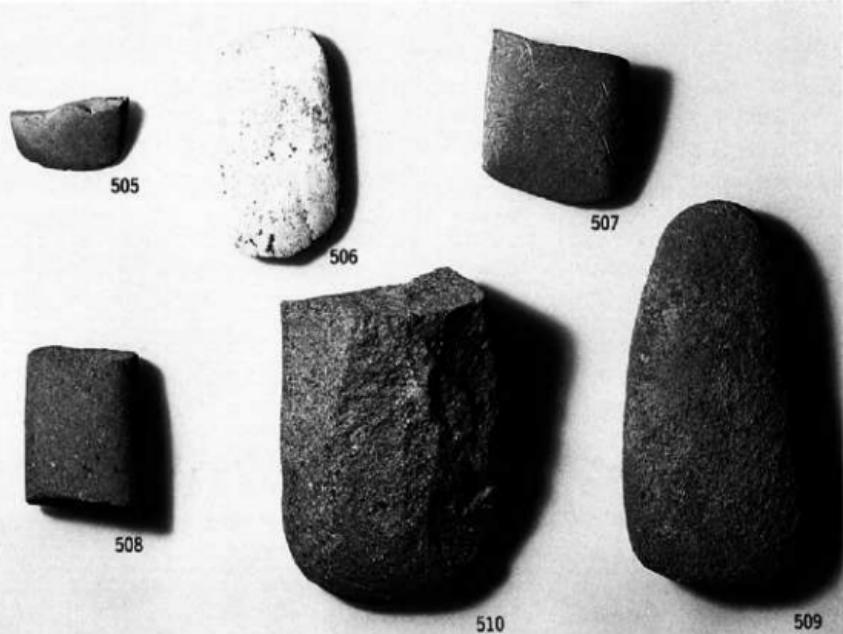
(S = 2 : 3)

搔 器



(S = 2 : 3)

削 器



(S = 1 : 2)

磨製石斧

山形県埋蔵文化財調査報告書第135集

月ノ木B遺跡
発掘調査報告書

平成元年3月20日 印刷

平成元年3月25日 発行

発行 山形県教育委員会

印刷 藤庄印刷株式会社
